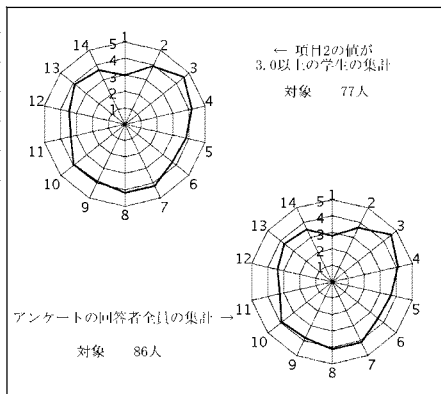


2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[S]2  
授業コード 10A51-018  
教員名 VARGHESE, Rejimon  
教員コード 100555  
登録人数 150  
回答数 86  
回答率 57.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

理工学部、情報理工学部の学生を履修対象にしたこの授業の科目名はキリスト教概論【S】2である。副題は「イエス・キリストの教えの意味内容」である。この授業は基本的に講義形式で行われた。

①この授業は事前に設定していた目標に到達するようにしていた。到達目標は主にイエスという人物は一体誰かと理解すること、イエスによるたとえ話の歴史的背景、本来の意味、そこからの教訓を理解し、それをよい社会づくりに役立たせること、キリスト教の基礎知識を得ることであった。

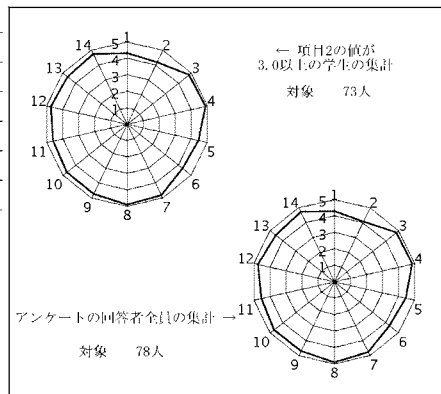
そういった意味でこの授業はその目標に達しているはず。

②数値データ及び学生による自由記述によると、この授業を改善する必要があると思われる。主にこの授業の内容をもっと分かりやすくしなければならないと思った。

③まず、学生が多いため、授業中の退室をやめさせ、他の学生に迷惑をかけないようにすること。その次、授業内容を変更せずに学生に分かりやすくするために、パワーポイントをもっと簡単に作り直したり、配布資料をもっと正確したりするつもりである。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳3  
授業コード 10D03-003  
教員名 佐藤 啓介  
教員コード 102874  
登録人数 188  
回答数 78  
回答率 41.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

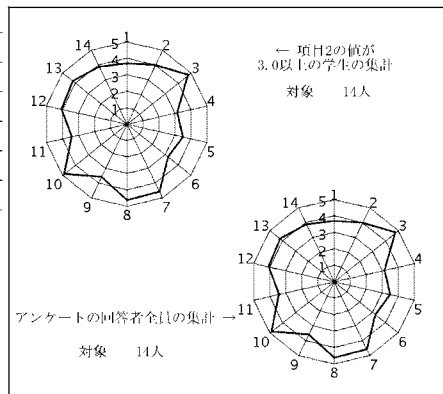
本講義の到達目標は「1. 悪をめぐる西洋の哲学史・宗教思想史を学ぶことで、悪を考えることの意義を理解する、2. 悪の思想史という裏面から照射される、私たちが担うべき責任や、守るべき人間の尊厳とは何かを理解する」という二点であったが、アンケートの項目5（到達目標の理解）は4.46と標準的であり、おおむね目標は達成されたと思われる。

数値データでは、直接的な授業の仕方に関わる項目（7教員の真剣さ、8音声、9教材、12質問など）は4.7以上であり、満足度（項目14）も4.72と高く、講義の仕方については現状の質を落とさぬよう努力していきたい。また、自由記述についても、改善を求める声はなく、授業の仕方について高い評価をするコメントが多くみられた。

他方、予習復習に関する項目2が低く、より自主的な学習を促す工夫を考える必要があるだろう。また、授業評価アンケートの回答者が40%強にとどまっており、その点も、より多くの学生に回答してもらえよう、促していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語I文法[IIC]<全>1  
授業コード 11J01-001  
教員名 井上 淳  
教員コード 100301  
登録人数 18  
回答数 14  
回答率 77.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

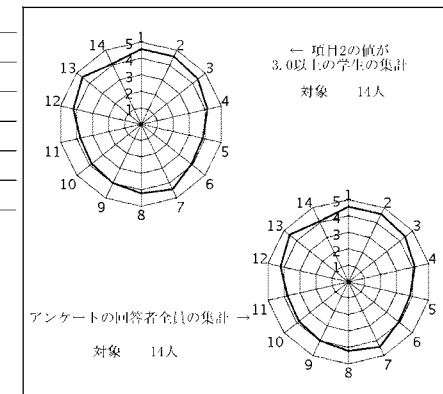


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標には到達できた。教科書に従って授業は進み、進むべきところまでは到達できた。Q1はわずか2か月しかないので、ラテン語のまとまった文法知識を与えることができず、そのため原典解読レポートの課題を作成するのに苦労した。②全体として、まあまあ良い評価だったと思うが、授業の進行が速すぎると感じる受講生が何人かいたので、もう少し丁寧にゆっくり進むようにしたい。指定された教室のホワイトボードがとても小さく、どうして文字が小さくなってしまったり、受講生に前に出て問題の解答を書いてもらう時も窮屈だった。もっと大きなホワイトボードがある教室にしてほしい。備えているペンも使用済みのものが多く、常に何本か持参していかなければならなかった。③次のクォーターに向けてだが、教室の変更をお願いすることにした。より大きな黒板もしくはホワイトボードがあれば、授業もよりスムーズに、また効果的に行うことができるにちがいない。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語I文法<全>2  
授業コード 11J01-002  
教員名 松根 伸治  
教員コード 101833  
登録人数 24  
回答数 14  
回答率 58.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

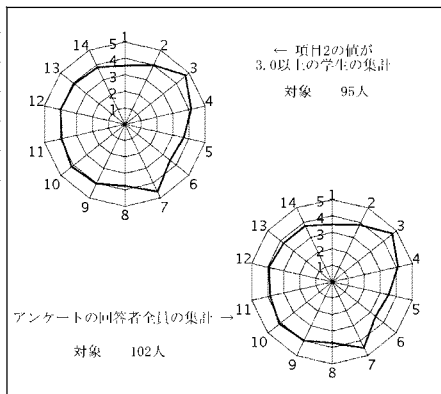


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として掲げたのは、「名詞・形容詞の基本的変化を身につけている」「動詞の現在形人称変化を身につけている」の二点である。授業での反応、提出物、期末試験の結果から判断する限り、ラテン語文法の初歩的知識については多くの受講生がある程度まで習熟できており、目標はおおかた達成できたものと思われる。しかし、学生自身による評価はさほどかんばしくなく、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の平均値は3.93であった。ほかに数値の低さが気になったのは、設問10の3.86、設問11の3.79である。例年よりも受講生が多かったこと、教科書が版元で一時的に品切れになり学期始めにやや混乱したことなどが、全体的に評価を下げる要因になった可能性はある。自由記述では、予習の負担が大きすぎる、教科書の問題が難しすぎるとの意見や、予習範囲の答えあわせを中心とする授業方法に対する不満の声もあった。毎回の予習を大前提に授業を進めてきたが、授業内に作業する時間、考える時間をもっととるなどの工夫が必要かもしれない。Q2以降は実際の読み物や歴史的背景の説明もまじえて授業を進め、文法学習の退屈さと困難をできるだけ軽減するよう努めたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学A2
授業コード	12C04-002
教員名	CAVALLAR, Osvaldo
教員コード	018820
登録人数	137
回答数	102
回答率	74.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

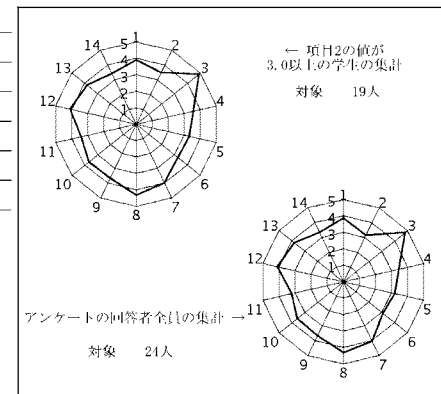


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal was to give the students an occasion to reflect on Machiavelli's political, social, and religious thought. Given the unified campus, the purpose has been broadened and space allowed for a variety of texts to be examined and some literary texts, e.g., short stories, have been inserted in the reading list. On the didactical plane, too, a new emphasis has been added: critical reading of the texts, where the students are encouraged to come up with their own understanding. The assignments also have been devised as to stress creativity. The introduction of the quarter-system has given the students some hard time because of the amount of work that had to be done in a limited time. For the future, the focus on the texts and the interpretative effort of the students should be kept. Given this, some more time during classes should be devoted to debate and the students' presentation. A point to consider for the future is the provenance of the students, that is their department and/or faculty, and adjust the course accordingly. This year most of the students came from the law department and a stress on legal issues in Machiavelli's writing might render the course more interesting for them.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会の諸相8
授業コード	13C04-008
教員名	渡邊 学
教員コード	017186
登録人数	29
回答数	24
回答率	82.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

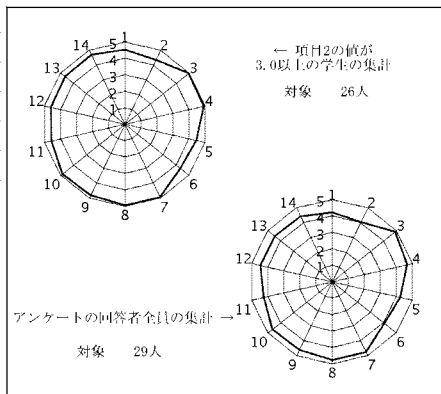


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、宗教社会学的な宗教理解、歴史的観点からの宗教と社会の関係、現代社会における宗教と社会の葛藤の3点を挙げたが、だいたい目標を達成することができた。この講義では教科書は使わず、配付資料とPowerPointと板書によって講義を進めた。それらは、板書を除いて、WebClassにすべて掲示した。毎回、講義の初めにリアクションペーパーを配布し、講義の終わりに時間を取って記入させ、毎回、それに答える形で受講生の質問や要求や感想に答える努力をした。大きな質問に対しては、講義においてもとりあげて解説を施した。この試みは、それなりに成果を挙げたと思われる。「大福帳で、直接先生とやり取りできたのは、すごくありがたかったです」。「必ず学生の質問に教授が答えて下さる」といった感想があったからである。反省点としては、教科書を使わなかったためにPowerPointの容量が過剰になり、ノートが取れないという苦情があった。WebClassに必ず掲示するので、ノートが取れなくてもあまり気にしないように何度もアナウンスしたが、受講生には必ずしも受け入れられていなかったのは残念だった。それから、OHPの設備が板書の視野を塞ぐということがあり、板書を書く場所がかなり制限されることがあった。また、レポート3,000字と期末試験の両方の実施に大きな負担を感じている受講生が複数おり、成績の付け方に関して、今後工夫が必要であることを感じた。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 聖書時代史  
授業コード 21C02-001  
教員名 HERA, Marianus Pale  
教員コード 102689  
登録人数 38  
回答数 29  
回答率 76.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



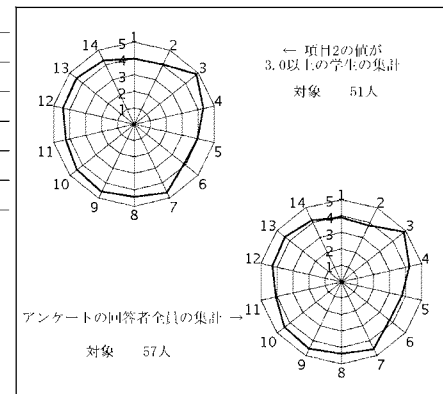
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価を対象となる科目はキリスト教学科の専門科目であるが、登録した学生の半数はキリスト教学科以外の学生でした。若干の基礎知識が求められるので、資料も授業の時の説明もなるべく分かりやすいように心をかけていました。その結果、評価の中で「授業が分かりやすかった」「レジュメの内容がわかりやすかった」「映像を交えながら授業をしてくれたので、実際のイメージがしやすかった」「学びに対する意欲も湧いた」などのコメントがありました。全体的な評価の数字にもそれが反映しています。ということで、今後も登録する学生の状況に合わせて、資料を改善しながら、この方法で続けていきたいと思っています。

評価の中で課題もみえてきました。主に二つの点です。一つは、どのようにすれば学生が授業の到達目標を理解し、それを意識し、努力していくことが出来るのか。もう一つの課題もこれと関連しています。いかにして学生が予習や復習により積極的に取り組むように工夫するか。今回は小テストを数回行っていました、これだけでは不十分だということがわかりました。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教史(近世教会史)  
授業コード 21C04-001  
教員名 三好 千春  
教員コード 101173  
登録人数 99  
回答数 57  
回答率 57.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 初回と第2回目の前半に、シラバスの予定を変更して近世教会史に至るまでのキリスト教史の流れと重要ポイントを講義した。これにより、初めてこの講義を取る学生にも、近世教会史とリンクする部分を多少は分かって講義に臨んでもらえたのではないと思うが、同時に、この部分を入れたことにより、シラバス通りの講義は展開できず、一部省略をしなければならなかった。また、まだクォーター制のスピードに私自身がついていけない部分もあり、読書課題を4回出す予定であったのが、タイミングを逃して3回しか課すことができず、その結果成績評価の配分も変更することになったということが、反省としてある。

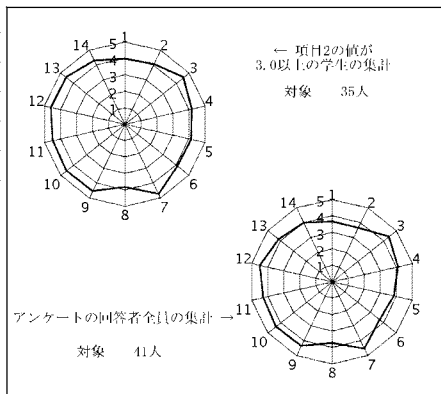
大半の学生は宗教改革をある程度は理解したと思われるが、キリスト教神学的な内容に関してはキリスト教的な基礎のない状態の学生が多いため、その部分の理解はやはりかなり難しかった。

② 今年度は丁寧な講義を心掛けたが、その点は理解してもらえたようで、肯定的な意見を書いてくれた学生が多く、ありがたかった。この方向で今後も講義を展開していきたい。

③ 今回初めて試験を課してみたが、その結果を見ると、よく分かっている学生と分かっていない学生の差が激しいことが分かった。次回は、より内容の整理を行い、学生の理解度を上げていきたい。また、マイクの使い方のまずさを何人もの学生から指摘されたので、この点は改善を心掛ける所存である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教芸術A(美術)  
授業コード 21C08-001  
教員名 TRUFAS, Ileana  
教員コード 102945  
登録人数 85  
回答数 41  
回答率 48.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

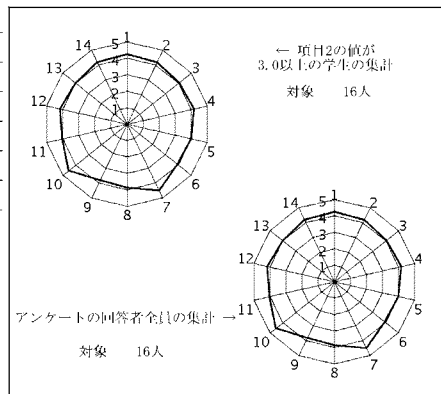
学生たちによる授業評価は割合良好で、また寄せられた良いコメントから判断するならば、「キリスト教芸術A(美術)」を主題とした本授業の内容について、その目標とするところは概ね達成されていると自己評価できる。ただし、85名の受講者の内、回答した学生たちは41名、つまり半分にも満たなかったことが大変残念に思われる。昨年度も指摘したのだが、この低い回答率には主として次の3つの理由があると思われる。

1. 4クォーター制度に伴って授業アンケートの実施回数が増えたので、学生たちが何らかの「疲れ」を覚えてしまうようになった。
2. 2学期制の場合と違って、アンケートの回答は授業の時ではなく、PORTAで行われるようになったことにより、授業に関心を持っていても、回答することが「めんどくさい」と思った学生は多い。
3. 授業内容に関する関心や知識を得ようという理由から授業を選択した学生より、それ以外の理由で受講者となった学生たちの数も多かったために彼らのアンケート回答へのモチベーションがなかった。

しかし、以上の理由で回答率が低いからと言って、授業内容およびその進行方法には改善する余地はないわけではない。むしろ、両者を改善することにより回答率も高くなる可能性はある。改善策として、例えばアイコンについての美術的特徴や使い方などをより分かりやすい説明にしていく。また、学生たちが試験について不安を抱かないよう、毎授業の要点をより明確に述べるようにしていく等々、様々な改善により、授業内容——東方キリスト教の特に重要な「表現」であるアイコンの世界——に関する学生たちの興味をこれまで以上に呼び起こし、より大勢の学生たちの授業への関心を高めることを目指していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 新約聖書学(福音書・使徒言行録A)  
授業コード 21C24-001  
教員名 KUCICKI, Janusz  
教員コード 101877  
登録人数 25  
回答数 16  
回答率 64.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course achieved its aim, by full realization of themes presented in the syllabus. According to results of the course evaluation report, students accepted well the course. There are only few comments, and all of them are positive. Majority of students were really interesting in the course, which helps much to improve quality of the course. The course requires from students to read large part of the New Testament (Gospel according to Luke and the Acts of the Apostles), which was the really challenge for them, because the classes were twice a week and there was not enough time to read the requisite part. The revision of the reading assignment must be considerate.

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎神学(啓示論)
授業コード	21C42-001
教員名	SUSAI, Raj
教員コード	101347
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

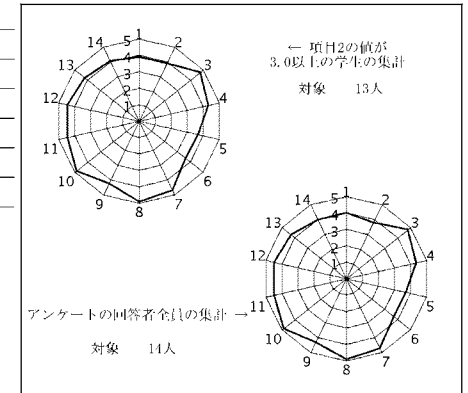
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

2018年度のQ1の置いて実施された基礎神学(啓示論)を6名の学生が受講した。授業の概要に取り上げられている内容に忠実に授業が実践されたと思われる。また学生たちも授業の到達目標に近づいていたと認識している。講義のシラバスに沿って授業が実践された。学生たちの積極的な参加が喜ばしことであった。少人数だったので一人一人に気を配ることができ、また対応することもできた。少人数だったのでグループワークなども可能になった。学生たちの知識の差があったので、遅れ気味の学生に積極的に声かけることもできました。映像などをも取り入れながら授業を進めばよかったと思われる。何よりも学生に勉強のための環境を作り、わかりやすく説明できたことが良かったと思われる。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教倫理学(基礎論A)
授業コード	21C50-001
教員名	RAJCANI, Jakob
教員コード	103281
登録人数	21
回答数	14
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

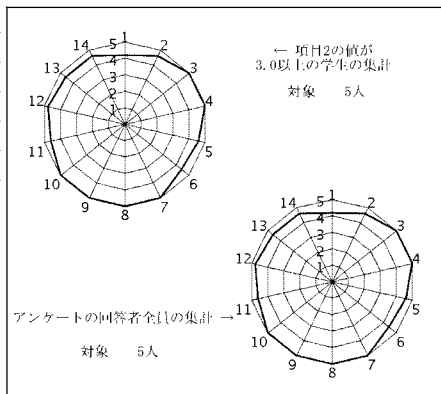


授業評価結果を踏まえた点検・評価

問題なく1Qの授業を終ることができた。週2回だと以前に比べればけっこう慌ただしくて、教材の準備が精一杯だったので、配る資料を減らさざるを得なかった。代わりに、ノートがたくさん取ってもらうことにしたのだが、やはりノートの取り方が分からない学生も中にいることを痛感していた。一番大きい問題として、学生も何人か書いてくれたように、外の騒音だった。授業が始まって、窓のまっ前の某部活がまだ終わっていなかったり、終わった後でも残ってお喋りする人がいたりして、時々ものすごい邪魔担っていた。というのも、学生が大丈夫なのかなあ、かわいそうだなあと思ったら、やはり評価にも上がってきたテーマである。対策として学生課に何度か電話を入れたのだが、すぐ改善は見られなかった。将来に向けて期待しているところである。授業の目的は大幅に到達できたと思う。とはいっても、これからはもっと学生の前提知識を把握し、当然知っていると思いついでいて説明し切れていなかった部分をより分かりやすく説明するようにしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教思想A  
授業コード 21C59-001  
教員名 SOUSA, Domingos  
教員コード 100753  
登録人数 6  
回答数 5  
回答率 83.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、多面的宗教現象を広く検討するとともに、宗教の起源や本質を解明しようとする。代表的宗教学者や思想家の文献を解読することによって、様々な宗教領域に必要な基礎的知識を習得するとともに、文献の分析力を高めることを目指している。

講義に対する学生の評価結果は、全体として比較的高いと思われる。自由記述には肯定的評価として「内容が面白い」「質問に対する回答をしっかりとくれた」「先生の説明は分かりやすい」等があげられる。否定的な評価としては、「感想ペーパーに関しては、授業が始まる前に、配って欲しい。なぜなら、もし授業の終わりところに配ると、考える時間が短くなるからです」等があげられる。予習や復習などについての得点は多少低いので、自主的な学習を促すような働きかけを行っていく必要があると思います。今後はこの点に留意して授業に取り組んでいきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 聖書ヘブライ語(初級)I  
授業コード 21C71-001  
教員名 加藤 久美子  
教員コード 103475  
登録人数 5  
回答数 1  
回答率 20.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

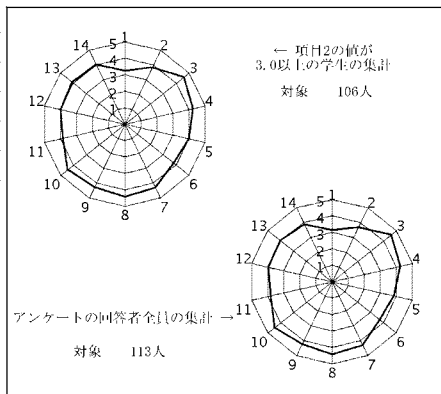
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ヘブライ語の学習においては、最初の難関が文字と母音記号の学習であるが、今年度は、これまでも行ってきた歌の利用に加えて、スマートフォンの無料アプリの単語帳カードを作成し、履修者に配布した。また、教科書を用いた文法学習と並行して、授業内でのあいさつや絵入り単語カードの利用などによって、履修者が能動的に発音する機会を増やした。今期の履修者は少人数であったが、全員が欠席1回以下で大変よく学習に取り組み、結果として、開講当初に設定していた目標は、ほぼ達成できたと思われる。少人数のために数値データが得られなかったが、出席状況の良さや最後の授業内小テストの成績が全般によかったことを考えると、履修者からも授業は肯定的に評価されたと推測される。

今後の課題として考えるべき点は、クォーター制導入に伴う学習期間の短さやどう配慮するかである。語学の学習内容を定着させるためには、ある程度の長い期間にわたる反復練習が不可欠であるが、短期で終わるクォーター制では、これが難しい。授業のないクォーターにも履修者が自主的に楽しく復習できるようなWebClassの教材などを準備することを考えたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[E・J]3
授業コード	10A51-010
教員名	ANTONY SUSAJRAJ
教員コード	103820
登録人数	150
回答数	113
回答率	75.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of the course is to introduce the basics of Christianity to students. Most of the students do not have much knowledge of Christianity.

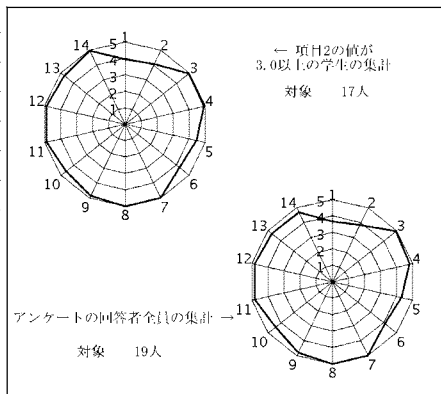
In this course, the fundamentals of Christianity and Christian values were taught. The academic terms very new to the students. Therefore, the powerpoint was made and used in the classes, that students see the characters and understand the meaning. Video clips regarding the subject is also shown that the students could grasp the subject through visual. After almost all the Lectures, the students were asked to write 'Reaction Paper'.

By which, I could understand the students opinions and doubts. These doubts are cleared during the following lecture.

Since it is not sufficient on class room knowledge, they were encouraged to read books related to Christianity and write a report. This could have helped them to deepen the knowledge of their interested field in Christianity. The students are given an opportunity to go to any Christian related Churches that they have first hand experience of Christianity. Most of them went to first time to the Churches and seen it personally and learnt for themselves. Thinking of next semester, I need deal more on Churches in Japan and history of Christianity in Japan.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ギリシャ語I文法<全>
授業コード	11K01-001
教員名	坂下 浩司
教員コード	100471
登録人数	24
回答数	19
回答率	79.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



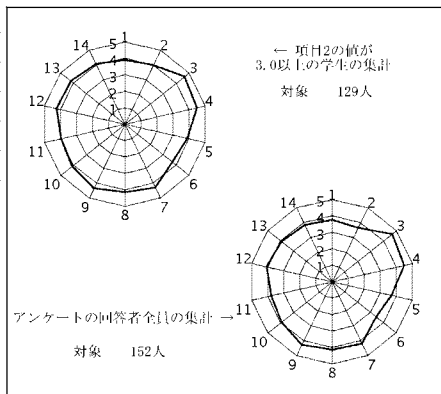
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初設定していた目標は「ギリシア・アルファベットを覚えて使いこなす。文字と単語の発音ができる。文章をつまらずに音読できる。簡単な文法を理解している。変化表の使い方が分かっている。」であった。これらは達成されている。数値データは設問7「教員の授業取り組みの誠実さ・真剣さ」と設問8「教員の声の聞き取り」で平均値「5」が出た。そのほかもおおむね4ポイント台なのであるが、設問14「全体としての満足度」に1をつけている学生が1人いた。この学生も、上記設問7は5をつけているので、おそらくは高いレベルを望んでいるのであろう。このような学生向けに難しい教科書を使ったギリシア語文法の読書会を6月から開始した。この読書会に参加しており本「ギリシャ語文法」も受講している学生が1名いる（全2名）。自由記述は、「ほどよいペースの講義進行で、ほどよいペースのPPT（これは何でしょうか？）進行により書きやすかった」と書いている学生がいる一方で、「講義の進行がやや速い」と学生もいたので、難しいが工夫していきたい。「ただひたすら教科書をすすめるのではなく、映画を見たり、切手〔使用済みの現代ギリシアの切手をノートに貼ってもらって文字を読み取る実習をした〕や名刺〔自分の名前をギリシア語で表記して名刺を作る実習をした〕で勉強したりするなど集中力がきれずに話を聞けた」ともあり、このような工夫を今後もしていきたい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	考古学B
授業コード	12B02-001
教員名	渡部 森哉
教員コード	101237
登録人数	269
回答数	152
回答率	56.5%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業を行った。また最終レポートの提出の割合もかなり高かったが、アンケートの回答数は登録者269名中152名のみでやや低かった。授業にあまり出ずにレポートを出した人が多い証拠であると思われる。

授業評価の結果を見てみると、評価がかなりばらけている。満足度が高い学生と、そうではない学生がいること自体が解決すべき1つの課題である。今回受講者制限をすることなども考えていきたい。

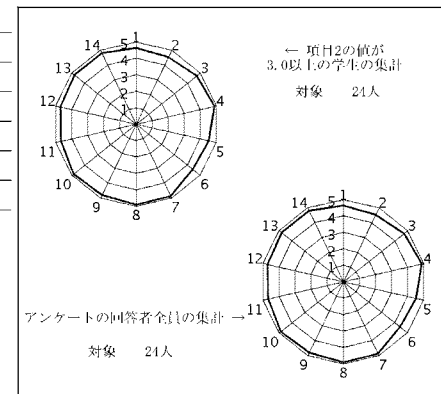
小レポートと期末レポートの2本のレポートを課し、その作成にはそれなりの時間がかかる。レポートに授業の内容がどれだけ反映されているかを確認し、来年度の授業を改善していきたい。

自由記述欄には、リトルワールドでの学外授業を評価する意見(4名)、分かりやすかったという意見(5名)、質問に答えるのが良かったという意見(4名)などがあった。一方で、うるさい学生にはもっと注意してほしい(5名)、声が聞きにくい(4名)という意見があった。ピンマイクは位置がずれると音が拾いにくくなるので、注意したい。

なお、初回の授業を休講としたが、学外授業を1回行ったので、計15回の授業を行った。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生命と倫理問題1
授業コード	13A03-001
教員名	奥田 太郎
教員コード	100642
登録人数	67
回答数	24
回答率	35.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

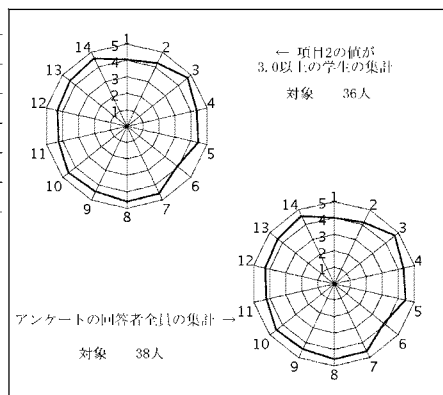
(1) 受講者によるより主体的な授業参加を促すことを意図して、今期より、2コマ連続で1テーマの授業構成に切り替えることで、1つのテーマについて自分自身で考え、かつ、教科書からも知識を学ぶことを集中して行う形にした。結果的に、概ね狙い通りに進めることができた。

(2) 授業提供者としての手応えを反映するように、受講者による授業評価も高い数値であった。同系統科目の平均値と比較しても、概ね大きく平均値を上回る結果となった。また、自由記述での評価も、授業の運営の仕方、内容についての肯定的なコメントが多数あり、受講者からの改善コメントについても、今期の授業構成をより発展させる方向での積極的な提言が主であった。(ただし、今回のアンケート回収率は低く、実質的な受講者数に対して半数以下の回答にとどまったため、比較的参加意識の高い受講者に偏った回答結果になっていると思われる。)

(3) 今回構築した基本線は維持しつつ、細かい部分を調整して、より効果的な授業に改良していく必要がある。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い  
授業コード 13B01-001  
教員名 藤川 美代子  
教員コード 103115  
登録人数 117  
回答数 38  
回答率 32.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

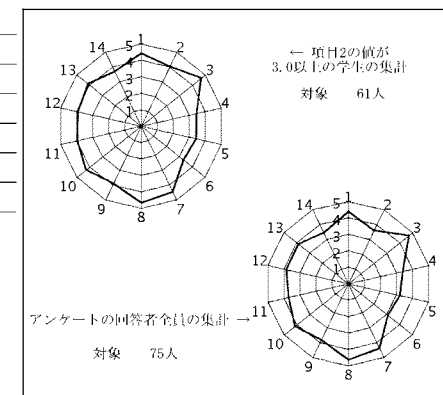


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初、①自らと異なる環境に暮らす人々の生活や考え方について理解するための素地を作る、②日本の中にある異文化を理解することで、自らの文化や考え方を相対化する姿勢を身につけるといふ二つの到達目標を設定した。講義では可能な限り映像や画像を使用することで日本社会が抱える種々の問題をより身近に感じてもらうことを目指したほか、すべてのトピックについて学生が本音の部分で「自分はどう考えるのか、それはなぜなのか」を言語化できるような問いを設けることを心がけた。学生からは「授業内容に関してきちんと自分の頭で考えて、言語化する機会が設けられていた」「物事について新しい面で考えられる授業、自分の意見を言える授業」「映像資料が多く、さまざまな問題を身近に感じることができた」との評価があり、設定した到達目標はおおむね達成されたものとする。一方、評価からは、講義内で考えたことが学生自身の力になっているか否かは判然としない。次クォーター以降は、講義内で扱う異文化の問題が決して特殊な事例ではないこと、日常にありふれた些細な違和感の背景について考えることがひいては自分自身を生きづらくしている状況の打破につながる点になることを強調し、講義を離れた後も種々の問題を続きで考えられるような環境を整えることを目指したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは1  
授業コード 13E02-001  
教員名 青柳 宏  
教員コード 017004  
登録人数 157  
回答数 75  
回答率 47.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

<到達目標とその達成度>

本年度はつぎの2つの到達目標を掲げた。

1. 表面的には多様かつ不規則に見えるさまざまな言語事実の裏に実は規則性があることが理解できる。
2. 音声表記のシステム(IPA)や音素、音節、アクセントなどの理解を通して、外国語学習に役立てられる。

期末テストの結果(平均点37.4/50、最大50、標準偏差8.63)をみるかぎり、平均点は例年より高く、満点も2名いたが、標準偏差が示すように得点のばらつきが大きく、目標を達成できたと思われる履修生とそうでない履修生との間で明暗が分かれた。

<総合的な自己点検・評価>

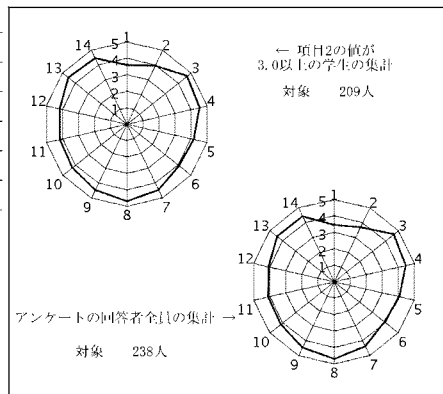
項目全体の平均点は3.88であるが、項目4~6の平均が3点台前半であり、授業改善の余地がまだまだあることが分かる。自由記述については、毎度のことではあるが、説明分かりやすくますます興味が湧いたという声もあれば、授業の進度が速過ぎる、初習者には難し過ぎるというコメントもあった。

<今後の改善点および抱負>

- ・授業の到達目標についてはシラバスに明記しているが、それを理解できない履修生もいることから、シラバスの書き方にさらに工夫が必要である。
- ・一方通行の講義にはしていないつもりではあるが、授業の双方向性をさらに高める努力が必要である。
- ・教材(スライドや資料)の提示方法にさらに工夫が必要である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学の諸相1  
授業コード 13E08-001  
教員名 中尾 央  
教員コード 102505  
登録人数 301  
回答数 238  
回答率 79.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
シラバスには以下2点をあげた。

- ・ 科学技術と社会の関係について考察できる。
- ・ 科学技術が社会にもたらす問題を理解している。

この2点については自分自身の評価についても、また学生による授業評価点数を鑑みても、おおよそ目標が達成できたのではないかと考える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

項目番号1と2の2点について評価が低かった。これらを改善するにはシラバスの記述について配慮する必要があること、それと授業内で予習や復習を行うための課題の指示や、主体的に授業に参加できるような取り組みを考慮する必要があると考える。それ以外の項目についてはおおよそ平均値が4を超えていた。

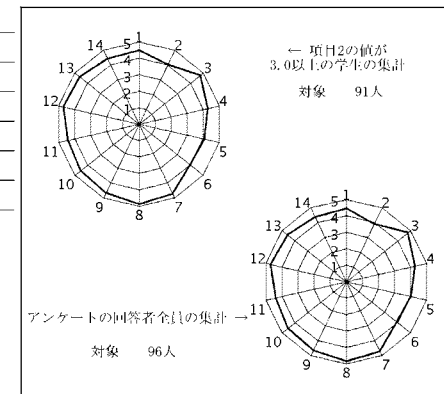
自由記述欄に関しては、大教室のため私語が少し多かったこと、スライドを撮影する学生のシャッター音などについては今後注意したい。ただ、教室の構造的問題についてはこちらからはどうすることもできず、正直なところ大学側でどうか考慮してほしい（後述）。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

300名を超える受講者であったため、全員に対して適切な授業スピード、授業内容を目指すことが非常に困難であった（スピードで言えば、遅くすると一部がだらけてしまい、また早くすればついて来れない学生が脱落するなど）。とはいえ、大人数授業が避けられないのであれば、この辺りを調整していくことが今後の課題である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館概論  
授業コード 15M07-001  
教員名 黒沢 浩  
教員コード 100758  
登録人数 109  
回答数 96  
回答率 88.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

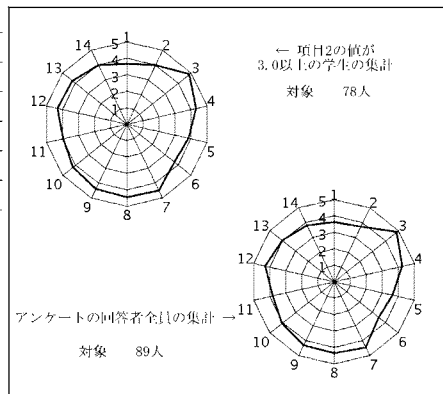


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、授業の進行ペースが今一つつかめず、後半でかなり急いでしまったため、目標をこなすことに精一杯で、学生がどの程度理解できたかについては反省しなければならないと思う。ただ、数値データや自由記述を見る限り、授業自体は良く評価されていたようで、特に質問に丁寧に答えたことと、パワーポイントの使用が高く評価されたようだ。今後は、授業ペースをコントロールしながら、目標達成の度合いを高めていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報組織化論  
授業コード 15P02-001  
教員名 浅石 卓真  
教員コード 103263  
登録人数 134  
回答数 89  
回答率 66.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
本講義では「1. 図書資料およびネットワーク情報資源の組織化方法を理解できる」「2. 学術情報や医学情報など、特定の情報のメタデータとその活用方法を理解できる」「3. 自然言語処理の基礎知識と具体的な応用を理解できる」という3つの目標を設定した。いずれについても2回の授業中の小テストではまずまずの平均点（7割弱程度）が取れており、概ね達成できたと思われる。

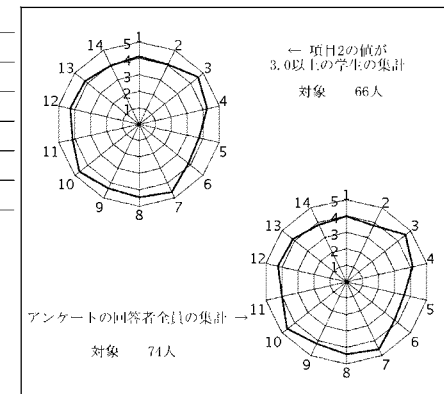
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
項目1から14、項目3-14のいずれについても同規模の授業の平均よりやや低く、大成功とは言えない。出来るところから改善していきたい。ただ自由記述では「資料が丁寧」という意見が複数の学生から得られており、その点は評価できるポイントだと考えている。一方、授業の進め方に関して「早口である」という指摘については、重要なことを何度も繰り返すなど必要な改善をしていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

「この授業の到達目標を理解できましたか」という設問に対する平均が低いため、初回と最終回以外でも適宜、授業全体の中での各回の位置付けを説明するようにしたい。また、授業内容の理解を深めるため、練習問題を多く取り入れていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学概論  
授業コード 22B03-001  
教員名 宮沢 千尋  
教員コード 019562  
登録人数 92  
回答数 74  
回答率 80.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

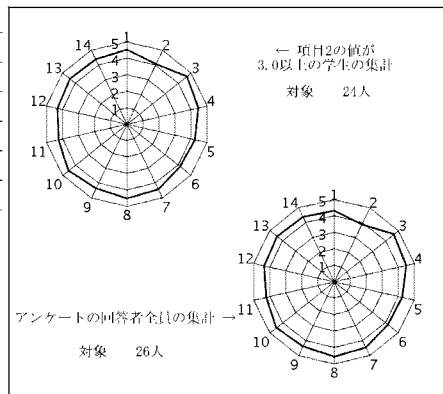
授業態度がたいへん悪かった。クォーター制になってから時間割配置が体育の後になった。昨年度と異なり、開講当初から居眠りする学生が目立ち、GW明けの月曜日には約半数の学生が寝てしまった（2年生以上も含む）。学期途中で何度か課している任意の復習課題提出率も3割と例年の半分以下だった。

概論科目は学科の柱である4分野を選択必修で学ぶ。履修者の多くは1、2年次生で、その半分以上は文化人類学系のゼミに入るはずだ。概論が理解できないのは良くない。自主性が無いのもわかったので、授業終わりに計4回復習テストを課し、採点・添削して返却し、毎回解説した。

だが、これらの努力はさほど評価されなかった。「予習・復習や授業への主体的参加、授業の理解への努力」、「学生の理解度に配慮しての授業進行」、「学習意欲を引き出し、授業参加や自主的な学習促進のための指導や情報提供、質問や相談の機会や課題への指導」、「知識や理解の深まり」、「満足度」、の項目は学科平均を0.1~0.4下回った。このような取り組みを評価する記述も複数あったが、「復習課題に点数をつけるな」「寝ている者は放っておけ。復習を義務化するな」との意見もあった。指定図書の実物を見せて紹介したり、課題を添削・解説したにもかかわらず、設問11では20人が、12では13人が3以下をつけているのは、これらが学修に資するものではないという学生が相当数いることを示している。レジメの内容がわからず復習テストができなければ、添削と解説にしたがって或いは指定図書を参考にして再度復習すればいい（と指導した）のだが、その気はないのだ。項目2では23人が3以下である。だが、88人の定期試験受験者中F4名、C11名なので、結果的にある程度基本は理解できたともいえる。2012年度から担当しほぼ同じ内容でやっているが、今年度のような授業態度は過去に例がない。この傾向が続くのか注視する必要がある。時間割の再検討も必要だ。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 考古学入門  
授業コード 22C02-001  
教員名 大塚 達朗  
教員コード 019372  
登録人数 38  
回答数 26  
回答率 68.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

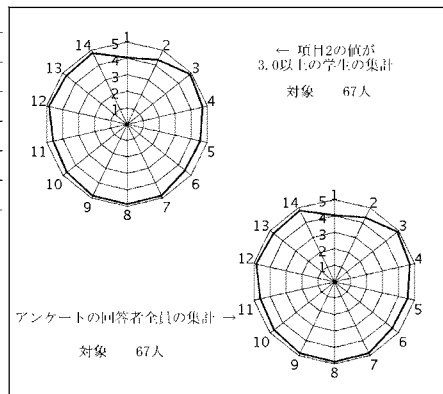


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標はおおむね達成できたと思う。掲げた業目標は、考古学の発展史の理解、層位学の基本と応用の理解、型式学の基本と応用の理解、生業からみた人類史の意義の理解などから、考古学が多面的で総合的な学問であることを修得させる、である。授業評価は、集計表によれば、全体では項目1から14の平均が4.28、項目3から14の平均が4.32で、本授業はそれぞれ、4.37、4.41である。また、全体的な評価を問う設問(13・14)をみると、全体ではそれぞれ4.29、4.22で、本授業はそれぞれ4.42、4.38である。故に、高く評価されたといえよう。自由記述をみると、説明がとても分かりやすかった、考古学の基礎基本が理解できるなどの記述の一方で、プリントの量を減らして欲しい旨の記述があった。そこで、改善点としては、来年度は、講義での質疑応答の回数を増やすことにする。今後の抱負は、世界史・日本史にならされている受講者に対して、〈遊動から定住へ、定住から国家へ〉という考古学が提示する世界史像の意義および更新世にいち早く日本列島に土器が出現したことの世界的な意義を深く修得させたい。また、考古学が文献史学とは大きく違う歴史認識を提供していることを修得させたい。そこで、知識が抽象的にならないように、かつ、考古学の分析手続きの特色が理解できるように、人類学博物館所蔵考古資料を最大限に活用することを、次年度、より心がけたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 論理学  
授業コード 22C18-001  
教員名 和泉 悠  
教員コード 103645  
登録人数 77  
回答数 67  
回答率 87.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

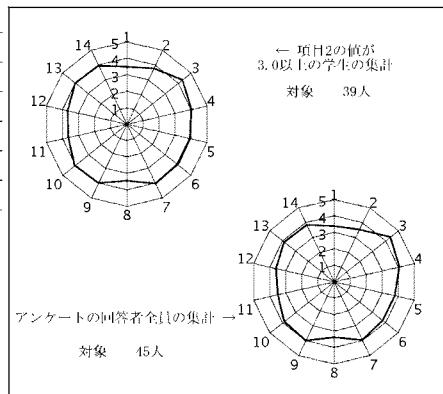
①到達目標は、「1. 命題論理や述語論理を用いて、単純な自然言語の文を記号化することができる。2. 真理表、モデルといった論理学における基本的概念と手法を理解し、用いることができる。3. 日常的な議論を論理的に分析することができる」の3点であり、テストの得点などから判断するにおおむね目標が達成できたと思われる。

②数値、自由記述ともに前年度より明らかに学習内容の理解度が高まった。これは、指導内容の調整のみならず、教員側の教室使用の習熟、webclass使用の習熟、そしてwebclassインターフェイスの改善にも起因する。これら外在的な点を改善し続けることも、よりよい学習につながると考える。

③自由記述から明らかなように、リアクションペーパー、webclassの活用を通じてかなり全体への指導が行き届いたと言えるが、まだ個々人の習熟度の差への対応の点で、改善する余地があると思われる。多人数教室ながら、個々人のレベルの差を踏まえてそれぞれに対応した教材を提示することは、きわめて困難な課題ではあるが、論理的に不可能なものではないと思われる。可能性としては、ペアワークやグループワークなどの有効な活用が考えられるが、これにはwebclass機能のさらなる改善が必須である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学コミュニケーション  
授業コード 22C24-001  
教員名 横山 輝雄  
教員コード 015149  
登録人数 67  
回答数 45  
回答率 67.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」に対する平均値は3.78であり、一応到達目標は理解されているのではないかと。また設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」に対するものは、おなじく3.78であった。

2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

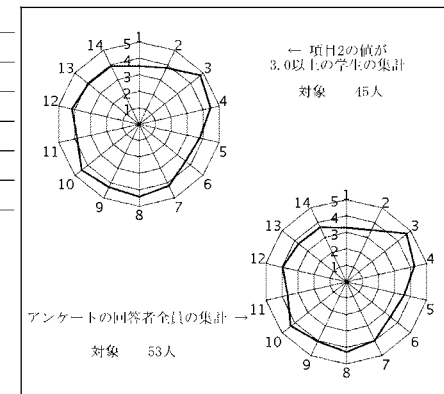
数値データは、項目1から14の平均が3.78であり、項目3から14の平均が3.84であった。4以上の項目は2つだけなので、もう少し増やせないか検討する。自由記述では、「重要なところは、繰り返し解説してください、大切な部分がどこなのかが、とてもわかりやすかった」とあり、今後もそれを踏襲したい。

3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負など

数値データで項目9「教員は学生の理解度に配慮し・・・」が3.98でもっとも4に近い。上記2の自由記述の方向をいかし、まず、この項目をより上げるようにしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近世哲学史I  
授業コード 22C29-001  
教員名 谷口 佳津宏  
教員コード 016550  
登録人数 100  
回答数 53  
回答率 53.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

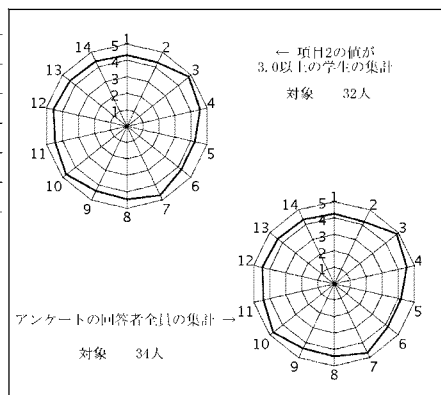


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1. 近世の哲学の流れについて理解している。2. 近世の哲学の特徴を理解している。」であった。アンケートの結果は、全体平均をかなり下回っており、これだけを見ると当方の授業の進め方に大いに問題があったようにも見える。今回このような結果になったことには、設問1（この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか）の評価を1とした者が中9名いたこと（登録者99名中回答者58名）もいっらかは関係しているように思われる。この授業は、今年度から人類文化学科の学生が比較的取りやすいと思われる時間帯に変更して開講したので、登録者数はこれまでよりもかなり多かったが、空いている時間帯を埋めることだけを目的とした受講者も相当いたようで、本科目は必修でも選択必修でもないにもかかわらず、最初から全く興味のない科目を登録するという学生の心境は当方には理解できない。自由記述欄では概ね好意的な評価が多かったが、そのなかで一人の学生が良かった点として書いていた「不真面目な学生（真剣に授業を受けるというより、単位をもらいにきている人）に対して厳しい対応を先生がしていたこと。」ということも今回の結果と関係していると思われる。ともあれ、今後は、全く興味を持たない学生に少しでも興味を持ってもらえるような授業を心がけていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化史B  
授業コード 22C42-001  
教員名 青山 幹哉  
教員コード 019323  
登録人数 65  
回答数 34  
回答率 52.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

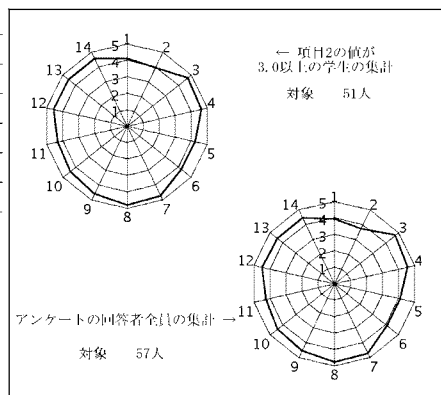


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定した到達目標は、(1) 歴史認識の形成過程を文化的に考えることができる (2) 歴史叙述の内容について、複数の視点から分析することができる、であった。項目5・6で評価値5または4とした学生は回答数の80パーセント以上であった。また、項目14の平均値は4.32であったので、学生は目標に対しおおむね達成感・満足感をもったものとする。
- ② この科目は初めて「学生評価」の対象となった科目なので、過去の数値との比較が出来ないので、今回の人類文化学科科目の平均値と比較すると、項目8・9以外の項目の値は同学科科目の平均値を上回った。新規な内容であったので、教員である私の側にも不安もあったが、項目15に「あまり興味がなかったが、授業を受けるうちにどんどん面白く感じるようになり充実した時間を過ごすことが出来た」との記述があり、正直ホッとした。
- ③ 項目1の値を「1」「2」とした受講生が3名いた(3名とも項目14の値は「3」)。クォーター制の導入後、時間割の都合だけで、興味のない科目でも授業登録をする学生が増えている。今後の方策を考慮する必要があるだろう。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(アフリカ)  
授業コード 22C47-001  
教員名 坂井 信三  
教員コード 034264  
登録人数 97  
回答数 57  
回答率 58.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

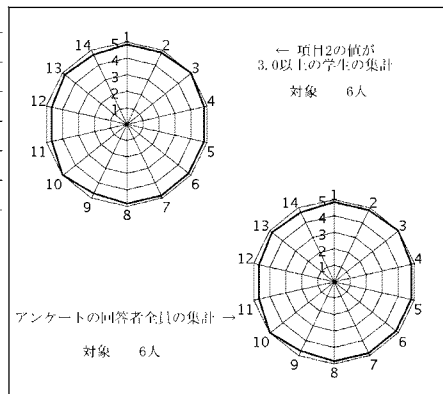


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、高校までにアフリカに関する知識にほとんどまったく触れたことがない学生を対象に、アフリカの歴史、文化と現状について、幅広く知ってもらうことを目標としている。授業の目標の理解とその達成度に関する設問5、6の評点がそれほど高くなく、4点程度であることは、授業の成果が上がっていないということよりも、やはりもともとアフリカに対する関心の低い学生の関心を喚起することの難しさを感じる。一方、授業の内容や進め方に関わる設問7、9、10、12などに関しては4.5程度かそれ以上の評価を得ているので、その点は意を強くした。また、今回は自由記述による評価への回答数が少なかったが、その理由は明らかでない。自由記述の回答の中では、リアクションペーパーを用いた学生への応答を評価する意見と、リアクションペーパーへの回答に時間をとらずにという意見が両方あった。実際、今期の授業ではリアクションに時間がとられて本来の授業が駆け足になってしまうことが2度ほどあった。今後はリアクションと授業とのバランスに注意したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(民族誌)  
授業コード 22C61-001  
教員名 石原 美奈子  
教員コード 100080  
登録人数 21  
回答数 6  
回答率 28.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

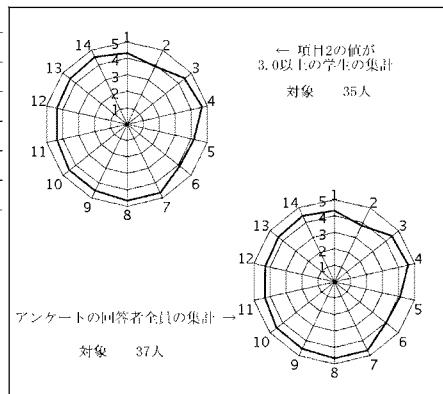


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は、文化人類学の古典的作品である、Evans-Pritchard著『The Nuer』を講読することを通して、文化人類学的な調査手法、民族誌の基本的な書き方、基本的な人類学用語や概念、さらには人類学的なものを見方を学修することを目的とした。当初の目標は、全6章を通読することであったが、5章まででタイムアウトとなり、残る6章は自習に任せることになった。基本的な授業の進め方は、英語のThe Nuerの原典を担当者が解説し、章が終わるごとに、履修者にその内容の要旨と感想をまとめて提出してもらうという方法をとった。
- ②授業中に「学生による授業評価」を記入する時間を設けるのを失念してしまったため、回答者の数が少なかったが、回答結果を見る限りでは、履修生の満足度は高かったのではないと思われる。一方的な解説ということではなく、履修生に要旨と感想をまとめて提出させたことで能動的な授業への取り組みがあったことと、また時間のかかる英訳をさせなかったことで、効率よく授業を進めることができたことが、評価されたのではないと思われる。
- ③今回の取り組み状況や評価から、今後も今回のやり方を異なる民族誌でも応用してみようと思う。ただやはり最後までたどり着くことを目標に掲げると、ペース配分に気をつける必要があるため、今後は、この点に注意して授業に取り組みたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(物質文化論)  
授業コード 22C74-001  
教員名 後藤 明  
教員コード 101380  
登録人数 76  
回答数 37  
回答率 48.7%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



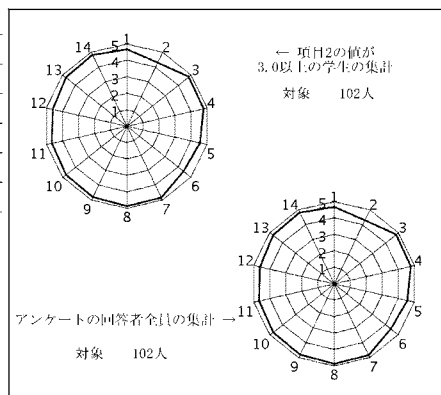
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、学生が卒業論文のいて物質文化の製作や使用あるいは象徴性などについて調査し、成果を分析した論文を制作するための基礎的な方法論や考え方を習得させることを目標としている。まず英語によるアメリカ先住民の物作りのビデオを観察して、物質文化製作の調査法のミニ・トレーニングを行った。そのあと講師の研究してきた物質文化を3つのパートにわけて講義を行った。評価の中では予習復習に関しての部分が相対的に低かった。参考資料はできるだけ事前に配布して予習復習するように指示したが十分徹底していなかったようだ。次回の講義まで解答するような設問などを設けることによってこの点を改良するなどを考えている。さらに授業の到達目標に達したか否かについての評価が相対的に低かった。これを改善するためには、受講生の人数にもよるが、学生自身が物質文化研究のプロジェクトを行って、講義期間内に発表するような機会をもたせられるか検討したい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 健康科学論2  
授業コード 12D09-002  
教員名 早川 徳香  
教員コード 101096  
登録人数 242  
回答数 102  
回答率 42.1%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

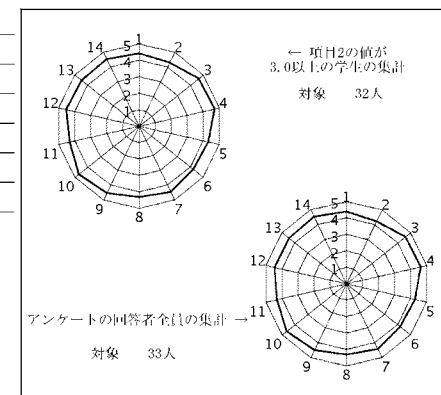


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
「精神医学・保健の基礎知識を身に付ける」ことを到達目標に設定していたが、質問項目「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」4.42、「この授業の到達目標を理解することができましたか。」4.59であり、本授業のその他の評価項目よりは0.2ポイント低い結果であった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
概ね高評価であったと考えている。しかし、改善しているものの予復習の項目についてもう一步の工夫を要するようである。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
基礎知識を習得するという授業目標が曖昧なため、下位項目を設け、学生が具体的に習得しなくてはならない基礎知識とは何かを明示すると到達目標に向けて力をつけていくサポートをできるのではないかと考えた。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育原論A1  
授業コード 15A03-001  
教員名 高橋 亜希子  
教員コード 103582  
登録人数 61  
回答数 33  
回答率 54.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- アンケート回答ありがとうございました。問題を解くワークを多く取り入れたたり、抽象的な概念については映像資料を用いて補ったりしていましたが、それがうまく働いていた様子でほっとしています。また、授業の終わりでのグループワークの発表はどの班も内容がしっかりしていて、私が授業で扱えなかったことも広く調べていて、グループでの協働の力やプレゼンテーションのスキルが育まれるだけでなく、他の班の人にとっても学びになるような内容になっていて、良かったと思います。他の学科・学部の人と協力というのはハードルが高いと思い、席も近づけ、なるべくさまざまなトピックで話す機会を作りましたが、準備の時間がもう少し欲しかったという声もあったので、来年度は準備の時間をもう少し取りたいと思います。
- 今回の授業は、全体的に、ねらいとしたことが伝えられたのではないかと考えています。出席カード、グループワーク、小テスト、レポートという課題の数が多という指摘もありました。今回は、昨年度のレポート課題の半分を小テストに移動しましたが、実際には課題の数は昨年度と同じでした。小テストやレポート課題の内容をはじめに知らせることで、より、負担感を軽減していきたいと考えています。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	カウンセリング指導法
授業コード	21C62-001
教員名	西脇 良
教員コード	100623
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、教会司牧者、教師、カウンセラーなどに求められる「援助者」としてのあり方を、カウンセリング理論の学習および体験的学習を通して学ぶことを学修目標としました。

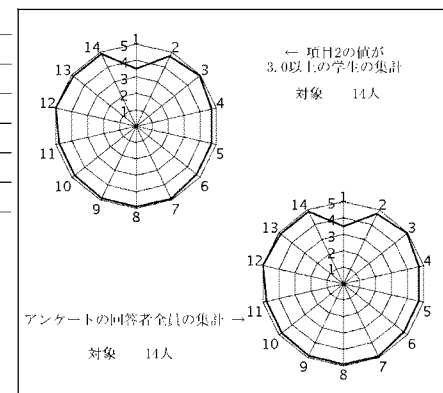
学生の皆さんからの評価ですが、少人数クラスのため回答者少なく、数値化されたものは出ておりませんが、3名の回答者からは、全項目において4以上の評価をいただきました。

自由記述における「評価できる点」として、「グループワークが充実していた点」との評価をいただきました。2人でペアとなって、援助場面（カウンセリング場面）を創作し、クラス全体で演じ、発表し合い、フィードバックし合う、という学びのかたちが評価されたものと考えております。

今後は、グループワークをさらに充実させ、援助場面を創作するプロセスに積極的に介入し、登場する人物の人格の創りこみ、場面展開の仕方、などにも注視していきたいと考えております。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学文献講読（心理）A
授業コード	23367-001
教員名	解良 優基
教員コード	103910
登録人数	16
回答数	14
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業の到達目標は、以下の2点であった。

1. 心理学の代表的な古典的研究の内容について理解を深める
2. 授業で取り上げた古典的研究がその後当該の研究領域に与えた影響について学ぶことで、研究の意義や価値について理解を深める

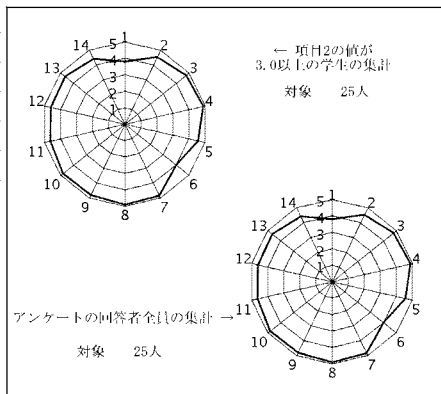
1. については、古典的研究を読み、その内容について発表・議論するという演習を通して概ね達成することができたと考えられる。ただし、文献によって英文や内容の難易度の分散が大きい印象もあったため、来年度以降教材の選択についてはより吟味する必要があると思われる。2. についても、各文献の発表者は当該論文の意義や重要性を概ね良く理解して発表しており、必要に応じて授業者からも補足説明を行っていた。

②数値データを参照する限り、各項目単位で大きな課題はみあたらなかった。自由記述に目を向けると、授業時間外における課題実施の補助や授業中に議論の時間を多くとれた点がポジティブに評価されていた。演習形式の授業であったため、学生の課題の実施状況によって授業の進行や充実度が左右される部分が出てくると考え、課題に関して援助要請しやすい雰囲気を作ろうとした意図が伝わっていたと推測される。

③学生同士でディスカッションをする時間を取り入れてもいいのでは、という意見がみられた。比較的少人数の授業だったこともあり、はじめから全体でのディスカッションを行っていたが、近くの学生同士で理解を確認する時間を取るとよかったかもしれない。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IA  
授業コード 23A04-002  
教員名 川浦 佐知子  
教員コード 055855  
登録人数 25  
回答数 25  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

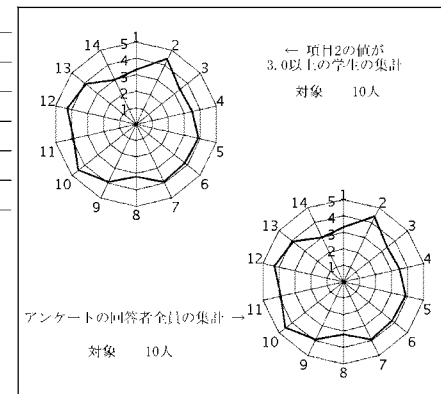


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理学や教育学など人間科学の諸領域を学ぶための基礎力を習得することを目的としている。具体的には文献読解、文献検索、レポート作成のために必要な力の養成することが主な目標であった。今年度は世論調査を題材とした文献を読み、論点とそれを支える論拠の構成の把握、理解に努めた。学生は各自文献を読み込んだ後、ワークシートを用いて内容をまとめ、それを小グループで分かち合い、要約文を作成した。学科必修科目ということもあり、履修前の時点での学生の授業内容への興味・関心は低かった（項目1平均値3.80）。しかし、授業参加態度に関わる項目2の平均値は4.52であり、実際の授業では積極的参加があったことが窺える。授業進度（項目4平均値4.88）、及び講義内容や資料提示（項目9平均値4.80）についての回答からは、授業進行のスピードや内容が学生にとって適切なものであったことが窺える。課題については、提出翌週にコメントを付して学生に返却し、注意すべき点、改善点などについて全体へ向けての講義を行った。課題に対する事前・事後の指導に関する項目12の平均値は4.60であった。大学で求められる学習の在り方について概説しつつ、この授業がそれにどのように関係するのかについて何度か説明する機会を設けた。関連する項目5の平均値4.56から、授業の到達目標はよく理解されていたと考えられる。一方、力がついてきていると感じるかという問い（項目6）に関しては、平均値4.00という結果となっている。学生が授業で修得した力を実感する機会をどのように設けるか、という問題は、この後に続く学科基礎演習科目との連携のなかで考える必要があると思われる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIA  
授業コード 23A08-001  
教員名 アッセマ 庸代  
教員コード 055491  
登録人数 32  
回答数 10  
回答率 31.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

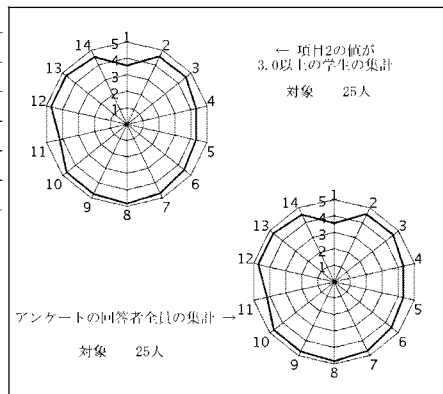


授業評価結果を踏まえた点検・評価

基礎演習IIにおいて、32名の「論文を書く」毎週の演習を担当させて頂いた。学生のスキル修得とそのスキルアップの達成は3～5。学生も教員も与えられた課題を、忍耐強くこなした。書くことは考えること、各自の考えを論述する手法を、教科書（戸田山『論文とは何か』）を伝達しつつも「論述」様式・描法の可能性も問いかけた。学科全員に課す複数クラスのため、情報と指導の平等性、ロボット金太郎あめ方式を望む学生ニーズもあり、モチベーション向上を意識した。教科書の基礎的マナーをマスターした学生には、達成感があったはずである。本人たちの論文の内容より論述形式重視であった。また、調べ学習から論述型レポートの個人指導をする場面では戸惑う学生も居た。今後は本人たちに満足感や考えの交流を工夫する。グループで、お互いのコメントや読み合わせは好評なので、学生同士のコメント時間を確保し、増やす時間管理・スピード感覚は、今後も留意点である。学生評価は、クラスで配布したアンケートで全員が自由記述している。改善点は、声が届いていない分、各グループを歩いたりして、できる限り、一対一の具体的な「問・主張・根拠」の書き方の添削する。自分のテーマが何であるかという自己への問いかけの時間の確保が、大学の基礎演習時間として持てるよう工夫したが、学生のニーズではない人も居る。広い視野や教師側からの多様な情報よりは、端的な指摘を好まれた。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IIA
授業コード	23A08-002
教員名	楠本 和彦
教員コード	055780
登録人数	32
回答数	25
回答率	78.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は、4クラス同じプログラムで実施しているacademic writingに関する心理人間学科の必修科目である。到達目標は以下のものであった。

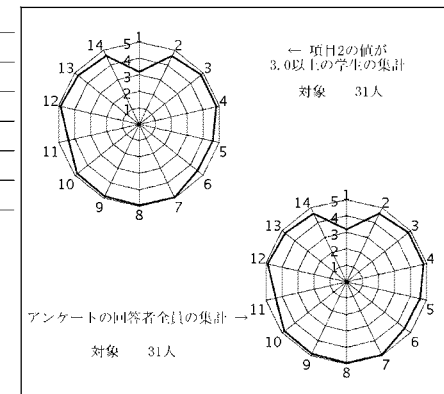
- ・論述的文章とはどのようなものかを知っている。
- ・論述的文章を自分の文章として書くことができる。
- ・文献を引用のルールにしたがい、自分のレポートに活用することができる。
- ・テキストのテーマに即して、自分の視点から自分の言葉で文章を作成することができる。
- ・明快な文章の構成とはどのようなものであるかを理解し、自分と他者の文章を推敲することができる。

当クラスの平均が、全学平均を大きく下回った設問は、1であり、学生が履修前には、授業内容にあまり興味をもっていなかったことがわかる。

当クラスの平均が、全学平均を0.2ポイント以上高かった設問は、2、5、6、8、9、10、12～14であった。この授業では、一定程度の宿題を課したため、2が高くなったと考えられる。各回のおける到達目標や授業進行が明示され、配布資料も課題に応じて工夫され、到達目標に向けて授業が順をおって展開されるため、5、6、8、9、10が高くなったと考えられる。設問12～14に関して、学生が授業課題を行い、学生からの質問に応じ、提出課題に教員がコメントをつけることなどを通して、academic writingに関する知識や能力を向上させることができたため、授業に対する満足感も高まったと考えられる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理人間学基礎演習IIA
授業コード	23A08-003
教員名	中村 和彦
教員コード	055731
登録人数	33
回答数	31
回答率	93.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理人間学科2年生が4クラスに分かれ、同じ内容で授業が行われている基礎演習である。論述文のレポートや論文を作成する力を養うことを目指し、論述的文章を書くことができること、文献を引用のルールにしたがい活用できること、などを到達目標として設定している。

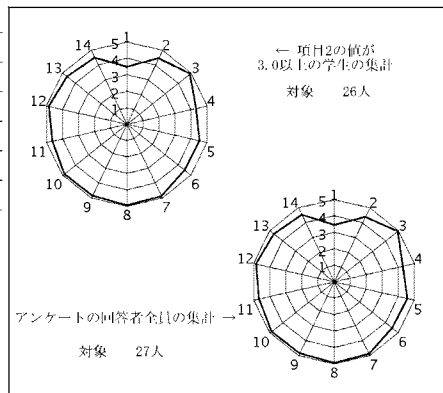
これらの目標と到達については、設問6（授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか）の平均が4.55であり、ある程度は力を身に付けていると自覚していることが伺える。レポートの採点結果からは、全体の約2/3は論述的文章を書く力を確実に身に付けており、到達目標はある程度達成されたといえる。

数値データの他の項目からは、担当者の姿勢や学生への対応（設問3、4、7、8、9、10、12）は平均値が4.80以上であり、高く評価されていた。その一方で、設問11（意欲を引き出す情報提供）の平均値は4.33と他の設問に比べて低く、今後の課題である。また、この授業はじゅうたん教室で椅子を出して行われたが、自由記述では椅子を出す負担についての指摘が多く、次年度からは通常の教室で実施するように設定していく。

以上より、来年度のこの授業では、学習意欲を引き出す情報提供を行うこと、記述する作業を行うためのスペース（机の大きさやグループでの話し合いが可能な教室の広さ）が確保された、通常の教室を使うことを通して、さらに授業改善に取り組みたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIA  
授業コード 23A08-004  
教員名 土屋 耕治  
教員コード 102287  
登録人数 31  
回答数 27  
回答率 87.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、心理人間学科の必修科目として開講されている。4クラスが同じ教材を用い行われ、論述文が書けるようになることが目標とされていた。

(1) 目標と到達の程度

新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じるかを問う項目13の平均値が4.67であった。これは高い得点と言え、論述文を書くという目標をある程度達成できたと言ってよいだろう。

(2) 総合的な自己点検・評価

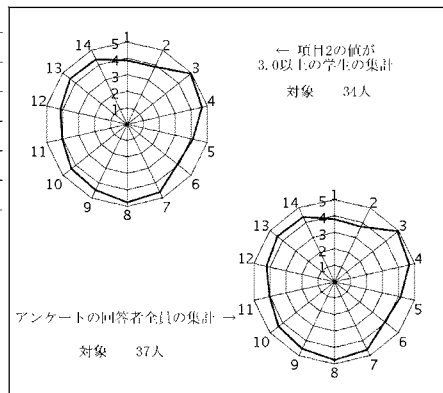
全体的な満足度は、4.52と高いものと言える上、良かった点として、「個別に質問をしにいったときも丁寧に対応してくれた。コメントなども丁寧だった点。」「教員が生徒の質問に親身になって答えてくれ、適切なアドバイスも多かった。」という自由記述コメントにあるように、授業に対しては一定の評価があったと考えられる。

(3) 改善点、今後の抱負

昨年度からクォーター制に対応するようにカリキュラム構成を変更させているが、提出課題の提出期限がタイトだったなどの文言もまだ複数見られることから、提出課題の内容と期限については、さらに検討する必要があるだろう。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育社会史  
授業コード 23C15-001  
教員名 林 雅代  
教員コード 018796  
登録人数 52  
回答数 37  
回答率 71.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

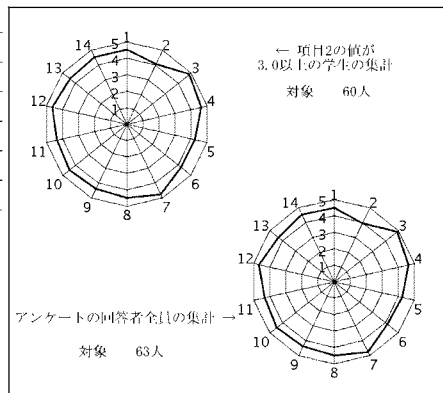


授業評価結果を踏まえた点検・評価

52名の受講者で37名回答だったので、7割の学生が回答した結果である。回答者37名のうち34名が質問項目2について3以上と評定した受講生であったため、今回の受講生は全体として熱心であったと考えられるし、実際15回の授業を通じて非常に熱心に取り組んでいたという印象がある。そういう受講生の真面目さに助けられた面もあるかと思うが、今年度の評価はかなり高いものとなったように思う。項目6が3.95、項目9の授業の進め方が4.51、項目13の授業の理解度が4.41、項目14の全体としての満足度4.38となり、授業の運営方法が到達目標の達成や、理解度や満足度を高めることに効果的であったと考えられる。今年度は、Q棟教室を使用していたこともあり、例年のパワーポイント、資料提示、ビデオの使用に加えて、インターネットで史跡等の紹介をしたりするなどの工夫も行なった。自由記述の欄に、歴史好きな受講生から満足できたとのコメントもあった。今後の課題としては、自由記述欄のスライドを変えるのが速いという指摘のように、板書のボリュームを再度検討する必要性が一つ、また受講生とのコミュニケーションをもう少し取り入れることが今一つ、といったところである。毎回授業内容が盛り沢山でスライドが速くなったり、受講生に意見を募ったりということをする余裕がなかったりするので、内容の絞り込みも検討したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 パーソナリティ心理学  
授業コード 23C20-001  
教員名 坂中 正義  
教員コード 102720  
登録人数 81  
回答数 63  
回答率 77.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。

- ・ パーソナリティ心理学における基礎的事項を理解している。
- ・ パーソナリティ心理学を学ぶ上で重要な姿勢（自分にひきつけて考え、理解する）を身につける。
- ・ 自己理解を深める。

この目標実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。

- ・ 内容を身近に感じることが出来るような説明を心がける。
- ・ 単元ごとの質問タイムを設定した。
- ・ 毎回、振り返りシートを用いて自己理解を促した。

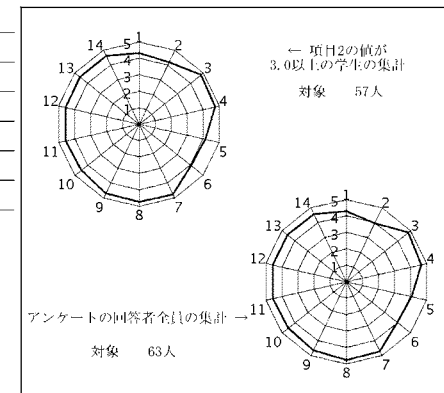
授業時の感想やレポート、定期試験、授業割評価アンケートによる到達目標達成度4.17等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で一定の手応えを感じていることが伺えた。

授業割評価アンケートの大半の項目が4以上を示し、ほぼ半数の項目がた全体平均を顕著に上回っていた。

よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 認知心理学  
授業コード 23C23-001  
教員名 藤田 知加子  
教員コード 100382  
登録人数 141  
回答数 63  
回答率 44.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

学生からの平均評定値は4.08と、本講義に対する他の項目への評価と比して比較的低い値であった。

自由記述では「授業内容がきちんと理解できるように、日程が組まれていた。また、知識のみを教えていくのではなく、それをどのように活用できるのかなど、認知心理学だけでなく、心理学がどのような学問なのか少しわかった気がした。」などの記述もあり、ある程度の目標は達成できていたように推察される。

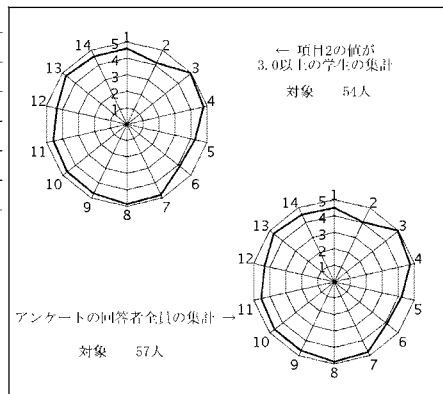
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

感想や質問にコメントをくれるのが良かったという記述がある一方で、質問に答えてほしいという記述もあった。毎回の授業の感想・コメントにはすべて目を通し、共有する利があると思った質問には授業冒頭で回答をするようにしていたのだが、すべての質問に答えることは授業内では困難である。授業前後に、聞きにこれるような環境設定を工夫したい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
次年度は、科目名の変更に伴って、授業内容も相当に変更が必要となる。今年度のようなゆとりある進度での授業運営は難しいかもしれないが、学生の理解が深まるよう工夫したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニティ心理学  
授業コード 23C38-001  
教員名 池田 満  
教員コード 103141  
登録人数 83  
回答数 57  
回答率 68.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

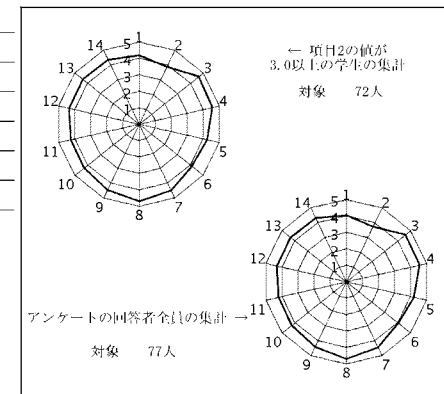


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
レポート課題等を読む限り、出席し、課題に取り組んだ学生については、目標を達成しており、授業としても到達目標が達成できたと判断できる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
数値データについては、どの項目もほぼ満点なので、現状でよいと考えられる。  
自由記述については、教室が寒かったというコメントに対しては、教室の後ろのほうの温度まで教員が気にかけるべきものとは思えない。学生が主体的に申告し、調整してもらいたい。また教科書が多いというコメントについても、この分野のテキストとしては相当簡略な書籍を1冊だけなので、これに対して改善できることはない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
授業改善へ向けてのコメントはありがたいが、授業の範囲外で学生が受動的であることが残念でならない。授業は教員と学生がともにつくるものであるという認識を学生にも持ってもらいたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯発達心理学  
授業コード 23C42-001  
教員名 浦上 昌則  
教員コード 018788  
登録人数 142  
回答数 77  
回答率 54.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

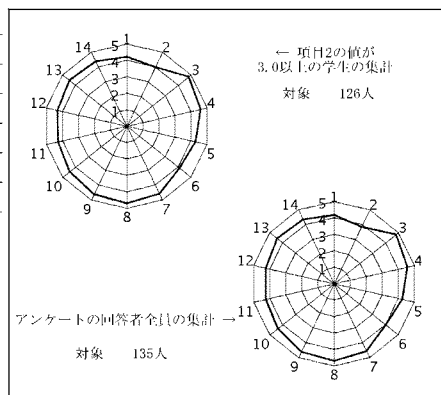


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業は、青年期以降の発達心理学的理解を深めるため、特に、青年期から成人期への移行時を中心に、仕事や家族といった問題を含めて解説した。「社会と個人の関わりという観点から青年と成人の差異を理解する」「その視点から身の回りの成人期から老年期にある他者を理解できるようになる」といった点を目標とした。
- この授業は隔年開講で、3、4年生を対象としている。開講時期の特徴から4年生の欠席は目立ったと言わざるを得ないだろう。また受講者と教室サイズがアンバランスにならざるを得なかった。
- 授業評価の回答は、平均値が概ね4から4.5程度であり、まずまずの評価を得られたと考える。試験的にWebClassでの資料提示を多用し、配布資料を最小限にしてみたが「WebClassの提示資料が充実していた。手元で資料の詳細を同時に確認できた。」といった肯定的なコメントがあった。なおこの点に関しての否定的なコメントはなかった。
- 以上のような状況およびレポート課題への回答などから、概ね目的は達したと判断する。Wi-Fiが使えるので、WebClassに加え授業中にデバイスを用いた論文検索や数編の論文閲覧を求めた。これを印刷物ベースで行うとすると多大な手間がかかるが、資料、情報提供という点で有用であり、特にクレームも提出されなかったことから、今後も続けてみたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳2
授業コード	10D08-002
教員名	宮脇 千絵
教員コード	152580
登録人数	188
回答数	135
回答率	71.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初設定していた目標と到達の程度については、おおむね達成できた。ただ、実際に授業を進めながら講義内容や順番について詰めていった部分も多くあり、シラバスの授業計画とは異なる進め方をおこなうこととなった。

②高評価を得られたものは、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」、8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」、9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」が挙げられ、授業の進め方に大きな問題はなかったようである。一方で、2、6、11、12のように、学生の学習意欲を引き出したり、予習・復習、質問や相談に時間がとられていたかに関する点では評価が低くなった。

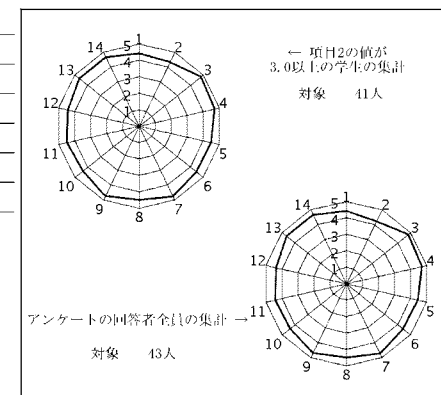
自由記述の「良かった点、評価できる点」としては、レジュメの配布、写真や動画の使用、リアクションペーパーへのフィードバック、テーマが身近であったことなどが挙げられ、こちらの意図や工夫が伝わったと感じる。しかし「改善すべき点」には、リアクションペーパーの紹介時間が長い、という意見もあり、時間配分にさらなる工夫をおこないたい。

また大教室（S22）だったため、教室の前方と後方で気温差が激しく、空調管理には気を配ったが、毎回のように「寒い」「暑い」というクレームが寄せられ、学習環境としてはあまり良くなかったかもしれない。

③大人数クラスのため、どうしても伝達が画一的になったり、全体に目配りできない部分がでてきてしまうが、学生の学習意欲をより引き出せるよう、今後とも工夫をしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文化史B
授業コード	24C12-001
教員名	松田 京子
教員コード	100789
登録人数	103
回答数	43
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、「人の移動からみる近代日本の社会・文化的状況」を歴史学的手法によって考察するという全体テーマのもと、関連する映像資料の視聴を行いながら、教員作成の配布プリントとそれへの解説を中心にテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後の10分程度を小レポートの時間にあて、授業の内容に関する感想・質問や視聴した映像資料に関する感想を受講生全員に書いてもらい、次回の授業の冒頭で感想の一部を紹介しながら復習を行い、適宜質問に答えるなど双方向の授業展開を試みた。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画は、ほぼ予定通りに進行することができた。

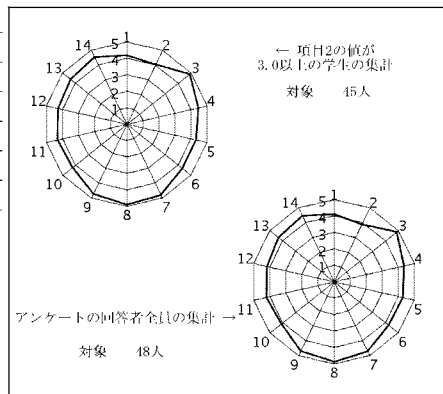
②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問4の平均値4.72、設問7の4.74、設問9の4.70という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。この点については、「学生による授業評価」の「自由記述欄」に、映像資料の視聴や授業冒頭の復習などに関して好意的な意見を、複数の学生が寄せてくれたことからもうかがえる。反面、「自由記述欄」には、私語等に対してより厳しい対応を求める意見が複数あり、さらに私語等への対処に関する設問10についても平均値4.37と、設問10に関する全学の平均値4.38を下回っており、この点は反省点として残る。

③以上のような反省から、今後は私語等の授業の妨げになる行為について、さらに積極的に注意を払い、適切なタイミングでより効果的に注意するよう工夫していきたい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本民俗文化論  
授業コード 24C15-001  
教員名 濱田 琢司  
教員コード 101870  
登録人数 89  
回答数 48  
回答率 53.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



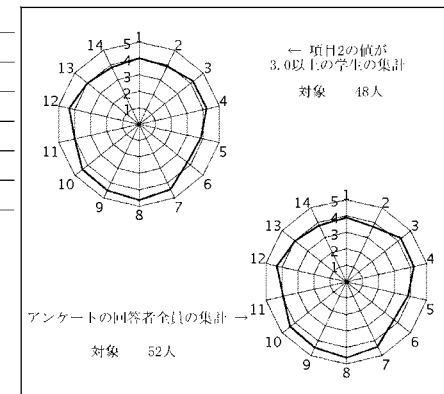
授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本の民俗文化について、とくにその価値付けや意味づけのプロセスについての理解を得てもらうことを講義の基本的な目的となっている。そうした全体としての目的については、新たな知識の獲得および全体に関する評価である、設問13および14が、それぞれ4.33および4.44と全体の平均値よりは高い数値となっていることから、一定程度、達成できたのではないかと感じている。ただし、いずれも、必ずしも高い数値となっているわけではないので、今後は、全体の満足度をより高めていくような努力をしていきたいと感じている。

また、内容の進展として、後半が急ぎ足になってしまったという自覚があったが、この点について不満をもった旨の否定的な意見が、自由記述としてあった。この点については、クォーター化における授業の進め方に戸惑っている面もあるのだが、より適切な対応をとることができるようにしたい。同じ学生からのコメントとして、講義中に不必要な時間的な空白があるという意見もあった。こちらは、書込型のスライドへの履修者の書込状況を見ながらの対応であった。どの学生を基準にするかという点は難しいところもあるが、ある程度は適切な対応であったと思っている。今後は、より広範に学生の状況を把握しつつ、講義を運営していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 表象文化論  
授業コード 24C20-001  
教員名 坂井 博美  
教員コード 102981  
登録人数 158  
回答数 52  
回答率 32.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



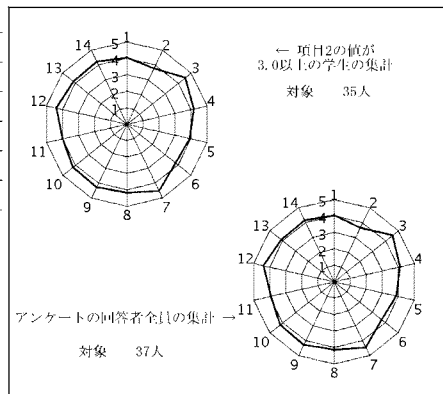
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業計画で設定していた内容は完了し、またリアクションペーパー等の内容からみると概ね到達目標は達成されたと考える。しかし、「事実」とは何か、「表象」と「事実」の関係性とは、といったやや抽象的な思考・視点を十分に把握してもらうためには説明等が足りなかったようで、到達目標の理解を問うた設問の値は高くなかった。また授業内容が、こうした概念や方法論に関する内容と、具体的に資料を用いながら説明した歴史研究的内容とにやや分離しがちなところがあったかもしれない。次年度はこの点を課題とし、重点や内容に変更を加えたい。授業の本論は歴史学的内容で継続する予定だが、たとえば、その視点をふまえ、授業のなかで現在の表象も含めて受講生自身に分析してもらうなどのあり方も検討する。

今回は特にリアクションペーパーに書かれた意見や疑問点を多くとりあげ、そこから派生して様々な内容の説明をしていくようにした。この点はよかったと思われ、質問等の機会の有無について問うた設問などはまずまずの値となったと考える。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物語・日記文学研究
授業コード	24C32-001
教員名	辻本 裕成
教員コード	019042
登録人数	78
回答数	37
回答率	47.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで掲げた到達目標は以下の通りであった。

- 1 いくつかの古典作品をある切り口から並べて読んでみるとどのようなことが見えてくるか、考えることができる。
- 2 現代とはちがった時代に於ける人間の心性を考えることができる。
- 3 古典文学を専門にやろうという人は古典文学研究の入門として授業を受け、今後の専門的研究についての指針を得ている。専門にするつもりがない人は古典文学が面白いものであることをわかっている。

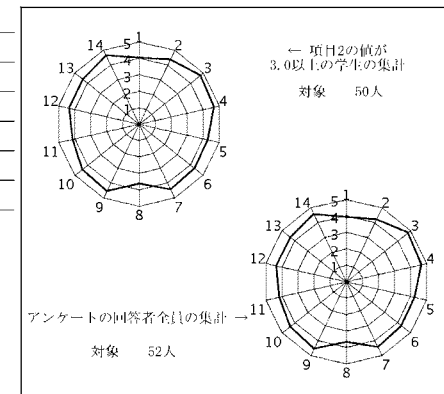
1, 2については、ある程度学生に伝えることができたように思うが、3についてはややこころもとない。

「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」のアンケート結果が4.16なので、一部の学生には面白く聞いてもらえたが、全員から高い評価を受けたわけではない授業だったと分析できよう。

アンケートを最終回に行ったが、時間内に予定の内容を講義しないといけなかったため、アンケートに十分な時間を取ることができず、アンケート回答率が極めて悪かった。最後の授業ということもあり、出席者は多かったため、次回からはアンケートに十分な時間を取ろう、配慮したい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	漢文学概論
授業コード	24C43-001
教員名	西岡 淳
教員コード	019315
登録人数	110
回答数	52
回答率	47.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

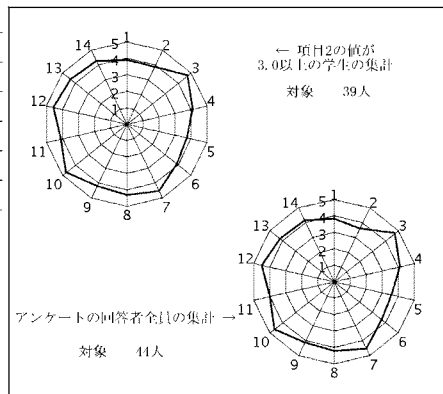


授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引きながら、返り点を施した漢文を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を持参し、まず配布される教材の日本語訳（余裕があれば更に書き下し）を作成する。授業の後半に担当者が読解し、各自が添削した答案を毎回提出、これを担当者が閲覧・添削した上で次回に返却する形式である。これに同型式の定期試験を加えて最終的な評価とした。特に日本文化学科とアジア学科の受講者について、適応力や学習達成度は高かった。評価項目の平均値は4.33（除1・2：4.37）で、提出物の出来具合からも、授業目標はほぼ達成されたと考える。但し、評価項目の中では、設問8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」が平均値3.67と目立って低い。自由記述においても同様の回答が複数あり、マイクの音量を上げるべきとの意見もあった。この授業では使用経験のない教室（MB2）で、機器の使用に問題があったのかもしれないが、そのことを含めて次回からは注意したい。評価された点としては、「解説が分かりやすい」「授業終了時間までに余裕があるので質問の時間が十分にあった」「難易度が適切だった」「自ら調べて解いていたのでその後の解説も頭に入りやすかった」等の記述があった。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語史I  
 授業コード 24C47-001  
 教員名 丸山 徹  
 教員コード 015917  
 登録人数 71  
 回答数 44  
 回答率 62.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

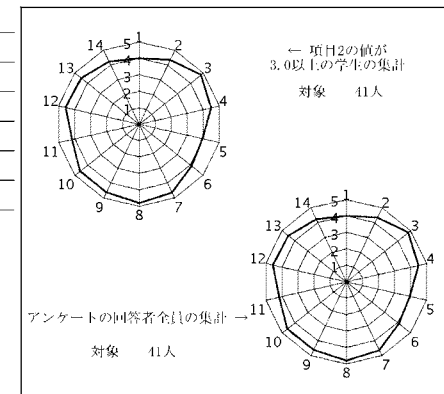


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では日本語の歴史を、主として次のような諸項目について概観し、その流れを解釈しようと試みた— (1) 上代特殊仮名遣い (2) 「あめつち」「たみに」「五十音図」「いろはうた」 (3) キリシタン文献ローマ字表記 (4) 現代諸方言間の音対応と古代日本語 (5) 連体止め (6) 係り結び。これらのうち (5) と (6) については時間切れで詳しく説明することができなかった。したがって当初の到達目標— 1. 「日本語史」というときの「日本語」とは何なのかを理解している。2. 「日本語史」というときの「史」(歴史) とは何なのかを理解している。3. 日本語史における主要な諸テーマについて理解している、のうち 1、2 についてはほぼ満足いく講義ができたが、3 については音韻史を中心とするテーマの解説まででは十分に時間が取れなくなりました。それが反省点である。学生からの声でよかった点は「先生が一所懸命、渡してくれるプリントはより深い理解につながった、難しい内容だけど、例が多くて助かります、教科書の内容と先生の話のバランスがよく、理解しやすかった、設問への回答時間を十分に確保していた点、質問や疑問への返答が丁寧でありがたかった」など。改善すべき点は「先生が早口で聞きづらかった、マイクの声がよく聞こえなかった」など。(今年度で退職なので次年度へ向けての改善点や抱負などを述べることはできないが) 深く反省している。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語分析A  
 授業コード 24C50-001  
 教員名 丸山 洋介  
 教員コード 041806  
 登録人数 71  
 回答数 41  
 回答率 57.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「レポート」(2回) および「質問・コメントシート」(毎時間提出) から判断して、この授業が目標とする水準に達した受講者が80%以上であった。残りの受講者もこの授業の内容をある程度は身に付けた。自由記述には「予習をしてこなければいけないようになっていたので授業でより理解が深まった」「リアクションペーパーに書いた疑問点に翌週ちゃんと答えてくれる」等の意見があった。今後も予習を徹底させたいので、受講者の疑問点、理解の程度に十分配慮し、授業内容がきちんと身に付くように進めていきたい。また、「授業の中で教員が投げかける質問を通して、その度に自分の言語に向き合えたことがよかった」という記述もあった。今後さらに、日常無意識に使っている日本語を意識化する問かけを工夫していきたい。一方、「自分にとって馴染みのない分野の表現に由来する比喩表現の例文がわかりにくかった」という趣旨の指摘があった。今後、受講者の諸分野における知識の程度にも配慮して、提示する例文を考えていきたい。なお、学習意欲が非常に高い受講者もいた。このような学習者には発展的な学習のための文献の紹介等も行っていきたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	English Workshop B3
授業コード	17406-003
教員名	浅野 享三
教員コード	070912
登録人数	4
回答数	2
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

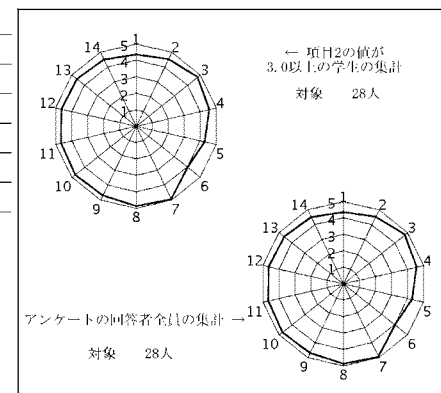
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

これは本評価報告書該当科目名の他に3種類が乗り入れ、合計4種類の科目実施に関する授業評価報告である。シラバスに設定した到達目標は4種類の授業で共有した。その到達目標は以下の通りであり引用すると「1. Readers Theatreの理論を理解し、メッセージを発表できるようになる。2. 決まった形式に基づき、発表に対する批評ができるようになる。3. 互いの発表を敬意をもって鑑賞・傾聴し、そこから学びが得られるようになる。4. 他者と協同する中で、一層の社会的な成長ができる」となる。今回得られた数値データからこの目標と到達の程度についての報告は極めて困難である。むしろ対面式で2名に聞き取りをすべきであった。自由記述を踏まえて総合的な自己点検・評価を試みると、1名は「先生が熱心だった」、もう1名は「先生がとても生徒思いで、熱意を持って指導してくださっているのを色々な場面で感じました」と答えていることから、担当者の熱心さは伝わったようだが、学生の授業に対する熱心さや熱意は読み取れない。小人数な授業が理想とされるとしても、授業の到達目標に他者とのやりとりが含まれるものに2~4名クラスは不適であることが分かった。担当者の自己評価であるが、今年で36年目を迎えた教員であるが、まだまだひよっこの駆け出し教員であることを思い知らされた。類まれな経験をさせてもらい当局に感謝している。次学期以降に活かし、精進したい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A I4
授業コード	31A01-004
教員名	TOLAND, Sean
教員コード	103616
登録人数	28
回答数	28
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

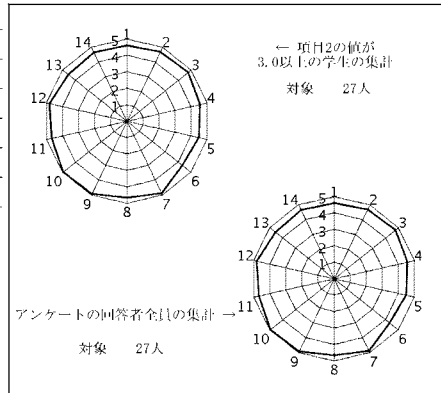


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The seven objectives of the Academic English A course were achieved during the first quarter. These goals are highlighted in the course syllabus. The feedback from the students was insightful and encouraging. I will continue to work hard and integrate relevant learning material into my lessons. Several students noticed a few minor formatting errors in the Academic English A-I course textbook. The problematic formatting issues will be rectified before the second edition is printed. I noticed that many learners struggled formatting their first assignment according to the proper APA (American Psychological Association) guidelines. When I teach the course again, I will spend more instructional time on this topic and provide students with a couple of practical tasks to enhance the learning process.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A I5  
 授業コード 31A01-005  
 教員名 SAKAMOTO, Fern  
 教員コード 103615  
 登録人数 27  
 回答数 27  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

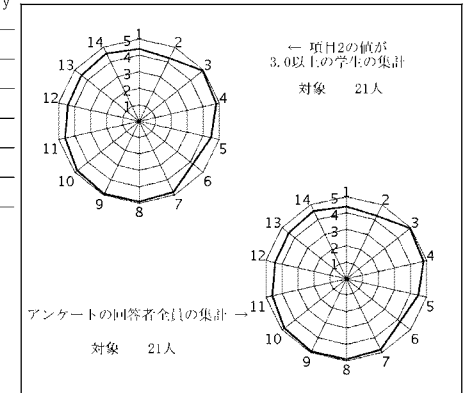
Overall, this course aimed to improve students' communicative abilities and equip them with academic skills necessary for future study in English. Some of the students seemed unsure of the course goals, and whether they had achieved them. The specific goals were explained in the first class and students received a printed copy, but some may not have understood. Goals will be explained again at the start of Quarter 2.

We upgraded the textbook printing quality from last year, and all except one student professed they were completely happy with the teaching materials. Two students commented on the difficulty of the course, but several others said that the challenging nature of the course helped them to improve their English and academic skills. There seems to be one student who is unhappy with the course and my teaching style, but as the majority of the students are very satisfied, it may be difficult to accommodate this individual. I will continue to try and make contact with each student and to encourage them to speak with me if they have difficulties.

Compared to last year's course, it seems that the timing has been a bit better for students. We tried to make the assignments known earlier and that appears to have been successful. Overall, I am very happy with the first quarter course.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Society  
 B<国際科目群>1  
 授業コード 31C02-901  
 教員名 DORMAN, Benjamin  
 教員コード 100695  
 登録人数 24  
 回答数 21  
 回答率 87.5%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course focuses on developing critical thinking through acquiring applying media literacy skills. The course introduces students to a range of social issues in cross-cultural contexts, particularly through contemporary films.

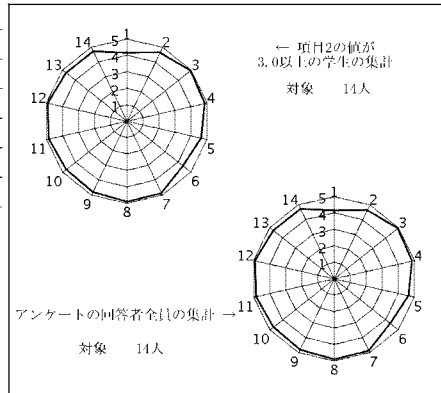
The following films were presented: "Pleasantville" (idealism vs. realism); "Nightcrawler" (news film production); "Spotlight" (social organizations and political influence); "Life: Animated" (documentary about the family of young man with autism who learns to communicate with them through Disney films); "The Truman Show" (media pervasiveness, reality television); and "Teenage Paparazzo" (celebrity culture). Judging from the comments, the films were generally well-received by students. Before each film, the instructor gave a detailed explanation of the film, background, social context, and important issues. Students appeared to respond well to this.

After the viewing of each film, the class divided into groups of 3—4 students (students were allowed to form their own groups) to discuss the issues related to the film, including social context, production value of the film, relevance to daily life.

One problem with the group discussions is that the instructor allowed student to organize themselves into groups. The result was that the groups tended to be comprised of the same people, which appeared to limit the variety of discussions.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language A
授業コード	31C11-001
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	17
回答数	14
回答率	82.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course and its classes proceeded as planned.

At the beginning of the course the students were given a course outline and the lectures were given in accordance with the schedule.

Attendance and participation were good. Each student presented twice and their work was of a high standard.

The students' end of course self-evaluations showed that they were very satisfied with the course.

The high evaluation scores reflect the success of the course and the dedication of the students.

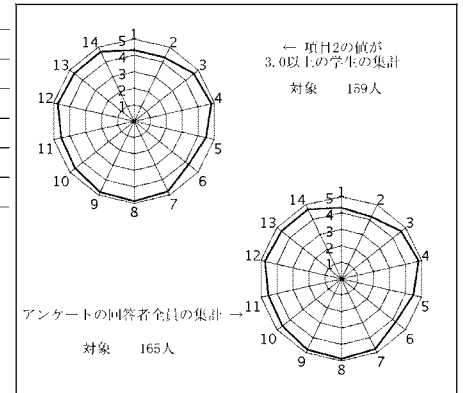
That being said I will continue to try and improve the course.

Average of questions 1-14 = 4.72 out of 5

Average of questions 3-14 = 4.77 out of 5

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	歴史研究の基礎 (イギリス)
授業コード	31D10-001
教員名	大澤 広見
教員コード	102964
登録人数	225
回答数	165
回答率	73.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

<授業目標と目標達成度>

シラバスで設定した授業目標については、おおむね達成できたと考える。

<点検・評価および改善点>

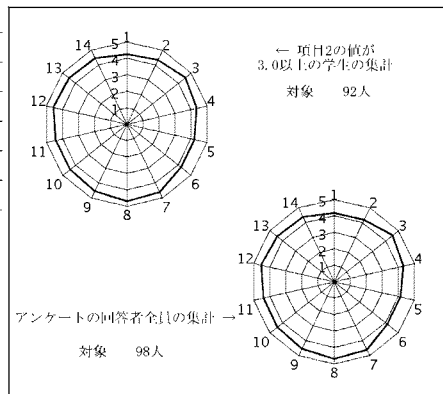
受講生の過半数が新生児であった。大学で講義を受けるのは初めてで、期待に胸を膨らませている。新学期にそのような科目が授業評価の対象となる場合、若干だが低めの数値がでることが多いというのが経験則である。ただ、本科目については、結果として概ねよい評価を得ることができ、安堵している。自由記述のコメント欄をみるかぎり、授業の進め方、スピードなどは多くの学生が好意的に評価してくれた。また、今年は、学生たちの復習のために、授業で使用したパワーポイントスライドをWebClassにアップロードしたのだが、これについても肯定的な意見が示され、試みとして成功したと思われる。ただ、その割には設問2の数字が低いのが気になった。受講生が予習・復習を主体的に行うための仕掛けについて、さらなる検討をしていく必要がある。

<次学期以降の抱負>

今回の授業評価については概ね高い評価を得ることができたが、授業の質をさらに向上するためには課題も多い。この授業は英米学科の選択必修科目であり、なおかつ、外国語学部の学部共通科目でもあるため、どうしても受講人数が大きくなりがちである。そうしたなかで、学生全体を巻き込む授業をどう計画・運営していくか、さらなる検討が必要である。適宜質問をしたり、ディスカッションの時間を設けたりするなどの工夫をしているが、他にもよい方法があるはずである。引き続き考えていきたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの歴史  
 授業コード 31E01-001  
 教員名 川島 正樹  
 教員コード 048116  
 登録人数 178  
 回答数 98  
 回答率 55.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



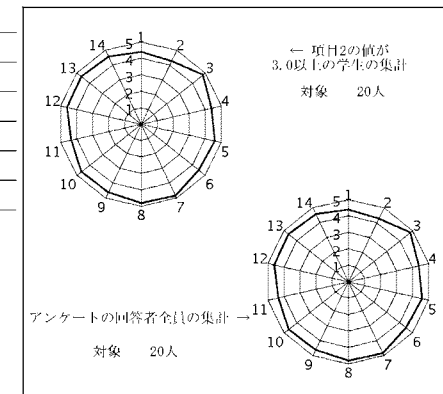
授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず概要について述べる。全体的満足度（4.39）が2年前の同科目調査時より若干（1.5程度）下がった理由はカリキュラム再編で英米学科の専門科目から外国語学部の共通科目となり、それに伴い2年生からの履修が可能となり、受講生が2.5倍に急増し、事前の知識の不十分な学生の受入れをせざるをえなかったためであると確信する。ただし、担当教員の努力に関する問3、7、8、9、12は4.5以上の評価で、また個別記述欄からの高評価も目立ち、担当教員の側に特に問題はなかったと判断される。学生の個別記述欄に目立つ不満はむしろ古い教室（M2）の施設面集中している。とりわけ暗幕が閉まらず、映像資料の視聴において支障があり、WiFiも使用できず、特段の奨励にもかかわらず、本授業評価も受講生の全員が参加しなかった。続いて以下において個別項目について述べる。

- ①カリキュラムの変更による学生のレベルの低下に合わせた到達目標に修正する必要あり。
- ②冒頭既述の概要および前項記述の到達目標設定の引き下げの必要を除けば、担当教員の側にはほとんど改善の必要を認めなかった。
- ③既述の如く、到達目標の再検討（レベルダウン）が必要である。また施設面で学生からも要望のあった古い教室の故障個所の修繕を切望する。とりわけM2教室の暗幕の修繕は急務である。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの政治  
 授業コード 31E03-001  
 教員名 平松 彩子  
 教員コード 103468  
 登録人数 66  
 回答数 20  
 回答率 30.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

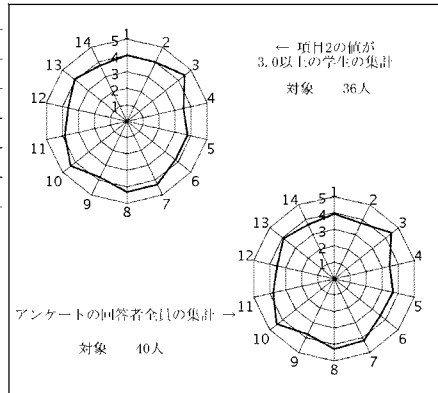


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 本授業の到達目標は次の三点であった。1. アメリカ合衆国の統治制度について知識を得る。2. 歴史的にアメリカの政治言説において用いられてきた「自由」、「平等と公正」、「民主主義」、「多から一を」といった概念の重要性を理解する。3. アメリカ政治史の原典資料や近年の政治演説を英語で読解・視聴し、その内容の理解を深める。これにより、アメリカ政治に関する語彙を増やし、英語力を強化する。
  1. の知識習得については、大方達成された。このことは中間試験及び期末定期試験の結果からもうかがうことができる。2. のアメリカ政治の概念理解については、原典文書読解の実施により試みたが、もうすこし各文献に授業内で時間を割く必要があったかもしれない。3. の英語語彙力強化については、映像視聴資料の音声言語が早くて聞き取れないというコメントシートの感想があった。英米学科以外の学部生が受講していることも踏まえて、少なくとも英語字幕を掲示するなどの工夫が今後必要であるかもしれないと考えている。
- (2) 回答者数が受講者数の3分の1程度であったので数値データには偏りがある可能性があるが、総じて良い評価であったと思う。自由記述では指定教科書が授業内で十分に活用されていないとの指摘が一件あったが、教科書の内容を前提に講義内容を組み立てているので妥当しいと考えている。
- (3) 今後も授業実施方法の向上に努めていきたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの外交  
 授業コード 31E05-001  
 教員名 上村 直樹  
 教員コード 102463  
 登録人数 176  
 回答数 40  
 回答率 22.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

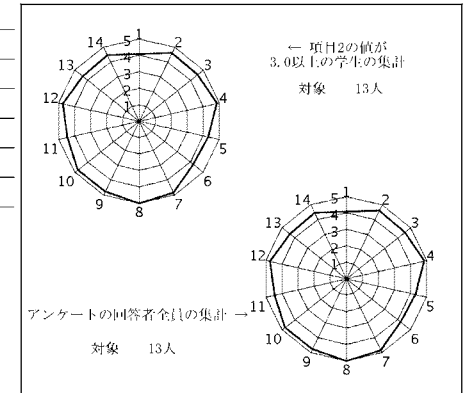


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、自由記述にいくつか有益なコメントがあり、最後の部分でそれを基に今後改善すべき課題等について簡単に述べたい。まずは①の授業の目標への到達の程度についてだが、今回の授業では、アメリカ外交に係わる旬のニュース等をビデオ映像を使いながら何度か紹介するなど、最初の授業計画を随時変更したため、予定していた内容を最後の方で時間の関係から割愛することにもなり、70%程度と思われる。この点は②とも関係しており、項目4・5・6がおしなべて低い数値となっていることにもつながっていよう。③については、最初に触れた自由記述との関係で述べると、パワーポイントのスライドと配布プリントの情報量の違いが指摘され、理解の妨げになったと述べられている点がまずあり、次には1回の授業の情報量が多すぎるとの指摘もあった。この両者は関連していると思われる、今後の改善点としては、まずはパワーポイントの情報量を大きく絞って、1回の授業自体の情報量も制限する方向が望ましいと考えられる。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」 自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの文学  
 授業コード 31E08-001  
 教員名 TEE, Ve-Yin  
 教員コード 101626  
 登録人数 53  
 回答数 13  
 回答率 24.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



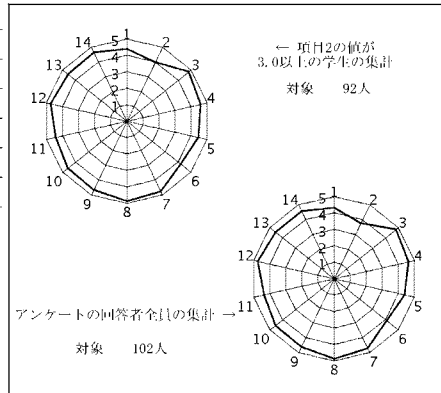
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal of the course was to communicate British ideas of nature, and how these ideas were reflective not only of British culture and history, but also of the social position of the writer. The evaluations generally show a high level of student satisfaction. As it was a new course, there were several rough edges that need smoothing out. First, I didn't have the time to complete the website for the course. Second, I need to check the fidelity of the poetical texts on the course by comparing them with the originals at some point in the future. Third, my management of the audiovisual equipment could have been more efficient, especially for the first few lessons (which caused those lessons to run over time a little).



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治とコミュニケーション  
授業コード 31E09-001  
教員名 花木 亨  
教員コード 101269  
登録人数 209  
回答数 102  
回答率 48.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バラク・オバマの演説の特徴を理解すること、現代アメリカ社会についての理解を深めること、大統領の演説やその他の政治的メッセージを分析できるようになることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

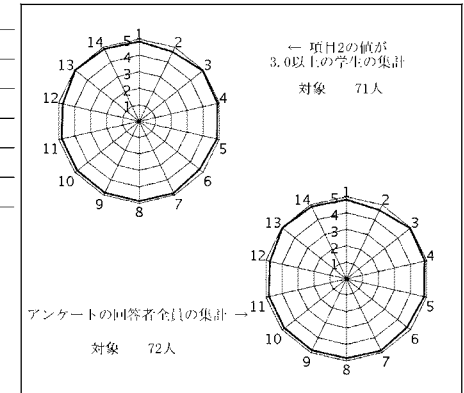
項目3から14の平均値は4.58だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.19と英米学科科目の平均値4.56をとともに上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるよう努力したい。

自由記述欄について、「オバマの演説を実際に観て吟味するのがおもしろかった」、「生徒の意見に対してコメントや返答をして、一緒に考えている」、「授業を受けるすべての人に意見を求めて（強制的にはありません）、その意見をパワーポイントの形で授業を受けている人に投げかける。その意見について講師自身も意見をしますが、決して意見を否定したり、べた褒めしたりするのではなく、あくまでも中立的な立場で捉える。受けていて心地が良い授業でした」などの肯定的な意見が寄せられた。その一方で、「（授業内容が）教科書と同じ」、「スライドの切り替えがはやい」などの改善を求める意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの受講者たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が多い授業ではあるが、できるだけ質疑応答の時間を設けるように努めた。今後はさらにそのような時間を増やせるといいと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間関係とコミュニケーション  
授業コード 31E10-001  
教員名 今井 達也  
教員コード 102469  
登録人数 100  
回答数 72  
回答率 72.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

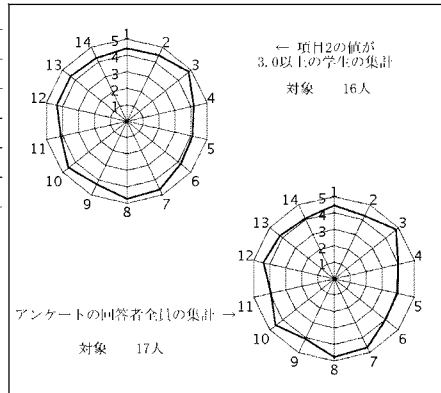
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
本講義ではコミュニケーションの理論を学び、その理論を身の回りの人間関係に応用できるようになることをメインゴールにしている。学生は積極的にディスカッションに参加していたようで、理論をうまく応用に結び付けられていたように感じた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
数値データに関しては、予習復習の項目が他と比べて低かった。事前に課題などを設けて予習させることも考えたほうがいいかもしれない。自由記述に関しては、教室への不満が多かった。演習形式の授業であるため、より適切な教室が使えるようにしていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
記述のフィードバックは概してポジティブであったが、より学びが深まるような課題設定や授業の工夫ができるように努力していきたい。特に、ディスカッションの課題設定は慎重にしていきたいと思った。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 第二言語習得論<国際科目群>  
 授業コード 31E14-901  
 教員名 SHILLAW, John  
 教員コード 100560  
 登録人数 60  
 回答数 17  
 回答率 28.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

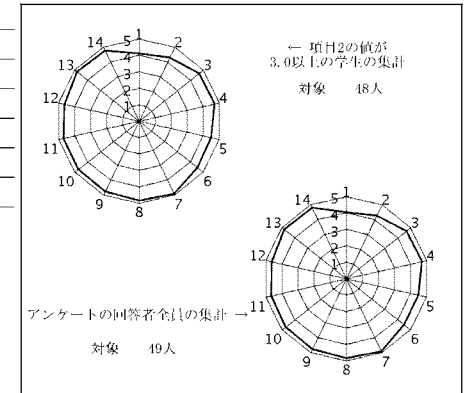


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was originally designed to introduce the basics of second language acquisition to students who aspire to be English teachers. The fact is that the majority of students who take the course today only do so either to get some additional input in English, or because the class times suit their schedule, and not because they have an interest in the subject. As such, it is increasingly difficult to get students to study in preparation for classes. Over the years I have introduced various ways to encourage and motivate students to do the work. To this end, I provide a summary of the chapters in the form of PowerPoint slides to consolidate what they have read. I have also introduced quizzes at different times in the course to get students to study and revise the key concepts of SLA. The changes have worked to a certain extent, with some students, but many still do not want to make the effort to study, their only concern being the final report and passing the course. For the future, I intend to change the curriculum description to discourage students from registering for the class unless they are genuinely interested in SLA and are willing to do the work.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際関係特殊研究B  
 授業コード 31E33-001  
 教員名 手塚 沙織  
 教員コード 103911  
 登録人数 120  
 回答数 49  
 回答率 40.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

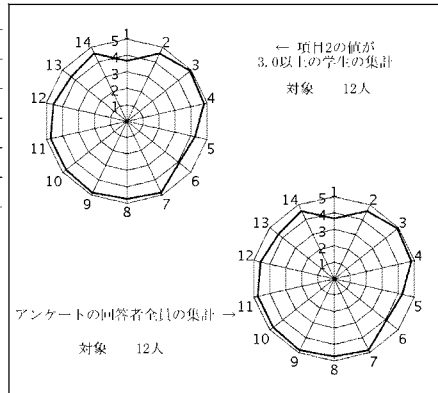


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標と到達程度（1. 国際関係の基礎が身につく、2. 社会と経済と政治の関係を把握できる、3. ある事象に対する多角的な見方を養える）は、講義の満足度の高さと設問項目に書いている通り、達成できたと感じる。全ての講義で、今の学生が動画を観ることに慣れている世代であることから、学生の思考と感情を揺さぶり、論理的思考をさせるため、物事を多面的に考察できる動画を用意し、講義で構造（社会、経済、政治）の連関を話した上で、動画を観せ、それらに対する課題を設定し、リアクションペーパーを毎回書かせてきたため、多面的に論理的に思考する能力は身についたと考える。リアクションペーパーは、全て読んだ上で、それらのコメントを次の講義に活かすだけでなく、講義の中でも紹介していたので、学生にとって教員が意見を読んでいると思い、講義の回数を増すごとに、リアクションペーパーからも多くの学生の論理性が深まってきたと感じていた。反省点として、着任初年度のため、機材の使い方がいられず、講義を始めるのが遅れたこともあった。さらに空調設備についても知らなかったため、講義部屋に対して受講生の密度が高すぎたため、学生にも暑い思いをさせたと思う。Q1を通して、機材にもなれたので、次からはこの点は問題がない。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米文学特殊研究A<国際科目群>  
授業コード 31E34-901  
教員名 PURCELL, William  
教員コード 016501  
登録人数 19  
回答数 12  
回答率 63.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



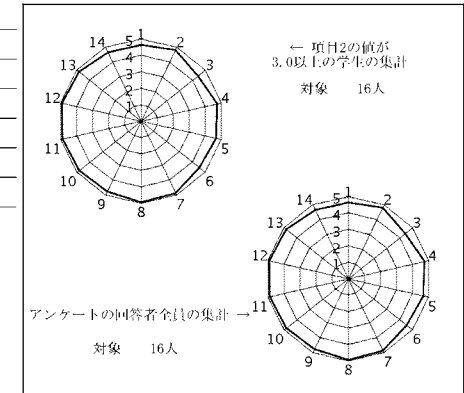
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall objectives of the course, as stated in the syllabus, were 1) to teach the students to read fiction more perceptively and reflectively, noting in particular the relationship between the text and the historic and cultural context which produced it; 2) to raise in the students a greater awareness of and appreciation for the peoples, cultures, and countries of Africa; and 3) to gain a deeper understanding of the consequences of European colonialism for both the colonizer and the colonized. Student responses to the evaluation would seem to indicate a high degree of satisfaction with the course in general. Only three took the time to offer comments. These expressed 1) appreciation for the individual responses to the weekly journal entries; 2) appreciation for the opportunities for student discussion of the stories; and 3) detailed explanations of the historic and cultural backgrounds of the stories we covered.

From my own perspective, I am still in the process of adjusting this course to the twice-per-week quarter system. It seemed to work fairly well this term, though there is more adjustment still to be sorted out.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English V5  
授業コード 48A09-005  
教員名 伊藤 聡子  
教員コード 102445  
登録人数 20  
回答数 16  
回答率 80.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と到達の程度

この授業は全クラス統一シラバスの基に、日本に関するテーマについて英語ディベートを行うことを通じて、自律的な情報収集力や批判的思考力を養うことを目的とした。学期末に提出されたふりかえりレポートの内容、および成長の実感について問う項目(6)が全学平均より0.6ポイント高くなっていることから、授業目標はほぼ全員達成できたと思われる。

② 自己点検・評価

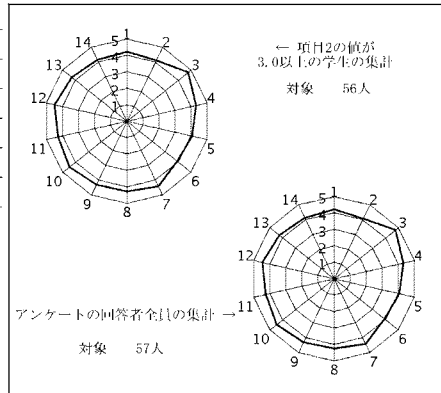
幸いほぼすべての項目で全学平均および国際教養学科科目の平均を上回ることができており、全体としては授業が上手く機能していたと考える。特に各種平均から特に評価されたと思われる点としては(11)意欲、(12)質問の機会および(13)理解の深まりに対する評価があるが、記述回答に授業の柔軟性がよかったことを挙げるものが複数あることとあわせて考えると、学生が課題に取り組んでいる際に可能な限り何が課題を難しくしているのかを聞くようにしたこと、また質問やコメントに応じて授業内容や進度を学生の合意のもとで変更・修正していったことが評価されたものと思われる。

③ 改善点と今後の方針

授業の柔軟性として評価されたものの、修正が必要な状態のまま授業開始を迎えたことは担当者の準備不足が原因に他ならない。本授業が次に開講されるのは2019年度になるが、その際には今年度の反省のもとに授業内容の変更を必要最低限に抑えられるように努力したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語論 / Linguistics  
授業コード 48C03-001  
教員名 村杉 恵子  
教員コード 019034  
登録人数 70  
回答数 57  
回答率 81.4%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

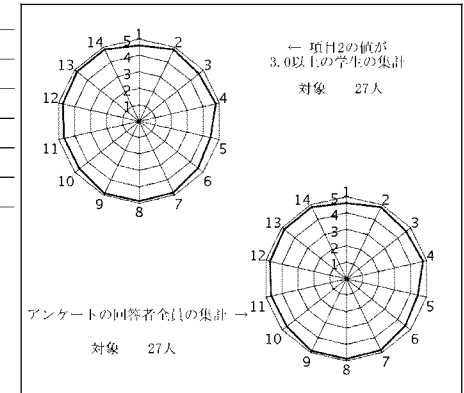
1 国際教養学部2年生の科目『言語論』は、ゼミ形式と講義形式を両方とりつつ、英語と日本語と両方を用いて、学生には、人間に固有の言語知識と言語運用のシステムについて理解し、言語の絶対的普遍性と相対的普遍性について科学的に考えることができるようになることをめざしたものである。外国語学部の学生も多く受講しており、全体的には大変静粛に熱心に授業に取り組む姿が確認された。シラバスに掲げた内容については全体としては一応網羅することができたように思う。

2 数値データについては、項目5については比較的low、担当教員の授業に取り組む姿勢、授業時間の管理、質問や相談などについての評価は比較的高かった。記述については、教師が言語学を楽しそうに教えており、学生も楽しめたこと、ことばについての発見がたくさんあったこと、話し方や接し方が優しくかかった、発言しやすかったことなどの肯定的なものもあった。マイクがよく不調になったこと、白板の下のほうの字がみえにくいことなど改善すべき点も具体的に記されていた。終始一貫して授業態度にいささか問題のある（漫画を読む、私語をする、論証の仕方を説明する途上で「で、答えはなんですか」と強い口調で質問するなどの）学生がいたが、今回の授業評価を見る限り、全体のクラス運営や学生には影響がなかったと判断できる。

3 今後の課題としては、音声、板書などにより注意を払いながら、学生が、到達目標に達したと満足感に満ちた授業にするための工夫が必要である。また、今回はあまりビデオなどの視聴覚を用いなかったが、導入のクラスであるからこそ、より多くの画像を授業に取り込む必要がある。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IC2  
授業コード 32A14-002  
教員名 泉水 浩隆  
教員コード 102114  
登録人数 48  
回答数 27  
回答率 56.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

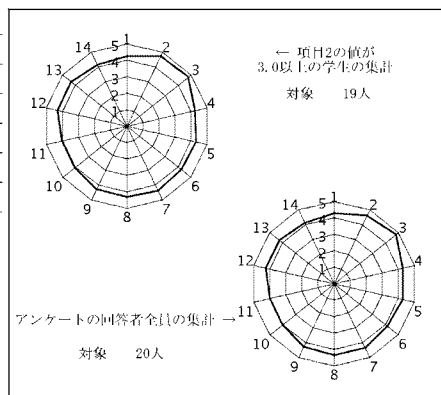
今回の授業評価においては、設問4～18の平均値が4.73、全設問の平均も4.73、レーダーグラフも概ね外周に近い形でしたので、受講生の皆さんには全体として好意的に授業を受けていただけたようです。特に、設問13の「新しい知識の獲得、理解の深まり」が4.81、設問18の「満足度」が4.85という結果になったことは幸いでした。授業運営上も特に大きな問題はなかったのではないかと考えます。授業の進度についても、当初予定していた範囲まで終了することができました。

なお、自由記述欄では、「わかりやすい」（2件）、「しっかりと説明しながら進めてくれたこと」（1件）、「文法について線、点過去の復習もできたし、接続法も学ぶことができた」（1件）という意見がある一方、「自分がいかに追いつけないかに気付かされた」（1件）という意見もありました。文法の授業も中級レベルに達し、難易度も相当上がっていますので、学习上困難を覚える部分も多いかと思いますが、配付資料や授業中の説明を最大限活用してもらえるよう今後も配慮したいと思います。

いずれにしても、全体としては特筆すべき問題はなかったようですので、これまで同様、今後のスペイン語学習および専門科目の履修を支障なく続けられるような基礎を作る授業を行っていく所存です。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語ID2
授業コード	32A16-002
教員名	遠藤 健太
教員コード	103936
登録人数	31
回答数	20
回答率	64.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について

シラバスはスペイン語科目コーディネーターの先生が作成されたものであり、私はそのシラバスに則って授業をおこなった。ただ、学生の様子を見て、また途中で学生の意見も聞いたところ（独自のアンケートを実施した）、シラバスの内容だけではかれらにとってレベルが低すぎると判断したため、その後は独自の教材を併用して不足を補うようにした。結果的に、大部分の学生が、シラバスにおいて設定されていた目標（＝初級の復習）よりは少し上のレベル（＝中級）に達していたと思う。

②授業評価結果についての自己点検・評価

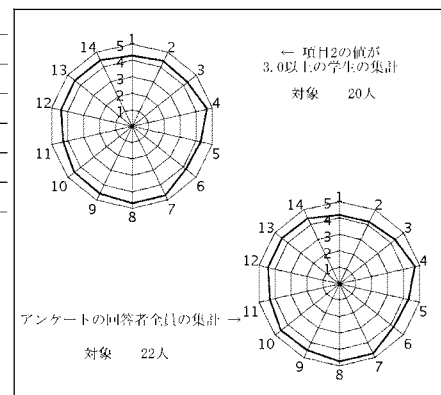
学期の途中で学生らに対して独自のアンケート（授業の内容やレベル設定について）を実施し、それを今後の授業運営に反映させたことを、好意的に評価してくれている自由記述が複数あった。今後もこうした柔軟な対応を継続させたい。他方、ほぼ全ての設問に「1」と回答した学生が1名いた。これは、一部の学生の態度（例えば、教科書を持って来ないことなど）について、やや強めに苦言を呈したことに起因するのかもしれない。結果的に学生の意欲を削いでしまっては本末転倒なので、そうならぬよう、ポジティブな言葉がけを心がけたい。

③改善点・今後の抱負など

もともと私はどちらかと言えば「優しい」タイプの教員で、真顔でガミガミ説教をしたりすることは滅多にない。が、今年度から初めてスペイン語学科でスペイン語の授業をおこなうことになったという気負いもあって、当初は少しだけ厳しめの態度で臨んだ。しかし結局、学生の学習意欲を高いレベルで維持するためには、やはり厳しめよりも優しめの方が効果的だとの結論に至った。今後とも、必要な緊張感は保ちながらも、優しめの接し方でいこうと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語I111
授業コード	32A26-001
教員名	CARDENAS, Abel
教員コード	017525
登録人数	29
回答数	22
回答率	75.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

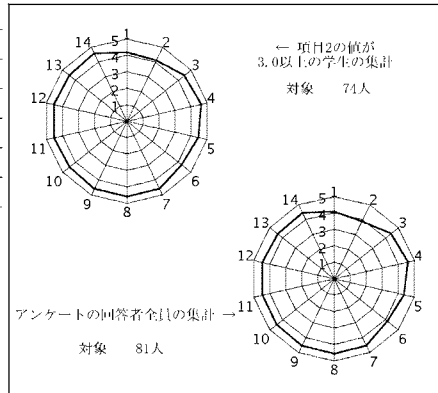


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was to help students further develop their reading comprehension skills in Spanish. This was achieved by the use of authentic reading materials as well as a variety of tasks centered on the development of successful reading strategies. The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all of the aspects included in the major categories of the class evaluation received an average score of 4.48, which is higher than the average achieved by other courses in the department and across the university campus. Although this time, there were very few responses by the students in the open-ended questions of the survey, the comments made by those who responded confirmed their satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were the relevance of the themes selected and the variety of the reading tasks and activities and the non-threatening atmosphere of the class.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン文学A  
授業コード 32C01-001  
教員名 小阪 知弘  
教員コード 103689  
登録人数 97  
回答数 81  
回答率 83.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

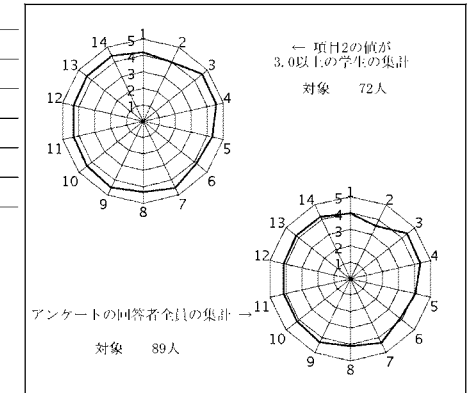


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達に関しては、ある程度達成できたと判断しています。学生たちが熱心に授業に参加してくれたことにより、双方向的な学びの場をある程度、実現できたと見なしています。
- ②数字データに関しても、ある程度想定していた数字を獲得することができたと判断しています。自由記述に関しても、学生たちが建設的なコメントを書き込んでくれていますので、その内容を反映させて、さらに授業内容を向上させようと考えています。
- ③次クォーターでの改善点は、多くの学生が受講している授業ではマイクを用いて、しっかりと授業内容を教室内全体に響き渡らせなければならないと強く感じています。今後の自負としては、学生たちの集中力が続くように、さらに能率のいい授業内容と魅力のある形式を、映像や音楽などを間合いを測りながら取り入れていく所存です。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの文化と社会B  
授業コード 32C24-001  
教員名 岩崎 賢  
教員コード 103731  
登録人数 309  
回答数 89  
回答率 28.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

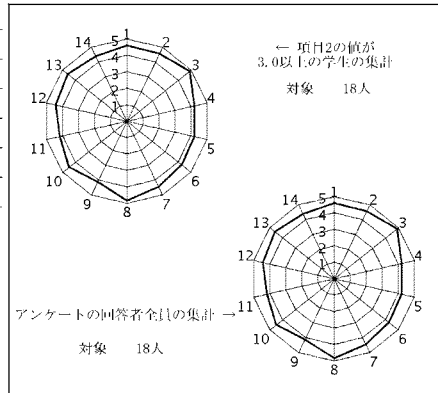


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
この授業の目標は、ラテンアメリカ・カリブ地域という広大な地域の歴史と文化の大まかな特徴を、映像資料などを交えて、学生に生き生きとしたイメージをもって理解してもらおう、ということであった。キーワードとして挙げた、ユーロ・アメリカ、インディオ・アメリカ、アフロ・アメリカという概念に沿って各地域の文化と歴史を説明していくことで、学生は対象をクリアに理解することができたのではないかと思う。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
学生の意見を見る限り、おおよそ授業の内容には満足してもらえたのではないかと思う。パワーポイントと動画資料を活用したことで、テンポよく授業を進めていくことができたのが良かったのだろう。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
今後は、授業で用いるパワポ資料や動画資料に新しいものを加えるなどして内容を充実させ、とくにユーロ・アメリカとアフロ・アメリカに関してはより多くのテーマを扱うようにしたい。学生から指摘のあった出欠確認の件については、今後、対策を考えていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事スペイン語A  
 授業コード 32D01-001  
 教員名 永田 智成  
 教員コード 103900  
 登録人数 23  
 回答数 18  
 回答率 78.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

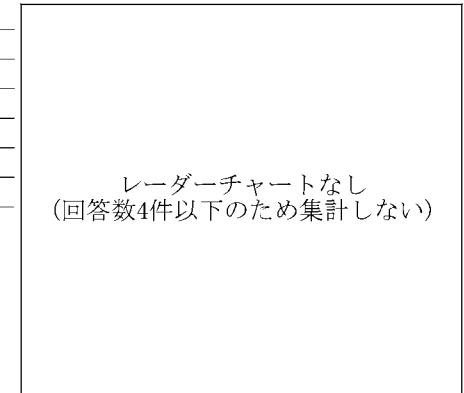
本講義では、国際関係に関するニュースおよびスペイン語圏に関するニュースの記事を読むようにするという目標を立て、その目標は概ね達成できたと考えている。ラテンアメリカに関する記事をほとんど扱えなかったことは次回以降の反省点であると考えます。

数値データでは概ね学科の平均値と遜色ない数字であるので、引き続きこのような数字が得られるように鋭意努力していく所存である。他方、「馬鹿にされているように感じた」や「質問したら鼻で笑われた」といったコメントを自由回答欄で頂戴している。本人としてはそのような意識は全くないのだが、そう感じさせる対応を取っていることは問題であると自覚しているので、今後の反省材料としたい。

次のクォーターでは、講義形式の科目が増え、内容も更に高度な科目を担当することになる。質疑応答の際に学生を馬鹿にしているように勘違いされないよう留意し、難しい講義内容であっても、分かりやすい説明を心がけて頑張っていく所存である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語文章表現特殊研究I  
 授業コード 32D03-001  
 教員名 ESCANDON, Arturo  
 教員コード 102090  
 登録人数 5  
 回答数 1  
 回答率 20.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

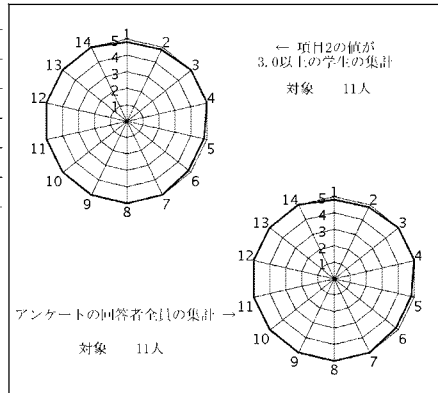
The goals for this course were met. Students reflected upon various forms of essay, although less accent was given to essays written originally in Spanish. The course embraced several topics always present in modern essays such as human virtue in the Western world, the burdens of complex societal formations, social justice, ethics, etc.

Students also discussed during class and on assignments the above topics, producing at the end of the course a brief but high quality and comprehensive essay. I am sure those who attended the course will see their prospects to produce good academic writing improved.

Unfortunately, 4th year students in many cases had trouble attending the course and catching up with the general pace because of their involvement in job landing activities. This required from me to deliver the course in a more piece meal fashion and sacrificing continuity. I will have to adjust the method of delivery next time.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(スペイン語)1  
授業コード 70105-001  
教員名 浅香 幸枝  
教員コード 000165  
登録人数 11  
回答数 11  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1~14の平均値は4.95であり、項目3~14の平均値は4.97であった。学生・教員ともども授業目標は達成できたといえる。

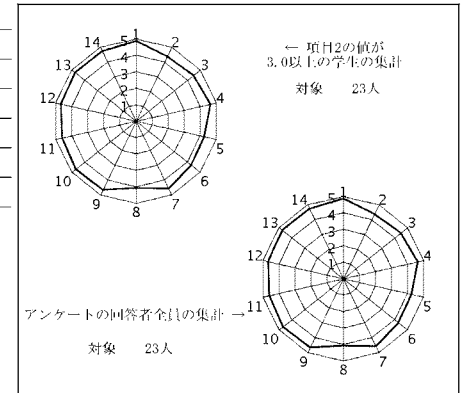
10項目が満点の5.0である。4項目について4.85である。受講者全員が回答している。それによれば、授業の開始と終了時間が守られ、毎回の授業の構成や進行速度は適切であった。担当教員は真剣に取り組み、教員の音声や音声機器の音は良く聞き取れた。学生の理解度に配慮し、私語などを注意し、学習意欲を引き出し、質問の時間も十分であった。学生は授業を通して新しい知識を得て、全体として満足した。学生は履修前から授業内容に興味を持っており、主体的に参加し、授業目標を理解し力がついたと実感している。

学生たちは、1年次の「地域文明論 F(アメリカ)」の授業でラテンアメリカに日系人がおり、親日でスペイン語が広く使われていることを知っていてスペイン語を履修している。スペイン語の授業を一年間履修した上で、かなりの理解力と意欲のある学生が履修していることも大きな一因である。

本教科は、スペイン語を使って、卒業論文などが書けるように資料の扱いや論じ方を教えるものである。そのため、学生たちは自分の興味のあるテーマで深く資料を調べ、スペイン語で論じることを行った。どの学生もよいレポートを書いたことは教員としてとても誇らしくうれしい。今後もこのように学生の力を伸ばし、将来活躍する人となる手助けをしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I[FF]2  
授業コード 11B01-005  
教員名 平田 周  
教員コード 103583  
登録人数 37  
回答数 23  
回答率 62.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



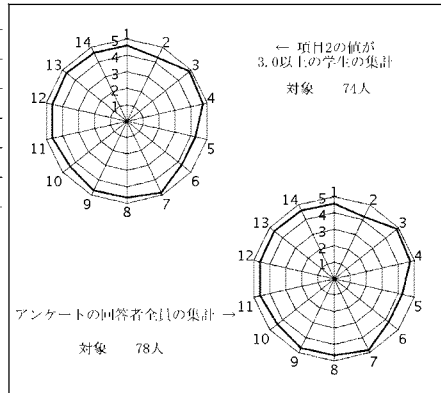
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義が当初設定していた教科書(Zé nith第1課から第12課)の文法項目を享受する内容に関して、十分に達成できた。
- ②数値データや自由記述を踏まえるかぎりでは、教員の声が聴きとり難いという評価が最も目立ったものとしてある。音声マイクを使う、あるいは学生に空いてる席につくことを誘導する(授業開始前に後ろから何列は座らないように黒板で書くなどを周知して)などひと工夫をすることで、対処することにする。
- ③受講した学生のほとんどが真面目に講義内容に取り組み、小テストや期末テストにおいて優れた結果を示したように思われる。ただし、文法に関してもっと聴講したかったという要望を踏まえ、まず二度、三度同じ話を繰り返すことをためらうことなく、重要な文法事項や表現に関する復習を行うようにし、次に教科書の範囲には止まらない発展的内容についても教授できるように次年度から試みたい。とりわけ、復習に関しては、講義内において問題演習やアクティビティの時間を設けることで、角度を変えて行えるようにしたい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相3  
 授業コード 13C04-003  
 教員名 中山 俊  
 教員コード 103891  
 登録人数 153  
 回答数 78  
 回答率 51.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



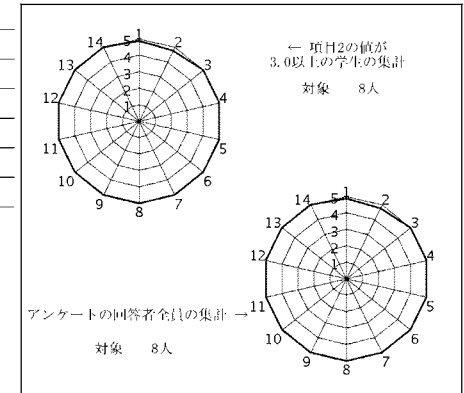
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、現代ヨーロッパの様々な社会問題を理解し解説できるようになることを主たる目的に据えた。学生には、ヨーロッパで様々な現れ方をする社会問題の普遍性、特殊性を日本との比較の中で説明できるようにもなって欲しかったが、時間の都合上日本の状況に毎回触れるのは非常に難しく、欲張りすぎたと思っている。項目5と6それぞれの平均値（約4.2）が他の項目と比べると低かったのはそのせいかもしれない。幾つかの授業に関しては、授業構成の練り直しやテーマの変更が求められるように思われる。

1回の授業で1つのテーマを取り上げるというシンプルな構成、マスメディアでの報道等によく耳にする用語や外国人との間で話題に上がりそうな社会問題を歴史的事実や統計データから掘り下げるという方法は、学生の授業満足度が比較的高かったことを考慮すると、好意的に受け入れられたと言ってよいであろう。また、リアクションペーパーに感想や質問を書かせ、次回の冒頭で質問に答えつつ理解不足の点を再度説明し復習に代えたことや、受講者の意見を共有したことも、おおむね好評であった。ただし、授業最初のこの時間がやや冗長に感じるという学生も数人いたので、もう少し紹介方法を再考した方がよいかもしれない。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IB1  
 授業コード 33A14-001  
 教員名 REBOLLAR, Patrick  
 教員コード 100084  
 登録人数 21  
 回答数 8  
 回答率 38.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

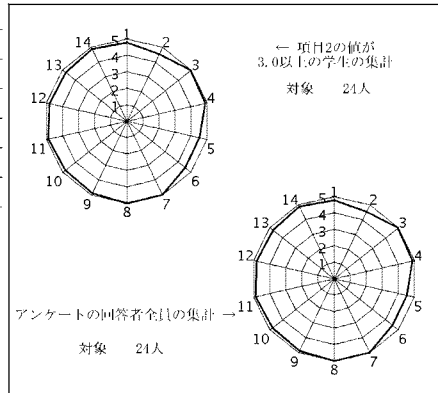


授業評価結果を踏まえた点検・評価

During this quarter, the course was given at the same time twice a week for 2 groups by 2 different teachers following a specific program and ending with a common exam. The third group teachers decided to try different syllabus and exam. With a french text book (+audio exercises & video programs), we practiced a lot of communication activities, culture and society knowledge, despite a fairly important forgetfulness of the grammar programs of the first year. Most of the students are not used to look at real documents from the media or provided by the Internet to enlarge their cultural or social perspectives. We practiced this way to help them in self-education. Our goal is also to acquire vocabulary and practice with the basics of the french grammar from the 1st and 2nd year programs. We also did a lot of little groups exercises, each having a mission assigned with documents to study and speech to prepare. A certain lack of knowledge could be compensated by good collective practices to research information and discuss proposed activities. This skills may be usefull not only for french language matters.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語文法I1  
授業コード 33A17-001  
教員名 茂木 良治  
教員コード 102698  
登録人数 32  
回答数 24  
回答率 75.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

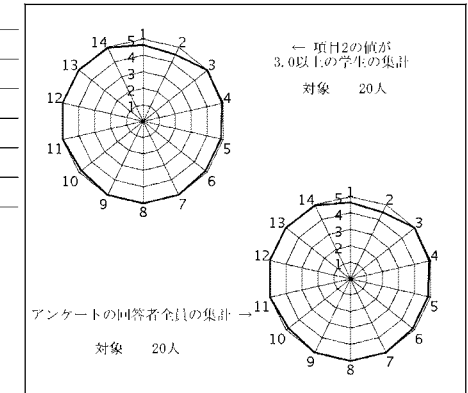


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Ré volution2というフランス語文法の教科書を使用しているが、出版社からの教科書の取り寄せが遅れたため学期はじめは教科書なしで授業をおこなわざるを得なかったが、予定していた1課から6課を終わらせることができ、当初設定していた授業目標は達成できたと考える。設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」で4.88点、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」で4.54点と比較的高い数値を得られたことから授業運営は適切であったと伺える。設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」が4.88点と高い得点を得られたことから、授業全体の満足度も高かった。また、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができました」が5.00点と満点であった。全体的に学生からは高評価を得られたが、指導内容の定着という観点からは、学生たちの文法や語彙知識の定着具合が必ずしも良好であるとは言えないため、Q3および次年度に向けて工夫を施していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語文法I2  
授業コード 33A17-002  
教員名 松川 雄哉  
教員コード 103644  
登録人数 29  
回答数 20  
回答率 69.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

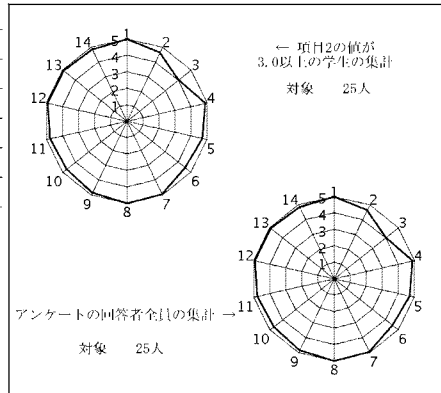


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この「中級フランス語文法」という授業は、各回で学ぶべき文法事項が決まっており、到達目標は明確である。ただ、この授業で使用した教科書『レボリューションII』は扱われている語彙が難しく、新しい文法事項を教える際は語彙にも時間を割かねばならず、目標に到達するのに毎回苦労した。授業では、板書に時間をかけないように、説明はパワーポイントで提示した。時間を節約した分は、ペアワークにしたり、極力学生からの質問に丁寧に答えるように心がけた。自由記述式設問の回答結果において「わかりやすかった」というコメントがあったのはそのためであると考えられる。今後の目標としては、もっと文法事項の理解・習得を容易にするために、語彙の習得を促せるような指導を積極的に取り入れたい。例えば、ある回で扱われる語彙は前もって予習してもらえそうなシステムや環境作りをしてみたい。授業において学生達の語彙に対する負担が軽くなれば、その分文法の学習に集中できるので、習得がもっと容易になるだろうと考えられる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 EU研究  
 授業コード 33A26-001  
 教員名 COURRON, David  
 教員コード 019026  
 登録人数 36  
 回答数 25  
 回答率 69.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students learn about European Union (EU) comprehensive matters in order to understand international relations to the extent where they involve European countries and how French diplomacy unfold its actions within the EU framework.

2. Degree of achievement of initial course objectives

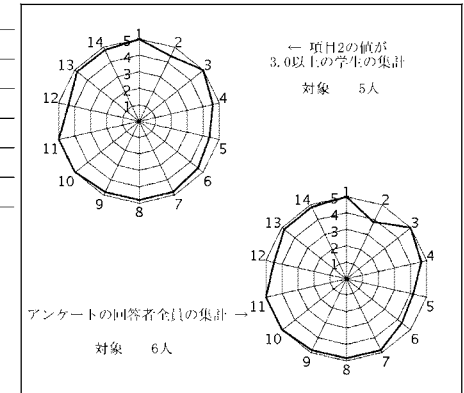
This quarter most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above. Practical everyday functioning and judicial aspects of the EU have been introduced in the first part of each class in order to make sure each student understand main internal procedures and rules. The second part was more dedicated to reading documents focusing on pinpoint matters. 4 student-member groups have been allocated specific documents to read extensively, to analyse and to sum-up in order to present the matter they were dealing with to the other groups.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. Therefore I will do my best to preserve it in the future. A majority seems also to have appreciated my precise and clear explanations as well as the fact that I gave them extra materials on my home page. As usually, one particular point has been stressed by a couple of students and may need some fixing: that is to finish on time. Though I will do my best to stick to the clock, I shall never refrain from adding 2 or 3 more minutes if needed to complete a class activity whereas I allow each student to leave when

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語圏研究  
 授業コード 33C10-001  
 教員名 吉澤 英樹  
 教員コード 103584  
 登録人数 12  
 回答数 6  
 回答率 50.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

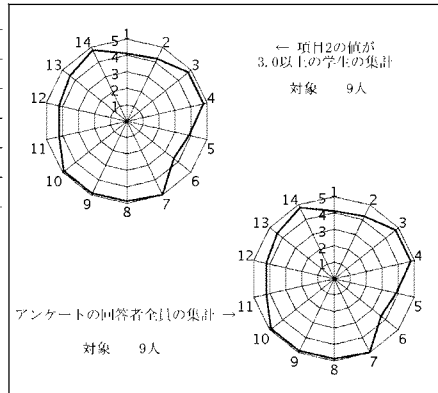
1) 本年度は、他の教員の必修科目の時間帯との重複のために、Q2からQ1に移した上、最初にシステム上、フランス学科の3年生が履修登録できないようになっていたため、履修者が激減した。しかし、開講当初目的とした、履修者側でのフランス語圏成立過程の理解ならびに、現在直面している問題に関する自分なりの考えの形成はレポート課題の達成という形でクリアできたように思われる。

2) アンケートのデータ数が少ないが、概ね4後半を達成している。強いて言えば、授業外の学習についての指示を出し、主体的に授業へ臨ませるように履修者を誘導すべきであったことがアンケートに結果から痛感された。また自由記述にあるように教員側でも履修システムの問題を早めに察知し対処し、学科全体に報知するべきであった。

3) 上記、自己点検にあるように、モチベーションを持った学生に対して授業外での自主的な学習のための指示を出すようにしたい。また今回のように少人数の場合は、講義中でも適宜、履修者側からの質疑に答えるような形で、肌理の細かい対応をしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(フランス語)  
授業コード 70103-001  
教員名 真野 倫平  
教員コード 100083  
登録人数 11  
回答数 9  
回答率 81.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

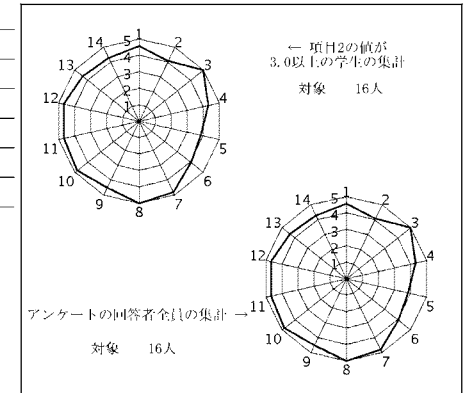


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は総合政策学部3年次生を対象とする学科科目である。フランス語の基礎文法の既習者に対してフランス語での文献講読を行うことを目的とする。授業では中級の時事フランス語の教科書を用いて、毎回講読を行い、さらに文法問題を行った。講読とは別に、適宜フランスの音楽や映画について紹介し、フランス文化の紹介に努めた。登録者数は11名であり、授業を運営する上では適切な規模であった。①目標と到達の程度については、試験の結果から判断すると、フランス語の読解力を身に付けると同時に、フランスの社会や文化に関する基礎知識を獲得するという目標はある程度達成できたように思う。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均は4.54であり、学際科目の全体平均4.32を上回った。設問の中では、設問5の到達目標の理解ならびに設問6の到達目標への力の獲得に関する点数がやや低かった。③今後の改善点については、上記の点について、到達目標を授業で繰り返し説明することで、学生に学習すべきことがらを常に意識させ、授業の方向性を明確にすることが必要であるように思われる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語V<全>1  
授業コード 11C05-001  
教員名 水守 亜季  
教員コード 103678  
登録人数 18  
回答数 16  
回答率 88.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

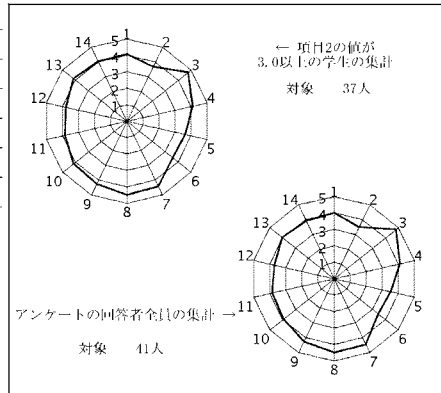


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのために授業は以下のように構成した。①ペアワークやグループ学習を積極的に取り入れ、学生がドイツ語を使う機会を多くすると同時に、②一方的な知識の詰め込みを避け、文法規則などを学生が自らを見つけるための話し合いの活動も多くした。③図や音声を用いて、既に持っている知識・経験を手掛かりに未習事項を含んだドイツ語の意味を推測するトレーニングを行った。④ポートフォリオを導入し、学習の振り返りを行った。学生にとっては慣れない方法で外国語を学ぶ授業であり、授業形態への理解が浸透するには時間を要すると当初予想されたが、設問(3)～(14)の平均値4.50は学生からの比較的高い評価を示している。その理由の一つとして教員の配慮があると思われる、教員の授業に対する姿勢を問う設問(6)では4.81と高い評価を得、学習者の理解度に配慮した点も「わからないところは丁寧に教えてもらえる」、「質問するタイミングを作ってくれるので、質問がしやすかった」と評価された。また学習者中心の授業形態が肯定的に評価されたことは、「グループワーク（が良かった）」、「常に（中略）わからないところをみんなで話し合うことができた」、「ゲームをやったりするのが楽しく学べていい」という、協働学習、自律学習を評価する意見が多いことに表れている。授業の到達目標の理解を問う設問(5)で3.88と他の設問よりも値が低かったことについては、引き続き授業の中で学び方を体感してもらう努力を続け、改善したい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ研究の基礎 (歴史・社会)
授業コード	34A08-001
教員名	岡地 稔
教員コード	015206
登録人数	54
回答数	41
回答率	75.9%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

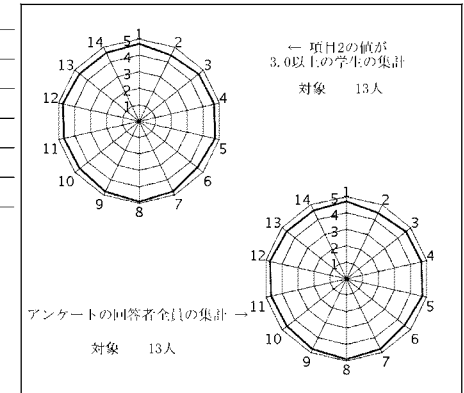
本授業はドイツ学科社会専攻の1年次生に対する必修科目であり、到達目標として、シラバスにおいてドイツ中近世史の基本的な流れを把握することができるようになることを掲げたが、これは、ドイツ学科社会専攻生として理解しておくべき基本事項の一つである、ということ、初回の授業時において改めて述べた。そうした状況にもかかわらず、今回、設問(6)「あなたはこの授業の到達目標を理解することができましたか」の平均値が3.44で、正直なところ、驚いている。何のための学修・勉学であるのか、を理解させることを含め、学生の自主的な取り組みを促すよう、さらに努力・工夫を講じたい。

授業全体の評価としては、受講生自身に関わる設問項目(1)(2)を除く設問(3)～(14)の平均値が4.04であり、まずは及第点と判断される。

以下、特記されるべき事項と今後の課題に関することを記すと、授業は講義形式で行い、毎回、次回の授業のための比較的詳細なレジュメを用意し、Q1後半には、前もって調べておくべき項目を二三設け、次回の授業で質問する形を取った。残念ながらこの簡単な課題すら前もって予習してくる受講生が少なく、授業への取り組み姿勢における彼我の差を痛感させられた。これに呼応するように設問(2)「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」の平均値が3.49という状況であり、さらに工夫の余地があると思われる。今後の課題としたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語インテンシブA
授業コード	34B03-001
教員名	RIESSLAND, Andreas
教員コード	101252
登録人数	37
回答数	13
回答率	35.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

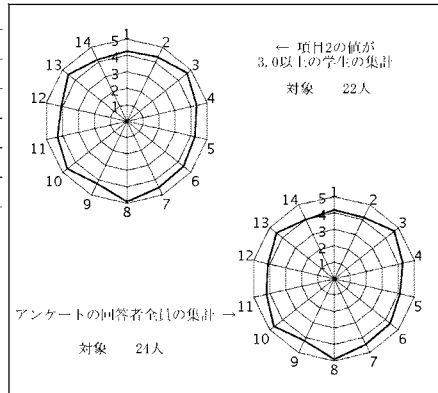
This course was intended to prepare the participants for the A2 level (CEFR) of the German Proficiency Test. It was designed specifically to enhance the participants' abilities in the core sectors "Reading" and "Listening". The remaining test sectors were introduced and explained, but as they are a core element of the students' overseas fieldwork courses, they did not figure as prominently in this course.

As the students' evaluation shows, this course was very positively received by its participants, in spite of its challenging workload. With an average in each sector that is solidly above any other published average at our university (with the exception of Phys. Ed.), the students' evaluation shows that with an eye on both taught contents and teaching format, this course is very well suited to the students' needs and expectations.

This course is due to become one of the core features of the German Department's curricular setup. That I strive to further optimize the course format goes without saying.

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語演劇研究
授業コード	34D01-001
教員名	林田 雄二
教員コード	017434
登録人数	34
回答数	24
回答率	70.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

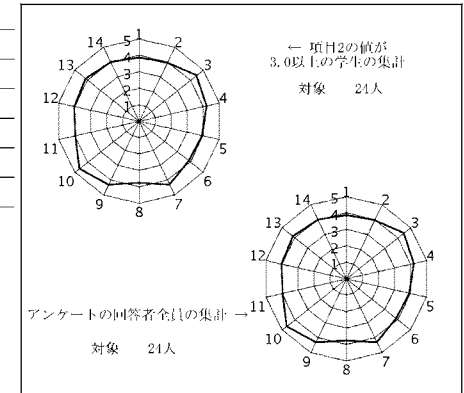


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 講義目標の到達の程度：学生の意欲に応じて例年より高いレベルで授業を行った。目標を大幅に上回る成果を得た。
2. 回答全体の数値は4を超え、授業に対する十分な評価を得られたと思う。しかし、設問14の、授業全体についての満足度が4と低い。  
この講義の最後には、履修者全員にそれまで練習してきた、ダイアログ、詩などのテキストから1つ選び、全て暗誦して演じてもらう。今年の学生たちのパフォーマンスは、驚くほどの高さであったが、しかし、それが自分たちで判断できていない。この疑心暗鬼が、このような結果になったと思われる。
3. 自由記述では、講義を積極的に評価する意見も多いが、批判もある。「皆の前で晒し者にされた」とか「高圧的」という批判があった。この数年、授業の趣旨を理解しないまま履修する学生が散見される。発音を矯正されると不機嫌になる学生、指導を受けないように逃げ回る学生などがそうである。この授業では、作品（テキスト）を理解するのみならず、身体を使い、音声表現を目指す（最終的には作品上演）。その場合、舞台上、発声、表現させるという方法は当然であり、「晒し者」にしているわけではない。舞台上発声、発音を矯正されている場面を見せながら、他の学生は自分の発声、発音を反省的に見直すことになる。学生の発音は、様々のドイツ語の特徴を説明しつつ、徹底的に矯正する。それを「教師の熱意・真剣さ」と理解せず、「高圧的」を取る学生の授業態度に疑問を感じる。各学生の練習中の表情には最大限注意を払っているが「泣き出す学生」もたまにいる。その場合、すぐに指導を中止し、謝罪し、後からその学生と話をする。殆どの場合、「意欲、やる気にも拘わらず、思い通りにならない身体、発声にもどかしくなり、意図せずに涙が出てくる」という返事をもらう。とわいえ、今後、更に注意を払いたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツの経済
授業コード	34D07-001
教員名	中屋 宏隆
教員コード	102885
登録人数	30
回答数	24
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

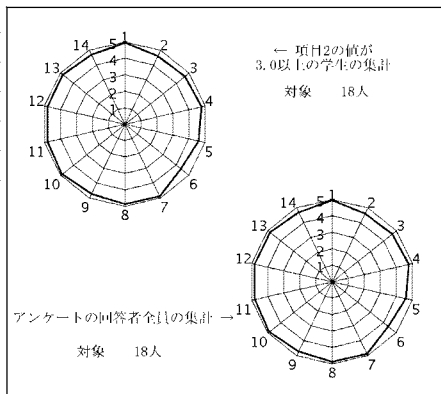


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①概ね達成した。
- ②以下が、3点台のアンケート項目。設問 5:この授業の到達目標を理解することができましたか。設問 6:あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。設問 8:教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。設問 11:学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。  
設問5に関しては、最初に到達目標を提示しているが、なかなか学生には伝わらないのが現実。来年度は何かしら工夫したい。  
設問6に関しては、あまり高すぎても伸びしろがなくなる感覚に陥ったりするのは問題なので、この程度でちょうどかと思う。  
設問8に関しては、改善したい。  
設問11に関しては、教員が提示するのも重要だが、学生が主体的に情報収集に努めるのも重要。その姿勢を引き出したいと思う。
- ③4点台のものは現状維持を基本としながら、より良い授業内容のものとしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語I語法1  
授業コード 35A07-001  
教員名 中 裕史  
教員コード 017830  
登録人数 19  
回答数 18  
回答率 94.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

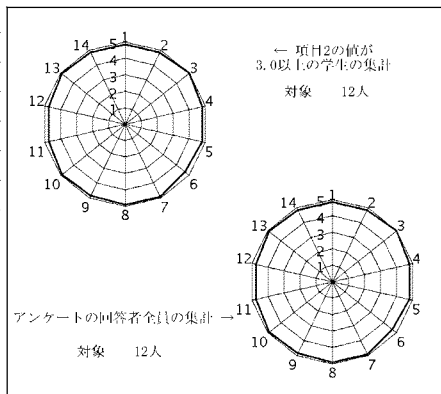


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は以下の二つの到達目標を目指して進めた。1) 動詞を中心とした構文やテンス、アスペクトを使いこなせること。2) 中国語検定3級程度に相当する文法の知識を持っていること。教科書の内容はほぼ予定通りこなすことができた。授業内で指名して問題の正答を言わせたり、課題としてその日の内容についての理解度を確認する作文を出したりするなどして、受講生の到達度を見ながら進めてきたが、まず順調に推移している感触を得ていた。授業評価の結果と照らし合わせてみると、設問6で4.39、設問13で4.83という数字が出ていて、受講生自身も力がついてきていること、理解が深まっていることを感じているものと考えられる。自由記述を見ても、教科書に記述がないことを補足説明した点や課題とした作文によって力がついた点を評価する声が複数あった。他には、毎年気分転換を兼ねて授業の半ばで使っていた中国音楽に加えて、7月に実施するアジア学科科目「海外フィールドワーク」を意識して台湾の音楽も時折交えて使ったが、こうした試みが歌詞の聞き取りの練習にもなってよかったという評価につながった。ただ、一方で、問題練習の比重が大きくなったことに対して、文法の説明をもう少し多くしてほしいといった声もあったので、これらの兼ね合いをどのようにとるか、次回に向けて考えていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語I会話1  
授業コード 35A11-001  
教員名 蔡 毅  
教員コード 100086  
登録人数 14  
回答数 12  
回答率 85.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本学科では二年生の中国語会話授業は習熟度別でクラスを分けることとなり、優秀な学生が集まる上級クラスを担当するので、責任の重さを強く感じており、どうすれば学生のニーズに応えることができるか、かなり苦労しましたが、アンケートの調査によれば、平均値4.85という高得点であり、開講当初に設定した中国語の会話能力をもっと向上させるという授業目標は、おおむね達成したように思われます。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

まずは、相対的に得点が低かった6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」については、授業中配慮が足りなかった、また説明が足りなかった可能性もあるため、今後は受講生の要望に従い、より明確な目標設定をするつもりです。。

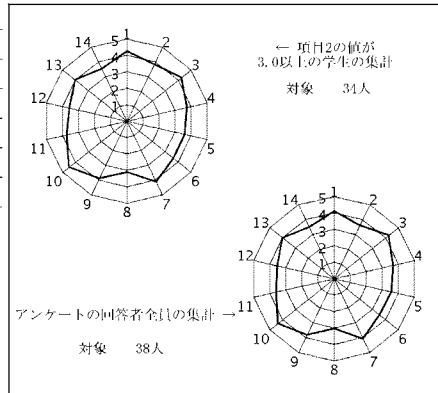
なお、強化訓練の一環として、毎回の授業で全員に課題を出し、回収して添削したあと学生に返し、問題点をまとめて説明するという追加措置を取ったことに対しては評価が高かったため、Q3は引き続き宿題を出す方針です。

また、授業方法や学生との交流などについても、どうしたら受講生を満足させることができるか、さらに工夫する必要があると思います。

これからも一層の努力を払い、いい授業を学生に提供できるよう取り組んでいく所存であります。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東南アジアの歴史と社会  
授業コード 35B05-001  
教員名 小林 寧子  
教員コード 100089  
登録人数 66  
回答数 38  
回答率 57.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



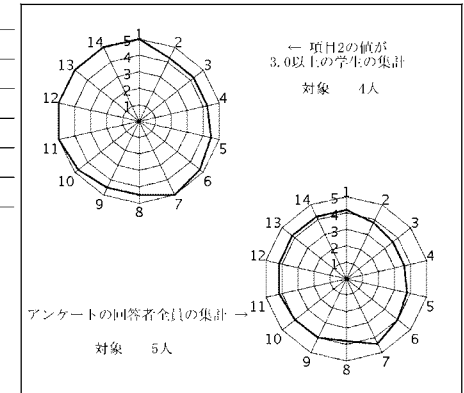
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は担当教員が、病気のために入院するという不測の事態が生じた。入院中であったために休講の手続きがうまくできずに教務課まで伝わらなかったり、退院後も発声に障害があり、聴く側にとっては聞きづらかったと思う。設問8「教員の声は聞き取れたか」というところで、3.05と低い数値が出たのは当然であった。学生に不利益を与えたことについては申し訳なかった。

「東南アジア」という地域が学生にとってきわめてなじみのない地域であるということを最初の授業で確認し、なるべくそれぞれの国でこれだけは覚えてほしいということを強調した。小テストの復習にも力を入れたが、テストの結果は芳しくなかった。ただ、アジア学科生向けの授業であったにも拘わらず、それよりも多くの他学科生および他学部生が受講したこと自体は成果であった。南山大学で「東南アジア」を対象とするきわめて数少ない授業であるだけに、少しでも東南アジアのことを知ってもらえたのではないかと思う。「内容が深く興味深かった」「東南アジア史全体の外観ができた」という評価をした学生がいたことには、逆にこちらが励まされた。この講義は今後もう担当することはないが、「グローバル化」の時代に大国でない国や地域を軽んじる風潮が強まる昨今、後進の教員が東南アジアの魅力を伝えてくれることを期待する。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国社会研究  
授業コード 35C15-001  
教員名 松戸 庸子  
教員コード 100087  
登録人数 12  
回答数 5  
回答率 41.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標の達成度に関しては少し課題が残った。5月初旬に中国から著名な知識人を招聘して、授業の振り替えで講演会を開いたからである。

講演のテーマは習近平政権下の言論統制で、共産党改革派のオピニオン誌『炎黄春秋』（政府から2017年夏に経営権を篡奪されてしまった）の全執行編集長から、言論統制の現状や意味を語ってもらった。学生の理解増進に資するよう、予備知識を待たせるために準備のため1コマを使ったこともあって、講義の終盤は速度がやや早くなってしまった。

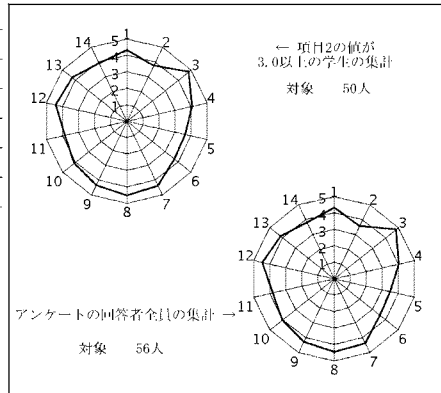
②しかし、学生の評価にも表れているように、総体としては高い評価が得られた。ただ、この科目は学科専門科目であり、中国語を多用すると『講義概要』に明記されていたにもかかわらず、開講当初は他学科・他学部の学生が多く受講を予定していた。最終的には受講を取り消したが、開講から2回ほどはその点を授業の振興の点で考慮する必要があり、授業進行の妨げとなったのは事実である。

③1週に2コマあるために、学生が講義の中で紹介された資料などをフォローする時間が無いということが分かった。今後はそうした現実を考慮して授業を進めていく必要を痛感している。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A2  
授業コード 12C08-002  
教員名 寶多 康弘  
教員コード 100751  
登録人数 79  
回答数 56  
回答率 70.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

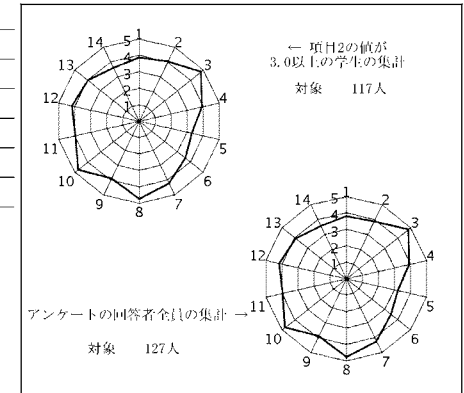


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度はじめて担当して、今回が2回目の担当となる共通教育科目である。重版を毎年している評判のよいテキスト『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣）を使用して講義を行った。第一に、開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。ただ、今回は前年度と扱う内容を一部変更したため、その内容が前年度と比べると一般に難しい内容であったため、授業が早く進んだと感じる学生が一部いた。次年度に向けて授業の進行具合について再検討したい。その他の内容については、理解度の確認のための課題レポートも実施した。第二に、新しい知識や理解が深まったという項目について高い評価を得た。受講生の所属学部は多様で、前提知識や関心が異なるため、いろいろな概念などについて多くの事例をあげて説明した。学生から興味深い事例を説明してくれたこともあり、学生の関心が高いことも分った。経済学部生でもはじめて経済学のミクロ的側面を学ぶ際はかなり大変なものだが、授業内容が分かりやすいとの評価を得た。クォーター制では授業の進行が早いので、毎回前回の内容について復習を行い、理解度を確認した。第三に、どの学問の導入科目も同じかもしれないが、初学者が興味を持つきっかけになるが、初学者にはこの授業を学んでいる時点では、学んだ内容が今後のどの科目と関連が深いのか、役に立つかを本当に理解することが難しい。今後の学びにどのようにつながるかをより一層丁寧に説明して、学ぶ意欲を高められるようにする。応用科目を履修してはじめて価値が分ることもある。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マクロ経済学1  
授業コード 40B02-001  
教員名 太田代 幸雄  
教員コード 100347  
登録人数 153  
回答数 127  
回答率 83.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【授業目標および目標達成度】

この科目は、経済学科1年次生以上向けの必修科目であり、ミクロ経済学と並んで、学部における各科目を受講する上で必要な理論的概念を理解するために重要な科目であると位置づけられている。今回の講義に際して、教科書を一新したため、講義ノートを1から作成した。データとしては、回収率が全受講生中83.0%と、これまで担当者が実施したアンケート中でも多い方であったことが挙げられる。これは、クォーター制が始まって以来、一番多い数字であった。

アンケート結果としては、全設問の平均値、設問3~14の平均値がともに4を上回っている。また、ほぼ学部の平均値通りの結果であり、まずまず目標を達成できているのではないかと考えている。

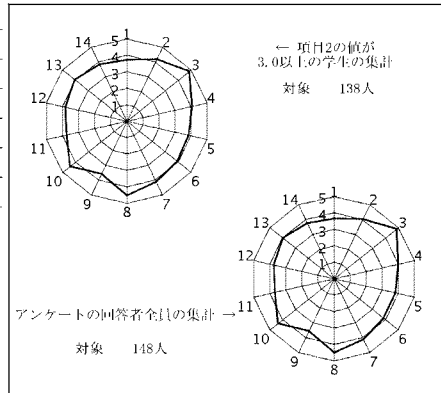
【授業評価について】

今回の講義で気を付けた点は、週2回のペースでも十分に理解できるように講義を進めるということであったが、レポート等を解いてもらうよう工夫した結果、設問2の評価がまずまず高かったので安心している。また、設問11、12で評価の平均値が学部のそれを上回ったのは、非常に嬉しく思っている。次回は、より評価を高めるべく努力して行きたいと考えている。

自由記述欄についてであるが、今回の講義では好意的な意見を頂いている反面、改善すべき点において、例年と異なる反応があることが気になった。ただし、1年次生向けの必修科目であるため、慣れていない点も多かったのではないかと感じている。ただ、言うまでもなく、講義は教員だけでなく受講生の努力もあって、はじめて成立する。これからも、より興味を持って授業に臨んでもらえることを来年度以降の目標の1つとしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学のための数学2  
 授業コード 40B04-002  
 教員名 相浦 洋志  
 教員コード 103642  
 登録人数 167  
 回答数 148  
 回答率 88.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

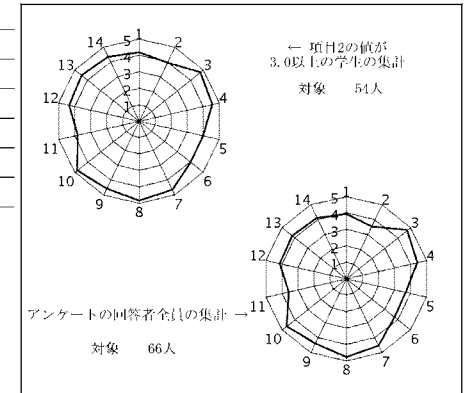


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は1年生必須科目であり、学部で定められた数学の知識を教える授業である。そのため、「履修前の授業の内容について興味」は、3.68と学部平均に比べて低かった。その一方で、「授業の到達目標を理解できたか」および「授業の到達目標に向けて力がついてきているか」については、3.82および3.86と授業前よりも高い評価が得られ、この2項目の評価点は学部平均よりも高く、最低限の知識の提供を授業に行うことができたのではないかと考えている。数学の知識の定着を図るため、毎回、「小テスト→その解説→新たな分野の演習問題の提示→その解説」という決まったルーティンにしたがって授業を行った。そのため、「理解度に配慮した授業だったか?」、「学習意欲を引き出す適切な指導だったか?」、「質問や相談の機会が十分にあったか?」の項目の評価点が、それぞれ3.53, 3.68, 3.76と低かった。ただ、評価できることの自由記載として、「授業形式が好き」や「毎回のルーティンがしっかり決まっており、効率よく学びを深めることができた。」などの回答もあり、このやり方を評価する声もあったが、授業後半において、大学で初めて習うことが増え、それに合わせて、質問の機会を十分に設けたり、指導形式に変化を付けたりと工夫すべき点があったと反省している。また、数学の演習問題を解説するにあたって、ホワイトボードを多用したが、後ろの方の席に座っている学生に対しては字が見にくかったという意見があり、今後、同様の授業を行う際には気を付けたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学のための数学3  
 授業コード 40B04-003  
 教員名 都築 栄司  
 教員コード 103265  
 登録人数 74  
 回答数 66  
 回答率 89.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標には過不足なく到達している。  
 ②数値データおよび自由記述等を踏まえて：パワー資料を用いた授業形式は概ね好評なので続けていきたい。  
 WebClassにアップした資料を紙に印刷するのに費用がかかるとの意見もあるが、教科書を購入する代わりと理解して納得してほしい。  
 ③次クォーター・学期以降に向けての改善点：適宜、練習問題を配布していたが、授業中にその答えを解説する時間を取れないことが多く、解答をWebClassにアップロードし、各自の自習に任せることが多かった。  
 授業内で「演習→解説」という流れを作った方が理解度をより深めるという点でより望ましかったため、今後は比較的重要度の低いトピックを一部制限するなどして、そのような時間を設けられるよう工夫したい。  
 扱う内容によってペースが早い回やゆっくりの回があったため、全体の構成の見直しも行う。  
 単に公式に従って解けるようになってください、という授業にはしたくないので、論理の厳密性を損なうことなくこれを行いたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済英語1
授業コード	40C01-001
教員名	CALANTAS, Teresita
教員コード	000187
登録人数	37
回答数	4
回答率	10.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

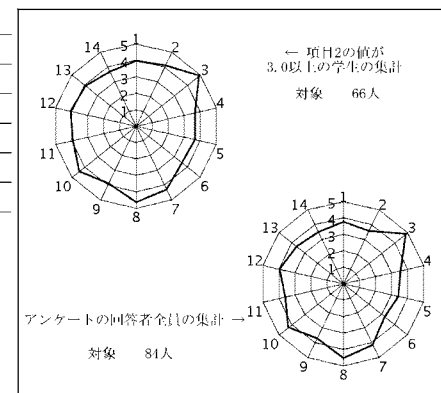
This course was given in a combination of lecture and seminar styles. Students were given short lectures and instructions before the tasks and practical exercises relevant to the goal in hand. Students were also taught strategies to develop their language skills with accuracy and fluency. The objective of this course was to develop students' ability in the four skills of English Language, using general knowledge materials, as well as materials related to Economics. At the end of the First Quarter, students were able to:

- Use vocabulary they already know and learn new ones.
- Learn speed reading strategies.
- Engage in short and simple conversations.
- Write simple sentences and questions, as well as short reports.
- Were able to interview someone, take down notes, and introduce the person in class.
- Write a short descriptive report of a book, a movie, or a lecture.
- Work with other students to plan, do research, write a report and do a poster presentation.

On the whole, I'm pleased with the students' achievements in this course.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋経済史入門
授業コード	40D02-001
教員名	梅垣 宏嗣
教員コード	102397
登録人数	173
回答数	84
回答率	48.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

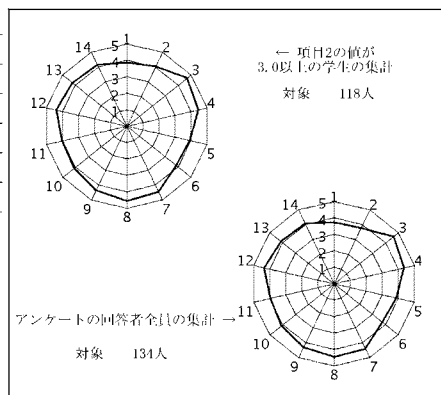
講義内容そのものとしては、当初の目標を達成できたものとする。ただし、とりわけ以下の2点については、改善の必要がある。

第1は、講義の進め方についてである。ノートをとってもらうことを前提に講義スライドを作成していたが、学生から量が多すぎるとの指摘があったため、ノートをとることを求めず、スライドそのものをWebClassで配布することにした。そして、スライドを配布するという形に変更したことで、講義を進めるスピードも、ノートをとらないことを前提にして早めたが、そのことにより、ノートをとりたい学生にとっては進行が早すぎるということになり、自由記述欄にもその点についての指摘が見られた。結果として、スライドと授業の進め方がちぐはぐになってしまったことは、特に反省しなければならない。今後は、スライドの分量と講義の進行速度を綿密に計画し、講義に臨みたい。

第2は、学生の興味を引き出す工夫についてである。少数の熱心な学生からは、非常に鋭く有益な質問を受けることができ、手応えを感じたが、他方で、もともと西洋経済史に関心のない学生の興味を引き出すことは、十分に達成できなかった。この点については、長らく解決できていない問題であり、すぐさま改善できる方策は見いだせていないが、今後とも真摯に取り組んでいきたい。

2018年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本経済史入門  
授業コード 40D03-001  
教員名 林 順子  
教員コード 101007  
登録人数 200  
回答数 134  
回答率 67.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

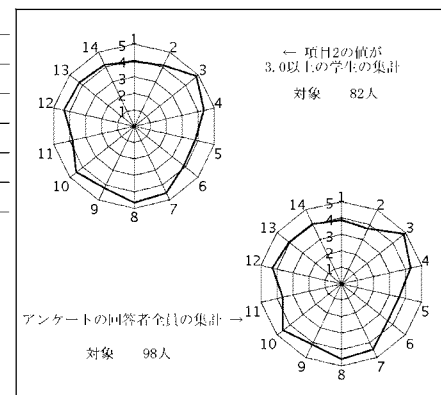
本講義では、江戸時代以降の日本の経済的な現象とその背景や影響を理解し、現在の日本経済の成り立ちを考える力を身につけることを到達目標としていた。毎回の感想や試験結果からすると半数程度の受講生は十分にその目標に到達していると思われる。前年度の、成績の二極分化の傾向は、今回はやや弱まった。

前回からの大幅な変更としては、webクラスの導入がある。これは、先の授業評価での学生からの提案されたものである。本講義では毎回習得度を調べ質問を受け付けるための小問題を解かせ、紙で提出させていたのを、WEBクラスでの提出に切り替えた。講義期間の半ば頃まで設定の試行錯誤やミスが多発し、学生にも迷惑をかけたが、学生と情報センターのアドバイスで、後半はなんとか軌道に乗せることができた。協力を心から感謝したい。一方、講義中に寄せられた声には、携帯での入力について「記述問題の解答の入力がしづらい」「入力途中で切断してしまう」「端末でよそ事をしてしまいたくなる」といった指摘も多かったため、紙での提出も平行して許可した。最終的には、受講生の半分ほどは紙、残り半分はwebクラスで提出をしていた。携帯でのwebクラス活用には限界があることがわかった。

学生からの質問と解答は、翌週webクラス上で速やかに公開した。今回の授業評価では、この点を評価する自由記述が多く見られた。今後も継続したい。一方、改善の要望の大半は、私語の注意不足で占められていた。講義中何度か、学生の口が動いているのが見えてもその音が聞こえなかったことがあり、聴力の衰えがあるのかとも、思う。できる限り気をつけたい。

2018年度 Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門4  
授業コード 40D05-004  
教員名 大鐘 雄太  
教員コード 103641  
登録人数 120  
回答数 98  
回答率 81.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、統計学の基礎知識の習得を目標とした講義を行った。大半の履修生が単位の修得に至ったため、定期試験の結果をみる限りでは、目標を到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

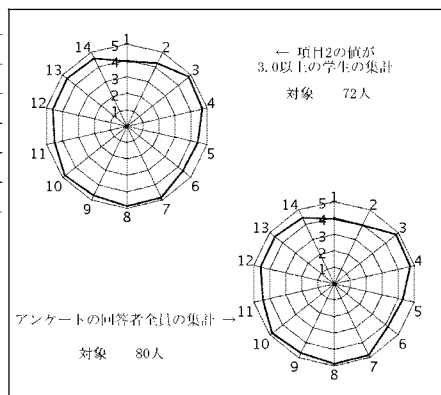
数値データでは、昨年度と同様に、履修生の到達目標に関する質問項目（設問5、6）、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する質問項目（設問11）が3点台にとどまっていた。一方、昨年度と比べて、満足度に関する質問項目（設問14）は4点台に到達し、自由記述においても、「内容が難しい」という回答が減ったため、昨年度の反省を少しは活かすことができたと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

本年度の経済統計入門では、(1)授業の到達目標をより明確にする、(2)紹介する文献を増やす、という2点を実行することにより、本年度よりも満足度の高い講義にできるよう努めていく。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 財政学A  
授業コード 40D26-001  
教員名 西森 晃  
教員コード 100624  
登録人数 126  
回答数 80  
回答率 63.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

非常に熱心な学生に恵まれたおかげでとても楽しく講義することができました。私語厳禁などかなり厳しい条件をつけましたし、内容的にも難易度の高い講義をしたにもかかわらず、学生の皆さんが一生懸命ついてきてくれたことに感謝しています。授業評価の点数的にも、自由記述欄の内容的にも高い評価をしてもらいましたが、授業が教員と学生の皆さんの共同作業である以上、この評価の多くの部分は学生の皆さんが作り上げてくれた雰囲気のおかげと考えています。

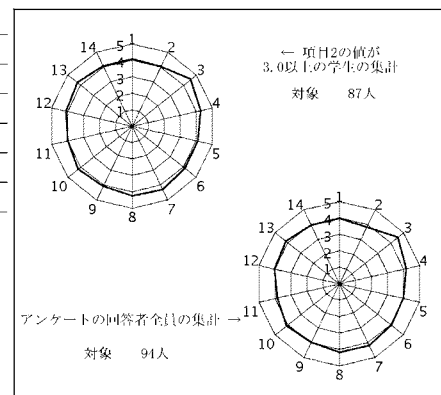
今回嬉しかったのは、受講者の人数が最後までほとんど変わらなかったことです。それが示すように、アンケートの回答率も例年に比べてかなり高い値になりました。このことも、学生の皆さんが熱心に受講してくれたことの証かと思えます。

授業の到達度としては、当初目標としていたところまではきちんと解説できました。期末試験でも計算や穴埋め問題はそれなりにできていたので、一定の成果は上げられたと感じています。ただし、じっくりと自分の頭で考えるべき問題があまりできていなかったのは残念なところです。

とは言え、これは一概に学生の問題だけとは思えません。じっくり考えるべき問題に取り組むには、じっくり考えるための時間が必要ですが、クォーター制の下では残念ながらそのような余裕がないようです。教えるべき内容と時間制約のずれに関しては、今後の課題として考えていきます。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 労働経済学B  
授業コード 40D31-001  
教員名 岸 智子  
教員コード 100346  
登録人数 390  
回答数 94  
回答率 24.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

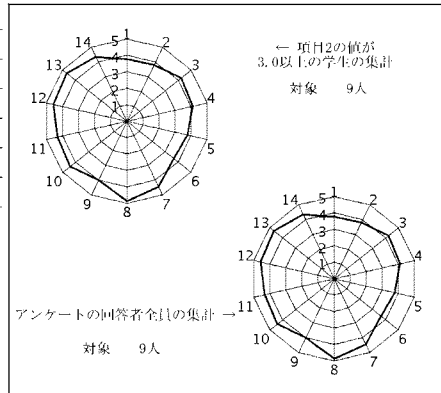


授業評価結果を踏まえた点検・評価

労働経済学の受講者数はいつも多い。それは、講義の内容が良いからではなく、同時間帯に専門科目があまりないからである。大教室の授業にはまだ慣れていない。授業の内容はやや薄い。今回、学生の理解度に合わせた授業の進行ができなかったことを反省している。一度も学生に理解度に関する質問ができなかった。過去には出席表の裏に意見を書いてもらったこともあったが、今回、何となく気持ちのゆとりがなく、それができなかった。評点にもそれが表れている。次回は一度でも出席表などを用いて学生からのフィードバックを受ける機会を設けたい。なお、教材はWebClass上に掲載している。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公共経済学B  
授業コード 40D33-001  
教員名 焼田 党  
教員コード 102065  
登録人数 27  
回答数 9  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体として、受講者が少なく、予定より内容は少なくなったが、反応をみながら進めることができたことは良かったと判断している。

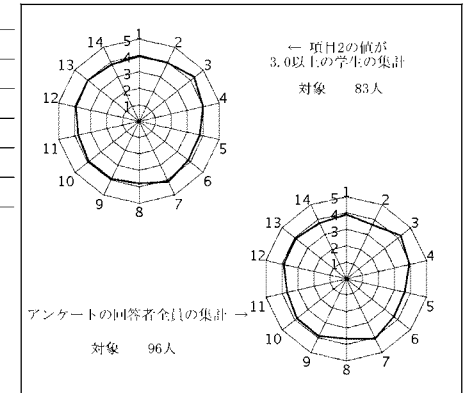
① 政府の役割として、課税と公共投資（動学配分）を取り上げる予定だったが、課税について、前提となる知識を学修していないことが読み取れ、少し周辺知識の解説も行ったので、予定ほどには進めなかった。ただ、その分、課税の問題に関しては到達目標を達成できたと考える。

②事前の興味はあまりなかったようだが、設問13での評価は高く、新しく知識と見識を広げてもらえたものと思える。結果的にはそこそこ満足してもらえたようである。期末試験についても、出席してくれてくれた受講生はしっかりと考えて解答してしてくれた。

③話す速度で板書をしないと、話の流れがわからなくなる（自身も）と思い、雑な板書となるきらいはある。最新の研究成果を取り込もうとすると、流れにゆれが生じるので、議論に広がりがあると思い付け加えてしまうことによる。黒板（白板）のスペースが限られていることもあるが、整理して板書するようにする。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 租税論A  
授業コード 40D34-001  
教員名 岸野 悦朗  
教員コード 103035  
登録人数 273  
回答数 96  
回答率 35.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業は、我国の租税制度全般及び所得税並びに相続税といった個人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。

授業に際しては、これまでは授業内容自体専門的要素が強い等の要因から成績はそれほど良好でなかったことから、昨年度と同様、学生にも理解できるように配慮する観点からパワーポイント資料の見直し授業の進め方等改善に努めた。

その結果、出席者は昨年度よりもかなり増加しており、試験結果も良好で、目標の到達に近づきつつあると評価している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

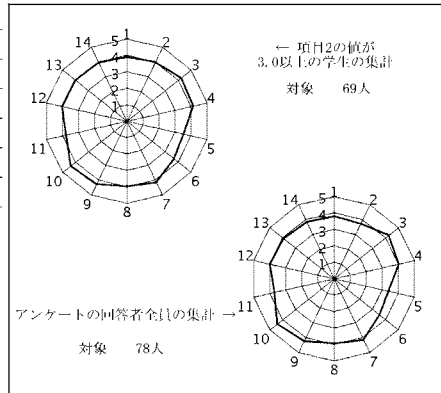
パワーポイント資料に対する評価、改善要望等両方意見があり、今後分りにくい部分を見直す等改善したい。なお、資料配布の要望が散見されたが、予算・事務量的に対応困難なことから、WEBクラスを用いての勉学に向けて学生の意識改革に努めたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次学期以降、各科目について充実した内容となるよう上記評価を踏まえて取り組んでまいりたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	産業組織論A
授業コード	40D36-001
教員名	上田 薫
教員コード	016832
登録人数	206
回答数	78
回答率	37.9%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

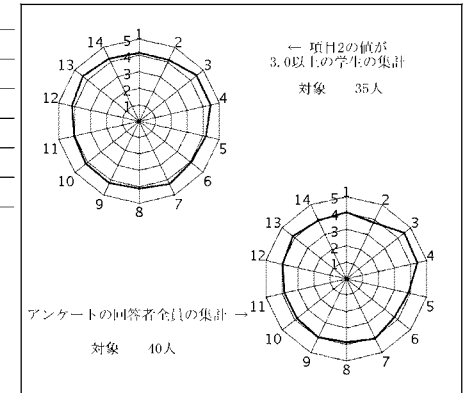
この授業は寡占の分析について、必要なミクロ経済学およびゲーム理論の知識を理解し基本的な分析を行えるようになることを学修目標としている。企業および独占市場の理論、さらに非協力ゲーム理論の入門的知識の概説を行なったうえで、寡占市場の理論とそこから得られる企業間の競争・結託および市場集中に関する知識を学ぶという構成である。

昨年度は500名近い登録者がいたこともあり、設問項目6、11、14の平均値が低かった。これを踏まえ、今年度は学生の興味を一層引き出すべく、独占禁止法および競争政策の考え方が授業で教えた寡占理論によってどのように整理・理解できるのかについて、従来よりも踏み込んだ説明を行なう授業内容に改めた。その効果が登録者数半減の効果か、項目14は3.77から3.83まで上昇した。ただし項目6の平均点はまだ十分な水準と言えず、授業内容の一層の検討を進めるつもりである。気になるのは項目8の平均点の低下で、今年の春は花粉症の症状がひどく、喉かぜが長引いたことが原因かもしれない。

項目7、9、12の平均値のいずれも4.0を超えていることから、昨年度と変わらずプレゼンテーションに関しては大きな問題は無いようである。自由記述欄の「説明が丁寧」、「わかりやすい」、「学生の理解に配慮している」等の記述が増えたのは、登録者数の減少がプラスに働いているのだろうが、喜ばしいことである。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会保障論B
授業コード	40D39-001
教員名	大谷津 晴夫
教員コード	015222
登録人数	160
回答数	40
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



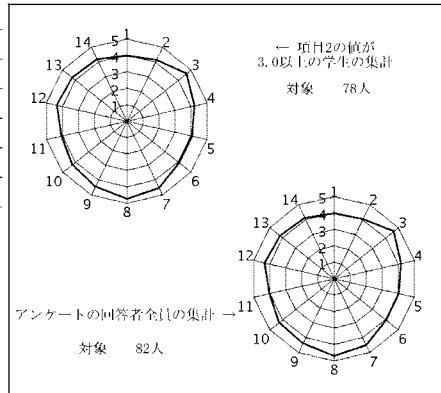
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目の到達目標は、日本の医療・介護制度の概要とそれらの諸問題の重要ポイントを正しく理解することができるようになることにあったが、設問5、6の評価3.90、3.75にあるようにほぼ満足できる成果である。それは設問13の全体としての評価4.15にも示されているように思われる。また設問3～14の平均値が4.02であったことは、総合的に見ても及第点の評価をもらったと受け止めている。その中で授業全体の評価にかかる設問8～12の値が3.88、3.95、3.85、3.88、3.98であったことは、授業の形式面の条件を充足していたという評価として受け止める。また設問7の評価4.08に示されているように、授業への真摯な取り組みについての評価も満足できる水準にあるが、全体的な満足度を問う設問14の値が3.93とやや低いのが気になる。設問1～14の平均値4.01を見る限り、日本の医療・介護制度の初学者には多少難しかったかもしれないと恐れていた割には、満足してもらえる内容であったと自己評価してよさそうである。

しかし、その一方で、学生の授業参加に対する配慮を問う設問11の評価が3.88と相対的に低いのは課題として残る。学生の授業への取り組み度を問う設問2の値が3.78と低い点も気にかかる。設問15で小テストのおかげで自習するインセンティブが高まったとか、アメリカ医療の現状をドキュメンタリータッチで批判した映画観賞もよかったとの声が寄せられる一方で、滑舌が悪くて聞き取りにくいとお叱りも寄せられている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア経済論A  
授業コード 40D54-001  
教員名 林 尚志  
教員コード 017897  
登録人数 198  
回答数 82  
回答率 41.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

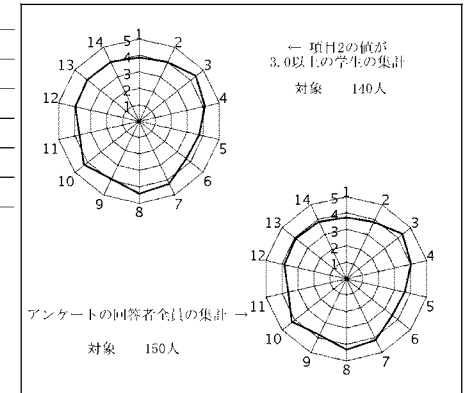
この授業では、近年、東アジア諸国が（日本を先頭とする）“雁行型”の発展パターンを遂げる中、そのパターンが徐々に崩れつつある点に注目し、これらの変化をもたらしている諸要因を考察しつつ、日本とアジアとの関わりについて理解や関心を深めることを目標とした。また、授業中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、これらの疑問に対する解答を探るという形で授業を進めた。

この目標の到達度については、（ア）流れが上手くまとまっていて、理解しやすい、（イ）アジア経済というテーマは興味深い等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（9）と関連し、「板書がきれいでわかりやすかった」、「説明がていねいだった」等のコメントがある一方、「移すべき板書の量が多すぎる」、「ノートを書きながら説明を聞くのはついていけない」等のコメントも見られたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけていきたい。また、設問（11）に関し、何回か「学生への問いかけ」や「議論の時間」をもうけたこともあり、「積極的な授業参加を促していた」というコメントがみられたが、授業進度に支障のない範囲で、さらにこれらの内容を充実させていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 消費社会論A  
授業コード 40D68-001  
教員名 阪本 俊生  
教員コード 017020  
登録人数 333  
回答数 150  
回答率 45.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



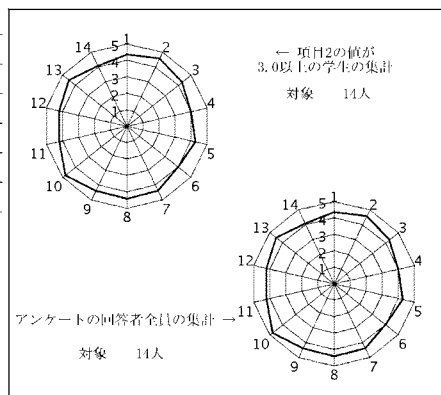
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①質問5(到達目標の理解)、6(到達目標に向けて力がついたか)、9(理解度への配慮)、11(学生の意欲)の引き出し等の回答がいずれも4を下回っており、反省が必要であると考えている。今回、学生の出席率が低い傾向が顕著であり、それも影響しているかもしれない。質問12の(質問や相談の機会)については、質問票を3回配布し、それに答えたほか、毎回、講義後に質問がある人は来るように言ったが来た学生はほとんどいなかった。テストの形式等の質問はあったが。したがって、この回答が4を下回っているのは理解できない。
- ②自由回答では、授業の妨げになる学生の行為への注意が適切であったという指摘が複数寄せられている。実際、今期の講義は、例年以上に後部の席での私語が目立ったため、何度か注意をおこない、静かにさせていた。そうした注意が一部の学生の反発も買っている可能性があるが、そのあたりは極力、注意しつつ穏やかな注意にとどめた。
- ③内容的には、よりわかりやすく平易な講義内容にすべく検討しなければならないかと思っている。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語A3  
 授業コード 40E06-003  
 教員名 V. Bose, James  
 教員コード 100757  
 登録人数 24  
 回答数 14  
 回答率 58.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

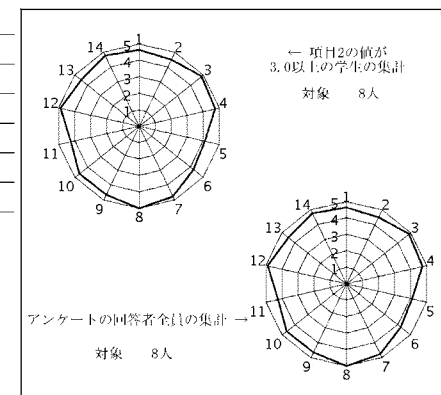
The objectives set were 1.To enable and motivate the students to develop their basic communication skills of listening, speaking, reading and writing in English. 2.To help the students understand the key vocabulary items in an English text. 3. To help the students to arrange the main points in the correct order and write a good English paragraph on their own.

To achieve these objectives, the following steps were taken 1. After consulting with my more experienced colleagues, appropriate text-book was selected for the course. 2. Basing on the contents of the text-book, appropriate in-class tests, audio-listening exercises and pair/group activities, were provided in the class. 3. Focusing on the text-book and the fundamentals of English grammar, on a lower to higher basis, I prepared teaching materials for students, with activities for class-room and home. 4. To help the students to cope with their insufficient competence in English, I prepared the relevant portions of such materials in English and Japanese. 5. Students were introduced to the web-sites of the text-book, in order to encourage autonomous learning. 6. In the first class, a bi-lingual (English and Japanese) hand-out, which clearly explains the course structure, objectives, policies of attendance and grading, was given to students, so that they know all they need to know about the course.

From the over-all evaluation, and the performance of the students in the class and during the examination, I feel that the objectives set, are achieved and the students have improved their skills in spoken and written English.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学 / Economics  
 授業コード 48C11-001  
 教員名 宮崎 浩伸  
 教員コード 101892  
 登録人数 8  
 回答数 8  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

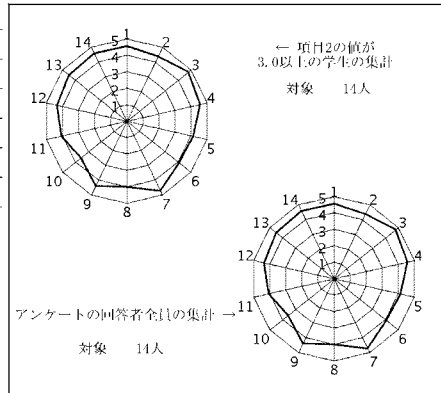
今回の授業評価結果は、設問1～14の平均値と設問3～14の平均値のどちらも4.61と予想以上に高い値であった。これは、国際教養学部で新規に開講された科目ということもあり、受講生が少数で、かつ学生のレベルが非常に高かったため、こちらも授業の運営がうまくできたことによると思われる。

しかし、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、内容的にも、専門外の理論的な内容を扱う新規科目であったため、うまく説明できなかった個所があったこと、さらに、アクティブ・ラーニング形式の授業を適切に行うことができなかったこともあり、不十分であったと思う。また、授業準備が思うように進まなかった時もあり、自分の中では反省すべき点があつたのが現状である。

さらに、非経済学部生が対象ということから、できるだけ数式を使わない授業を心がけたが、これにも限界があり、教科書は適切なものであったのか、取り上げた内容もこれでよかったのかなど、更なる検討が必要である。これらの点は、次年度以降の課題としたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会学A3
授業コード	12C06-003
教員名	堀田 治
教員コード	103646
登録人数	78
回答数	14
回答率	17.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



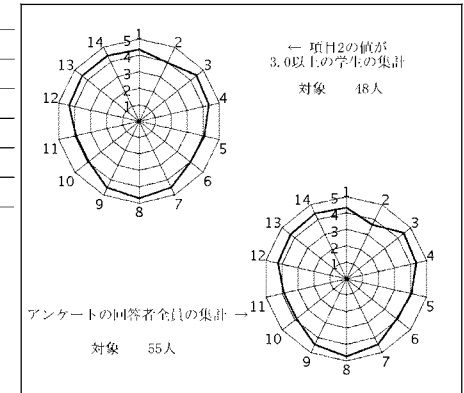
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価は全体平均4.31、総合満足度項目で4.57となり、概ね良好な評価であったと言える。「パワーポイントがわかりやすかった」「動画や画像といった具体例を用いて講義をしていた」「皆の興味を引くような資料が多かった」といった自由回答だった。企業視点での消費者理解に加え、賢い消費者となるための消費者視点の両方を意識した内容とした。理論を学ぶ度に、具体例を添えながら、図や映像を多用した解説が奏功した。一方、到達度についての学生の自己評価は若干低めとなった(4.14/4.00)。消費者行動論の理論体系を省略することなく取り上げたため、内容的には高度であったことも原因と考えられる。

この他、低めの項目として、マイクが聞き取りづらかった、「プロジェクターが見づらい」等の指摘があった。ネット環境が使える教室を探して開講前日まで教室探しをしていたため、結果的に機材や椅子に不備が生じた。また、私語はなかったが、1、2限連続のコマとしたため、2限から出席する学生が見られ、この点、朝から出席をしている学生は不満を残すことになった。途中から、出席を事実上2回とる措置をしたが、一部の学生において2限から出席すればよいと勘違いしている様子も見られた。クォーター制の連続コマの抱える構造的課題と捉え、次期クォーターでは初回到1限、2限に分けて出席をとる旨、アナウンスしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A3
授業コード	12C08-003
教員名	井岡 佳代子
教員コード	103647
登録人数	135
回答数	55
回答率	40.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

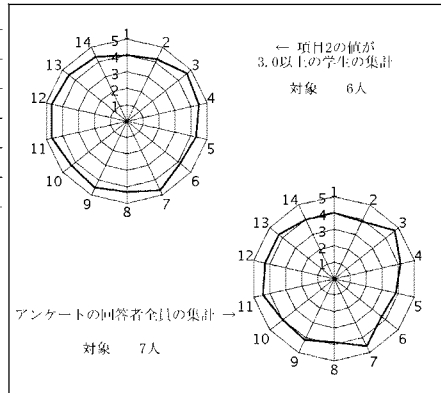


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当該科目においては、講義を前半・後半とに分け、それぞれの中で重要な箇所を取り上げて小テストを3回にわたり実施した。その結果、受講生の理解度を確認しながら講義を進めることができたことで、開講当初に設定していた目標と到達の程度は達成できたと考えている。また、約半数の受講生によるアンケート結果からは、数学が苦手な生徒にも好評な講義であったことが伺えた。当該科目では、数式やグラフだけでなく、理論を丁寧に説明したことが効果的な講義につながったように思う。加えて、より理解を深めるため、また、予習が可能となるように、ウェブクラスに資料を事前にアップしたことも好評であった。ただし、出欠をとらないことや、事前にアップした資料と講義内容がほぼ同じ内容であることが、受講生の不満としてアンケートに記載されていた。これらの問題の解決は非常に難しいが、可能な限り、次クォーターに向けて改善をしていきたいと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学A4
授業コード	12C08-004
教員名	李 エン
教員コード	103648
登録人数	24
回答数	7
回答率	29.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本授業では、会計情報がどのように社会一般に公開されているのか提示し、会計の知識などを利用して企業の実態を分析する学習を実施した。専門的な知識を身につけ、より幅広く深く経営学を学ぶ目標を達成していると考えられている。また、大学生に必要なとされ、将来お仕事する際に役に立つ実践スキルを身につける目標についても、達成していると考えられている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

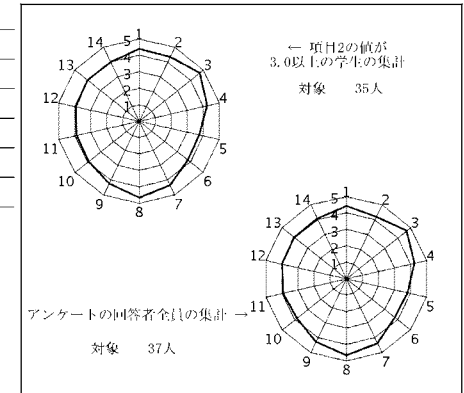
学生が簿記や会計などに対して苦手意識があるが、学生は物凄く真面目に参加し、授業中に設置している練習問題や思考問題をも解いてくれたので、受講状況は良いと思う。また、学生が経営学に関する様々なテーマについて積極的にシミュレーションし、授業の参加度が高い。学生の受講態度が意欲的であるので良いと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次クォーター・学期以降に向けて、配布レジュメに図を入れたり、動画を添付したり、より容易に理解できよう工夫する。また、事前に予め習得してほしいポイントを提示し、講義中により効率的に核心の部分について議論できるのではないかと考えられている。そして、実際の問題を解説することを通じて、学生が自ら問題提起し、解決できるよう工夫する。さらに、経営学の専門的な知識および実践技能を幅広く身につけることにより、企業に関わる諸問題に貢献できるようになる能力の育成を抱負としている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学A
授業コード	12E01-001
教員名	宮元 忠敏
教員コード	017293
登録人数	179
回答数	37
回答率	20.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達の度合いについて：自然数、偶数、奇数、図形数で成立する関係のデータによる提示、類推と証明。曲線上の整数、有理数座標を持つ点の計算。互除法による計算とその行数のデータおよびフェボナッチ数列の意味合い。コラッツの数列のデータと等差数列の関係。シラバスの項目のいくつかは、時間配分の関係上、削除した。

総合的な自己点検・評価：履修生の多様さを背景に、授業内容の項目と説明内容を考慮しているが、以下のような、コメントが寄せられている。

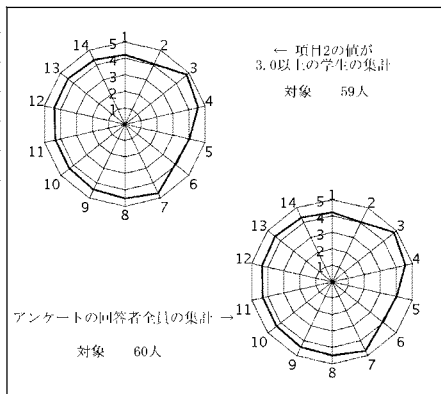
面白い知識を教えてくれた(1) 数学の深い内容まで学べた(1)、すべての学部の人にわかりやすく説明した(1)、内容が専門的すぎる(1)。また、授業を聞く立場としては、板書がぐちゃぐちゃでノートがとれないことがあった(1)、目標への道筋を示す方がよい(1)、1人で話している感じがする(1)。最後に、その他の項目で、うるさい人を注意してほしい(1)、課題がむずかしい(1)、クラスないで課すお題について、解答をかかない(1)など。

配布物は印刷の関係上、実際使用するより、前倒しで配布した。白板は、区切りを書き入れて、三分の二の部分に限定して使用した。

改善点・今後の抱負：履修生の数学的背景は何か、このコースに何を求めるのか？ この点、実際、多様であることが想定される。みたことも聞いたこともない、なにか数学的な事柄のコミュニケーションが求められる。系統性に縛られない面白いコースである。是非、履修せよ。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学A3
授業コード	12E03-003
教員名	中尾 陽子
教員コード	064188
登録人数	94
回答数	60
回答率	63.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、心理学の基礎的分野の概要を知識として理解するだけではなく、それを日々の生活の中で活用できるようになることを目標としながら展開していきました。また、一方的に教員の講義を聴くだけではなく、参加者同士のディスカッションやグループワークを通して、自分たちで充実した学びの時間を創りあげていくことにも取り組んできました。

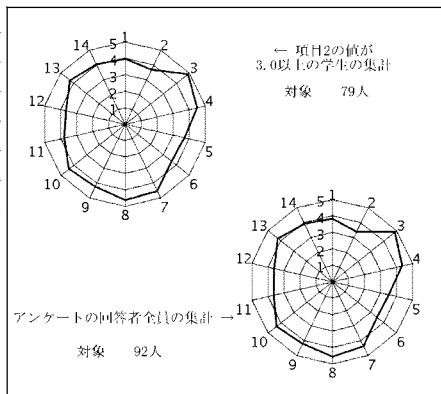
みなさんからいただいた自由記述の内容からは、この様々なグループワークが、受講生の方々に肯定的に受け入れられていたことがわかりました。話し合いを通して多様な考えに触れ、自分の考えの幅が広がることを実感していただけたことはとてもよかったですと感じ、今後も積極的に続けていこうと思っています。

今回は、グループワークのしにくい教室だったため、受講生のみなさんのモチベーションが下がってしまうのではないかと心配していました。しかし、私が想像していた以上に、一人ひとりの学生さんが、真剣に、積極的に、お互いの学びを支え合おうとしてくださったことに、心から感謝しています。

話し合いが盛り上がり、なかなか切れないくらいの時も沢山あったことは、大変嬉しいことでした。ただ、そのために重要なアナウンスを聞き逃してしまうような方もいらっしゃったようです。今後は、ディスカッションと聴くとのメリハリをはっきりとつけていけるよう、働きかけ方を工夫していく予定です。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会システムと環境1
授業コード	13D06-001
教員名	薫 祥哲
教員コード	018168
登録人数	113
回答数	92
回答率	81.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



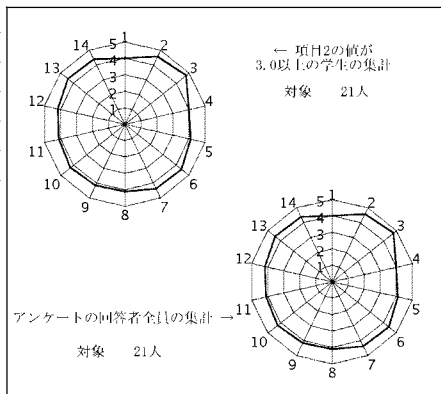
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ゴミ問題やリサイクル関連法を中心に、今日の社会システムが抱える問題点を環境経済学の視点から議論した。なぜ廃棄物処理の問題が発生し、再資源化などの対策が有効であるのかを考える思考力を修得する事を目標とした。授業評価の結果からは、全評価項目の平均値が4.02となっており、概ね受講生達には満足して頂けたと思われる。学期中に3回、受講生からフィードバックを得るための「リアクションペーパー」を提出させ、彼らの理解度や疑問点などを確認した。全体的に、当初設定した目標は達成できていると判断している。

自由記述設問への回答結果から、受講生は授業で配布したレジュメや新聞記事をとっても高く評価している事が判明した。「レジュメを使い、わかりやすい授業だった」「新聞などの資料を複数見ることを通して、教室での講義の枠を超えて現実の世界と学習したことを結びつけることができた」といった意見が多数書かれていた。また、プロジェクターで教材をスクリーンに映しだしながら進める授業形式も好意的に受け止められていた。改善点としては、「話が時々早すぎる」「もっと、生徒に発言をほどこしてほしい」といった指摘があった。授業については、概ね好評であったため、この授業形式を継続し、早口にならず、ゆっくり話すように心がけていきたい。なお、生徒に発言を求める機会を増やす点については、120名近くの受講生数であるためなかなか難しいが、リアクションペーパーのさらなる活用も含めて工夫していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報機器の操作1  
授業コード 14D02-001  
教員名 長谷川 高則  
教員コード 000162  
登録人数 27  
回答数 21  
回答率 77.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標

この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標としている。今回もパソコンのスキル差が大きく、授業の進行速度に大変苦慮したが、授業に取り組む姿勢は大変良好であった。

2. 目標達成度

出席状況は概ね良好であったが、パソコンのスキル差の影響で、開講当初に設定した授業計画は90%ぐらいしか達成することができなかった。レポート評価は優れた内容のものが多く、設問6(授業の到達目標)・設問13(新しい技術・能力を得た)の評価平均値も通常より高かった。

3. 授業評価

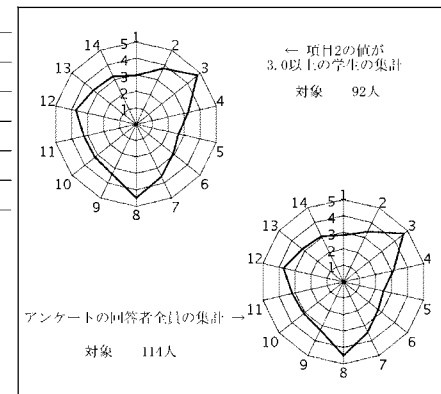
前回のアンケート結果と比較すると、全設問の平均値は4.50から4.27に僅かながら下がってしまった。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問3(開始・終了時間)4.76、設問2(主体的に授業参加)4.57であり、評価が低いのは設問1(授業内容への興味)4.00、設問4(授業の進行速度)4.00であった。設問1の評価を改善するのは難題であるが、設問2の評価は前回の4.10から4.57に向上し、少しは改善できたと考えられる。

4. 今後の抱負

授業の進度・課題のボリュームを慎重に調整しながら、eラーニングを利用して次世代の学校・地域の創生に対応する内容を取り入れ、パソコンが苦手な受講者にも興味がわく理解しやすい充実した授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計学I1  
授業コード 42B01-001  
教員名 松井 宗也  
教員コード 102275  
登録人数 148  
回答数 114  
回答率 77.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



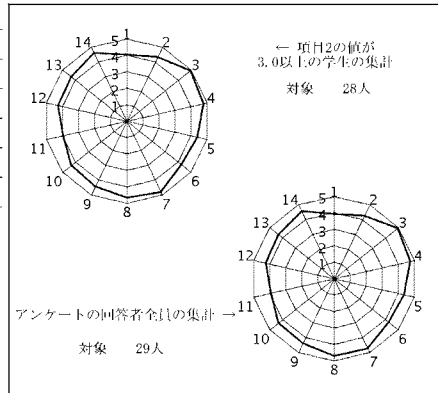
授業評価結果を踏まえた点検・評価

前年度と同様に「経営学を学ぶ上で将来必要となる統計的な考え方を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は標準的な教科書に沿ったもので、数学的に高度な内容をやや噛み砕いた初等的なものである。他大学(南山大学と同程度かやや上の難易度)と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。定期試験の結果から判断すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難いが、授業目標の6割から7割程度は達成できたと感じている。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってくれば良い。

以下では授業評価集計を踏まえ反省点を述べる。設問3~14の平均値と設問1~14の平均値は3点台半ばであり、評価基準をクリアしたものの前年度をやや下回った。4学期制導入以来2学期制の場合と同程度の評価が得られたことはない。平均値が低いのは評定5と6、と評定13と14である。特に前者のグループは2点台後半の評価しか得ておらずこの点は反省したい。考えられる原因としては、1年次は経営学を学んでおらず統計学がどのように役立つのか見えにくい。さらに1年次はごく基礎的な理論を学び、応用から想起される到達目標が意識しがたい。加えて目標を授業中に言及することを忘れてしまった。(前年度も同様な状況が見られたので、この点は大いに反省したい。)今後は到達目標を経営学に絡め分かりやすく設定し、それを授業中、常に意識させたい。評定13においても到達目標が不明確であったため、目標へ向けた新しい知識の習得や理解が進んだとは認識し難かったようである。次年度は、上記の方策に加え、教科書の中で「経営学への応用に触れている箇所」を重点的に説明したい。そうすれば「使える技術的な知識」を身に付けたという満足感も与えられると思われる。そして設問14の結果も自ずと改善されるであろう。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論I  
授業コード 42B05-001  
教員名 池田 亮一  
教員コード 101880  
登録人数 117  
回答数 29  
回答率 24.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

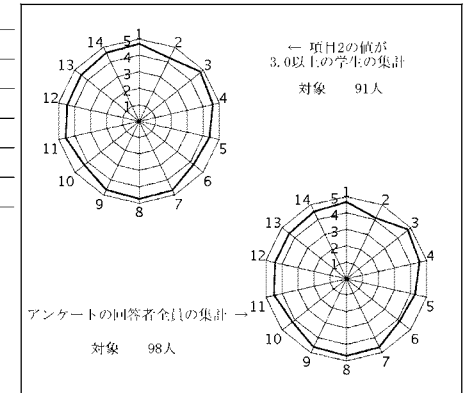


授業評価結果を踏まえた点検・評価

経営学部での初講義で、学生がどのような反応を示すかが気になったが、授業期間中はほぼ無反応という意外な結果だった。というのも、1限はこれほどみなやる気のないものかと気がついたからである。眠いならば来なければいいのと思うのだが、それでも授業には来る学生はとてもまじめなのか、自分が無理して出席してもどうせ寝てしまうことの予想がつかないのか、結局分からないまま終わった。改善すべき点があるとすれば、途中で教室をもう少し小さいものにすべきだったということである。教員と学生の距離が近ければ緊張感が生まれ、寝る学生が減りこちらも学生の反応をより得やすくなったものと考えている。今後は積極的に、小さめの教室で行うように序盤に調整していきたいと考えている。試験結果を見る限り、到達目標は概して達成していたように思われる。配布したレジュメがわかりやすいという指摘があったので、この授業以外でも続けていきたいと考えている。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論A1  
授業コード 42C09-001  
教員名 川北 眞紀子  
教員コード 102879  
登録人数 249  
回答数 98  
回答率 39.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体満足が4.52なので、おおむねよい評価をしていると思う。自由記述でも評価が高い。

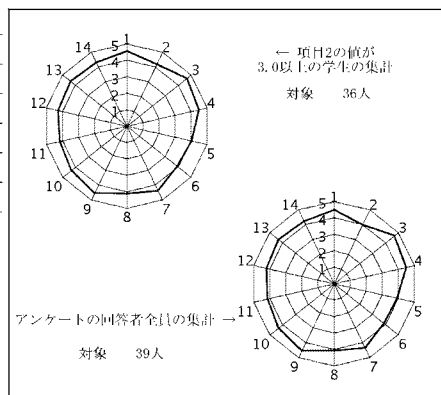
250人の定員なので、すべての学生に対応するのは難しい。パワポ資料のアップロードが遅いという指摘があったが、今後は、WiFiと個人パソコンがあるので、その場で見ることが可能だろう。

それよりも、そもそも、学生たちが教科書を買わないという姿勢がよくないのではないかと指摘すべきだったのだろう。それはこちらも反省すべき点だろう。教科書を提示してあるのだから、今後はパワポを配布しなくてもよい授業をこころがけてもよいだろう。この点は検討の余地がある。

それから、大勢の学生がモチベーションをあげるように授業をせよというのであれば、授業補助員が必要であろう。毎回の授業参加度を、正しく250人分評価するのは難しい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論A2  
 授業コード 42C09-002  
 教員名 湯本 祐司  
 教員コード 017533  
 登録人数 141  
 回答数 39  
 回答率 27.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

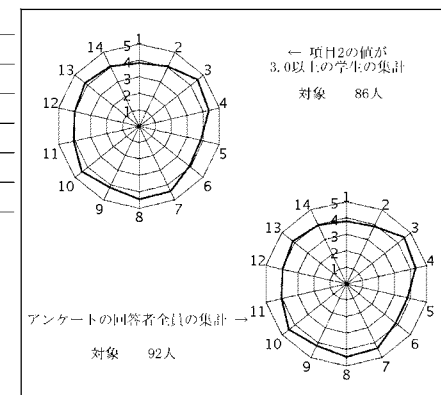


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はマーケティングの基礎的な理論や考え方および事例とマーケティング理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択必修科目（基本科目）で経営学部生の他にも経済学部や外国語学部の学生もかなり登録している。定期試験の解答を見る限り、およそ7割の学生は目標を達成しているといえる。学生の授業評価では履修登録者141名のうち39名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はともに4.26であった。学生の評価の高かった設問は、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」（4.69）、4「毎回の授業の構成や進・速度は適切なものでしたか」（4.51）、9「教員は学生の理解度に配慮し、また教科書、板書、配付資料、視聴覚資料などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」（4.51）である。一方、6「この授業の到達目標を理解することができましたか」（3.95）、7「あなたはこの授業の到達・標に向けて・がついてきていると思いますか」（3.87）である。自由記述欄には、「身近な例やCMビデオなどで説明されていたので理解しやすかった」「レジュメがわかりやすい」など好意的なコメントのほか、「後ろに座っている人がうるさい。もっと早い段階で注意して欲しかった」「学生同士で話し合うような課題を出して欲しい」という要望があった。次年度にはこれらの要望に応じて、授業中に与える課題をもっと増やしていきたいと思う。また、最初の授業で学生達に到達目標を今まで以上に周知徹底していくつもりである。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営史A  
 授業コード 42C15-001  
 教員名 中島 裕喜  
 教員コード 103065  
 登録人数 212  
 回答数 92  
 回答率 43.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

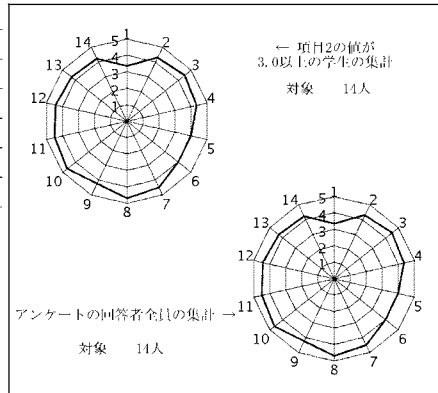


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目番号1の「授業に関心をもっていったか」というのが全体で最も低く3.79であったが、経営学部または経済学部で歴史的な内容を講義することは学生の問題意識を喚起するところからはじめなければならないため、工夫が必要であると感じているが、結果的にみて項目番号13「この授業を通じて理解が深まったと感じるか」という質問に対して4.16と上回っていたため、ある一定の数の学生には講義前よりも関心をもつようになってもらったのではないかと考えている。ただし項目5や6の到達目標については4.0を下回っているため、もう少し工夫が必要かもしれないと感じている。今回の講義では期末テストを「すべて持ち込み可」とした。これは学生に歴史が暗記物ではなく論理的に考える学問であることを伝えたかったため、あえて知識や情報について問うことをしなかったためである。それに合わせて講義スタイルも大幅に変更し、資料を学生と一緒に読み、質問を投げかけて答えてもらうようにした。これにとまどったのではないかと推測するが、もう少し趣旨を講義の最初に伝える努力を今後はしていきたいと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	投資論(実物投資)
授業コード	42C29-001
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	15
回答数	14
回答率	93.3%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年の授業目標を以下のように設定した。

- ・ 投資機会の評価を行う基本的な手法を身に付けること。
- ・ リスクと収益の関係について正確に理解すること。

これに加え、履修者数が少なかったため、多くの時間を質疑応答に割くように努力した。

問1の評価が3.36と非常に低かったことから、授業に対する興味を持っていない学生が多く履修していたことがわかる。一方、授業内で取り上げた問題を討論しながら学んだため、設問3, 4, 7, 10では70%以上の学生が高い評価をしていた。全体的な評価はやや低かったが、6割近いが区政が非常に高い評価をしており、1名だけが1の評価をしていることから、特定の学生が満足していなかったことがわかる。授業中に理解させることに努力したものの、内容の理解度は4と評価が低くなっており、今後の課題である。

今年は特定の学生による授業進行の妨げとなる行為があった以外は、速度や授業運営に大きな問題はなかった。

以上の分析を踏まえると、今年の授業目標はおおむね達成できたと評価する。今後は、履修者のレベルに合わせて授業内容のレベルを見直すことを心がけるとともに、少人数授業となった場合に備えて、満足度を高めると言われているグループワークなどを取り入れる教育方法について検討する必要があると考えられる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	デリバティブ
授業コード	42C33-001
教員名	赤壁 弘康
教員コード	100788
登録人数	9
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は回答数が0件であるため、授業評価アンケートに対しては回答することができない。

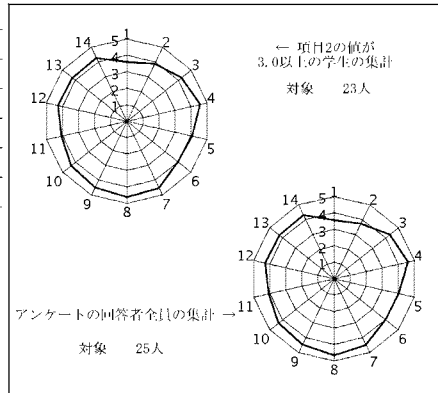
受講生数は卒業年次者を含め9名で、評価方法は授業最終日を提出締め切りとするレポートによることとした。卒業年次者が多数いたため、WebClassで事前連絡をした者は単純欠席扱いとはしなかった。講義は、市販のテキストを利用するのではなく、自作の講義資料に基づいて行った(受講生はWebClassから自由にDLできるようにした)。レポートは受講生全員から提出され、全員合格であった。理論説明が中心とならざるを得ない授業の性質上、15回授業の中で科目に関連する映像資料を視聴する機会を2回設け、受講生の理解の助けとした。

- ① ファイナンスの基礎概念の復習からブラック・ショールズのオプション評価公式の導出までは、当初の目的をほぼ達成した。時間的余裕があれば講義で触れる予定だった債券価格と利子率の関係、信用リスクとデリバティブの関係については触れられなかった。
- ② 回答数が0件であるため、数値データおよび自由記述等を踏まえての自己点検・評価は行うことができない。
- ③ 前年度研究休暇中であったため、Q1開始直前になって実際の開講Qを知る事態となり、前回開講時の反省を踏まえた講義資料の準備が十分ではなかったことが悔やまれる。次回開講時には、今年度の準備不足を補うよう、講義資料を十分に準備したい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外部監査論
授業コード	42C39-001
教員名	安田 忍
教員コード	101561
登録人数	52
回答数	25
回答率	48.1%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、財務諸表監査の全体像（監査の目的、実施プロセス、監査報告の内容）を学習し、財務諸表監査の基本的な枠組み、監査基準の内容、監査が直面する課題を理解できることを到達目標とした。

アンケート回答の時間をとり、またその後の授業時も回答を依頼してきたが、アンケート回答率は受講者の48%とほぼ半数にとどまったので、今後はもっと呼びかけを徹底したい。

アンケート結果を見ると、設問1（履修前の興味）は3.56で、分布も評価1から5までばらけていたが、設問12（理解の深まり）、設問13（満足度）とも評価3以上で、評価4、5合わせて80%を超えていることから、はじめは興味なく受講した学生も含めて、アンケート回答してくれた学生のみみんなが理解を深め、授業内容に満足してくれたものと考えられる。

自由記述は設問15についての2件だけであったが、「プリントが配られ授業の理解がしやすい」、「理解に合わせて授業を進行してくれたのが良かった」という意見があった。これらの意見は設問9とも関連するが、その結果は評価平均値4.44、評価4、5合わせて88%であり、進行や、レジュメ、資料等教材提供に配慮してきた成果が学生に受け入れられていることがわかった。監査基準の改訂が予定されているので、それに合わせて次からは授業内容の修正が必要になるが、今後もより良い教材作成に取り組み、学生の授業理解を支援していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	意識調査法
授業コード	42D06-001
教員名	安藤 史江
教員コード	019554
登録人数	22
回答数	2
回答率	9.1%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、卒論や調査に必要な統計分析の手法を身に付けることを目的として実施した。授業登録者数がかつとも少なくなつたうえに、その内容もあつたか、実際の受講者数は非常に少ない数になつてしまつた。課題が多すぎた点は見直しの必要があるだろう。実際、授業時間にアンケート入力のための時間はとつたが、受講生はレポート作成を優先したかつたようで、チャートレーダーを作れない回答数に留まつてしまつた。見直しが必要と感じている。

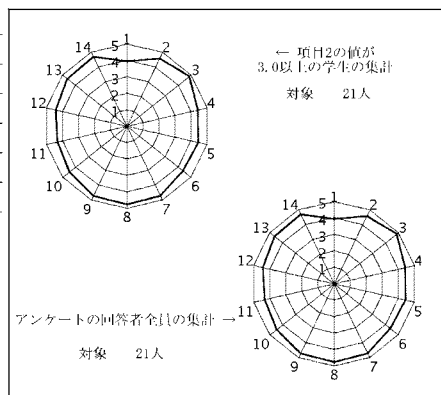
一方で、最後まで受講を続け、レポートの提出にまで至つた学生は、皆、必要最低限の分析スキルを身に付けることができたこと、レポートを採点する中、認識される。たとえば、最後まで参加した受講生の中にはゼミ生が多く含まれていたが、皆、かなりの難易度のアンケートデータ分析が可能になり、そのスキルをQ2で活かしているところである。

つまり、努力した学生には期待する成果が得られたが、脱落する者も多かつたことから、こうした分析スキルに関する授業は、受講生たちがその内容を消化したり、吟味するための時間が十分にとれるので、可能であれば、週に2回、1限ずつというよりは1週間に1回、2限続けてという形式のほうが適していた可能性があると考えられる。

もし同じ形式で来年度この授業を実施する場合には、目標水準は維持する一方で、受講生にとっての負担感を減らす工夫をして運営していこうと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析A
授業コード	42D09-001
教員名	奥田 隆明
教員コード	102600
登録人数	49
回答数	21
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

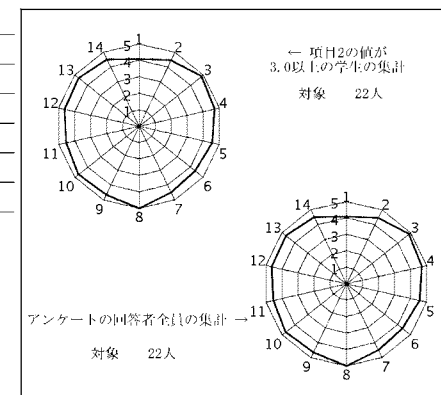


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、リニア中央新幹線のインパクト分析を例に取り上げて講義と演習を実施した。数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習を行いながら授業を進めた。しかし、当初の目標は概ね達成することができたと考えている。実際、受講生の目標理解（設問6）については平均値4.38（学部平均3.86）、目標到達（設問7）についても平均値4.71（学部平均3.83）と高い値を示している。また、受講生の知識・理解（設問13）については平均値4.62（学部平均4.13）、総合的な満足度（設問14）についても平均値4.67（学部平均4.08）と高い値を示している。しかし、自由回答欄を見ると「分かりやすい」という指摘がある反面、「進むのが速い」との指摘も見られる。来年度は、今年度の経験も活かしながら、数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にさらに理解できる内容にすることを心掛けたいと考えている。また、シラバスの説明についても改良を加えたいと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営戦略論A
授業コード	42E13-001
教員名	上野 正樹
教員コード	101365
登録人数	28
回答数	22
回答率	78.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

経営戦略論Aは、サービス企業に関するビジネスケースをもとに、学生同士のディスカッションによって授業を進めた。登録人数28人、月曜4限と木曜4限、毎回の授業準備に1時間前後の予習を要求した。アンケートの回答者は22人、回答率78.6%である。設問1～14の平均値は4.59、設問3～14の平均値は4.65であった。

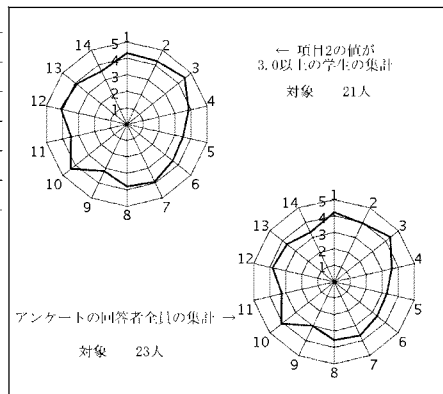
設問2「予習・復習、主体的な授業参加」の平均値は4.45、設問6「到達目標に向けて力がついてきている」は4.36、設問13「新しい知識の獲得、理解の深化」は4.68であった。論理的思考力の獲得という授業目標について、7割ほどの学生は到達している。

自由回答には次の記述があった。発言・ディスカッションができて良い（7人）、論理的思考の力がつく（3人）、考える力がつく（2人）、面白い・楽しい（3人）、知識と自分の発見につながった（1人）である。また、欠席した授業の内容を知りたい（1人）、難しいケースがあった（1人）、積極的な討論参加者は一部（1人）という記述もあった。

シラバスに予習と論理的なディスカッションの意義を記述し、受講生を増やすようにする。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(総合商社論)
授業コード	42F01-001
教員名	澤井 実
教員コード	103270
登録人数	94
回答数	23
回答率	24.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

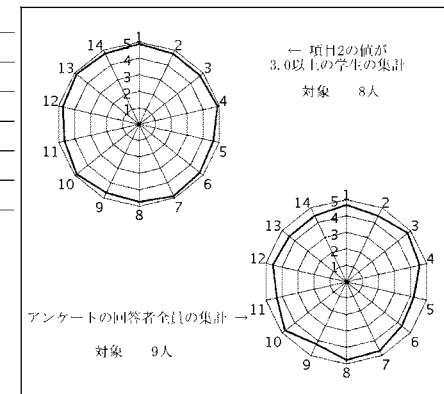


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 講義目標としては、世界的にも日本以外には存在しない総合商社の成立事情、戦前の総合商社のモデルとなった三井物産の経営特質と、それと比較した場合の鈴木商店の挫折の原因、戦後改革と総合商社の関係、関西系商社の総合商社化、高度成長期の経営展開、「商社・冬の時代」における経営革新、21世紀に入ってからの7大商社の経営展開、今後の課題等のトピックスを掲げた。基本的事項については解説できたが、中部圏初の総合商社である豊田通商についてはもう少し具体的な説明を加えてもよかった。
2. 講義を聞いて自己の判断でノートを取り、不明な点については質問することを学生に期待しているが、アンケート結果からはもっと多くの事項を丁寧に板書することが求められていることが分かる。授業中に分からないことがあればその場で質問するようにと何度も発言しているが、質問はほとんどない。授業終了後の質問は内容をよく理解した上での優れた質問があるが、その人数は少ない。
3. 板書の文字が読みづらいとの指摘を多数受けたので、丁寧な板書、箇条書き等に心がけたい。ノートをとることに慣れていない学生が多く、講義中にノートの取り方についても指導しなければならない。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	職業指導
授業コード	42F09-001
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

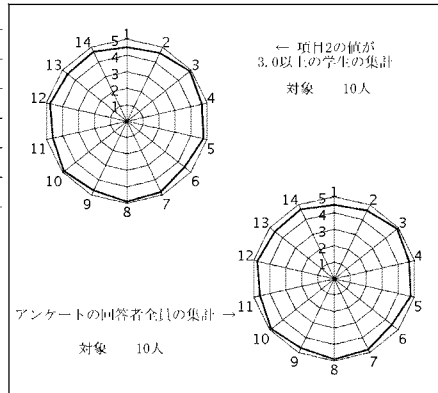


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本科目は経営学科の関連科目であり、かつ教員免許取得（高等学校商業科）の必修科目として設置されている。そのため受講者が将来教壇に立ち、高校生に向けて職業指導を行うさいの基礎的知見の修得を、講義の目標に掲げ、授業計画を立てた。具体的には、発達心理学に基づくキャリア論、およびビジネス、若者、女性など今日的なテーマごとに関する文献をもとに講読を行った。また、高校生向けの導入教材を製作させる課題を出し、受講者グループによる製作と試技を行った。当初の予定通り、今期の授業計画を実施できたと考えている。
- ② 受講者からの評価はおおむね良好であった。出席率も高く、講義内容にも満足していることがうかがわれた。1つの要因として、初回授業で講義概要を詳しく説明したため、興味をもてない学生の多くは登録変更し、より興味のある学生が履修を継続したことが推測される。毎回、少人数でインタラクティブな質疑応答型の授業を実施できたと考えている。
- ③ 結果として履修者数はかぎられることとなった。そのため教職課程を履修しない受講者にも、自らのキャリア・マネジメントやキャリア発達に興味を持てるよう、講読する文献のラインナップに工夫を凝らした。所期の講義目標を適えるべく、次期以降も講義の準備に取り組みたい。ただ、「学生による授業評価」への参加を後半2週にわたり促したものの、回答率が低調だったことも次期の課題と考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ビジネス・ディスカッションA1  
 授業コード 42G10-001  
 教員名 BIERI, Thomas  
 教員コード 102517  
 登録人数 11  
 回答数 10  
 回答率 90.9%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回

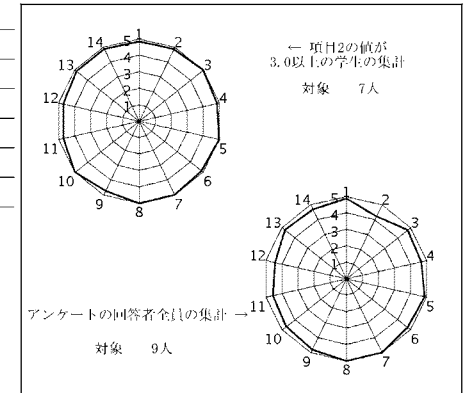


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students engaged in teamwork and discussion in English largely as planned. They also learned about the content: issues real businesses face. Learning objectives were achieved by all students. All evaluation scores were 4.5 or above and all those related to the course and teaching were above the general averages for courses. Comments were all positive except for one, which indicated they thought preparation time for presentations was a little short. However, no one suggested any changes. I understood the point about the presentations, but the course is not strictly a presentation course. The presentations are short assessments intended to reflect the student's understanding and application of the themes in each case as we finish it and ability to discuss them in English and as such should not require significant additional work. Active and engaged students generally have no problems with them. I continue to adjust the materials and my teaching every quarter to both reflect my experiences with previous teaching and accommodate each unique set of learners as much as possible.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 TOEIC Preparation1  
 授業コード 42G14-001  
 教員名 HEATHER, James  
 教員コード 103649  
 登録人数 49  
 回答数 9  
 回答率 18.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

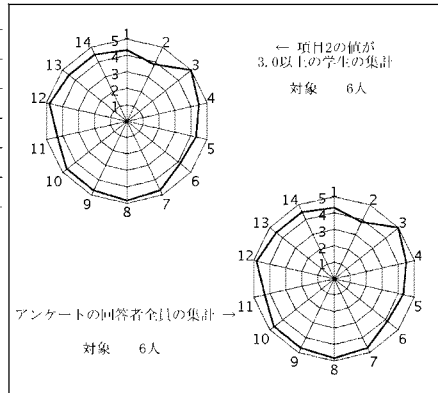
The goals as set out at the beginning of the course was to increase the student's TOEIC score. I cannot say whether the scores have improved but I can say with confidence that we did study tips and hints on how to approach the test and these tips and hints were supplemented with practice tests. This was another goal of the course at the outset.

From speaking directly with students they enjoyed the course and many said they feel more confidence in taking the TOEIC test. Attendance to the class was high which also leads me to believe that students felt the value of the course.

I am teaching this course now in Q2. Having the experience from Q1 is valuable. So long as I am teaching this course it will continue to get better over time. For this Q2 course I am trying to incorporate some more fun activities away from the textbook. I feel that it is important not to focus too intensely and that some light hearted TOEIC related fun activities will help keep students motivated.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	International Management A<国際科 目群>
授業コード	42G17-901
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	6
回答数	6
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

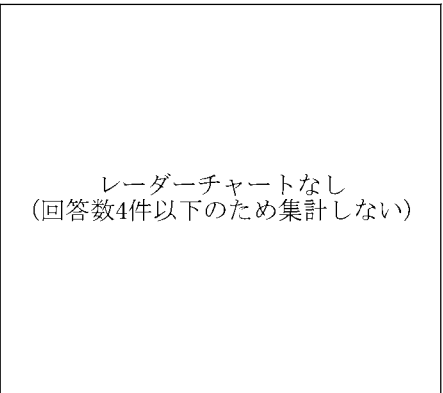


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objective of this course, among others, is to help students understand a range of complex factors that underlie operation and management in any multinational enterprise. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding “participation in the class” (Q1 to Q2), compared with the scores of 3.96 and 3.96 for the courses in the band of 42001~42H04-999, the scores of this course were 4.33 and 3.83. Regarding “evaluation of the course in general” (Q3 to Q7), compared with scores of 4.70, 4.25, 3.86, 3.83, and 4.31 for all courses, the scores for this course were 5.00, 4.50, 4.33, 4.17, and 4.67. Regarding “evaluation of the class management” (Q8 to Q12), compared with scores of 4.56, 4.19, 4.16, 4.04, and 4.23 for all courses, the scores of this course were 4.83, 4.67, 4.67, 4.33, and 4.83. Regarding “overall evaluation” (Q15 to Q17), compared with scores 4.13 and 4.08 for all courses, the scores of this course were 4.50 and 4.50. All these are higher than the averages. It appears that compared with the other courses in this band, the evaluation of this course was very high. As to “overall impression of the course” (Q15 to Q17), the students gave some very good comments, which I find profoundly encouraging. At this moment, I feel that the course contents, study materials, and class delivering style are very sound. However, I am looking forward to delivering more effective lessons in the coming year.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(ビジネスと消費者 行動)
授業コード	42G25-001
教員名	石垣 智徳
教員コード	101889
登録人数	26
回答数	1
回答率	3.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

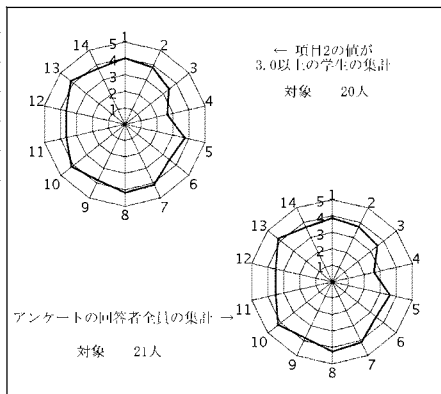
設定した目標は「消費者の行動に関する理論枠組みを用いて様々なマーケティング現象を解釈できるようになる」と「消費者行動とマーケティング・リサーチに関する英語専門用語の語彙を増やす」である。内容理解のために個人発表機会を少なく設定し、グループによる意見まとめと発表を行ったため、理論的な枠組みや知識の習得は出来たと考える。また、個人の発表では翻訳はほぼできており目標の語彙の増加も達成できていると考える。

Q1からQ14の評価としては、Q6が3、Q9、Q10、Q11が4であったが、その他のQについては5であった。目標が達成についての評価が3であることは教員側の認識と違うため、今後の課題としたい。また、学生への注意や教材、授業内の工夫についても4となっているため、さらに改善努力を行いたい。

今後については、授業目標の確認と自己能力の向上が認識できるような工夫を行い、学生が学習する環境等の改善を続けたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法と人間の尊厳1
授業コード	10D05-001
教員名	服部 寛
教員コード	103600
登録人数	33
回答数	21
回答率	63.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

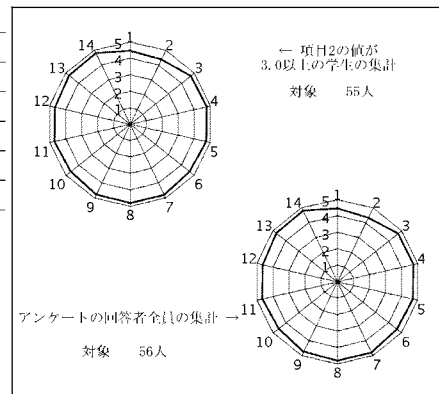


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた「学習の到達目標」については、レジュメやスライドを効果的に用いることを通じて、授業を担当する側の視点からではあるが、達することができたと言える。アンケートの各項目について、昨年度の同一科目における評価に比べて、総じて（大幅ではないが）数値が上がっていることから確認することができた。この点で、昨年度の同一科目より改善が見られたと評価できる。他面で、講義の全体の内容が総花的であり、かつ多彩な難問を扱うことから、授業の進度（とりわけ前半部分）で、当初に予定していた「授業計画」から、ほぼ恒常的に遅延することになってしまった（設問4の手厳しい評価はこの点に関する）。この点は後半になり挽回したが、全体の内容をよりタイトにしたり、幾つかの回の内容を変更するなど、改善を試みたい。各項目につき、まだ安定した高い評価を得ているとは言い難いことは否めない。本講義を開講してからまだ2年目であり、自分でも改良を施したい点が存するため、講義全体の完成度を高められるよう、努力をはかっていきたい。なお、自由記述における回答で、終了の時間について「ほぼ毎回の授業で延長していた」というものがあるが、これは事実誤認であり、数回において、数分程度、延長せざるを得ないところがあったものの、授業の開始・終了については、ブザーに従いきちんに行っていたことを付言しておく。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳7
授業コード	10D06-007
教員名	森山 花鈴
教員コード	103223
登録人数	134
回答数	56
回答率	41.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

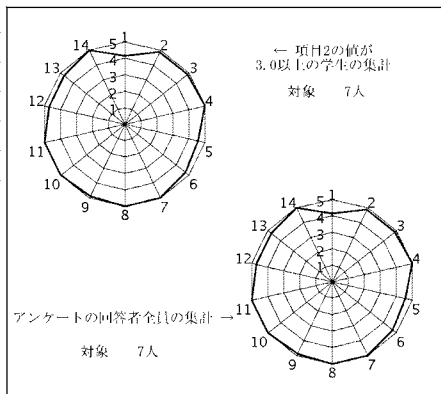


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標については到達していると考える。「性と生命をめぐる問題」について学生自身が真剣に考え、知識を蓄えるだけでなく自分自身で課題を考えることができるようになったことがリアクションペーパーやレポート課題からも感じ取れた。
- ②すべての設問において、大学全体の平均値、「人間の尊厳」科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値を超えることができ、設問1～14の平均も4.67（設問3～14の平均は4.72）となっているが、その中でも設問2の予習・復習の項目については4.32とやや低いため、復習だけでなく予習用の話題を提供するなど、もう少し改善していきたい。
- ③自由記述欄では、人数の多い授業ではあったがリアクションペーパーを通じて毎回学生からの質問に答えていたことへの評価と、適宜映像教材も併用した点に対する評価もあがっていた。「説明が分かりやすく理解しやすかった」といった評価もあり、今後もできる限りわかりやすい授業を心がけていきたいと思う。今後も、授業運営の方法を適宜見直しながら丁寧な授業を心がけていきたいと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倫理学2  
 授業コード 12A09-002  
 教員名 ALVA, Reginald Joaquim  
 教員コード 102369  
 登録人数 9  
 回答数 7  
 回答率 77.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

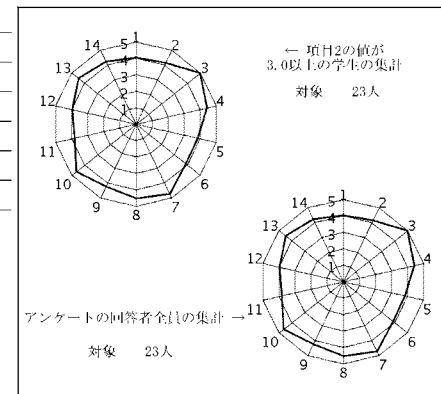


授業評価結果を踏まえた点検・評価

倫理学の授業の対象は全学部学生なので様々な学部の学生がこの授業を履修しました。様々な学問に励んでいる学生たちに倫理学について教えることは大きなチャレンジでした。また、この授業ではキリスト教の観点から見る倫理について紹介するので学生はキリスト教について一定の知識を持つことはかなり重要でした。けれども、様々な学部かつ様々な学年の学生がこの授業を履修するためすべての学生に合わせる授業を構成することは難しいことでした。そうではありますが学生の意欲を引き出すために工夫して授業を進めました。学生たちが授業内容についてよりよく理解できるように映像資料を作成しました。学生たちは授業の課題をよく理解することができたと思います。また、ほとんどの学生が授業の到達目標を達成することができたと思います。質疑応答のために毎回授業中に質問コーナーを設けました。それはとても効果的だったと思います。学生たちは気楽に教員とコミュニケーションをとることが出来たと思います。また、教員も学生たちの意見等に耳を傾けることが出来たと思います。これからも学生たちが良い教育を受けられるように努力をしたいと思ひます。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本国憲法3  
 授業コード 12C03-003  
 教員名 三上 佳佑  
 教員コード 103637  
 登録人数 31  
 回答数 23  
 回答率 74.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

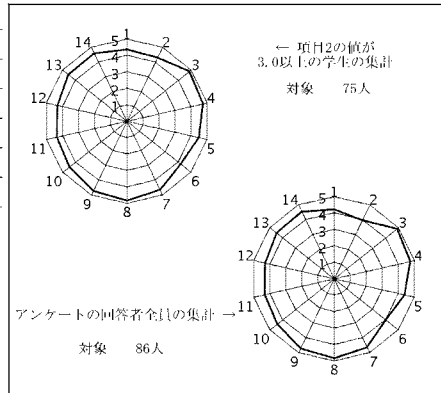


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当初の講義計画通り、全ての内容を遺漏なく講義できている。従って、飽く迄も教員の主観としては、伝えるべきものは伝えられており、講義の目標は十分に到達できたと考えている。
- ②項目3～14の平均値も4.3を超えており、概ね満足できる結果であると考へている。全ての回の講義でレジュメを作成・配布したこと、レジュメの内容を厳選して学生の理解に資するよう努めたこと、レジュメに穴埋め式を取り入れ、学生が手を動かすようにしたこと、リアクションペーパーへの教員からのリアクション（教室に向かって紹介すべき重要な意見に関しては授業で紹介する・質問が含まれている場合は授業中に回答し、教室全体で問題を共有する）を徹底したこと、これらの工夫が反映されたものと考えている。ただし、講義の到達目標が学生において必ずしも理解・共有されていた訳ではなさそうな点は、反省の必要がある。「憲法を学ぶことによって、社会科学的教養の度合いを高める」というリベラルアーツ的曖昧さを前面に押し出す講義はそれとして価値があると私自身は理解しているが、学生はそれを「曖昧」と評価したということだろう。
- ③今回の講義方式と、学生からの高評価は、少人数の講義であるからこそ可能なものであった。次クオータは大幅な増員が見込まれており、授業方式は大きく変更せざるを得ない。「わかりやすく伝えること」の度合いをブラッシュアップさせることに注力したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相6  
授業コード 13C06-006  
教員名 長谷川 一年  
教員コード 103576  
登録人数 187  
回答数 86  
回答率 46.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

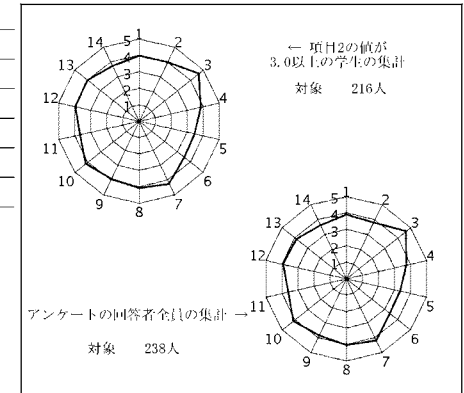


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業の目標として、(1)今日の国際社会の政治状況を歴史的観点から理解すること、(2)国際社会における日本の地位と役割について議論すること、(3)現代社会のトピックスについて主体的に学ぶこと、の三点を挙げた。アメリカからヨーロッパ、中東から東北アジアにかけて世界諸国が現在直面しているさまざまな政治課題を概観し、それらを各国の歴史的背景と国際比較の観点から理解することを通して、先の目標はおおむね達成できたように思われる。
- ②授業評価の数値データを見るかぎり、おおむね良好な回答が得られていると思われる。今後も基本的にはこれまでと同様の方針で授業を進めていきたい。
- ③自由記述のなかに、「DVDなどの視聴覚教材をもっと見たかった」という意見が二、三あったが、授業回数の制限ゆえにむずかしいところもある。改善可能な点としては、自主的な学習を促すとともに質問・相談の機会を十分に保証するために、リアクション・ペーパーの実施を考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 憲法A  
授業コード 44A05-001  
教員名 菅原 真  
教員コード 102064  
登録人数 296  
回答数 238  
回答率 80.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



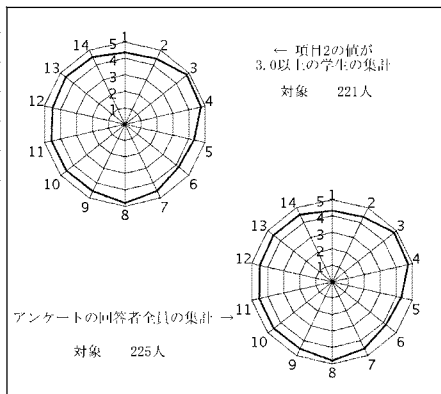
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 学科科目である「憲法」は、法学部生が主対象であるため、憲法の体系的理解を行うことを目標としている。到達目標としては、各論点について、学説・判例を学び、それを理解し整理するとともに、もっとも合理的で説得的な解釈を自分なりにしっかりと考えながらまとめ、論述できるようになることである。学部1年生としては難しい課題ではあるが、毎回教科書で予習を行い、授業に出席して重要な点を理解するとともに論点を整理し、判例集で復習をすれば、十分到達可能な内容である。そのため、授業では毎回学生の自主的学習のためにレジュメ・資料(判例要旨)を配布し、また重要な論点については白板に記し、授業中マイクで学生に解答してもらうことで理解を促した。
- (2) 数値目標は3.86と必ずしも良い評価とはいえないが、自由記述欄を見ると、レジュメの内容や板書の読みやすさを評価する意見が多い。しかし、レジュメの文章量が多すぎるとか、レジュメの要点がわからない等の意見もあった。90分の授業は長いので休憩を入れて欲しいとの意見もあった。配布資料の中には判例の判旨及び少数意見も入れているので、資料部分の文章が長くなるのは当然である。そこで判例や少数意見の大事な部分には下線を引いて、授業でも紹介している。履修学生には、お気軽に楽に得られる知識だけでなく、きちんと文章を読んで論理的に思考する訓練をして欲しい。授業内容は、1年生でも理解できる内容にしているつもりであるが、300名程が履修する大教室での授業では色々な学生がいるので、できるだけゆっくりと話し、わかりやすい解説を心がけていきたい。
- (3) 次クォーターでは、よりわかりやすい解説を心がけるとともに、いまどきの学生のニーズに応じて、途中時間に休憩を設けることにしたい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 裁判法  
授業コード 44A12-001  
教員名 小原 将照  
教員コード 102897  
登録人数 276  
回答数 225  
回答率 81.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

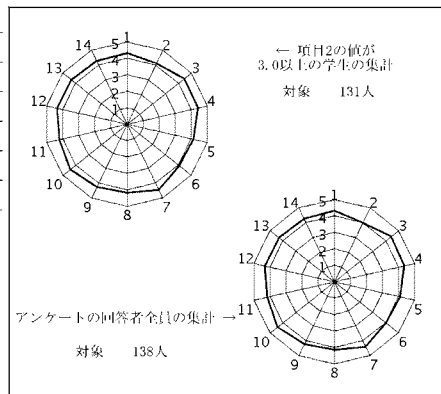


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標への到達については、学生全体の評価から考えると十分達成できたものと思われる。教員の個人的意見としても、少なくとも講義をしっかりと受講しようという学生については、満足のいく成果をあげられたと考える。
- ②総合的に考えると、本講義の全体的な満足度は高く、また教員としても学生に対して魅力的な講義を提供できたと考えている。ただし、学生からも指摘されている点については、教員自身も自覚しており今後改善すべき課題であると思われる。しかしながら、それを実現するためには、少なくともQ制度を廃止してもらるか、金銭を払って採点・添削してくれるアシスタントの存在が不可欠である。教員個人が投入できる時間的資源は、すでに使い尽くしている状況である。
- ③今後の課題としては、大人数の講義であるが、学生一人一人と向き合う機会を設けたいと考えている。個々人に対して簡単なコメントを返すことができれば、より充実した講義内容を実現できると考える。ただし、そのように努力をしている教員に対して、何ら評価をせず、また報酬等の支払いもなければ、授業改善に対するモチベーションは高くなると考える。執行部の前向きな対応を期待する。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代社会と刑法各論A  
授業コード 44B07-001  
教員名 末道 康之  
教員コード 100587  
登録人数 388  
回答数 138  
回答率 35.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

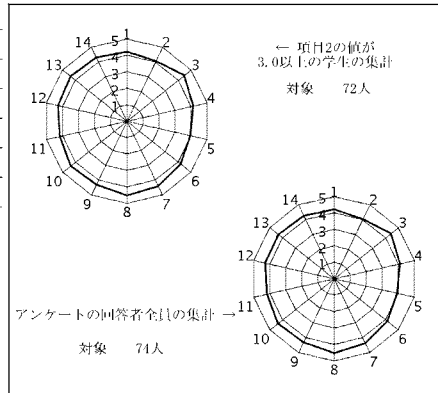


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均4.25、項目3～14の平均4.26という結果であった。開講時に設定していた授業内容及び授業目標についてはすべて達成したと考えている。毎年、講義案を配付してそれに基づいて授業を行っている。講義案については自由記述を見ても非常に有益であったという評価が多かったが、来年度に向けてさらに内容を充実させるつもりである。授業内容の範囲が広いいため、講義案にそって授業を行っているが、時間の関係で重要な論点を中心に説明し、細かな部分まで詳細に授業で触れていないところもある。そのような部分については自習をすることが前提になっているので、履修者には自から深く掘り下げて勉強してもらいたいと考えている。板書については、後部座席の人にも見やすいように心がけているつもりであるが、さらに、読みやすくするようにしたいと考えるが、講義案を配付しているのは、板書を多用せずに済むようにという意図もあるので、履修者も読みにくければその場でその旨担当者に伝えてもらえればと考えている。今年度の意見などを来年度に授業内容に反映させ、さらに改善に図るつもりである。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	契約法A
授業コード	44B17-001
教員名	平林 美紀
教員コード	100773
登録人数	302
回答数	74
回答率	24.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度と同じ科目で授業評価を受けた。受講者数の点では変化がなく、受講生自身の興味関心や到達目標達成の実感等は平均値が上がっているのに対し、教員に対する項目は、軒並み0.1~0.3程度下げるといった結果になった。このような評価の低下は、自身の評価とも一致するところであり、大いに反省している。以下、紙幅の都合上、主たる2点につき、反省点と改善方法を述べる。

第一の反省点は、項目4（毎回の授業構成・進行速度）である（2017年度4.43→4.12）。改正民法の内容を昨年度より多く盛り込むことによって、内容のボリュームを単純に増すことになってしまったため、授業後半にいたって早口であることが多くなったことを自覚している。また、自由記載欄には、「最後の授業でレジュメをばらまくのはNG」という率直な意見も寄せられた。その通りであると思う。こうしたことが、項目9（学生の理解度への配慮）の評価低下（4.44→4.28）にもつながっているのであろう。

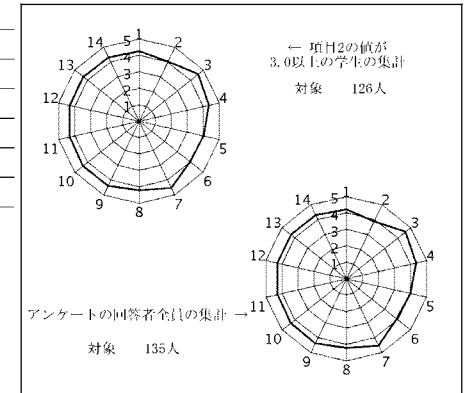
内容的に連続する科目である「契約法B」がQ2で早速始まっているので、改正法と現行法とを十分に整理した形で伝えていくために、これまで以上に授業準備に時間をかけたい。また、「契約法A」の内容で「契約法B」でも必須の知識については、「契約法B」の受講生にも配慮して従来も説明してきたが、要点を絞って、復習・補充することとしたい。

第二の反省点は、項目3（授業の開始・終了時間）である（4.73→4.44）。数分の遅れが度々あっただけでなく、鍵を忘れて取りに行くということがあり、その際に授業評価をしておいてもらうよう指示をした。項目7（担当教員の取組態度：4.77→4.39）と共に大きな評価低下を招いたことは、自業自得である。

時間厳守を心がけることを約束したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法A
授業コード	44B25-001
教員名	渡邊 泰子
教員コード	101553
登録人数	269
回答数	135
回答率	50.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

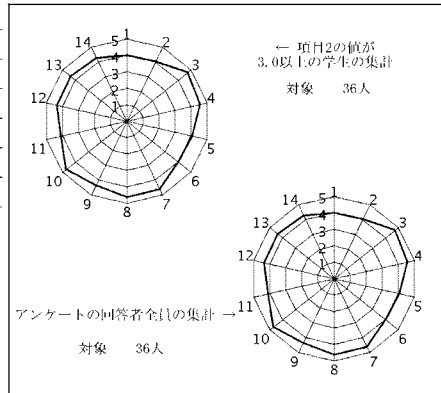
この授業は、民事訴訟手続の基本構造を理解し、民事訴訟法に関する体系的な知識を修得することを到達目標としていた。今回の授業評価で到達目標に関する設問5は3.99、設問6は3.95であることから、目標達成の実感を得られていない学生がいることがうかがえる。授業評価項目全体の平均値は4.25（設問3~14は4.29）となっており、授業の満足度に関する項目14が4.30であることから、全体的にはおおむね良好であったと受けとめている。

今年度より予習用にテキストを指定し、次回学ぶ内容につき予め読んでくるよう促した。復習用にはレジュメ末尾に問題「考えてみよう！」を掲載し、次回授業で解答・解説をおこなった。自由記述で、この問題があることで勉強をする気になったというコメントもある一方、関連する項目2が3.87に留まっていることから、多人数の授業で主体的に参加させることは難しいと感じている。

自由記述では、改善すべき点として挙げられている声量や文字の大きさにつき、マイクのボリューム調整やホワイトボードの使い方の工夫で対応したい。評価できる点として、レジュメの内容や授業での説明の仕方につき好意的な意見が多く見られた。前年度の試験問題を配布し解説した点についても評価されているが、過去問を実際に解くことで学生に自らの理解度を認識させ、解説を聴いて頭の中を整理できるのではないかと考えたこととおこなっている。今後も、難しい内容の学問でも学生が学ぶ楽しさを実感できるよう心がけたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法A  
授業コード 44B29-001  
教員名 青木 清  
教員コード 017855  
登録人数 104  
回答数 36  
回答率 34.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

クォーター制初年度のこの科目は、受講者が85名であった。それが、今期は200名になり、例年並みの規模となった。評価の方も、項目3～14の中で3点台のものが3項目存在したが、今期はそれが0となっている。この点も、例年並みになったといえる。

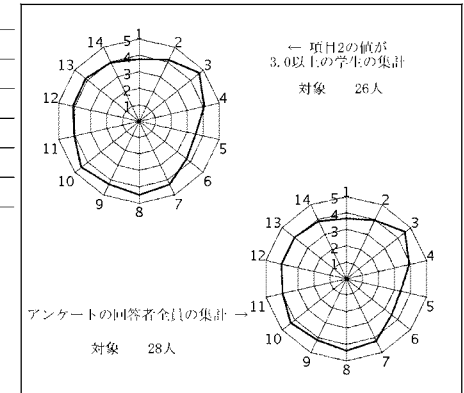
昨年度と今年度の違いはといえば、履修しやすい時間帯に科目を設置したということぐらいである。そうした点からすると、やる気のある学生の受講が多くなったといえるのかもしれない。

そうした中で、気になるところといえば設問15に対する回答数の少なさである。今回は、わずか3件であった。昨年度は、受講者が少なかったにもかかわらず14件の回答があった。この辺りは、学生の「授業評価疲れ」があるのかもしれない。

クォーター制が始まったものの、学生による授業評価のシステムは従来からのやり方を踏襲している。少し、運営の仕方を検討する必要があるように感じられる。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋法史A  
授業コード 44B35-001  
教員名 田中 実  
教員コード 017038  
登録人数 69  
回答数 28  
回答率 40.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

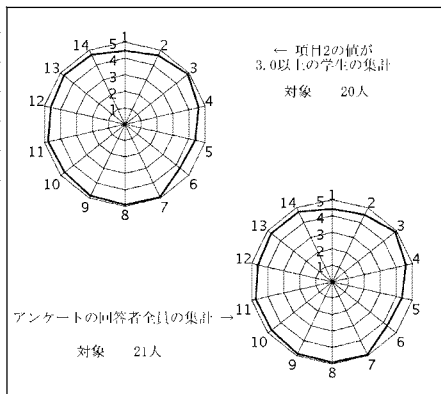


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は例年に、とりわけ昨年度に比べ、受講者数が少なく、落ち着いた雰囲気でき講義をすることができた。例年ほとんど書かれることがなかった個別の記述欄で、数人から肯定的な評価が書かれていたことは、そのことの表れかも知れない。もっとも4年次生の受講者には出席が難しいことが顕著に現れており、担当者としては、試験にあたっては不安を払拭するため、例年になく、勉強すべきことを明確にしたつもりである。とはいえ、講義で強調したことでなく、教科書の通り一遍の説明をする答案が多かったのも事実であり、この点、担当者として反省している。もっとも、試験結果は例年に比べて特段悪くなく、目標到達という意味では、安心している。教科書で予習・復習すべきページをはっきりと述べることを回数を増やし、教科書と配布資料の敷衍との有機的な連関をはかることを心がけたが、必ずしも成功しなかった。これがいくつかの項目の低い評価に繋がっていると思われる。資料の分量が漸次的に増えているので、より勉強したい学生のために削除する予定はないが、平均的な学生にとってメリハリをつけた説明を心がけたい。また、今回の評価から、法学部の中でいわゆる六法科目ではないため、科目の性質につき、より基本的な説明を最初により丁寧にすべきことを痛感した。この点も今後工夫をしたいと考える。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読A(英語) 6
授業コード	44B50-006
教員名	中田 裕子
教員コード	103638
登録人数	22
回答数	21
回答率	95.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標の到達の程度について

昨年度に担当した同様の科目の反省を基に、今年度は目標を達成可能であろう程度に抑えた。結果、学生自身がしっかり達成できるよう各自努力していたように思われる。授業初期では訳語選択に迷っていた学生が、適切な訳語を選択するために知識をえて、調査方法を理解し、一番最後に提出させたレジュメにおいては、学生の訳語が適切且つ洗練されたものに変化しており、目標を十分に達成してくれたと感じている。したがって、目標設定は適切であったと感じている。

②総合的な自己点検・評価

本科目は、「海外法文化研修履修者への履修推奨」科目に指定しており、実際多くの学生が該当学生であった。留学しても十分対応できるようにと英語の知識も含め、丁寧に解説したのが高評価に繋がったのではないかと感じている。

③次クォーターへむけての改善点・今後の抱負

今学期の「Brexit」は、学生自身が「民主主義の意義」「国民投票の重要性」を理解する上で大変優れた教材であったと確信しており、今後もこのテーマで続けていきたい。ただ、留学予定者にとっても留学しない国の話を中心となるので、今後はその点をもう少し加味して授業運営をしたい。また、今年度同様に適宜映像資料等も含めて提供したいと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読A(英語) 7
授業コード	44B50-009
教員名	家田 崇
教員コード	102459
登録人数	15
回答数	1
回答率	6.7%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

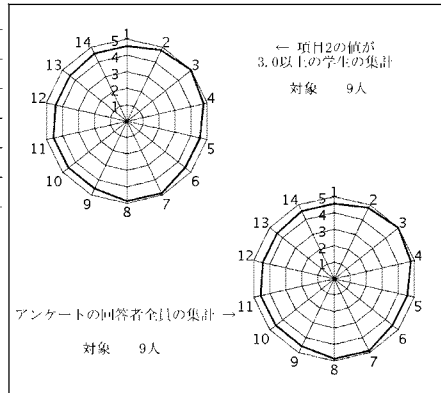
①開講当初に設定していた目的としては、アメリカを中心に、企業に関連する法的問題点の英語の購読を通じて、アメリカの企業法制において問題とされている点を理解するとともに、私法領域および企業法制度に関連する、基本的な英語の素養を身につけることを設定していた。授業では、一定量の文献を購読することができ、また、参加者には毎回予習と復習を通じて、それぞれの英語力と企業法制への理解の向上を測ることを目標として明確に設定し、各回の授業においてその度合いを確認していったことで、一定程度目標が達成できたのではないかと考える。

②当初から予想していたことではあるが、アンケートが十分に実施されているのか、参加数などから今後の推移を見守る必要があると考えている。

③外書購読について、常々指摘されている問題点としては、受講者の対象言語のスキルにばらつきがあり、焦点が絞り込みにくいことが挙げられている。今回、授業を進めるにあたって、予習範囲を明確にし、また、全員が購読文献の全範囲を必ず予習することを義務付けたことから、この予習をこなすことができる受講者に、対象を絞り込むことができた。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	外書講読B(英語)2
授業コード	44B51-002
教員名	沢登 文治
教員コード	017863
登録人数	12
回答数	9
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の「外書講読B(英語)2」は、2Qに実施される法学部海外法文化研修(カナダのカルガリー大学)に参加する学生をターゲットにして、出発前に、北米の法文化全体の特徴等について、および、カナダの法制度について、英語文献等を使って学習するために2018年度から設置された科目である。この点を前提に、以下、設定されている項目の順番に評価報告をする。

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

質問項目5・6が到達目標に関係する項目であるが4.56という結果であった。北米の法文化、カナダの法制度を理解するという基本目標はある程度達成できたと思われる。

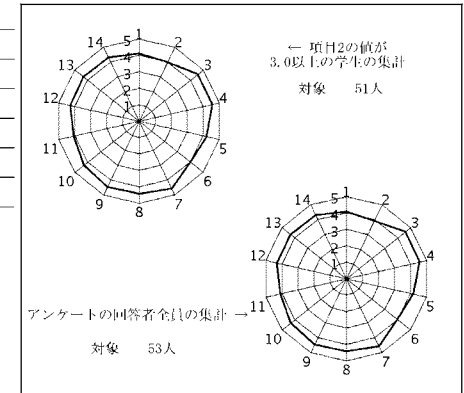
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

通常低い数値となる項目2(予習・復習、主体的授業参加)について、4.78という高い結果となったことは、以外でもあったが嬉しくもあった。毎回(週2)担当者はレジュメを作成し、それに従って翻訳および内容の解説をして授業を進めるスタイルが、功を奏したと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
カナダ海外法文化研修参加者をメイン・ターゲットにして受講者を募集したのだが、時間割の関係で、受講者14人の内、該当者は1人だけで、他は海外法文化研修には参加しないが興味があるから受講したという学生であった。それはそれで良いが、より多くのカナダ海外法文化研修参加者の受講が可能になるよう、時間割調整を心がけ、より効果的な英語学習および海外法文化研修の実施に繋がるよう、努めていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境法
授業コード	44C07-001
教員名	洞澤 秀雄
教員コード	102443
登録人数	211
回答数	53
回答率	25.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



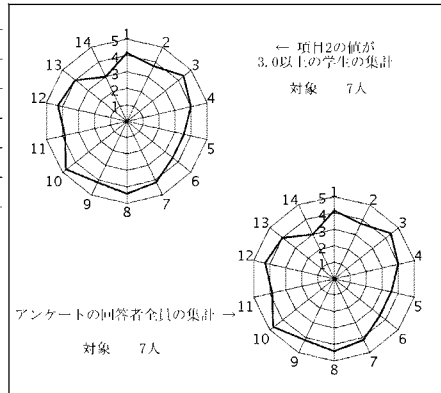
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業については、開講当初の目標よりも少し進みが遅くなったため、最後は尻切れとなってしまった感がある。メガソーラーに係る追加的資料の説明などに時間を使ったことなどに原因があるが、来年度以降は進行状況に気を付けたい。

全体の評価として、3.9~4.5程度の評価を頂いた。2の主体的な取組み、11の積極的な授業参加について、多人数講義ゆえに少し低くなっているが、以前に比べてレジュメを工夫したため、多少は改善された数値になっていると思われる。他方で、6の到達目標に向けて力が付いたかについての総体的に低い評価が気になる。環境に係る様々なテーマを扱うがために、話が多少散漫になり、到達目標との関係が不明確になったのではないかと推察する。来年度以降は、到達目標としての環境法の全体像、考え方を意識しつつ、講義を進めたい。レジュメについては、比較的好意的に評価していただいたようで、自由記述にもそれが表れている。来年度以降も、多人数広義だができるだけ主体的に考えられる授業ができるよう、レジュメにおける工夫もより一層行っていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法学 / Legal Studies
授業コード	48C13-001
教員名	佐藤 勤
教員コード	101599
登録人数	7
回答数	7
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

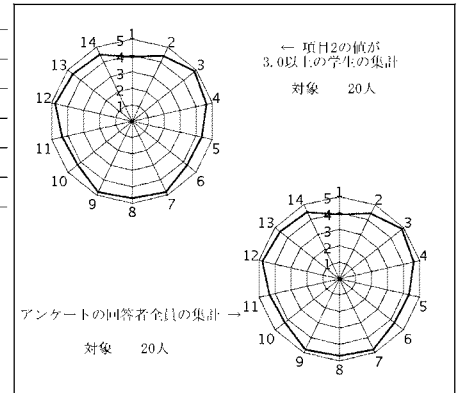
本授業では、近年議論が行われている企業の社会的責任を理解することを最終的な到達目標とした。そのため、前半（10回）は、それを理解するための会社法の基礎的な知識を、我が国の判例、イギリス・アメリカの法令・判例など、多様な教材を用い、授業を行った。後半（5回）では、その発展・応用として、企業のコーポレートガバナンスの問題、ESG、SRI、サステナビリティを取り上げた。

法学部ではないので、具体的な法律解釈ではなく、会社の概念の理解に注力した。また、国際的視点で、かつ教養として、我が国の会社制度のみならず、イギリス・アメリカの会社制度の含め、概念を理解することに重点を置いた。このように、法律の基礎の習得を目的とするのではなく（15回で基礎から習得することは困難）、会社の現代社会における機能・役割の概念、特に社会の中での会社の責任を理解することが目的であったにも関わらず、授業のフリーコメントでは、「もっと本当に基礎的なところから教えてもらえるとよかった」との意見があった。

授業評価の評点では、項番1（興味をもっていたか）の評点平均が4.17であったにもかかわらず、項番14（満足したか）が3.00であったことは大変残念であり、反省すべき事項である。この原因は、授業評価の評価項目では判断できないが、来年度以降、より範囲をしぼり、基礎的な事項も説明するなどの改善を行うなどのよって、満足度の向上を図っていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策外国文献講読I(英語)3
授業コード	70101-003
教員名	野口 博史
教員コード	100473
登録人数	43
回答数	20
回答率	46.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

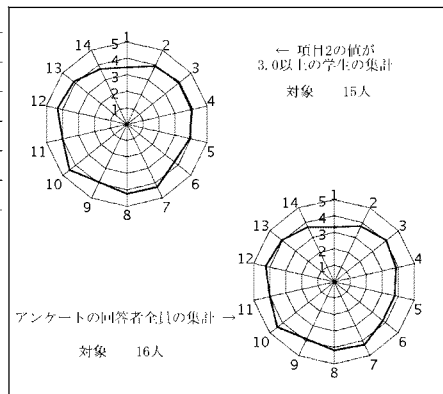
本講義は予定通りテキストの講読を終えた。講義受講者のうち、レポート提出者が38人、うち、良好な成績をおさめたものが31人であり、本講義の目標はおおむね達成できたと考えられる。だが、非提出者は3年次生10%、4年次生以上15%と、明らかに4年次生以上が高く、就職活動との競合が問題なようだ。

数値データは設問11が4.45から4.35と低下した以外は、いずれも前年同科目より向上しているが、受講者はほとんど同数であるにもかかわらず、回答数が31から20と減少している。自由記述欄への回答は全5件、うち改善すべき点は2点である。うち1件は欠席者が代返している場合があるとのことで、これは詳細に検討した。もう1件は報告機会をふやすとよいとのことだが、これは時間数と受講者数から困難と考えられる。

今後、回答数を増加させる方法、テキスト選択などによって受講生の参加意欲を満足させる方法等につき、検討してゆきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳6  
 授業コード 10D04-006  
 教員名 井上 洋  
 教員コード 100177  
 登録人数 54  
 回答数 16  
 回答率 29.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

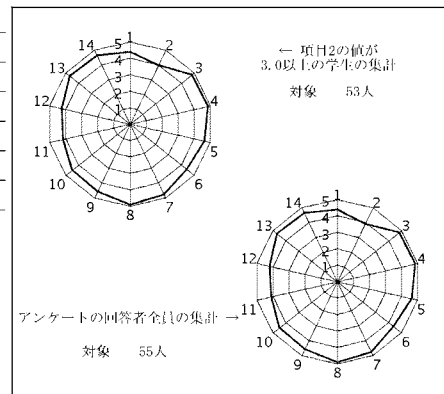


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「政治経済と人間の尊厳6」について。〈人間の尊厳〉と銘打つ講義題目があることはたいへん意義のあることだと思うが、その意義を学生は全く理解しておらず、その無理解からくる授業者と同僚学生と授業で紹介した諸作品への敬意を各態度は、目に余るものがある。この講義題目の講義経験からいうと、これは話をして諭しても甲斐はなく、この講義題目を必修から外し真に受講を希望する学生に限って、〈人間の尊厳〉科目を、単に単位取得しか頭にない学生たちから救い出すべきである。アンケート結果にある4点台の評価は学生の半分（受講姿勢に真剣さが見られた部分）の評価と推測される。受講姿勢に真剣さが見られた学生と、単に卒業単位をとるためだけに登録した学生と、クラスは二つに分かれ、そのことから生じたフリクションは前者の学生たちにも、授業者にもたいへん苦痛であった。個々の学生は別として、マスとしてみた場合の本学学生には敬意を持つことができないということを日々感じている。これは他所では感じる事のなかった感覚であり、本学に赴任して感じた一番残念なことである。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学A2  
 授業コード 12C01-002  
 教員名 三輪 まどか  
 教員コード 102263  
 登録人数 145  
 回答数 55  
 回答率 37.9%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回



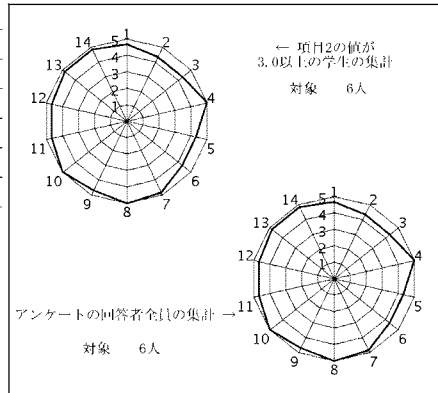
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、大学生活や社会生活において必要な法的知識を身につけることにあるが、学生の感想を聞いてみると、日常生活の中の身近な問題を取り上げていることもあり、理解や興味が深まったとする学生が多ように感じた。その点で、到達目標は十分に達せられたと思っている。

授業評価に目を転じて見ると、回答率がやや低いものの、ネット環境にない教室からのアクセスであり、それでも授業評価にご協力いただいた学生の皆さんに感謝したい。数値のデータをみても、全体の平均値が4.53、項目3から14の平均値が4.59と、基盤科目の平均値よりも高い評価となり、これもひとえに、学生の皆さんの真摯な学習態度によるものと思われる。自由記述欄をみると、話が面白い、法を身近に感じられたなど好意的な意見もある一方で、黒板に書いてあることをノートにまとめるのが難しいや、主体的に発表をしたかったといった意見もあり、黒板の書き方などは、今後工夫していきたいと思っている。今後も、学生の皆さんに対して、法学への興味・関心を高め、大学生活や社会生活を送る上で必要な内容を教授できたらと思っている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	知識の探求5
授業コード	13E03-005
教員名	中島 靖次
教員コード	000246
登録人数	7
回答数	6
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

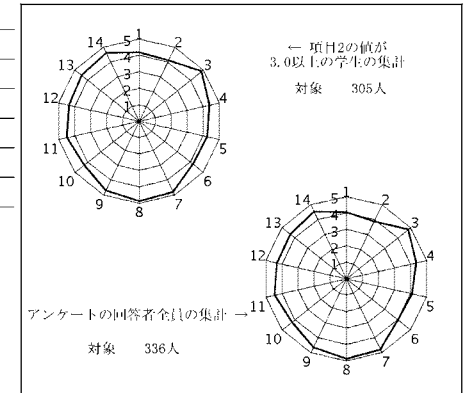


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の本講義は、昨年度に比して、受講者が非常に少なかったために、授業の進め方に少なからず工夫を要した。授業時間内において、質疑応答の回数を増やし、各自のその都度の理解を確認しながら、復習に時間を多めに割いたり、概念の説明をする際にも、よりさかのぼった背景などの説明を交えて行うよう、軌道修正をしつつ授業を運営することにした。それが功を奏したと思われるのは、次のような自由記述があったからである。「人数が少ないこともあり、質問を当てられて答えることも多かったので、自分の考えを言ったり、分からないことを考えて答えを導き出してゆくのを楽しかったです」というものである。確かに、一度の質問で正解に至らない場合は、そこから対話形式で、答えを導き出すという作業を幾度かおこなったことが、こうした感想となったと思われる。もう一つ自由記述に感心したのは、以下の意見である。「この授業では、学んで来たことがどういうことに繋がって行くかの因果関係をよく説明してくれるので、分かりやすかったです」というものである。この点に関しては、授業の大きなテーマとなることを、最初の2回ほど使って、少しばかり集中的に行うために、テキストを読み進める中で、常に、つながる論点を示すことを心がけて授業を展開するようにしているが、その狙いがよく実現されていることを証していると思われる。今回の授業では、思わぬ受講者減少で、やむを得ず行った工夫が功を奏したわけだが、これが大人数でも 実現できるようにこれから工夫していきたいと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域と文明B(ヨーロッパ)
授業コード	46B02-001
教員名	山田 望
教員コード	000211
登録人数	456
回答数	336
回答率	73.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



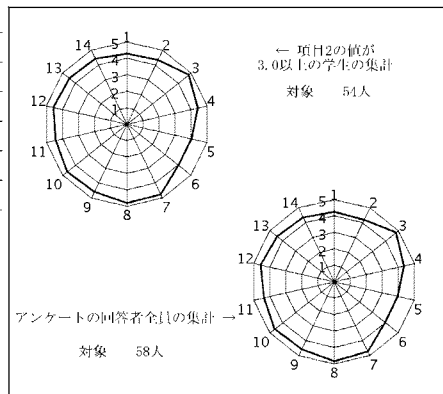
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的評価を示す設問13が4.35で、学科科目平均値の4.31よりも4ポイント上回っており、また、設問14の「全体としてあなたはこの授業に満足しましたか」については、本科目の値は4.54で、学科科目平均値4.31よりも23ポイント上回っていたので、概ね、本科目の開講当初に設定していた目標については達成できたと考えている。全体として14の設問の内、11について、学科科目平均値よりも上回っていた。しかし、設問2の、学生が主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしたか、という問いについては、学科科目平均値が3.99であったにも拘わらず、本科目は3.87と、12ポイントも低い値であった。パワーポイントや動画の使用により学生の興味関心を引こうと努めたが、逆にそれらが、学生の主体的な学習を妨げ、学生が受け身になってしまった可能性も考えられる。また、設問4の毎回の授業の構成や進行速度は適切であったか、との問いに対しても、学科科目平均値より1ポイント低い値が出ており、これについては、授業の前半を丁寧により過ぎたために、後半の方が駆け足になってしまった間があり、次回からは前半と後半の進度をバランス良く加減するよう反省している。今回設問10の、私語、携帯電話、遅刻などについて適切な対処ができていたかとの問いに対して、学科科目平均値よりも14ポイントも低い値が出た。今回の授業は、昨年受講者数が160名程度であったものが、なんと460名にも増加しており、これだけの大人数になると、どうしても私語や携帯電話、遅刻などへの対処が疎かになってしまうのもやむを得なかったとの感がある。大人数の授業の場合でも、これらのマナー違反に対して適切に対処できるよう、次回からは対処法を考え直したい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マクロ経済学  
 授業コード 46D02-001  
 教員名 水落 正明  
 教員コード 102745  
 登録人数 97  
 回答数 58  
 回答率 59.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

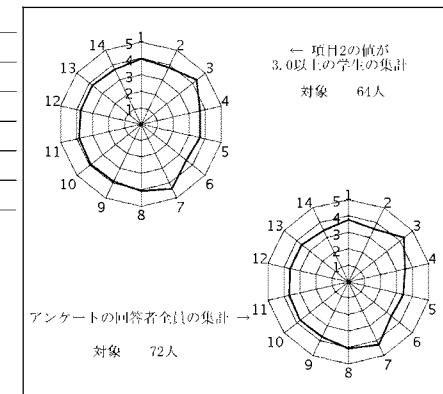


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業に対する総合的な満足度（設問14）が4.34と、総合政策学科平均4.31をやや上回る結果となった。また、全学の同規模の登録者数61～120名の平均4.26も、わずかに上回る結果となっている。マクロ経済学は、数式（連立方程式等）を使いながら経済システムについて勉強する内容であり、数学が不得手の総合政策学部の学生にとってはかなり難しい講義の一つである。マクロ経済学の開講は6年目になり、講義レベルはほぼ変わっていないものの、今回の評価が全体平均をおおむね上回った原因としては、例年に比べて授業時間最後のミニテストを増やしたことが考えられる。近年、数学の能力が低い学生が多く入学してくるが、ミニテストで計算力向上を手厚くサポートしたことが反映されたと推察される。自由記述の感想を見ると、難しいという意見もあったが、ミニテストがあってテスト対策がしやすかった、質問の機会があって良かったなど、双方向の講義形態が学生の理解に貢献したこともわかった。ミニテストをかなり増やしたことはマイナスの評価に繋がることも想定したが、その逆となったことは、今後の講義の参考になる。各質問項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14項目において、5「この授業の到達目標を理解することができましたか」、6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」がわずかに平均値を下回った以外は、各項目について高い評価をもらった。到達目標に向けての理解力の向上は今後の課題として検討する。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学概論  
 授業コード 46D07-001  
 教員名 松戸 武彦  
 教員コード 100357  
 登録人数 196  
 回答数 72  
 回答率 36.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

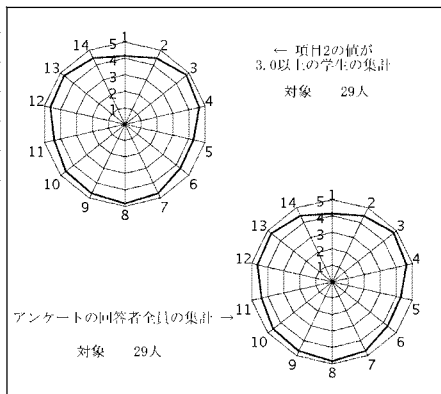


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回授業目標はほぼ達成できたと考えられる。ただし、今回は学生に授業内容をもとに授業内でも考えさせることを一つの焦点として授業を展開したので、1年生には少し戸惑いがあったかもしれない。社会学として取り上げたトピックスに関して論理的展開を重視して講義したが、そもそも授業をそのようなものとして構えていない学生が一定程度いたと考えられる。この点は毎回リアクションペーパーを任意で出してもらっているが、その中の記述を見てもこの点が見受けられる。その意味で、講義をどのようなものとして捉えるのかということから話していかなければならないかと今回考えさせられた。また、取り上げたトピックスの内容によっても学生の学習意欲や理解に大きな差があることがみうけられた。学校内のことや自分をとりまく、直接理解可能な世界に関する話には興味をそそられるが、社会システムと直接的世界を結ぶ話や社会システムそのものの状況を題材に取った時には興味が著しく縮小する学生が少なからず見受けられた。この点での工夫も必要であろう。いずれにせよ自らの生きる世界の社会性に無頓着な学生が増える中で社会学をどのように講義していくかを考えさせられた。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数量的アプローチ2
授業コード	46E07-002
教員名	久村 恵子
教員コード	100026
登録人数	60
回答数	29
回答率	48.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、問題意識を数量的根拠に基づき検証し解決に繋げるまでのプロセスと手法を理解することを目的とし、主に質問紙調査の計画や遵守すべきマナーの理解、質問紙の作成、統計パッケージソフト（SPSS）の使い方と出力結果の解釈、数量的アプローチによる報告書の作成技法を習得するため、極めて実習に近い形式で授業運営をしている。

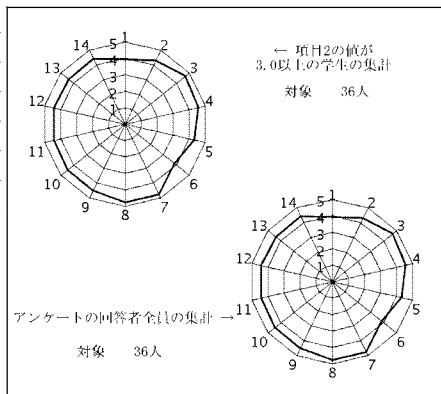
今回の結果では、設問3～14の平均値は4.59であり、授業運営および全体として肯定的な評価が得られ、授業の到達目標の達成に関する設問についても平均値は4.3以上であり、ほぼ達成できたと判断できよう。自由記述欄では「課題が重い」という意見もあったが、「資料が分かりやすかった」、「課題へのフィードバックがあり、自分がどこがわからないのか、どこが苦手なのかが分かった」、「フォローが丁寧」といった意見も寄せられた。

また、「予習・復習などの主体的な学習に関する項目（設問2）」は、前年度より平均値（4.45）が僅かに低下（-.05）したが、4点以上の値を維持している。この点は、前年度からの取り組みであるWebClassでの講義資料の公開によりどこでも講義資料が確認できる環境の整備および、トピック単位の課題と各自へのフィードバックにより、学生たちの自主的な学習を促すことに繋がっていると判断できよう。

その一方で、履修学生の間におけるPCスキルの習得差が年々大きくなってきているように見受けられ、この点については授業運営やTAのサポートの在り方を含め検討し、次年度の授業で改善を図りたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策英語I3
授業コード	46F01-003
教員名	O' CONNELL, Sean
教員コード	100448
登録人数	60
回答数	36
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

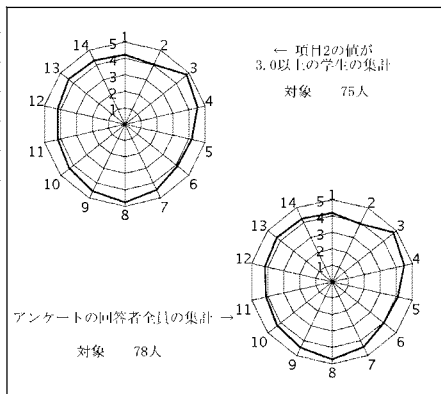


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the first year of Policy Studies in English for our second year students. The main goals were to introduce content in English related to the students' exposure to Policy Studies in their first year. The learning goals set for this class focused on the improvement of their four skills by using a variety of materials including handouts, pre- and in-class readings and video. The students were given a different tasks during the class such as note-taking, pair and group discussion, mini-presentations and short summary writing. Overall, as the student evaluations indicate, these tasks resulted in an above-average evaluation of the class. However, due to the large number of students in the class (60 in total), there were many restrictions experienced including a lack of possible monitoring of all students by myself. A total of 36 students did the evaluation, but I'm confident that their evaluations represent the majority of the class. In future, smaller classes should be created to allow for further improvements in classroom management. Students were pleased with the class flow and content, but many also requested more streaming to reduce numbers. This is one point that can be improved on next year.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代企業論  
 授業コード 46K03-001  
 教員名 金網 基志  
 教員コード 102923  
 登録人数 230  
 回答数 78  
 回答率 33.9%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回

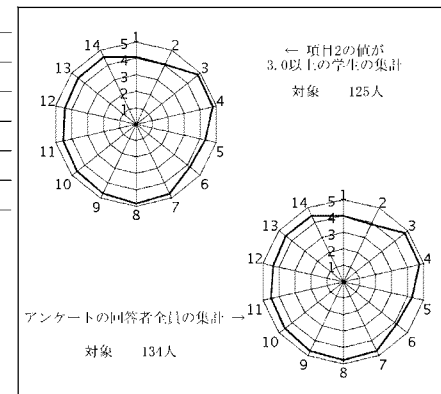


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問14の平均からみて、総合的な満足度は高い評価を得ている。設問6の平均から見て、到達目標への達成度を学生が実感していない点が課題となっている。到達目標の説明を講義中に丁寧に行うことで、この点は改善していきたい。自由記述欄を見ると、「意見を言わせるような機会がたくさんありよかった。」、「エクササイズがあり、自分で考える時間があったので、良かったと思います。」、「簡潔、端的でわかりやすい。」などの肯定的な意見がある一方で、「内容むちゃくちゃ多いのにテストが持ち込み不可なのはキツイ」、「講義プリントは先生の方で印刷してほしい」などの不満があった。PPTを利用した講義形式であることもあり、講義中に学生に伝える内容はかなりの量になり、そのことに対する不満もあったのではないかと考える。講義の形式は、学生の参加を促すようなエクササイズの提示や、学生の意見をホワイトボードに書かせるなどで工夫している。こうした点での評価は高く、今後も継続して行きたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境行政論  
 授業コード 46M02-001  
 教員名 石川 良文  
 教員コード 100650  
 登録人数 312  
 回答数 134  
 回答率 42.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

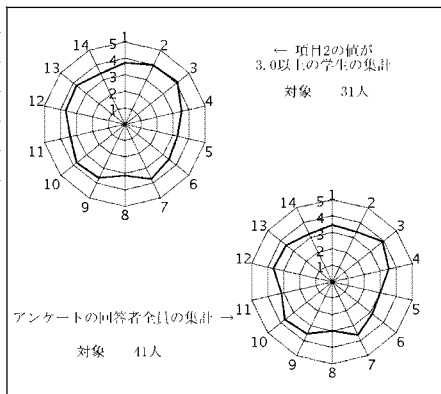


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 本科目では、当該科目の評価が大学全体の評価を超えることを目標としており、当初設定した目標を達成できた。但し、設問2「予習復習」は毎回平均値を下回るため、授業前に資料を配布するなど予習する環境を整えたが、今回もこの設問については大学平均を下回った。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 項目1から14の平均は4.45、項目3から14の平均は4.54であり、ほとんどの設問で大学全体の平均値を大きく超えていた。特に、設問4「構成や進行速度」設問5「到達目標の理解度」設問6「到達目標に向けて力がついていますか。」設問8「教員の声や音声機器の音」設問9「学生の理解度に配慮」設問11「積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」において、大学平均を大きく上回った。また、自由記述回答では、「説明が丁寧で分かりやすい」「質問をWebclassでできたのが良かった」などの意見が多かった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 授業評価から、特にWebclassの利用が学生にとっても効果的であったことから、今後もWebclassを多用していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地方財政論  
 授業コード 46N07-001  
 教員名 森 徹  
 教員コード 101861  
 登録人数 107  
 回答数 41  
 回答率 38.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

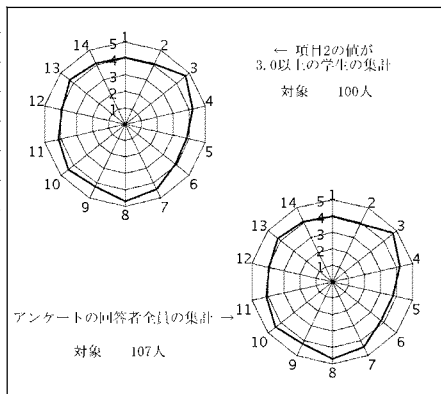


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①定期試験の成績等から見て、当初の学習到達目標はかなり達成されたと思うが、学生により到達度にばらつきが大きいと感じている。また、各種の地方財政制度の理解に関しては、地方税制度の検討に関する授業時間が少なくなってしまったため、十分な理解を得ることができなかつたのではないかと反省している。
- ②数値データを見ると、担当教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ・真剣さや、学生の質問・相談の機会の設定、学生の理解度に配慮した授業の進行等が比較的高く評価されており、これらの点は喜ばしい結果である。反面、全体的な授業満足度は必ずしも高い評価を得ているとは言えず、また、自由記述意見でも指摘されているが、教員の声が聞き取りにくいとの評価があり、改善を要する点と認識している。
- ③今後、多人数の授業ではマイクの使用の仕方に気をつけ、簡潔な説明を心がけることにより、学生諸君の学習意欲を一層高める授業をめざしたいと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際政治経済論  
 授業コード 46N09-001  
 教員名 小尾 美千代  
 教員コード 102453  
 登録人数 186  
 回答数 107  
 回答率 57.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

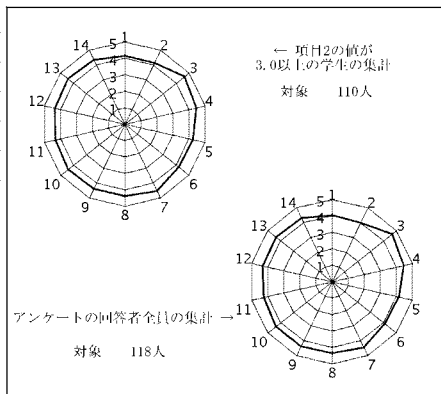


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業では、(1)経済を中心とする国際社会のグローバル化と国際政治との相互関係について理解すること、(2)国際金融、自由貿易、地域統合、気候変動の諸問題をめぐる国際政治について理解すること、の2点を目標としました。回答者107名のうち、「受講に際して主体的に授業参加をした」項目が3.0以上の学生は100名でした。
- 今回の授業評価は、項目1～14の平均値は4.18（同科目2017年度：4.11／今年度大学全体：4.28）であり、項目3～14の平均値は4.22（同：4.17／4.32）でした。項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか」が3.79（昨年度3.70）、および項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が3.81（同3.69）で若干改善しました。
- 項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」については3.93（同3.97）でしたが、授業中に時間を設けても質問は出ないため、WebClassでも受け付けているので適宜利用してください。
- また、Power Pointスライドについては皆さんの反応を見ながら切り替えているつもりですが、今後も引き続き注意するとともに、スライドの記載事項をできるだけ少なくしたいと思います。グラフなどの資料はWebClassに掲載していますが、あまり利用が多くないのもっと活用して頂きたいと思います。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際開発論  
 授業コード 46N18-001  
 教員名 佐藤 創  
 教員コード 103882  
 登録人数 244  
 回答数 118  
 回答率 48.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

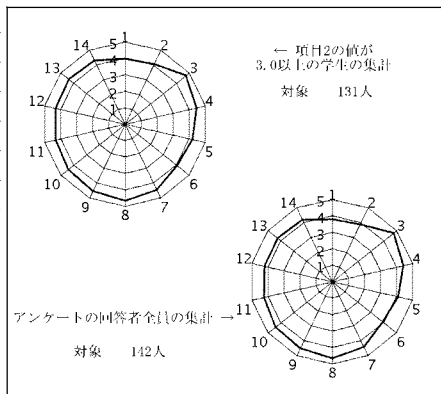
①開講当初に設定していた目標と到達については、おおむね授業ではフォローしたが、学生の理解度は、テストの結果をみると、期待よりも若干低く、授業の進め方にもう一段の工夫を試みたいと考える。

②数値データや自由記述を読むと、授業の進むスピードについて若干速い、そして内容が多すぎる、というコメントが数点あった。このあたりがもしかしら、授業の理解度が教師の側の期待に届かなかった理由のひとつかと考える。この点は、授業内容を、取捨選択して、洗練していきたいと考える。授業の形式面では、受講生が250人と多く、マイクの音が小さかったという感想があった。ピン止めタイプのマイクを使ったが、教室が大きすぎて無理があるようなので、通常のマイクを使うなどするほうがよいかも。また、授業貢献度の取り方について、ランダムに学生を指名していたが、十分にランダムではなかったことが反省点である。

③最後に、アンケート結果をみると、全体的に、この授業のために自習した時間が少なかったようである。この点について、次学期以降工夫したい。以上。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球環境論  
 授業コード 46N20-001  
 教員名 藤本 潔  
 教員コード 100100  
 登録人数 438  
 回答数 142  
 回答率 32.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

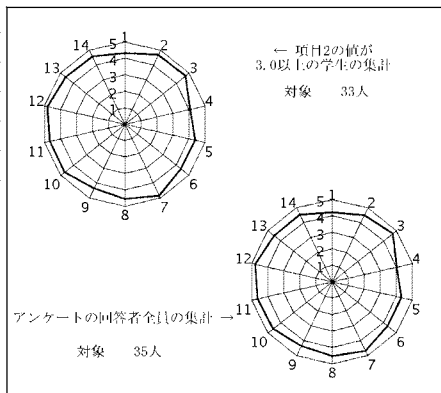
本科目の授業評価は昨年に引き続き4年連続で行われた。項目3～14の平均値は4.35で、昨年の4.40、一昨年の4.60に比べるとやや低かったが、昨年までの200人台の受講者数に比べ440名というマスプロ授業となったことを踏まえると、決して悪い値ではないものと評価できよう。

授業評価の時間を授業最終日に15分ほど確保したが、回答率は32%と、昨年の35%をさらに下回った。昨年はWi-Fi環境がない教室であったため回答率が低くなったと考えていたが、今年はG30でWi-Fi環境があるにも拘らず低い値に留まった。クウォーター制となり学生にとっても授業評価の科目数が増え、マンネリ化や負担感を感じているのではないだろうか。

昨年からの授業ファイルは事前にWebClassにアップし、学生に予習を促しているが、自由記述欄にアップのタイミングが授業前日では遅すぎると記載が見られた。これは他の科目に対しても同様の意見が予想されることから、今後はできるだけ早くアップするよう心がけたい。しかし一方で、授業当日もダウンロード人数が受講生の半分以下という現状も確認されたことから、事前のダウンロードを促すよう指導を徹底したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(英語)1  
授業コード 70101-001  
教員名 POTTER, David M.  
教員コード 100098  
登録人数 38  
回答数 35  
回答率 92.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



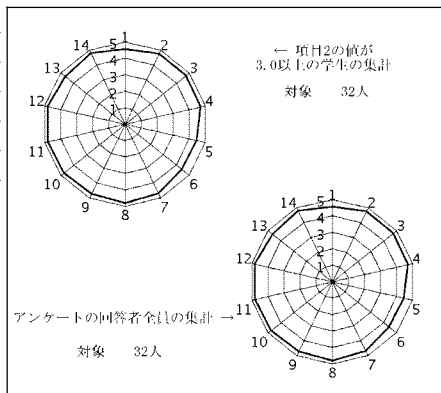
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a third-year readings course focused on materials related to international cooperation and voluntarism. It is a part of the department's research methods component and so is not entirely elective. During the course the students read about six short to medium-length pieces that they might use in the context of carrying out upper-division research on the subject. The course focuses on reading comprehension and application to a research project rather than on direct translation. Students are expected to discuss the readings in class with each other with the goal of getting them to actively learn from each other. Students complete a short summary in their own words for each reading.

The students responded positively to the class. They found the readings challenging but were satisfied with the instructor's explanations. In general they found the pace of the class too fast. This is an artifact of the new quarter system, which reduces the time students have to read and prepare summaries. In future I will consider moving to fewer readings but with more in-depth analysis of each.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(英語)2  
授業コード 70101-002  
教員名 山田 哲也  
教員コード 100839  
登録人数 45  
回答数 32  
回答率 71.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

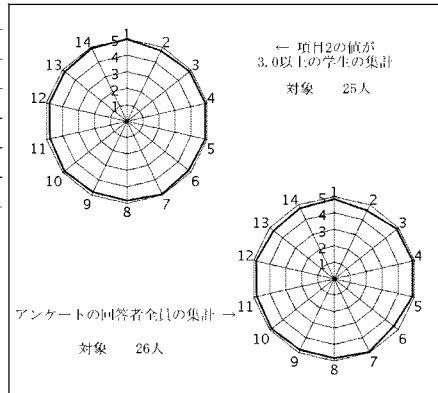
科目の性質上、学生自身による予習・復習は必須（復習結果がそのまま期末レポートになる）ため、通常の講義科目に比べて評価が高くなる傾向にある。

自由記述欄のコメントを見る限り、授業のスピードも適切であったように思われる。この授業を通じて、「英文が読めるような感じがした」あるいは「説明が丁寧であった」という評価を得られるのは担当教員としては嬉しい限りである。

他方、教材に選んだ英文は、多少難しいとはいえ、大学受験レベルの知識があれば十分読みこなせるはずのレベルであり、特に関係代名詞を使いこなせる学生であれば、さほど苦労しないはずの内容であるが、それでも学生にとっては「難しい」と感じるらしい。学生の英語に対する理解を深めさせるのがこの授業の目的である以上、英文のレベルを下げるのはかえって逆効果であろう（その分、教える側の手間はかかることになるが）。今後もこの授業を担当するのであれば、現在のレベルを維持したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(英語)5  
 授業コード 70101-005  
 教員名 CROKER, Robert  
 教員コード 100082  
 登録人数 59  
 回答数 26  
 回答率 44.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

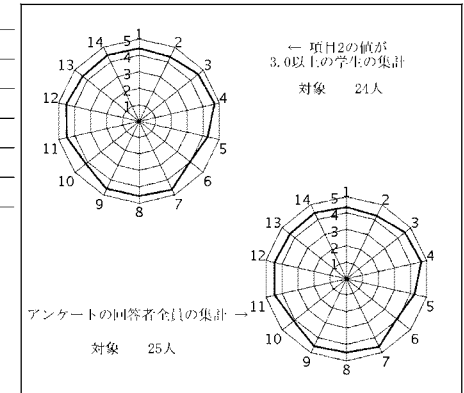


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was an introduction to comparative sociology class. The goals of the class were to learn about one country in depth through exploring basic topics in sociology. The students chose which country they wanted to focus upon, and each week researched about that country. In the first week, students read a book about the country; in the second, they compared their country to another country. From the third class, each week a different sociological theme was explored: education, food and health, changing family structures, life course, and gender. In the final class, each student gave a 5~7 minute presentation to a small group about the country that they had researched about. The results of the student feedback were quite positive. The students seemed to enjoy the class very much, and found it useful. Few students wrote comments, but informally chatting to the students I learned that they enjoyed being able to learn about one country that they had chosen, found the topics interesting and learning how to read charts and graphs motivating, and enjoyed working with different partners each week, even though there were about 60 students in the class.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(中国語)1  
 授業コード 70107-001  
 教員名 梁 晓虹  
 教員コード 045229  
 登録人数 41  
 回答数 25  
 回答率 61.0%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回



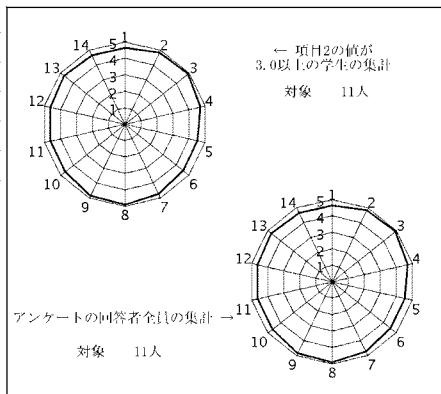
授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生から提出された授業改善を目的とするアンケートの「授業評価集計」の結果、「設問1~14の平均値：4.39；設問3~14の平均値：4.41であった。これらの平均値から、この科目の目標は達せられたと判断できる。しかし、設問6は、ほかの設問と比較すると低い方であった。そのため、今後どのようにしたら学生の学習欲を引き出し、さらに積極的な授業参加を促すような工夫をする必要があると考えている。項目15「この授業の良かった点」では、良い評価が得られた。例えば、「教科書にプラスしてプリントを配布してくれたり、親切でした」、「映像資料を多用していて、すぐに教材の内容をイメージできた」等。

しかし、項目16に「この授業の改善すべき点」についての意見は、「遅刻が多過ぎる。真面目に行ってる人が損してる。」「明らかに欠席過多の子いるからしっかり厳しくチェックしてほしい。」確かにこのような現象はあったが、これは学生自身の問題でもあるが、教師の指導及び管理にも関係しているため、今後改善するよう努力する。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策外国文献講読I(中国語)2
授業コード	70107-002
教員名	原田 直枝
教員コード	018754
登録人数	38
回答数	11
回答率	28.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この科目は、辞書などを使って自力で中国語の文献を読むことができるようになり、文脈を的確に把握し、正しく理解できる力が身につくことを目標としているが、15回の授業の範囲内で到達できる基本的な程度は達成できたと言える。今後各自における継続実践によって、より身につけていくことを期待したい。また、時事中国語文の特性を把握するところまで到達するには時間を要するが、その基礎として特性を察知するところまでは到達していると見られる。
- ②今学期の授業評価は、入力期間に余裕を持たせられるよう授業最終日より早くに学生へ知らせたが、履修者38名のうち回答11名だけという結果であった。想定したのより少ない。教室でのマークシート方式に比べると、自由度が高いぶん、実際に応じてもらうのに限界がある。毎回の予習が授業での学びの効果に直接つながる内容であるため、学生たちはほぼ毎回予習を行っていた。それが学生各自の自己点検に当たる項目2、3に反映しているようだ。共通教育の外国語科目の平均を上回っていて、学生たちの努力は評価に値するだろう。設問10の私語等への注意の徹底に関して4.64で、全学平均4.38をクリアできたのは、この項目において担当者個人の従来の数値がどうしても今1つ伸びない傾向にあったことを思うと、改善の努力が効を奏したかも知れず、正直に嬉しい。
- ③学科の「方法論」科目の1つとして、中国語文献読解のスキルを身につけるという目標と手段が明確な科目のため、学生たちに対して目標や意義の周知をやすく、授業での実践もそれに即したものを工夫してきている。担当者自身も授業の準備・運営をしながら新たに学ぶことの少なくない科目であり、それをさらに授業の内容に活かしていきたい。また、課題のテキストをこなすだけでなく、関連資料に目を向けるとか、具体的な見聞を広める方面でももう少し時間をかけられるような工夫が必要だと思っている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策外国文献講読I(韓国朝鮮語)
授業コード	70111-001
教員名	平岩 俊司
教員コード	103613
登録人数	20
回答数	4
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

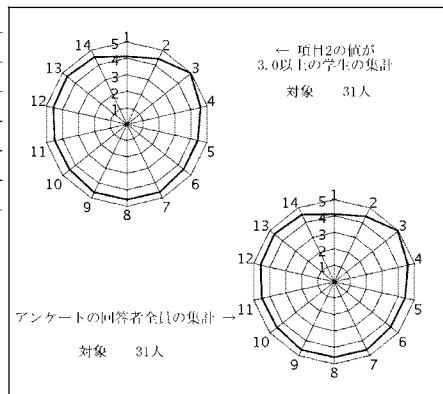
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 新聞記事、論説などをテキストとして使用し、それを通して時事問題を考えさせようとしてテキストのテーマを選んだが、当初予定していた政治、外交などについての学生の関心が高くなかったため、学生の関心に合わせて社会、文化分野のテキストに変更せざるを得なかった。受講生のレベルも均一でないため、基礎的な文法解説をしなければならないケースもあり、テキストの内容についてもこちらから解説しなければならず、必ずしもテキストを通してその内容について議論するまでには至らなかったことが残念だった。テキストの内容についての予習をさせ、翻訳にとどまらず内容について解説させるよう指導する必要性を感じた。
- また、日本人は漢字の知識があるため、韓国語のいわゆる「漢字語」については潜在的に造語能力があるので、その潜在能力を覚醒させるべく漢字とハングルの対応について解説したが、もう少し事例を多くし、分類を明確化して説明する必要があった。学生に対してテキストの内容についての解説を求めること、漢字語の説明を体系的に行うことが課題である。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む5
授業コード	13E07-005
教員名	鈴木 敦夫
教員コード	016469
登録人数	53
回答数	31
回答率	58.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

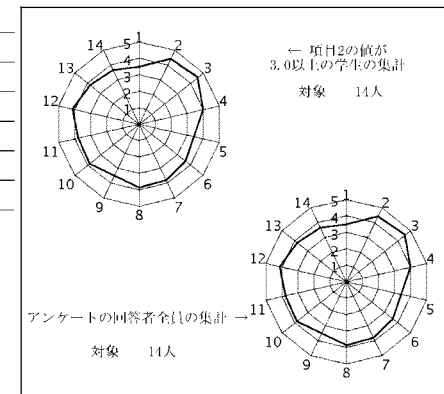


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標である、実際の問題をコンピュータを用いて解決する、はレポートの提出状況、内容から見てほぼ達成されたと考えられる。数年前に比べて、表計算ソフトであるEXCELの操作に慣れている学生が増え、初歩的な計算機の操作に費やす時間が短くなった。その分、最適化計算やその手法について丁寧に解説することができるようになっている。そのことが、レポートの内容がよくなっていること、授業評価が良くなっていることに繋がっていると考えられる。
- ② 評価は高く、特に、設問2の自主的な講義への取り組みについて、4.42と高い評価だったことが特筆される。課題の解説、例題の解説、演習というサイクルで講義を進めたので、受講生は自宅でも演習問題に自主的に取り組んだと推測される。講義に対する満足度に関する設問13、14もそれぞれ4.65、4.52と高く、少なくともアンケートに回答した学生は講義を受講したことに満足してくれたようである。ただし、回答率は6割ほどで、次年度以降はより多くの受講生が満足するような講義を目指したい。
- ③ 次年度は、より丁寧に講義を進めて、なるべく多くの登録した学生が最後まで講義を受講し、知識と技術を身につけて講義に満足してもらうようにしたい。具体的には、学生の理解度を確かめるような簡単な練習問題を教材に加えて、その練習問題でつまづいた学生には、再度説明をするというような工夫をしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	微積分学I および演習[SE]1
授業コード	50A03-002
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	52
回答数	14
回答率	26.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

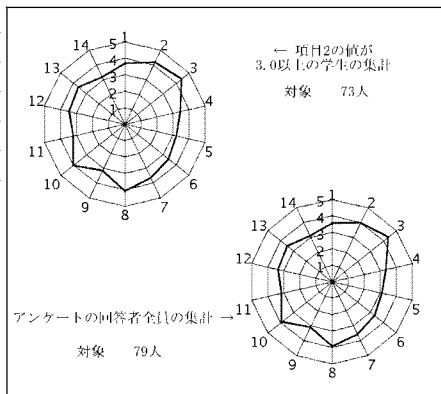


授業評価結果を踏まえた点検・評価

一昨年までの春学期科目「微積分学I」と「数学演習A」を、「微積分学Iおよび演習」（第1クォーター）と「微積分学IIおよび演習」（第2クォーター）に再編した。これまでは「微積分学I」と「数学演習A」との内容が必ずしも対応していなかったが、新科目では、授業を行った次の回に対応する演習を行うようにした。第1クォーターの主な内容は、集合、確率、論理、微分、速度、加速度、ニュートンの運動方程式、平均値の定理、関数の増減、ニュートン法である。演習は、従来通り、問題を配付、答案を回収し、採点TAに採点してもらい返却する形で行った。模範解答はWebClassに掲載した。今年は2年目ということで、学生の様子を見るだけの余裕が出てきた。その結果、授業で得た知識を演習で理解を深めるといふ演習付き科目の意図が必ずしも学生に理解されていないことが分かった。かなりの数の学生が授業内容をすっかり忘れて、演習を受けていた。これは、高校では、授業と演習が独立に行われることが多いことにも起因している面があるが、根本的に理系の学問は「積み重ね」であることが、特に新入生には理解されていない点が大いように思われる。改善すべき問題点は浮かび上がったが、具体的にどう改善して行くかは、今後の課題である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 微積分学III  
 授業コード 50A10-001  
 教員名 松田 眞一  
 教員コード 017566  
 登録人数 126  
 回答数 79  
 回答率 62.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標  
 本授業の目標は微積分学I, IIを引き継ぎ微積分のより高度な学習をすることである。その目標達成のため、Webclassで14回の課題を課した。それらは授業の後半と時間外学習で取り組む。

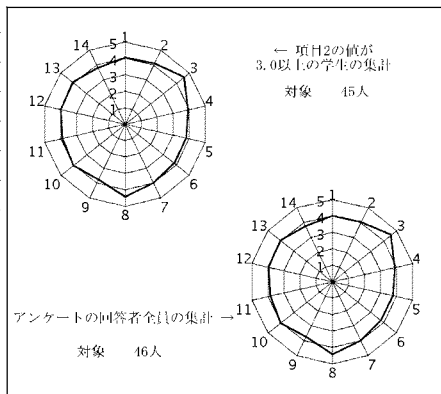
・目標達成度  
 レポート2割、定期試験8割で評価する。到達目標は4つあるがそのうち2つは「知っている」であり、学部必修科目としてあまり高くはしていない。定期試験もそれに則ったものを行ったが、XやFは1割もなく多くが目標を達成できた。

・授業評価  
 本授業を受け持つのは初めてであることとネットでの評価の分析を試していなかったため統計分析を行うこととした。因子分析をかけた結果、3つの因子が抽出された。1つめは学生の意識の高さを示す因子、2つめは授業内容の評価の因子、3つめは学生の自己満足の因子であった。授業内容の評価の因子に関わる設問のうち最も評価の低かったのは設問9であった。これのヒストグラムを書いてみると一番高いのは5であるのに次が1と二極化していることが分かった。

・次年度に向けた改善点  
 回答率はこの授業でも高いとは言えず改善の必要がある。次に設問9に見られたような二極化の解消に向けて資料の提示タイミングを見直すなどの改善を行っていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 微積分学III  
 授業コード 50A10-002  
 教員名 阿部 俊弘  
 教員コード 103189  
 登録人数 123  
 回答数 46  
 回答率 37.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本授業の目標

1. 微分方程式の応用を知っている。
2. 2変数の微分に関する基本的な計算ができる。
3. 2変数の微分の応用を知っている。
4. 2変数の積分に関する基本的な計算ができる。

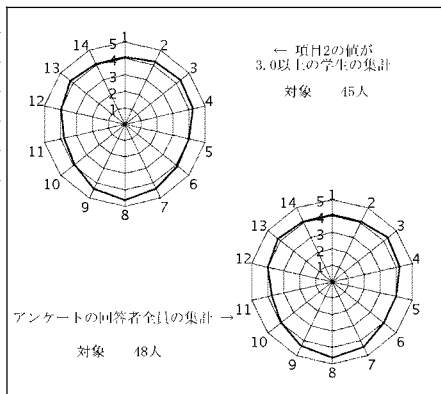
はすべて達成された。  
 本授業では毎回の授業後に演習問題を設定しており、多くの学生が積極的に授業に参加していた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
 数値データからは妥当な判断とは思えないものもあったが、特に変わったものは見当たらない。また、自由記述では、解答を載せてほしいという意見があったが、これは最終回で行っているため、参考にはならない意見であった。期末試験の点数は全体的に良好であったが、一部で簡単、という意見もあり、大学の理系のレベルを保つためにも、もう少し難易度を挙げても良いのかもしれない、と感じた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：理系科目の多くの授業と同様、予習よりも復習を重視しており、学生もその意識で勉強をしていたと思われる。難易度ももう少しあげても良いのかもしれないが、「授業評価で高い点」を重視するのであれば、これは難しいかもしれない。よって、今後も同様の方法で授業を継続することが望ましいと考える。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学III2  
 授業コード 50A11-002  
 教員名 小市 俊悟  
 教員コード 101691  
 登録人数 149  
 回答数 48  
 回答率 32.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

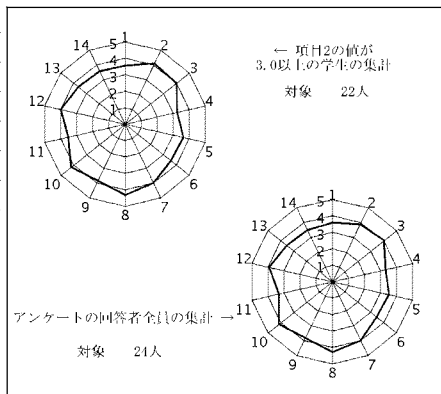


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 線形代数学I, IIで学んだことの延長として、行列式、内積、固有値、固有ベクトルについて理解してもらうこと、さらにそれらを計算できることを目標とした。計算できることに関しては、演習問題の解答等を見る限り、目標とした程度には到達したものと考える。理解については、この授業の位置付けとしては、まずはそれらがどのようなものであるかを理解することであるので、それは達成したと思うが、できれば、それらがどのように利用されるのかについても理解してもらいたいと思っている。
- ② 3点台だったものとして、(1) 学生の学習意欲を引き出すような指導があったかどうか、(2) 授業の妨げになる学生の行為に対する対処があった。(1)については、内容が基礎理論的なので難しいのであるが、例えば「なぜ固有値というものを考えるのか」と言ったことについても簡単には話している。その辺りが、もっと学生に伝わるような工夫を考えたい。(2)は、授業自体は比較的静かに保たれていたと思うが、自由記述欄にもPCを開く学生を注意してほしいという要望があった。あまりにひどいものは注意したいと思うが、2限連続の2限目の授業なので、授業を進行するだけでも気力・体力を必要とする点を理解してもらいたい。演習問題について、ヒントが欲しいという要望もあったが、問題を解くのに必要なことは全てプリントに書いてあるので、ヒントは出さずとも質問については丁寧に答えているので、自分で考えることを基本としてももらいたい。
- ③ これまでの経験からも、およそその学生について、行列式、内積、固有値、固有ベクトルの計算自体はできるようになることを知っている。しかし、①にも書いたが、次の段階として、それらが工学等に置いて、実際にどのように利用されているのかまで最終的には理解してもらいたいと思っている。この点について、今後工夫していきたいと思っている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形計画法  
 授業コード 51B03-001  
 教員名 佐々木 美裕  
 教員コード 019463  
 登録人数 170  
 回答数 24  
 回答率 14.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

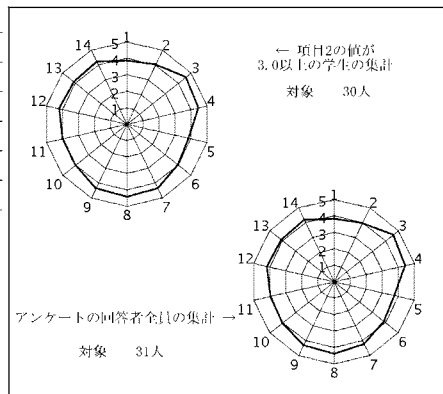


授業評価結果を踏まえた点検・評価

多くの受講生が2年次に「OR概論」の授業を受けており、線形計画法について学ぶのは初めてではないため、この授業では、「線形計画法」について、単なる計算方法だけではなく、その意味を深く理解できる授業を行うことを目標とした。そのため、板書が終わってから解説する形式で授業を進めることに加え、例年以上に、図表を用いた説明に力を入れた。例年通り、授業開始直後に前回授業の内容について質問を受ける時間も設けた。さらに、学生たちが躓きやすいところについては特に時間をかけ、試験でよくある間違い解答の解説なども盛り込んだ。授業開始直後に受けた質問はほぼ皆無であったが、授業終了後には積極的に質問する学生が増えた。また、その質問内容についても、授業を理解したうえで質問が多く、一部ではあるが学生が積極的な態度で授業に臨んでいた結果であると思う。関連項目である設問12の平均値は3.92と比較的高く、この点は評価されたと思う。自由記述からも一定の評価を得たと考えている。一方で、設問9の平均値は3.79とそれほど低くないが、設問11の平均値は3.33とやや低い。授業中に気になったこととして、板書中にノートを取らず、説明を始めるとノートを取り始める学生が少なからずいることが挙げられる。初回授業で授業形式について説明し、説明開始後にノートを取る学生には注意もしたが、最後までそのような学生は減らなかった印象がある。授業の形式についてきちんと理解しなければ、この形式で授業を進める意味はないので、来年度は、さらに理解を促したい。授業範囲は、10年前と比較すると2割ぐらい削減しており、これ以上、減らすことはできないと感じている。重要事項について丁寧に解説すると時間がかかってしまい、後半で進度が早くなってしまったことは、反省すべき点である。授業内容の一部をレジメとして配付し、特に授業前半の進度を少し上げることを試みたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 シミュレーション  
 授業コード 51B05-001  
 教員名 三浦 英俊  
 教員コード 102259  
 登録人数 204  
 回答数 31  
 回答率 15.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

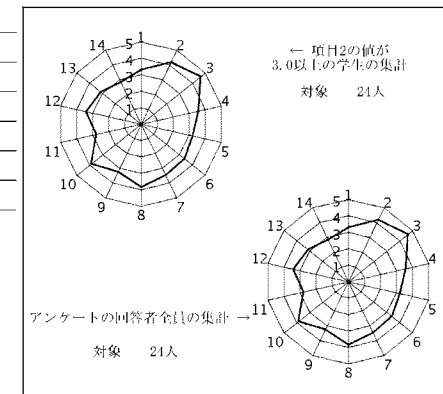


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
シラバス記載の到達目標はおおむね達成できたと考えている。  
今年は、これまでエクセルを中心にシミュレーション演習を行っていたが、C言語のものを多く利用した。なるべく丁寧に説明したつもりであったが来年は、教材の作り方や説明の仕方を工夫したい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
回答率が低い、何度もアナウンスしたのだけれど、昨年より回答者数が減少している。これは大きな問題である。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
先に述べたC言語利用による演習課題のほかに、乱数の使い方の内容を充実させたい(ブートストラップ法、正規分布に従う乱数の生成など)。  
また、今年は初めてウェブクラスを用いた課題提出を課した。使い勝手はよかったが、レポートの書き方など「形式」をもう少し整備したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数理統計学  
 授業コード 51B06-001  
 教員名 白石 高章  
 教員コード 102104  
 登録人数 156  
 回答数 24  
 回答率 15.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

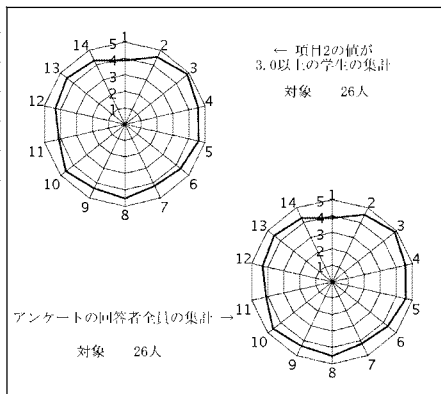


授業評価結果を踏まえた点検・評価

白石のテキストと講義ノートを使って講義した。テキストの特長は以下である。(1) 統計学の基礎となる事象、確率測度、確率変数の理解でつまずく学生も多い。確率の基礎は、論理の綺麗な部分である。しかしながら、論理が弱いと理解することが難しい。この理解を容易にするために、数理論理学(記号論理学)の初歩を説明することから始める。また、第2章2.1節の「数理論理と事象」は、高等学校の数学の教科書の項目「論理と集合」に対応している。高校時代曖昧であった論理が記号論理を介して明瞭に理解出来る。(2) 統計学の理論の構築に、微分積分学と行列の知識が頻繁に使われている。使われる直前に、高等学校数Ⅲからの微分積分学と行列の内容を説明する。(3) 通常の統計書は、各章の最後に演習問題をいれている。本書では、定義や定理の直後に、それに関係した難しくない演習問題を配置している。これにより、順を追って円滑に理解できるようにしている。(4) 現在高等学校の教科書で使われている記号と用語を出来る限りとりいれた。また、通常の数理統計学の教科書よりも行間を埋める必要がないように証明や解説を詳しくしている。  
上記のテキストを使って、学生が、統計の数理による基礎が身に付くように講義を行った。具体的には、可算無限の事象、可算無限の確率測度、可算無限の条件付確率、分布関数と特性値、正規分布の特長づけ、2次元確率ベクトル、2次元分布関数、2次元正規分布の性質、標本基本統計量、相関分析、単回帰分析を説明した。その他の補足部分は、pdfファイルにし、白石のホームページからも見るようにし、授業前に配布した。また、授業で行ったテキストのページを公表した。授業終了20分前に高等学校の数学の内容も含め演習問題を与え、解かせ、回収した。これらの演習問題70問の解答を再度レポートとして提出してもらった。レポートとして提出後、高校の知識のできるもの以外は、問題の解答を講義中に行うか白石のウェブページからも見るようにした。予備校のような解法テクニックを要求する学生が多くみら

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[J]5  
授業コード 10C01-047  
教員名 大月 英明  
教員コード 047340  
登録人数 35  
回答数 26  
回答率 74.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

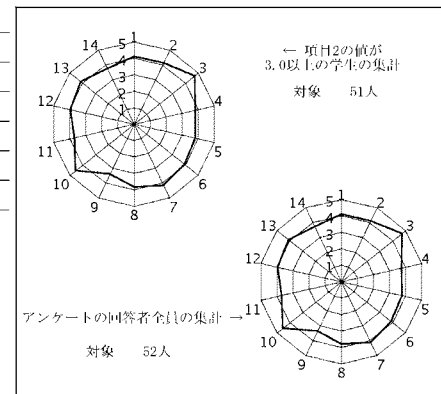


授業評価結果を踏まえた点検・評価

ここ数回、授業評価の対象として情報倫理が割り当てられている。評価の項目別の傾向はおおむね毎回同様であり、設問7が比較的低い。この設問への評価が低い理由として、これはグループディスカッションがメインの授業であり、教員が介入する機会があまり多くないことが原因かと思われる。逆に評価は高いものは設問5、10である。設問5の評価が高いことは、学習目標に対する授業運営がまずまずうまくいったことを反映しているのではないか。グループによっては、課題に対してのやる気があまり見られないところがあり、そのようなグループは課題とは無関係に談笑を始めることがあった。そのようなグループをできるだけ早くに見つけ、軌道修正の指導を行ったつもりである。設問10に関しては、この方針が評価されたのだと思いたい。自由記述欄は「空調が寒い」「レポート相互評価の時間が長い」というものを除けばすべてポジティブな評価である。後者に関して、レポート相互評価に他の学生よりも時間をかける学生がたいてい2、3人はおり、それらの学生が書き終わるのを待ってからグループディスカッションに入っていた。今後は、レポート相互評価を時間通りに区切り、グループディスカッションの時間を多めにとることで対応していきたい。それ以外は、大筋でいままでの方針を維持した授業運営をしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア工学基礎[S] (3年生以上対象)  
授業コード 52A03-001  
教員名 青山 幹雄  
教員コード 046243  
登録人数 151  
回答数 52  
回答率 34.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

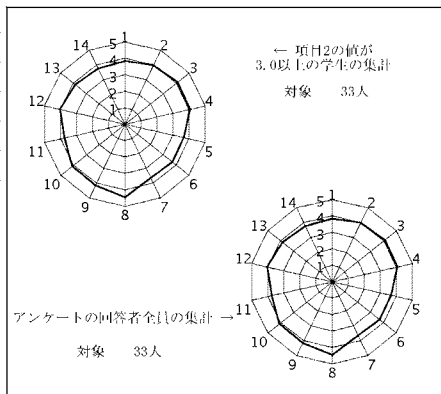


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本科目は3年生の学部共通科目として、ソフトウェア工学の基礎を理解させることを目標とする。ソフトウェア工学科以外の学生が1/3程度を占めるため、知識のバラツキに加え、関心と学習意欲を引き出す必要がある。講義の中で、実社会における開発事例や経験を適宜紹介し、関心を高め、学習意欲を高める工夫を行ってきた。概ね良い評価を得て目標は達成されているが、一部の事項で評価が低い点が見られた。受講生が多いため、S23の大教室で開講している。講義の理解を深めるため板書をしているが、階段教室で左右の白板が見難いとの声があるため、中央の白板のみを使用している。このため、記述量が限られ、その見易さの点や聞き取りやすさの点が継続的な課題である。
- ② 今年も、前年の経験から、受講者に前方の席に座るように促し、後方5列を着席しないように指示して講義をした結果、改善が見られた項目もある。講義室の設備、特に白板に工夫が必要である。一方、ここ数年一部の学生の学力低下が顕著でありその数も増えている。そのため、成績の上位の学生と下位の学生の差が顕著となっている。学力に応じた講義内容のレベル設定などを一層考慮する必要がある。
- ③ 引き続き板書の見やすさを改善するようにする。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング言語[S]  
授業コード 52B03-001  
教員名 野呂 昌満  
教員コード 016477  
登録人数 214  
回答数 33  
回答率 15.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

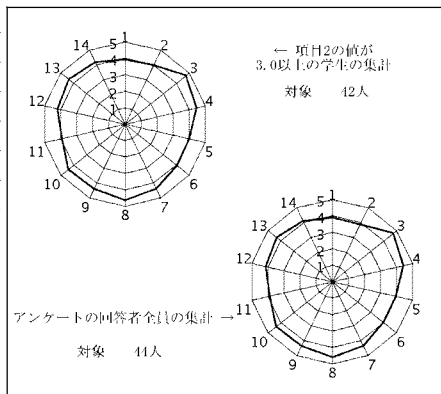
開講当初の目標は、プログラミング言語の設計およびその処理系の作成に関連して計算モデルおよび形式言語論とその応用について理解することであった。今回は講義資料を再整理し、全面的に改定して講義に臨んだ。結果として、評価の数値データに表れているように、内容理解の大きな一助になったと考える。

自由記述で授業放棄等を言及しているが、これについては、第一回目から再三再四注意を促した事柄を守らない学生に対して、当該回でも数回注意したが、一切無視する態度であったので、相当程度に厳しく注意し、反省を促す意味も加えて、講義を中断した。今から考えれば、やりすぎであったことを反省する。当該回では、10分程度中断後、講義に戻り、再開した。他教員の悪口云々を指摘するものがあつたが、これについても学問の方法論を感じがいすと大きな問題になるとのエピソードを紹介したものであり、悪口ではない。表現方法に問題があつたと反省はしている。やる気がないと指摘もあるが、そのようなことを口にしないとあそびがない講義内容になるというのは私の言い訳であろうか。やる気がないが気を取り直して云々との表現を、やる気のところだけ切り取り批判されてもとも思う。

次年度以降は以上を総括するとともに、さらに、資料を改版し、講義に臨みたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ソフトウェア開発技術I  
授業コード 52B04-001  
教員名 沢田 篤史  
教員コード 101413  
登録人数 163  
回答数 44  
回答率 27.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、ソフトウェア開発技術の基礎概念を理解させ、その理解に基づいて、構造化手法・オブジェクト指向手法によるソフトウェア開発（分析および設計）を実践できるようにさせることである。レポート課題や試験の採点が未了ゆえ、学生の理解度を正確に評価することはできないが、学生による授業評価のアンケート結果から、目標はおおむね達成できたと考えている。授業評価期間には毎回の授業で回答を呼びかけたが、登録者150人超に対してアンケートの回答数が44という結果は大変残念である。引き続き回答の呼びかけを行う。

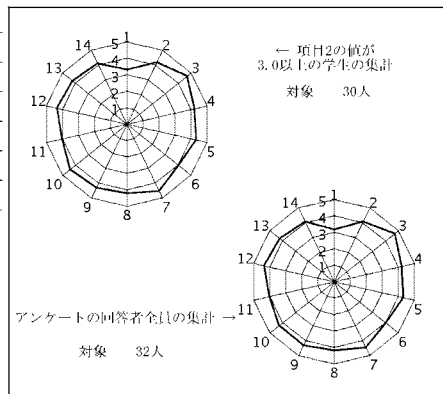
数値データからは、「学生の学習態度や予習復習」（設問2）、「学習目標の理解度および達成感」（設問5、6）、「意欲を引き出す工夫」（設問11）に関する数値が他項目に比較して低い結果となった。

学生の学習態度や予習復習、意欲を引き出す工夫については、学生に「自分のために勉強をするのだ」という当事者意識が伴わない限り改善は難しいように思うが、WebClassの活用を含め、引き続き検討し実践したい。学習目標の理解度および達成感については、初回授業での学習目標の説明やシラバス参照の呼びかけなど地道な努力が必要だと考えており、今後の授業ではそれを引き続き実践したい。

自由記述については、自身の励みになるような意見がある一方、重要なポイントが分かりにくいという指摘もあつた。大学での勉強が単に板書を複写することだと思い込んでいる学生に、説明を聞きながら何が重要なポイントかを考えることができるようになってほしいと考えて授業をしており、そのことには授業中にも言及している。今回、授業評価アンケートに回答する程度に意識の高い学生の中に上のような感想を持つものが居ることを真摯に受け止め、授業内容だけでなくその伝え方を含めメリハリのある授業運営を心掛けたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[1]3  
授業コード 10C01-045  
教員名 杉原 桂太  
教員コード 101115  
登録人数 35  
回答数 32  
回答率 91.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



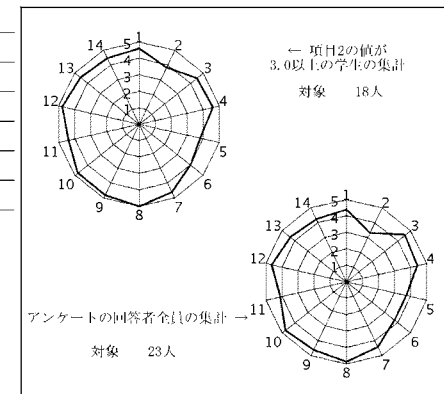
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、「アクティブラーニング」を採用し、「反転授業」を行うという共通方法が複数教員で行われた科目であった。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が情報倫理をより理解できるようになることが目標となった。設問項目(1-17)の多くは4点台の評価が得られたが、以下の設問項目の評価は3点台であった。設問1(3.19)から、受講者はインターネット利用のルールや法について興味を持つ傾向がそれほど高くなかったことが分かる。なお、設問19は3.91、設問20は3.00であった。自由記述からは、設問15について、「グループワークがあった点」、「自分たちで学習し、調べ、発表するのは良かったと思う。」などの評価がある一方で、設問16では、「話を簡潔にしてほしい」、「もう少しははっきりわかりやすく話してほしい」などの記述があった。

以上を踏まえ、諸所の改善点が必要であることが分かる。さらに、この科目では、「アクティブラーニング」、「反転授業」等を実施しているため、対面授業では、「アクティブラーニング」等について受講者の主体的・協力的姿勢をより引き出していく必要がある。次のクォーター以降のこの科目においても、「反転授業」等のこの科目の狙いがより効果的に実施できる授業を目指したい。学生による授業評価を含め、受講者からの指摘は、担当教員間でも共有したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会の構造2  
授業コード 13E06-002  
教員名 藤井 勝之  
教員コード 101244  
登録人数 27  
回答数 23  
回答率 85.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



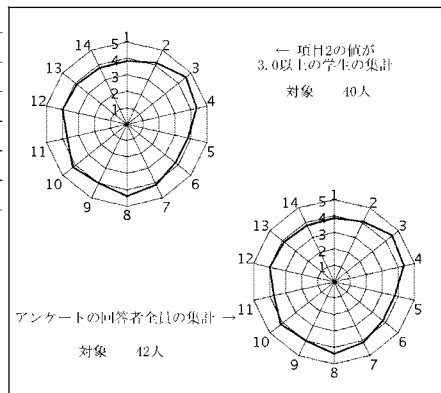
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目では、受講者が技術的な知識を持たないことを前提として、情報社会の発展の歴史、インターネットの基礎知識、情報社会の特徴や問題点、デジタルとアナログの違い、ハードウェアとソフトウェア、コンピュータの内部構造などを講義した。すぐには役立つが、本講義で得た知識は若い受講者の今後の人生で地味に複利で増えていく「教養」になると考えている。今年度は30人弱の少人数だったので毎回アクションペーパーを提出してもらった。その結果、受講者の感想や疑問点の把握が可能になり、講義の最初で全員の内容について、自分なりの回答を行ったことが良い評価に繋がった。

以下、平均値が低かった項目について反省点を挙げる。  
設問項目2: 視聴覚に訴求する教材を多用しており、著作権の問題から予習復習用に一般公開できない事が原因の一つと考える。  
設問項目5: 広範囲に渡る内容を講義したため、難しかったのかも知れない。当方の指導に熱が入り、欲をかいて到達目標を高めに設定してしまった事も原因のひとつかもしれない。もっと肩の力を抜く必要がある。  
設問項目6: 受験勉強とは異なり、規範問題集や模範解答が存在しないため、自分の実力が上がっているのか分かりにくかったのではないかと。目に見えて成長を実感できるような仕組みをうまく作ることができれば、受講者の気持ちをさらにドライブさせる事が可能であろう。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	微積分学I および演習[SE]2
授業コード	50A03-005
教員名	杉浦 洋
教員コード	100769
登録人数	47
回答数	42
回答率	89.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

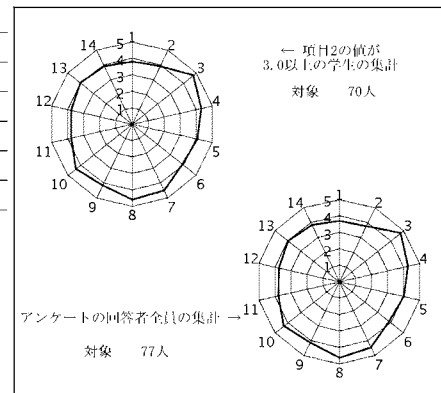


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ・開講当初に設定した授業目標  
学んだことをすぐ使ってみることは、理解を確実にするという点で有意義である。そこで、講義のあとも演習を行い、解答をレポートとして提出してもらっている。レポートは採点して返す。解答はwebに公開する。  
毎回授業内容をA4版両面2ページにまとめたプリントを配布する。  
自習のため、教科書の演習問題について解説付きの解答をweb公開する。発展的な内容に関しても、webで資料を公開する。
- ・実践状況（目標達成度）  
最後の講義を除く毎回（7回）の演習を行い、レポートとして提出してもらった。理解が不十分と判断した問題は次の授業で解説した。採点して返すことは、意欲を高める意味で効果的である。  
授業は教科書の基幹的な内容にとどめた。また、演習に取り組みやすくするため、問題の解法について、教科書より体系的に整理して説明した。
- ・授業評価  
アンケートによれば、良いところは、定時に始まり定時に終わり、真剣に授業をやっている、音声明瞭、教材も効果的であること。悪いところは、学生の反応を見ず、自主的・発展的な学習意欲を引き出しきれてないこと。
- ・改善点抱負方針  
この授業は、毎年同じことをやりながら、新しい発見があり、面白い。来年も要点を絞り込んだ解説とレイアウトに配慮した板書、充実した演習、適切な資料の配布、参考文献の紹介に努めてゆきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物理学基礎2
授業コード	50A13-002
教員名	大石 泰章
教員コード	101405
登録人数	129
回答数	77
回答率	59.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



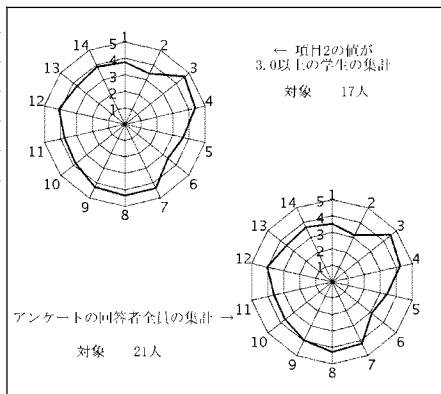
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 授業の目的  
この授業は理工学部の必修の授業であり、大学1、2年で習った微分積分と線形代数をフルに使って、力学の基本を理解しなおそうというものである。
- 数値評価（設問1～14）について  
決して悪くはないのだが4点を下回る項目が目立つ。以前は4点を下回る項目はほとんどなかったので意外である。授業内容や指導法は変えていないので、学生側の変化かもしれないし、回答方法の変更によるものかもしれない。しばらく様子を見たい。
- 評価できる点（設問15）について  
「資料を使った説明がよかった（5件）」「進度が適切だった（5件）」「説明がわかりやすかった（5件）」「板書が丁寧でわかりやすい（5件）」などあり、基本的には学生のニーズに合った授業ができていると考える。
- 改善すべき点（設問16）について  
「高校でやっていることと内容が重なっているのでつまらない（4件）」との意見が今回は目立った。意欲的な学生が多くて喜ばしいと考えることもできるが、その一方で試験の結果を見ると、授業内容の理解は必ずしも十分ではない。この授業の目的は、高校では天下りで習ったであろう力学の基礎を、大学の数学を使ってきちんと導出しようというところにある。導出過程に注意を払わず、導出結果だけを見ていると、「高校でも習った、つまらない」となるのではないかと想像される。対策は難しいが、導出過程の重要性を強調するよう心がけたい。また、真に意欲的な学生のために、進んだ内容を増やせないか検討したい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械工学基礎  
授業コード 53B06-001  
教員名 高見 勲  
教員コード 100495  
登録人数 95  
回答数 21  
回答率 22.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 【授業目標】(1)機械工学の手法を用いた問題解決の手順を知っている  
(2)実際問題をモデリングする方法を知っている  
(3)機械工学の基本を理解している  
(4)機械工学の基本的な手法を用いて、抽象化された小規模の問題を解決することができる

【目標達成度】受講生は概ね所期の学力を習得しており、この授業の目標は達成できたものとする。

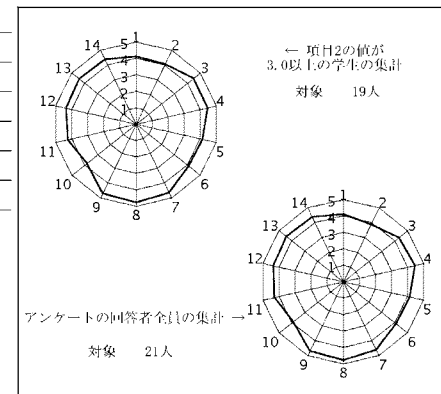
【授業評価の考察】次の2点が低い評価となっている。(11)学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか、(13)この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理科が深まったと感じますか。  
この原因は、講義の内容が、広範囲にわたり、一つのテーマを深く掘り下げられていないこと、及び講義が一方通行で、受講生の自主的な学習意欲を喚起できていないことにあると考える。

【今後の改善点】次の点に注力するものとする。

- ① 動機付け：世の中での具体的事例を多く紹介し、講義内容の意義、有用性を理解させるようにする。
- ② 自主的学習の促進：図書、インターネットなどの情報源を紹介し、自ら情報を収集し、自ら考えるようにする。
- ③ 授業中、学生がその時のテーマについて考える機会を与える。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御理論  
授業コード 77377-001  
教員名 中島 明  
教員コード 103140  
登録人数 98  
回答数 21  
回答率 21.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

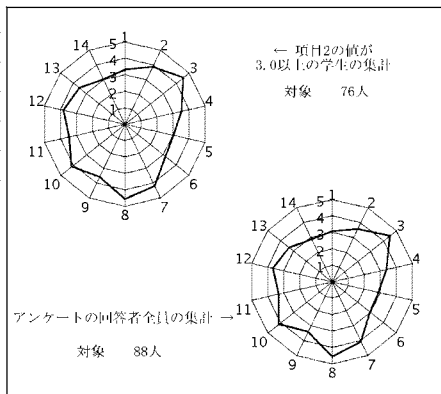


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問20, 21について2半ばと他に比べて低いスコアとなっている。  
この傾向は前年もあったことであり、改善を試みたものの、功を奏していないことが明らかになった。  
テスト問題は毎回の課題から類題として出題するため、学生の試験に対する態度が“テスト対策”になってしまっている。  
定期テストは理解度を問うものであるため、この出題形態自体を大きく変えるつもりは無いが、問題の傾向により工夫を凝らすことが必要であろう。  
また、クォーター制になった昨年より、演習問題を提出する学生数が著しく低下しており、特に講義後半では10名足らなくなっている。  
「密に授業に取り組める」ことがメリットであるが、学生にとっては「授業が密になり消化不良」となっている。  
ただ、科目数が減り総時間数はセメスター制とそう変わらないはずであるが、なぜこのようなことになっているのであろうか。  
理由は3つ程度考えられる：(1)学生の根本的な学力・実力不足により、一科目に当てることができる時間数が増えても授業内容に追従できない；(2)科目数が減ったことで余裕ができたためと錯覚して勉強量を増やしていない；(3)そもそも勉強する気概がない。  
私としては(2)、(3)が主原因と考えている。  
学生は「楽な方に最適化」する生き物であり、クォーター制を「より楽をできる」ように悪利用しているのであろう。  
残念ながら、今の所、有効な対策は思いつかない。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[G]  
 授業コード 10A51-019  
 教員名 VOLPE, Angelina  
 教員コード 000167  
 登録人数 159  
 回答数 88  
 回答率 55.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



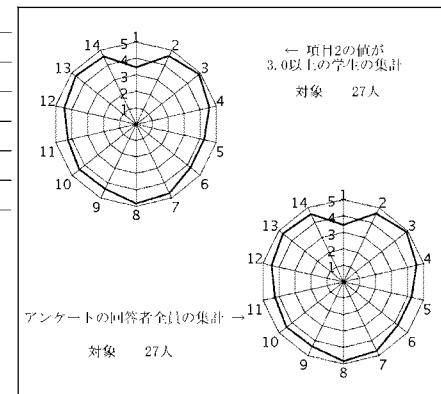
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The major problems for the class “Introduction to Christianity” is that the students (except for those who went to Catholic or Protestant High Schools) know almost nothing about Jesus of Nazareth and History of Christianity. Moreover, most of them do not think that this subject could be “useful” for their future careers. They do not read the syllabus and take the course only for the reason that it is a compulsory subject.

For these reasons, this course is always a big challenge for the instructor to arouse their interest in Christianity, not only as a historical religion, but especially as a totally new way of thinking about human life and relationship with the others as a “gift of love”. However, according to the students’ final reports (some of them are excellent), I think that this aim has been achieved somehow. For future courses I will try to encourage the students to read more, to think more, and to have the courage to read their reflection papers in front of the others.

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[G1]  
 授業コード 10C01-057  
 教員名 吉田 敦  
 教員コード 101920  
 登録人数 37  
 回答数 27  
 回答率 73.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

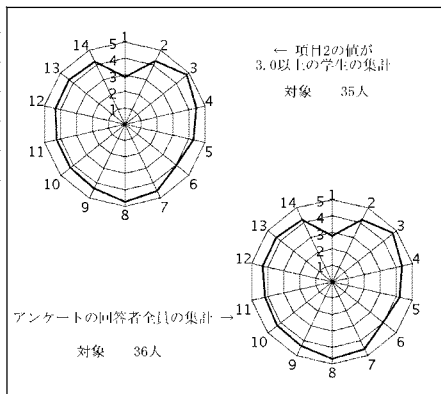


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業開始時の期待度は低いが、最終的には満足してもらえており、全体としてはうまく実施できた。学生が楽しく取り組めるよう、去年の特徴的な発表の方法を紹介したり、遊び心を入れるよう促した。国際教養学部と法学部の各2クラス(合計4クラス)を担当したが、ディスカッションを時間一杯までまじめに行っていた。BYODの方針により、PCを持つ学生が増え、授業時間内に資料を作るグループが増えたことも要因と思われる。また、教材風のビデオやテレビのバラエティ番組のようなビデオ、ラジオ風のトーク音声など、昨年にはなかった、凝った発表をするグループが多かった。昨年度の経験では、3回の発表のうち、最初は気合を入れてやるが、最後の方は手を抜いたり、淡々とした発表になる傾向にあったが、今年は、そのような状況もなく、集中力も維持できていた。一方で、グループに技術を持つ学生がいないと、インパクトのある発表ができないことで、不満を感じる学生もいるようである。学生からの改善点として、グループを途中で替えることが提案されており、不満解消のためにも、必要ではないかと考える。改善点として、同じ内容の発表になって飽きるという意見があった。特に3回目の発表のときは、その課題の内容も関わって、その傾向になりやすい。課題を少し拡大解釈させ、内容の種類を増やす方向に誘導を試みたが、安易なところに落ち着きやすく、工夫が必要である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[G13]
授業コード	10C01-059
教員名	後藤 邦夫
教員コード	016428
登録人数	38
回答数	36
回答率	94.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は2017年度から全学共通科目として全クラス共通の教材を用いて実施してきた。今年度のコース内容は2017年度とほぼ同じである。

昨年度の反省点は、高校で教科情報を学習したことに期待して、担当クラスでは、教科書に加え、少し高度な解説を加えたことである。今年度は、補足事項は資料掲載だけにし、基礎的なことだけを自分で学ぶように仕向け、楽しいと感じてもらえる授業の運営であった。受講者38名中、9名の成績がB、他はすべてA以上となり、学習教育目標が十分達成できたと言える。また、自由記述には、楽しいというコメントが複数あり、運営上の目標も達成できた。

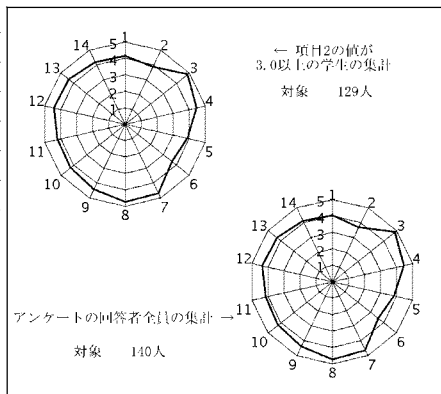
各設問の平均値を見ると、1(履修前の興味)が2.81と低く、6(到達目標に向けて力がついたか)が3.97とやや低い。他はすべて4を超えていて、他の科目と比較して低くはない。1(履修前の興味)が低い点は、科目名等が与える印象からやむを得ないが、「受講してみたら結構面白い」と感じてもらったので、問題はない。6(到達目標)が少し低いのは、オンラインのテキストはほとんど自習に任せ、詳細な説明まで授業でカバー出来なかったことに原因があるかもしれない。

オンラインのテキストの内容はほとんどが高校の教科「情報と社会」の水準で取り扱う内容も少ないので、学生によってはもの足りないのかもしれない。

コメントには、ビデオプロジェクトスクリーンがやや見にくい、グループワークでさぼる学生がいる、等いくつかネガティブなコメントがあった。今後の改善計画は他クラスでの授業評価結果を参考に担当者間で協議する。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化人類学A
授業コード	12B13-001
教員名	吉田 早悠里
教員コード	103066
登録人数	167
回答数	140
回答率	83.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

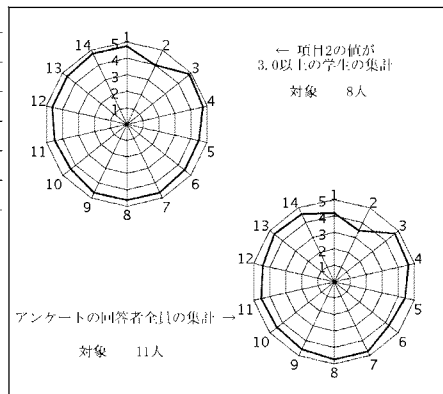
本授業の到達目標は、文化人類学の基礎的な知識を学び、物事を柔軟かつ多角的に捉え、分析する力を身につけることである。各回の授業では1講に1つのテーマを取り上げ、毎回レジュメを配布するとともに、授業内容に関連する短い映像資料を用いて学生の理解が深まるように心がけた。2018年度より、授業の冒頭で前回の授業時に学生が記述したリアクション・ペーパーをもとに、学生の感想を紹介するとともに、質問に回答する時間を設けた。また、授業時間中に学生が話し合ったり、発言したりするアクティブ・ラーニング形式を導入した。その結果、自由記述の欄では「映像を多用し、興味を持たせるわかりやすい講義」「しっかりとした質疑応答」として評価を得た。

学生の評価の平均値は設問(3)～(14)では4.31(2017年度4.26)、(1)～(14)では4.24(2017年度4.19)であった。また、学生の自主的な学習意欲を引き出し、自主的・発展的に学習を進めるための指導・情報提供等に関する設問(11)は4.15(2017年度3.89)、(12)は4.38(2017年度3.80)となり、全体的に2017年度よりも向上している。一方で、今回最も評価が低かったのは、設問(6)の3.59(2017年度3.76)で、次いで設問(2)の3.68(2017年度3.64)である。学生が、授業の到達目標にむけて自主的な学習に取り組んでいない点、実際にどのよう力がついてきているのかを実感することができていない点が問題として浮き彫りになっている。

全体としては、本授業の目標はおおむね達成することができたといえる。しかし、次年度以降は今回浮き彫りになった問題点を踏まえ、学生の能動的な学習意欲を引き出すとともに、到達目標にむけて力を獲得してきていることを実感できるような機会を授業のなかに設けることで、問題の改善に努めたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 南山大学の軌跡  
授業コード 12B15-001  
教員名 永井 英治  
教員コード 018861  
登録人数 33  
回答数 11  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、二つの目標を設定した。ひとつは、南山大学の歴史の理解を事例に、物事を歴史的に理解することである。もうひとつのテーマは、大学と社会との関係を理解することである。「現在の学生文化」について受講生ひとりひとりに回答を求めた際の反応などを見ていると、少なくともその時の授業にいた受講生の社会への関心はかなり高く評価できる。

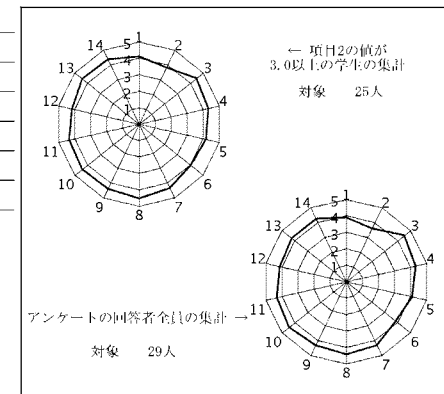
ただし、これらの評価は、標本の母体がかなり偏っている。授業の初回時に、シラバスについて説明すると、2回目までに受講生は半減した。授業に出席していた受講生は、その約3分の1である。授業評価は、おそらく彼らによるものなのである。

大学の歴史とは、大学がどのような学部学科構成を持つかに端的に示される、当該大学の学問の体系の形成・発展の歴史である。新制大学である南山大学の歴史は、戦後に始まるが、その段階での列島社会の学問体系の影響を受け、その上で、独自の特徴を加味した固有の学問体系を形成してきた。個々の学生が固有の専門分野を学ぶとき、南山大学の学問体系を無視することは適切ではない。自らの学問の拠って立つ場を明らかにするため南山大学の歴史を学ぶ意義がある、今後は、このような点にも十分留意したい。

なお、学外授業は参加者はやや少なかったが好評であった。教室外にも学ぶ対象は多数ある。今後も学外授業は変化させつつ継続していきたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と倫理問題4  
授業コード 13D01-004  
教員名 神崎 宣次  
教員コード 103280  
登録人数 179  
回答数 29  
回答率 16.2%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

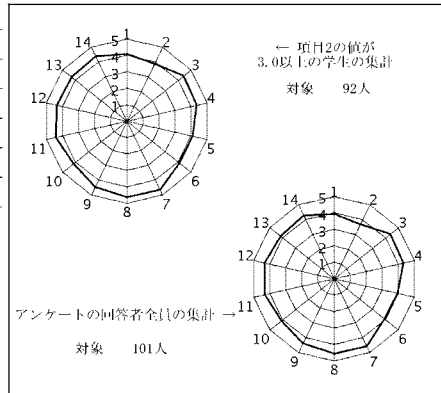
1) 開講当初に設定していた到達目標に関しては、おおよそ達成したと考えられる。ただし環境問題という現在進行中の問題をテーマとしている関係上、関連する事項が増え続けているので、来年度向けのシラバス作成時には項目を多少減らす必要があると考える。

2) 上でも述べたが、テーマの性質を考えると、関連項目が多くなりすぎている。これに関連して、期間中に二回の提出物という評価方法では多くの項目の理解を確認するのに適切ではなくなってきているという認識を持っている。

3) 今年度中に同じシラバスの授業がもう一つあるが、上で述べたような問題に対処するために、そちらではリーディング・アサインメントを出して、反転学習に近い授業形態を試みる予定である。評価方法についてはシラバスの記載を年度途中で変更することはできないので、来年度以降の同じタイトルの授業では他の授業で行っているようにWebclassを使用して、簡潔な課題を頻繁に出す形式に変更することを考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教人類学
授業コード	22C33-001
教員名	MUNSI, Roger Vanzila
教員コード	101925
登録人数	202
回答数	101
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



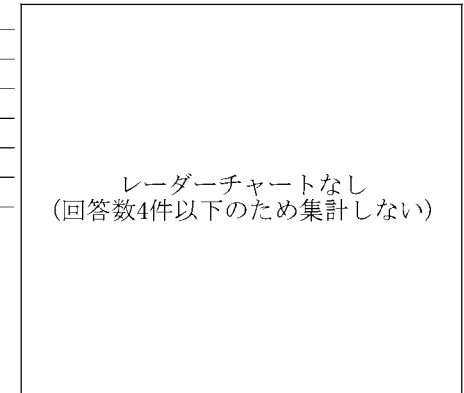
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was designed to provide a critical introduction to the socio-cultural anthropology of religion, focusing on more recent classical ethnographies and my own field research outcomes. I brought into reflexive analysis some important themes, such as— Prayers, Interfaith gathering, Ritual, Shamanism, Buddhism, Islam, Hinduism, Christianity and its relation to African, Southeast Asian and South American religions, and contemporary Neo-Pentecotism. Eschewing a thematic approach and treating religion as a social institution and not simply as an ideology or symbolic system, the course followed the dual heritage of socio-cultural anthropology in combining an interpretative understanding and sociological analysis. The main gist of the course was illustrated by videos or DVD and anthropological designs

In reading the students' evaluation, I am glad that the course appealed and benefited to most of them. This also became immediately clear through their weekly reflection papers and term Reports. I have taken into consideration the observations made by attentive students and I will try to improve those shortcomings in the next academic year. In general, therefore, it seems that this course was of greatest interest for students as it opened to see the extent to which anthropologists analyze religion more deeply than religious scholars. The course thus gave some students a teste to further their ongoing research for their long essays. Others were instilled to select subjects beyond the course design but with a very promising research objective and perspective.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカの経済
授業コード	32C27-001
教員名	安原 毅
教員コード	017905
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



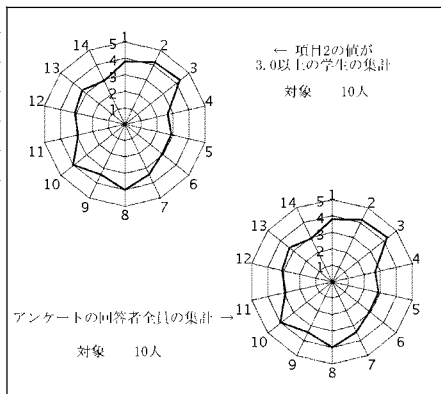
授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者17名に対して常時出席していたのは7-8名、いつも前列で聞いていたのは1名人類文化学科の学生のみで、残りは後方で寝ているか語学の勉強をしていた。スペインラテンアメリカ学科学科科目ではある程度仕方ないことだが、改めて学生の関心を引くのは難しいと感じた。

授業中に回答を呼びかけたにもかかわらず回答数は4名だけだったが、うち3名はほとんどが4以上の回答で、「面白かったし、もっとレベルを上げてくれてもよい。経済学の内容も聞きたかった」との感想だった。ほか1名はほとんどが3以下だが、「レポートの課題を言うのが遅い」との感想だった。関心度にはかなり改善の余地があったが、試験は全体に出来は良く、成績も高かった。経済学の理論は最小限にとどめラテンアメリカの事情解説に徹したのは、全体としてはよかったと考える。またテキストを指定してもどうせ誰も買わないので、コピーを配布するほうがよいと分かった。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English I8
授業コード	48A05-008
教員名	森泉 哲
教員コード	100542
登録人数	18
回答数	10
回答率	55.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



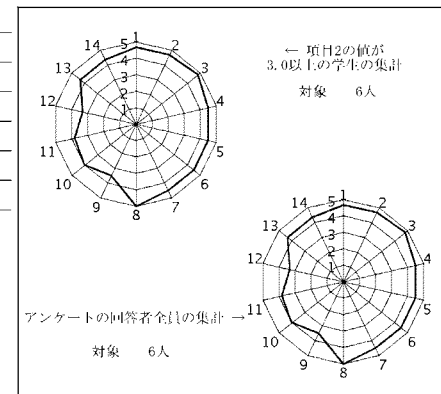
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、大学新生のために英語の4技能の能力の養成し、国際教養学部のコンテンツ科目を英語で学ぶ力を身につけることを目的としている。学生の授業評価の結果からみて、この目的は十分達成しておらず、特に進度の進め方に大きな問題が生じ、その結果総合的満足度が中点を下回るという結果になり、猛省しなくてはならない。本授業では、昨年度に引き続いてワークシートを、テキストの内容把握とともに、自分の意見を英語でディスカッションを促進するために使用したが、本授業の学生にとっては、その分量・課題内容は難易度の高いものであった。3回目あたりの授業で、進め方の度合いや英語使用量などを確認し、難易度が高いことを把握するとともに、こちらの思いを伝えながら、ワークシートの改良・修正を加え、授業を行っていった。しかし、あまり反応が思わしくないため、10回目あたりの授業時に、学生に意見を再度求めて、授業改善のため授業の進め方を変更したが、結局最後まで学生の満足感が高まらなかった。特に、授業回後半は予定より、進度を遅くした結果、最終レポートに十分時間を取ることができずに学期末を迎えてしまったことに、大学入学後の初学期に対する不安もあり、さらに不満が高まってしまった結果だと思ふ。さらに、学生の授業態度（私語と授業に関連のない携帯画面の閲覧）に対して、2回ほど声を荒げてしまったことがあり、好ましい学習環境を乱してしまい、小職との信頼関係を十分に築けなかったことも一因と考えられる。

毎年学生の興味・関心、また教員との関係性は異なるので、授業回数の早い段階から、対話を通して丁寧に確認をしながら、学生との信頼関係の構築しつつ、授業を進めていく努力をしなければならぬと改めて痛感した。また学生に対して、こちらの怒り感情を一方向的に学生にぶつけることのないように、アンダー・マネジメントを徹底し、学習環境の雰囲気や壊すことなく、学生の気持ちにも配慮しつつ諭すように助言を行うようにし、学生の学びが最大になるように、毎回の授業に細心の注意を払っていくよう努力していく。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English V1
授業コード	48A09-001
教員名	山岸 敬和
教員コード	101411
登録人数	17
回答数	6
回答率	35.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は2年次必修科目であったため、国際教養学部が開設されてから初めて開講されたものである。また、この科目は英語教育とアカデミックコンテンツ科目を橋渡しをするための科目として位置付けられ、その手段としてディベートのフォーマットを採用した。学生にとっても、教員にとっても初めての形の英語科目であり、当初は多少の戸惑いもみられたが、最終的には充実したものになった。ただし、来年に向けて改善すべき点も見出すことができた。以下、項目に分けて自己評価を記す。

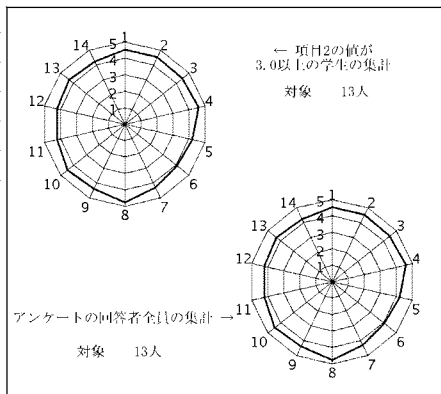
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
このクラスでは英語によるリサーチ力、ディベートというフォーマットの中での表現力、異なった視点を身につける、自立して研究を行う力を養うことを目標とした。1回目のディベートにおけるパフォーマンスと最終回のを比べると、明らかに全ての面で飛躍的な向上が見られた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
登録学生の約3分の1のみからしか回答が得られなかったが、その中での評価をみると、教員が積極的にクラス運営に関わったかどうか設問9、11、12の数字低い。これはある意味、確信犯的なところがある。達成目標に学生の自主性を求めるということがあり、学生から質問がない限りあまり関わらないようにしていた。しかし、これが「英語科目」であったため、学生は他の英語科目のように詳細なガイダンスがあるのかと想像していた節があり、その期待との齟齬があったのではないかと想像する。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English V8  
 授業コード 48A09-008  
 教員名 松永 隆  
 教員コード 015081  
 登録人数 19  
 回答数 13  
 回答率 68.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Active Learning をしっかりと実施することができ、目標は十分なレベルまで達成できたと思われる。ディベートでは準備段階からリサーチをおこなう必要があり、自ら積極的にリサーチを行い、情報を適切にまとめて分かりやすく伝達できるスキルが求められる。またディベート終了後にエッセイとしてまとめる課題を出したのも良かったと思われる。

高く評価できる点

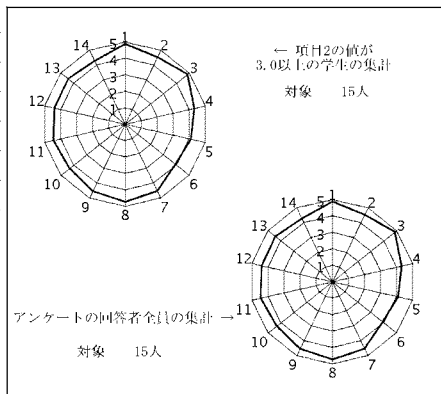
授業全体、授業運営、全体的評価に関してはすべて4ポイント台半ばに平均値があり、まずまず満足のいく結果になったと思われる。設問1~14の平均値は4.38、設問3~14の平均値は4.36であった。また「ディベートが勉強になった」、「プレゼンテーションを通して友人たちからの意見も聞けてよかった」、「教員からの追加説明がとてもわかりやすかった」などのコメントがあった。今後もこのような手法は継続し、さらに新たな試みも導入していきたい。

改善点

Active learningの活動をもっと多様なものにしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication  
 授業コード 48A10-001  
 教員名 DEACON, Bradley  
 教員コード 046920  
 登録人数 17  
 回答数 15  
 回答率 88.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

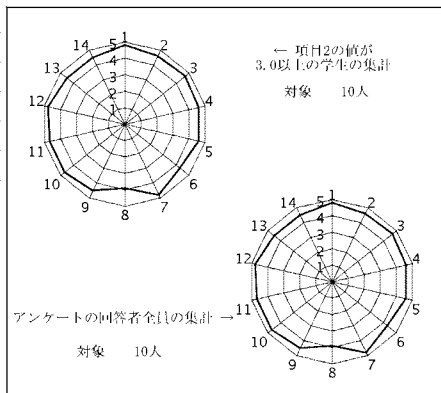
Advanced English Communication is a highly demanding course. The goals of the course focus on facilitating the students to deepen their understanding of academic content primarily through topics that are related to the UN Sustainability Goals. This course challenges the students by offering several opportunities for them to listen to academic content through online talks, lectures, and other mediums to develop the necessary skills to become skilled at comprehending extended speech. Students also actively interact mainly through discussions and presentations related to the course content while developing their critical thinking ability, communicative confidence, and English accuracy and fluency.

Student feedback showed that they were engaged in the content and found several ways to take advantage of their learning opportunities both individually and collectively. As all areas of the course evaluation were scored highly, it is clear that the students found the Advanced English Communication course to be one that provided them with rich and challenging opportunities to develop as both language learners and global citizens.

As coordinator of this program, I solicited feedback on the program from both the students and teachers specific to areas such as our Advanced English Communication Presentation Symposium that was held in the GLS Learning Commons. As a team, we are meeting in order to refine this event and all other aspects of our program.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication2  
 授業コード 48A10-002  
 教員名 YARDLEY, Gabriel  
 教員コード 016998  
 登録人数 19  
 回答数 10  
 回答率 52.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

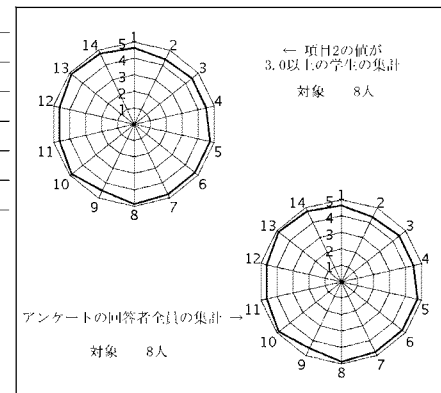


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The data in this questionnaire appeared to mirror those in a fuller survey taken of all students as part of a final assignment. Generally, there appeared to general satisfaction with the AEC course in terms of covering the syllabus, in terms of knowledge acquired and materials and teaching methods used. The objectives for this subject as presented in the course outline were met in full. With regard to Q8 and the lower scoring result, the instructor will ensure that his voice is clearly audible and intelligible to all students in future sessions. Students generally appeared to feel that there were there enough opportunities for consultation with the instructor, and sufficient guidance before and after assignments or practical work, and that the course was being taught in a sincere manner. Students generally participated in a proactive manner and made considerable efforts to improve their understanding of the course content. The instructor will try to provide a more satisfactory learning experience in future AEC sessions by taking into account all the results of this survey and that of the additional class survey.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy3  
 授業コード 48A11-003  
 教員名 鹿野 緑  
 教員コード 101092  
 登録人数 19  
 回答数 8  
 回答率 42.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

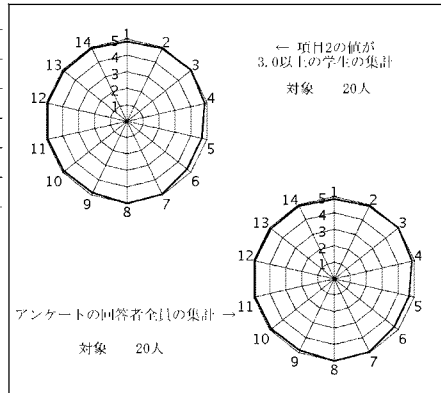
国際教養学科2年次必修のAdvanced English Literacyの授業評価に基づいて報告をする。この授業は、1年次で学んだリテラシーを発展させる形で、アリゾナ短期留学および長期の交換留学へ向かう準備コースと位置づけられている。アカデミックな内容の記事・論文を読んで要約する、ディスカッションなどのクリティカルリーディングの側面と、はじめて本格的なアカデミックペーパーを書くライティングの側面をもつ授業である。

評価の数値を見てみると一定の効果は得られているようだが、実際の授業を経ての反省点は、アカデミックペーパーを書くステップの細かな指導、良いサンプルの提示などが不足していたと感じられる。担当教員とのフィードバックの時間を細かく設けたのは、学生にとっては良かったようである。今年度がはじめての開講であり様々な反省点が多い。また、全体でコースコーディネーションを行なっているが、カリキュラムの中での位置付けと学生のレディネスを考慮した授業を今後は行なっていきたいと考える。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy5
授業コード	48A11-005
教員名	MILES, Richard
教員コード	101363
登録人数	20
回答数	20
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

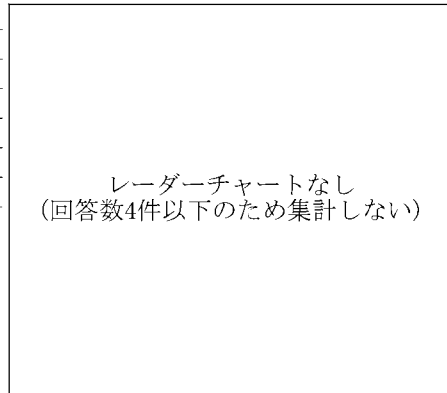
Overall, I am satisfied with the evaluations and with how the course went. The students were all very positive in terms of their comments and the scores they gave the course. As this was the first time to teach this course, there was a certain amount of apprehension about what to expect. I had designed the course to specifically help students become more independent writers, and editors, so that they can work autonomously when they study abroad next quarter. The primary goals of this course were to write a research report and to comprehend and respond to intensive readings on sustainability. Students answered very positively to questions #13 and #14, indicating they felt they had achieved a lot and had improved their writing skills.

The written comments were all positive. Responses to question #4 also indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students. This was especially pleasing. Other responses indicate the students were able to comprehend the lessons, seek advice from the instructor, and improve their writing skills.

For next year, I will slightly modify a few minor things, but it seems that most of the course has been successful. A few modifications include making the course goals a little clearer and providing the students with more positive reinforcement, as a few indicated they were not sure how much they had improved.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	English Workshop A1
授業コード	17401-001
教員名	山田 泰広
教員コード	050443
登録人数	7
回答数	3
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた、この授業の目標は1. 詩の言葉の特徴が分かること、2. 小説の背景やキャラクターのイメージを思い描くことができ、ストーリーの流れを理解できること、3. 論説における主張とその根拠を把握し、その説得力について意見を言うことができること、それに4. マスメディアの情報を批判的に読むことができることであった。この目標に照らし合せてみると、1と2については、個人差はあるものの、設定した程度には到達できたが、3と4のクリティカル・リーディングの部分については授業で深めることができず到達の程度は低いと言わざるを得ない。担当科目に関して客観的・総合的に自己点検・評価するには出席者から提供された評価数値や自由記述等が必要であるが、登録者7名のうち2名が途中で脱落し、残った5名のうち回答者が3名しかいなかったため、受講生から見た評価が非常に限られたものとなった。その3人による全体的評価は、設問13が4、4、3、設問14が4、5、3であった。その結果によれば、この授業は2人にはまずまずであったが、1人にはもっと満足度を高める工夫が必要であったことがわかる。このクラスの受講生は短大部の残留生で、欠席の目立つ学生が多かった。その出席率を上げるにはどうすればいいか、学習に対するモチベーションを高めるにはどうすればいいか、難しい課題であるが、やる気を引き出せるような活動を中心に据えた内容でQ2の授業を展開していく予定である。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教文化1
授業コード	17533-001
教員名	市瀬 英昭
教員コード	055525
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

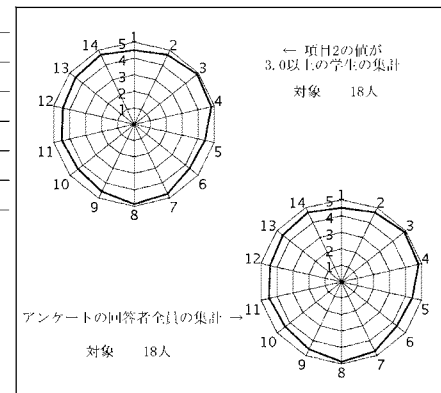
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講登録人数が4名であったので(二回目から5名)、当初の授業計画を一部変更し、キリスト教文化を、サン＝テグジュペリの著作を読み解き、同時に、聖書の思想との関連を意識しながら、学んでいくという方針とした。これは初回の講義の際に提示した。今回は2017年度末をもって閉学となった短期大学の残留生のためのクラスであり、受講生の学習へのモチベーションが必ずしも高いとは言えない状況であった。そこで、毎回レジュメを配布しながら、時事的なテーマも取り入れつつ、興味を喚起するような工夫をした。それでも当初の目標が十分に達せられたとは言い難い。しかし、毎回講義後に提出される「ふりかえり」(B5用紙)にはそれぞれ何らかの学びの跡が記されていたので、二回目以降は講義の最初にそれらについてコメントすることとした。なお、この「ふりかえり」は講義最終日に各自に返却し、レポート作成時の参考にするようにと伝えた。受講生が少ないために、レーダーチャートは入手できないが、自由記述の欄に「先生の話が興味深いものが多かったことや、少人数だったこともあり、集中がしやすかった」というものがあり、上のような状況にもかかわらず、何らかの学びの効果はあったように思われる。次回からも、受講生の向学心を呼び起こし、学びへのモチベーションとなるような講義を目指していきたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English I6
授業コード	48A05-006
教員名	丹羽 牧代
教員コード	055715
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

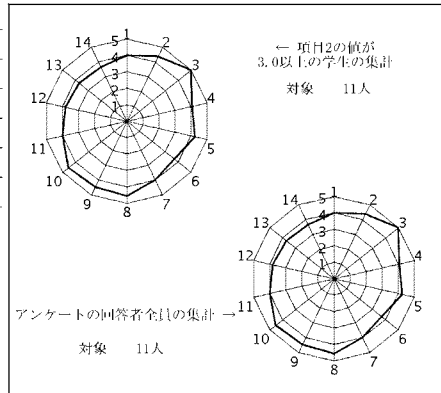


授業評価結果を踏まえた点検・評価

GLSIはあらかじめ学科全体の共通目標が決められており、それに沿って実施したが、最終レポートとそこに至るまでの個々のプレゼンテーションを見る限りではおおむね各学生とも到達できている。ただし、授業当初に予測したよりは英語によるDiscussionのハードルが高かったようにも思われ、話し合いが充実する回と苦戦する回などの揺れが見られた。ということは学生の充足度・到達度にも揺れがあるということであろう。このことは数値としてもわずかながら現れており、達成度を問うあたりで平均値が下がるのは数値の低い学生が存在するからであろう。一方で自由記述を閲覧すると、「教科書本文をもっと難しくやりたい」という声があり、さらに上のレベルを求める学生もいる。これは今回初めて聞いた声であり、ついていくのに必死となる学生と、ゴールとしている目標を上回る能力を持つ学生と、両レベルといかに相対していくかという問題が浮上した。このこと自体は新しい問題ではないが、国際教養のクラスでは初のことである。更なる授業運営のスキルが要求されることとなっている。なお、授業内で英語発音のTipsをはさみながら授業構成を切り替えていくやりかたは有用であるようなので、今後も引き続き工夫を重ねたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy7  
 授業コード 48A11-007  
 教員名 中田 晶子  
 教員コード 055624  
 登録人数 19  
 回答数 11  
 回答率 57.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

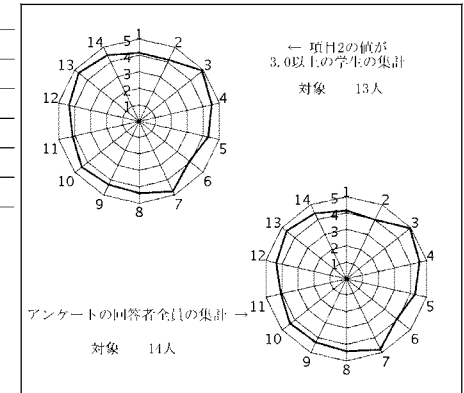
この科目は、2年次必修科目で、1年で履修した「英語リテラシー」に引き続き、特にリーディングとライティングの運用能力を養成する科目である。グローバル化やサステナビリティに関する英文エッセイを教材として、クリティカルリーディングを学び、アカデミックなテーマについてのレポートをAPA (American Psychological Association) のフォーマットで書くことが目標である。Q2で大多数の学生が参加する短期海外留学の準備として、アメリカの大学で要求されるタームペーパーの書き方を学ぶものである。

1年で学んだ基礎的なエッセイライティングの延長にあるとは言え、英語で本格的な論文形式のレポートを書くことは、アカデミックな論文を読む経験を積んでいない2年生にとって難度が非常に高い上、今年度が科目開講初年度とあって、教える側も手探りであった。

学科の専門科目における学びの蓄積に支えられ、テーマについての興味や理解はほとんどの学生が持っており、クリティカルリーディングのための教材についてのグループやクラス単位のディスカッションは、大きな問題なしに進められた。引用の仕方やReferencesの書式については時間をかけて教え、練習問題もこなしため、ほぼ定着が見られた。Critical ReviewやDiscussionに関しては個人指導を中心に進めたが、進度の個人差が大きく、進度の遅い学生は十分な指導を受けずに作成した部分もあった。次年度に向けては、科目の担当者グループで情報共有をし、留学先での状況を知った上で、学生のレベルにより合ったサンプルエッセイを準備し、より効果的な授業をめざしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐって3  
 授業コード 13C05-003  
 教員名 丸山 雅夫  
 教員コード 017517  
 登録人数 22  
 回答数 14  
 回答率 63.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

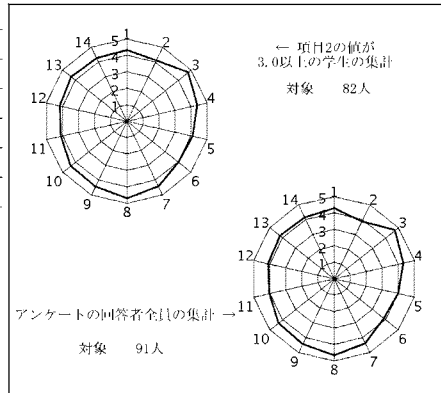


授業評価結果を踏まえた点検・評価

登録者数が22名で回答数が14名であったのは、毎回の授業の出席状況と完全に一致しており、全体としては出席率が高かったものと評価している。今年度は、他の1年次の法学部必修科目の時間割との関係で、1年生および法学部生の受講がほとんどなく、当初想定していた形態（法学部科目としての「少年法」を受講するための前段階の講義としての位置づけ）とは異なる形で展開せざるをえなかった。共通教育の時間割りについて、当初から必修科目が設定されているコマを知らされていれば、このような事態は起こることがなかったと思っている。共通教育委員会で、この点の議論をしていただく必要を感じている。もっとも、ほぼ他学部生だけを対象とした授業として、本来の共通教育の役割は十分に果たせたものと考えている。特に、講義全体に対する評価が高く、満足度の高さからしても、講義自体としては成功したと思っている。ただ、法学部の1年次生がほとんどを占めていた従来の状況と異なり、法学部生がほとんどいなかったことから、講義の目標が必ずしも判然としなかったことが窺われ、シラバス作成における今後の課題として認識している。また、裏面の記述は必ずしも多くはなかったものの、いずれも肯定的な内容であり、満足のいくものであった。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法総論A  
授業コード 44B04-001  
教員名 豊島 明子  
教員コード 101192  
登録人数 246  
回答数 91  
回答率 37.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

法学部の行政法科目（行政法総論・各論・行政救済法）は、毎年専任教員3名でローテーションして担当している。ローテーションは、他の開講科目や負担コマ数を勘案し、その年度ごとに決めているため、私が「行政法総論」を担当するのは2014年度に担当して以来のことで、久々であった。

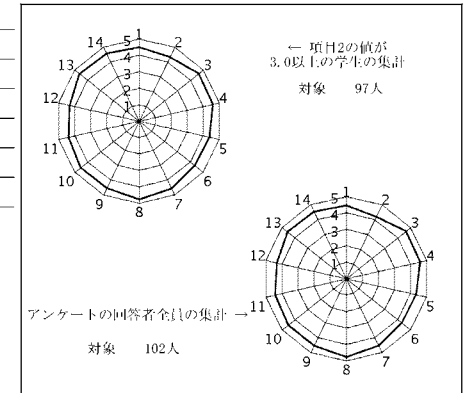
このため、レジュメはできる限りリニューアルするよう努めた。また、指定した教科書の項目順に沿ったレジュメとし、レジュメを作る際のポリシーは、教科書の記述ではメリハリがなく説明が難解であるため、これらを補強・補完することとした。

アンケート集計結果を見ると、法学部の授業評価対象科目の平均よりも低い項目がいくつか散見され、特に、項目11～14のような授業の満足度や学生の理解を助けるための工夫に関する項目で、低い傾向が見られたのは残念であった。この点については今後、学生の復習の手助けになるような例題や練習問題を提示するような工夫をするなどして、より高い評価が得られるよう努めたいと思う。

ただ、その反面、自由記述欄の項目15として、10名以上の学生から、「レジュメがわかりやすい」、「説明がわかりやすい」、「行政法は難しいが、分かりやすくやる気になる授業だった」、「ホワイトボードの字が見やすい」等、作成したレジュメや私自身の説明のわかりやすさを評価してくれる声があり、これらの点については今後も持続していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑事訴訟法A  
授業コード 44B09-001  
教員名 榎本 雅記  
教員コード 103094  
登録人数 360  
回答数 102  
回答率 28.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

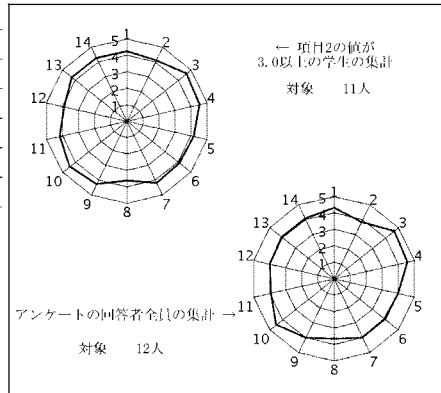


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた内容については、ほぼ網羅することができたと感じている。②今回は、すべての質問項目で法律学科の平均値を上回ることができ、その点は安堵しているところである。前年度の反省を踏まえて、講義開始時に行っている時事問題に関するコメント時間が少なめにしたことがよかったのかもしれない。もっとも時事問題コメントに肯定的な回答を寄せてくれている受講生もいるので、次年度以降も今回程度の時間をとっていいと考えている。板書の字が見えにくいとの指摘が複数あったため、この点はすぐに改善したい。③今回の結果に満足することなく、講義改善に努めていくつもりである。具体的には、レジュメをより分かりやすいものにする、現在映像教材は講義の中で1回のみであり、受講生の評価も高いため、あと1、2回映像教材を導入すること、90分間集中するのが難しいとの指摘があるので、現在講義開始直後にレジュメ配布をしているが、それを講義中盤に行うなどの工夫をすること、板書を見やすいものにする、検討の余地があると思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物権法A
授業コード	44B15-001
教員名	清原 泰司
教員コード	100774
登録人数	59
回答数	12
回答率	20.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



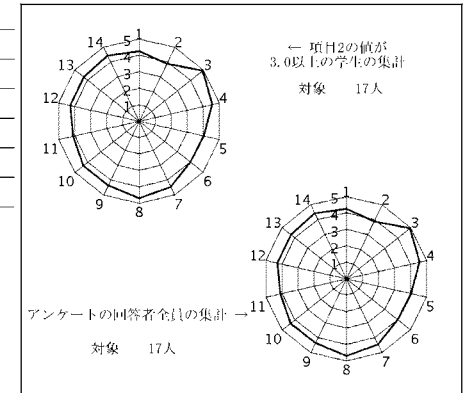
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、2年次生を対象とする科目なので、開講時の設定目標は、物権と債権の相違を正確に理解し、物権法の基本的な事例問題に対応できる能力を培うことであった。ところが、受講登録者数が例年の5分の1程度で、しかも、2年次生は0名だった。これは、2年次生向けの必修科目が同一時間帯に存在したことが原因であった。その結果、受講登録者数は59名で、すべて3年次生以上であり、授業評価アンケート法律学科開設科目の回答者も12名にすぎず、例年の10分の1以下であった。このように、アンケート回答者の構成も数も、例年と全く異なっており、このアンケート結果を、どう評価すべきかについては苦慮しているが、設問項目3～14の平均値4.12は、法律学科開設科目の平均値を下回っており、やはり厳しい評価を受けたと理解すべきであろう。

自由記述欄の肯定的評価は、「途中からわかりやすくなった」が1名、否定的評価は、「白板に書かれた図がわかりにくい」が1名であった。これは、要するに、わかりやすい授業をするようにという要望であると思われるので、学生の表情を見ながら、それに沿うように対応していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政法各論
授業コード	44C04-001
教員名	榎原 秀訓
教員コード	100548
登録人数	76
回答数	17
回答率	22.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

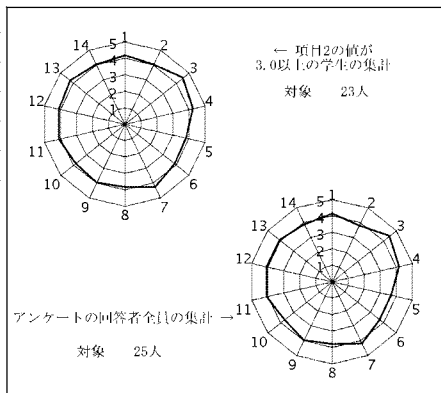


授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政法各論は、2016年に担当してから1年において担当したが、前はクォータ制導入前であったので、クォータ制が導入されてからは最初の評価となる。授業の内容は、前回の新しい問題などを追加したが、ほぼ前回と同様である。回答率は、2016年は、47.8%であったが、今年は、76名の履修登録中17名のみが回答で、22.4%にしかない。自由記述にも何も記述されていなかった。最終回に授業評価を実施し、それは2016年と同様なので、回答率が低い理由は不明であるが、ウェブでの入力形式が関係しているかもしれないと推測する。回答者数が少ないことから、2016年と比較して、どの程度意味があるかわからないが、2016年は各項目の評価が概ね4点前後であったのに対し、今年は、概ねそれよりも高い評価となっている。授業の時間厳守という事実の評価が4.94と最も評価が高く、評価が低いのは、設問6「到達目標に向けて力がついた」4.00、設問5「到達目標を理解できた」4.06で、この二つが4.0台であった。受講生が「到達目標」をどのように理解しているのかと考えるが、ともかく、回答者が少ないことを前提にすると、比較的熱心な参加者でも「到達目標」に照らして評価が低いということだと思ってしまうので、今後、学生の理解を深めるようより一層の工夫をしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 有価証券法  
 授業コード 44C16-001  
 教員名 今泉 邦子  
 教員コード 019505  
 登録人数 113  
 回答数 25  
 回答率 22.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度4Qに開講した際には、平均を上回る評価を得ましたが、今年度1Qに開講した本科目は平均以下の評価を得ました。そこで、昨年度の授業と何が違っていたのかを考えてみました。

- ①昨年度の授業評価アンケートの意見として「話すスピードを速くよい」というコメントがあったので、スピードを速くしたこと、
- ②民法の改正を踏まえてレジュメの内容を改訂したこと、
- ③授業の途中に休憩をいれたこと
- ④4年生の受講者が例年の倍いたこと、の4つがありました。

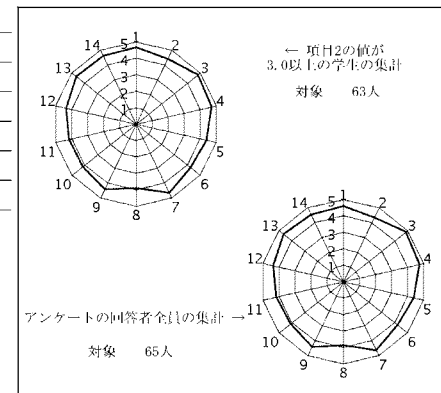
これらへの変化への対応は、それぞれ以下のようにしてみようかと思っています。

- ①話すスピードが早すぎても内容を受講者に理解してもらえないし、スピードを速くして話す内容を増やしすぎても、受講者の理解の限界を超える。
- ②レジュメはさらにブラッシュアップする必要がある。
- ③休憩は悪くないので、次回当科目を担当するときにも継続する。
- ④出席できる回数および勉強時間に限度のある受講者への対応としては、レジュメ冊子に記載できることは記載する。

ただし、受講者の傾向は毎年変わるので、次回この講義をするときにこれでの申しない可能性もありますが、このような対策がありうるでしょう。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教職入門1  
 授業コード 15A02-001  
 教員名 宇田 光  
 教員コード 100494  
 登録人数 73  
 回答数 65  
 回答率 89.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



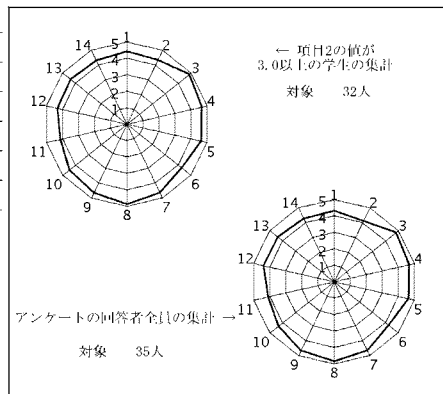
授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目である。主に1年生を対象としており、履修登録者数は72名、回答数は63名。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用した講義をしている。項目3から14の平均値は4.41、満足度を示す設問14の平均値は4.54となっていて、レーダーチャートでも大きな落ち込み部分はない。全体としては、まずまず満足であるという回答を得た。

個別の自由記述では（a）良かった点として「先生がとても真摯に授業に向き合っていたこと」「当日にやる事が明確で、学習を進めやすかった」「毎回レポートの評価があったので、やる気が出た」「レポートの時間に話し合いの時間が設けられていたこと」「グループワークやペアワークがあり、コミュニティを広めることができた」などがあつた。一方、（b）改善すべき点については、「中盤で先生がする解説が途中から雑になっていた」「教員の声が小さくて聞き取れないことが多々あつたので、もうすこしマイクの音量を上げるなどして欲しかった」「マイクがはいっているかしっかり確認してほしいです」「グループ班決めが誕生日順で平等だったが男子1、女子6はバランスが悪かつたので多少配慮して欲しかったです」など。今後、改善していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生徒指導論2  
授業コード 15A10-002  
教員名 笹尾 幸夫  
教員コード 103858  
登録人数 48  
回答数 35  
回答率 72.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

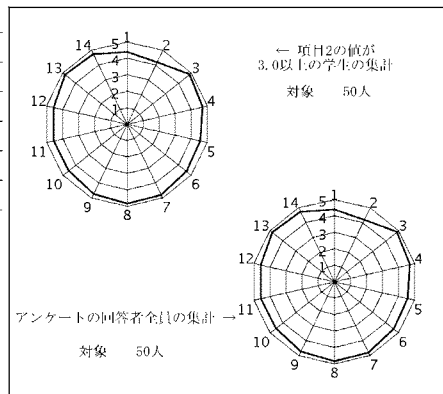


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①ほぼシラバスの計画通り実施できたが、「進路指導」については「特別活動指導論」でも扱うため、「問題行動一般」に変更して、これを2回とし、「児童虐待」と「発達障害」について講義した。到達度については、評価の平均が約8割であり、おおむね達成できたと思われる。
- ②初めての講義であったが、すべての項目で平均値が4.0を超えており、おおむね良好であった。しかし、機材が教室ごとに異なり、不慣れな機材であったため、実施に手間取ることがあった。また、講義中心の授業であり、学生が活動する機会が少なかった。
- ③パソコンで作成した資料がディスプレイでは下部が欠けることがあったので、資料作りには気をつけたい。また、カラーで原稿を作成すると、配布プリントが白黒のため、見にくい資料となってしまった。次回以降、気をつけてまいりたい。さらに、シラバスについては、途中で一部変更した。学校現場の課題を数多く指導する必要があると考えるため、次回のシラバスには今回の変更を反映したい。なお、授業について、講義中心ではあるが、学生が活動する機会を少しでも増やしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校カウンセリング2  
授業コード 15A11-002  
教員名 大塚 弥生  
教員コード 000065  
登録人数 81  
回答数 50  
回答率 61.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

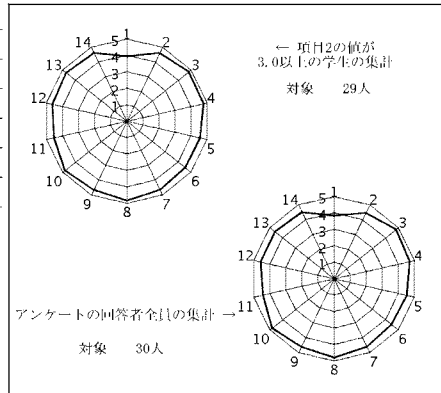


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 設問3から14の平均値が4.70であり、設問13（新しい知識の獲得、理解の深まり）の平均値が4.82、設問14（全体としての満足度）の平均値が4.74であったことから、本授業の目標はほぼ達成できたものと考えられる。自由記述においては、実習を通して他者と関わる体験をしたことや、実践に結び付けていく試みについて高評価する受講生が多く見られている。講義だけでなく受講生が自ら参加し、体験から学ぶ方法は受講生にとっても有益であり、今後も継続して続けていきたいと考える。
- 一方で、本科目は教職課程における必修科目であるが、実際に教職をめざすかどうかという思いには個人差があり、「教師の行うカウンセリング対応」について学ぶことへの必然性は異なっている。カウンセリングは単に知識を得ることではなく、自己理解や他者理解を深め、他者と関わる力を養う点において、いかに受講生の主体性を引き出すかという点が重要となる。受講生の学習意欲をいかに引き出すかという点が、今後の課題であると考えられる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[L]7
授業コード	10C01-049
教員名	栗原 寛明
教員コード	103522
登録人数	35
回答数	30
回答率	85.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



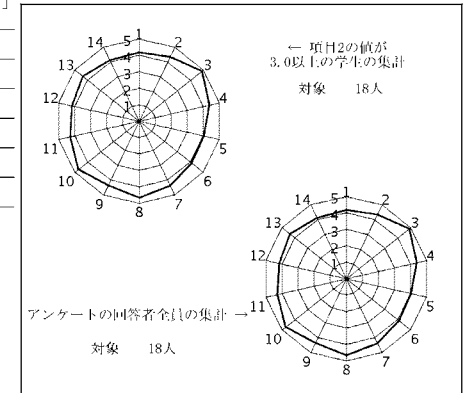
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出した受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。特にプライバシーや著作権に対する理解を深めることができたと思われる。

授業はe-learningと対面授業が組み合わされており、e-learningで学習した内容に関して対面授業でグループディスカッションや発表を行うことで理解を深めるというものであった。e-learningについて、教材と課題の分量も適切であり、受講生の理解は十分に追いついていたと思われる。ただし、e-learningの教材の一部あるいは大半に目を通した記録のない受講生が少なからず見受けられることは非常に残念である。小テストやレポートとは異なり必須となっていないが、教材も必ず読むあるいは視聴するようにしてもらいたい。対面授業については授業の中心となるグループ活動に十分な時間を確保するように努めた。その結果、時間が不足するということはなく、十分にディスカッションや発表の準備を行うことができたと思う。テーマによっては各グループの発表内容が似たものになりやすいので、ディスカッションの途中で新しい話題を提供するなど、発表に多様性を持たせる手段を検討してもよいかもしれない。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iオーラルコミュニケーション[P]
授業コード	11A01-020
教員名	BLYTH, Andrew
教員コード	102982
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The results of this survey are surprising. There are two new factors this survey. The first is that the students are not well acquainted with each other yet, but worked well together anyway; and the second my class and I are using my own book. Both of these will surely have made an impact. Firstly, the quarter went by very fast, and so there wasn't much time for us to become well acquainted yet. Despite this, results are pleasing for questions 11, 12, and 13. Interestingly, my results for question 14 were a little down, which can only be assumed to be related to the course still being new to students. Considering question two, it appears that students may be more motivated to engage in the class.

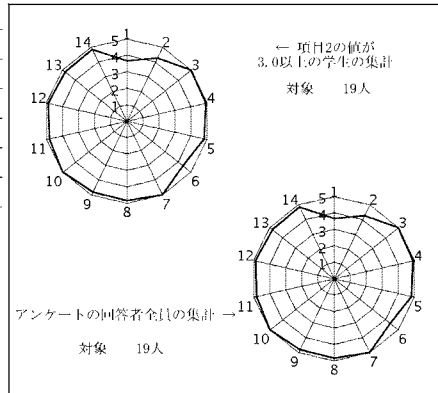
Regarding comments, students seemed pleased with the course, and the book I wrote especially for the course. The book promotes learner autonomy, whilst providing linguistic and academic input. I expected that the book would affect the survey results, but perhaps negatively, as I assumed students have a bias for professionally produced books because they appear more legitimate. However, this was not the case, and the students seemed to appreciate our book.

Generally, increasingly through the quarter, and as witnessed in this quarter, the students are participating more, and their confidence and class engagement are increasing. I fostered an environment of trust, and so those with less ability could also gain confidence in speaking out. Of course, building student confidence is not a task that can be achieved in a single quarter, or year for that matter.



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
6  
授業コード 11A01-025  
教員名 LOTT, Danielle  
教員コード 103593  
登録人数 20  
回答数 19  
回答率 95.0%  
休講回数 1回  
補講回数 1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

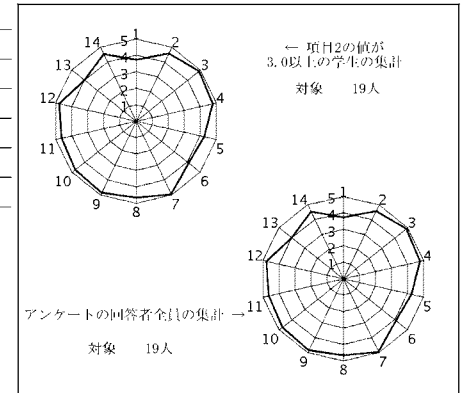
(1) My own personal goals were to appropriately address tardiness before it became a problem, and to incorporate more grammar instruction. These goals were formed due to the course evaluations at the end of the 2017 academic school year. To achieve the first goal, I employed a new seating system where students were given a randomized number card as they entered the classroom. In this system, students who arrived late would have to sit front and center, which seemed to discourage tardiness in quarter 1. As for the second goal, I employed more explicit grammar instruction and meaningful drills, which seemed to satisfy students. I did see the presence of many of these forms in their assessment.

(2) Based on the numerical data and the comments, my students seem satisfied with the class. This is the most uniformly positive course evaluation I've had yet at Nanzan. The lowest rated questions, in regards to students' interest in the subject before the course (question 1) and how hard they worked (question 2), ranged between 3.8-4.3. A question asking students how their interest in the subject changed after they had taken the course might be helpful in discerning any effects of instruction.

(3) I would like to incorporate more multi-media instruction in the future.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[P]4  
授業コード 11A05-023  
教員名 都築 千絵  
教員コード 103924  
登録人数 20  
回答数 19  
回答率 95.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では英語のリーディングとライティングに焦点を置き、それぞれのスキルの向上を目指した。読む方はリーディングスキルを学習し、多読、精読、速読をしてリーディング力を向上させること、書く方は語彙・文法を確認しながら、パラグラフ構成を学び、パラグラフで英文を書けることを目標とした。両方とも、学生は第1クォーターの目標を到達できた。

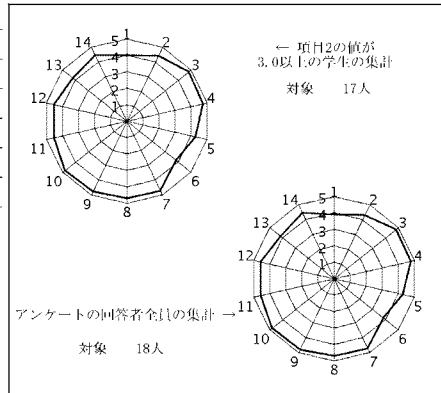
しかし、学生のアンケート評価結果を見ると、設問5、設問6の授業の到達目標に関する数値が他の設問に比べ低かった。シラバスに到達目標は細かく記されているが、最初のクラスで確認しただけでは足りなかったと反省している。また、一番評価の低かった設問13に関しては、「新しい知識」は得ているはずだが、その認識が薄かったのではと推測する。

授業評価の自由記述では、良かった点を16人も書いていたことに驚いた。「授業内容」「オール英語」「英語の力がついた」という内容に加えて、「クラスの雰囲気よかった」「みんなと仲良しになれた」という学生同士のコミュニケーションについての記述も多く、1年生第1クォーターの授業として、ペアやグループワークを通じて雰囲気作りを重視したので嬉しく思う。

今回の授業評価の結果を踏まえ、今後は、授業の到達目標と授業内容の関連を毎回はっきりと学生に示し、また学生が新しい知識やスキルを習得したという認識がもてるような授業運営をしていきたいと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリテラシー[P]12
授業コード	11A05-031
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	18
回答数	18
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

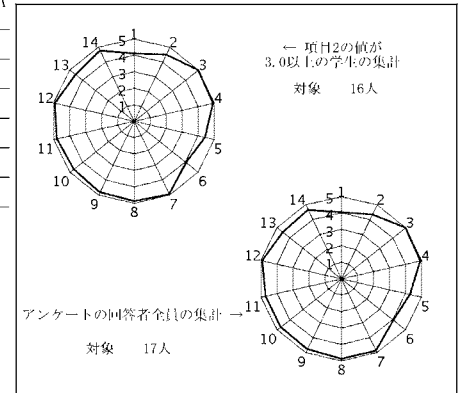
I believe the goals set for the class were accomplished and that students learned a lot from my class. Students were able to accomplish the goals for the course by working hard each week in class and at home. In quarter three we will continue to improve students' speaking, reading, and writing skills in class.

I am happy to know that the students overwhelmingly like my class and the way that I teach it. I am also happy to know that they find my English easy to understand and feel that I explain things well to them when they do not understand. Students feel that they are learning to be better reader of English because of my course and my teaching.

Because the class has been going so well I will continue to do many of the same things that we did in quarter one. Students will take what they learned in the first quarter and build on it as they write longer English compositions and read longer books and stories. As students continue to advance they will practice speaking for longer periods of time with their partners and building their overall communication skills in English. I look forward to continuing to teach this particular group of students and feel that they will continue to work hard.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iコミュニケーションスキルズ[HA , HP, HJ]1
授業コード	11A09-001
教員名	KJELDGAARD, Marie
教員コード	103478
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

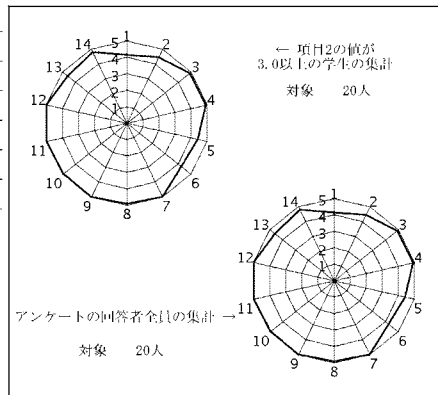
This course had dual goals of improving students' reading and communication skills. During the course of the term, students were able to read a variety of books and articles, improve their vocabulary skill, and practice speaking in pairs and groups. Although students seemed a bit shy and hesitant at the beginning of the quarter, they made good improvement throughout the term, and I do think the course goals were met.

According to the student evaluations, most of the students also felt that the class was useful to them. Students felt that the class start and finish times were adhered to and that the classes were organized and delivered appropriately, so I will continue to use the same system for class organization in quarter 2. According to the free comments by students, they especially enjoyed being able to speak and use English in the classroom. I hope to continue fostering a supportive atmosphere and encourage communication.

The items with the lowest scores were about (1) understanding the course goals, and (2) students feeling like they were making progress towards those goals. Therefore, in the second quarter I will try to more clearly explain the goals of the course, and improve the amount and quality of feedback I give to students to help increase their self-confidence and feelings of achievement.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA  
HP, IJ]4  
授業コード 11A09-004  
教員名 FILER, Benjamin  
教員コード 103850  
登録人数 20  
回答数 20  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

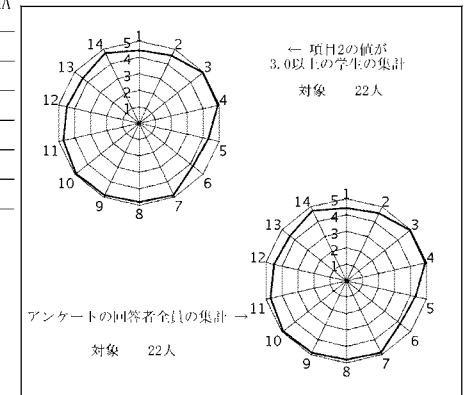


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of this course are separated into two sections: speaking and reading. In terms of the speaking, I am satisfied that the students achieved the goals that were set at the beginning of term. Each lesson was designed in order to maximise opportunities for the students to achieve the goals. The reading goals were largely met although there were a few students who did not manage to keep up with the 4,000 words a week reading goal.
2. I am delighted to see that the student feedback is so positive. I will work hard to make sure that these standards are kept up in all classes at Nanzan.
3. The failure of some students to reach the goal of 4,000 words extensive reading per month is one area that needs to be addressed. I will ensure that this goal is met by regularly checking on students' progress throughout the quarter.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA  
HP, IJ]9  
授業コード 11A09-009  
教員名 HOWREY, John  
教員コード 100371  
登録人数 23  
回答数 22  
回答率 95.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

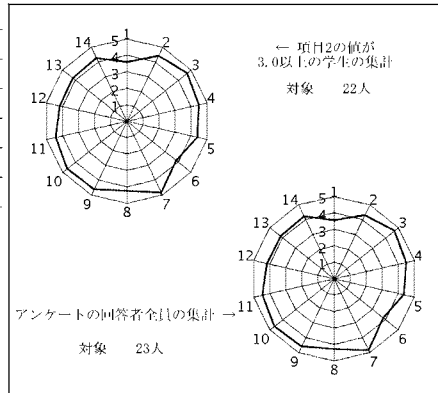


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- This course is designed to improve students' overall English ability, particularly speaking, listening and reading skills. Students worked on reading strategies, vocabulary building, reading for speed, and reading aloud. They wrote reports of extensive readers and shared them with classmates. Students also learned and practiced speaking strategies for starting, maintaining, and concluding conversations, and gave two short presentations.
- I was pleased with the results of the questionnaire. The scores were high in every category, particularly for questions 3, 4 (my sincerity in my approach to the class), 7-10 (classroom management), and 14 (overall satisfaction).
- Students commented that my English explanations and pronunciation were easy to understand. Most students liked that I spoke only in English and that they could improve their listening skill because of it. However, one student complained, saying it was hard to understand and wanted me to offer explanations in Japanese. Hopefully that student will get more comfortable in Q2. Students liked the group work and that the class was interesting and that I was "very unique" which I hope was a compliment.
- I have no plans to change the course in Q2.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[HA  
, HP, HJ]13  
授業コード 11A09-013  
教員名 OTTOSON, Kevin  
教員コード 103121  
登録人数 23  
回答数 23  
回答率 100.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

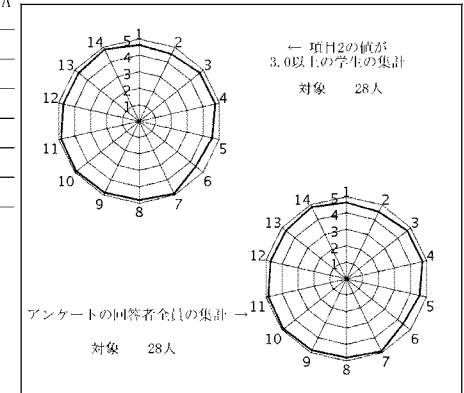
1 The stated goals on the syllabus for this class are for the end of the year. So my goals for this quarter were for us to work towards achieving these goals. For example, the reading goals are that the students can 4,000 words a week. Most of the students did not reach this goal. The students stated that they did not give themselves enough time outside of class to read. In regards to communication, the students need to maintain a conversation in English for 3-7 minutes. I was a little surprised at the difficulty that many of the students had with this task. The first timed conversation consisted of a lot of Japanese for a four minute conversation. The second conversation was much better in regards to language use.

2 My lowest grade was 3.83. The students rated themselves lowly in terms of feeling that they were improving. The next lowest score, 4.17, was in regards to realization of improvement of knowledge.

3 Again, I need to improve my teaching in regards to the goals for the class and assessment of progress. Following each unit, I will try to spend more time assessing progress made. Additionally, I will try to leave time each class or week to reflect on progress made.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA  
, FF, FS, FG]1  
授業コード 11A09-015  
教員名 ELLIOTT, Darren  
教員コード 101579  
登録人数 29  
回答数 28  
回答率 96.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

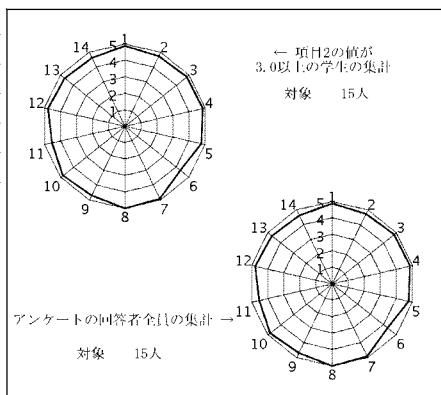
I have been developing my own materials to fit the course goals and the needs of the students, and this was my first time working with the textbook I have created. From a teacher's perspective, I was able to save a lot of preparation and photocopying time which enabled me to focus on giving the students feedback and making sure the class atmosphere was positive and supportive. I think this is reflected in the high scores I received in this area of the survey - responses suggested that I was supportive, attentive & able to manage the class thoughtfully, and the students also commented in the written section that they felt comfortable in the class and appreciated the opportunities they had to discuss a variety of topics in different ways.

One student noted that there were too many tasks towards the end of the quarter. Fair criticism - in my effort to reach the course goals as outlined in the syllabus I think, on reflection, that I may have overloaded the students. This is a capable and well-motivated class but they need time to absorb the material. I plan to adjust the load and method of assessment for subsequent quarters.

Although the survey was scored well throughout, in relative terms the learners' responses indicated they did not fully understand the course goals. I will try to make these more explicit, particularly in connecting the goals to tasks.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA  
, FF, FS, FG]5  
授業コード 11A09-019  
教員名 FLORES, Ana Maria  
教員コード 102899  
登録人数 26  
回答数 15  
回答率 57.7%  
休講回数 1回  
補講回数 1回



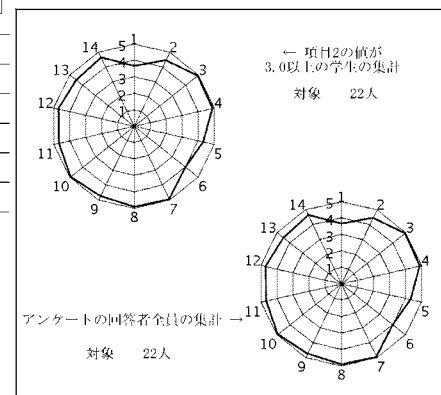
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course is to students improve their overall ability to use English in reading and writing. Classes include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English readers and communicators. Students are taught vocabulary and useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics. Students have been given variety of reading strategies to improve reading proficiency. The tasks and activities given them during the first quarter included both extensive and intensive reading tasks.

Based on the students' responses, 90% of the goals have been achieved. There were more than a few instances when the instructor-in-charged had to do one-on-one tutoring as a few students had limited exposure and experiences with English.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[E]  
6  
授業コード 11A09-030  
教員名 GOTOH, Mie  
教員コード 100186  
登録人数 22  
回答数 22  
回答率 100.0%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

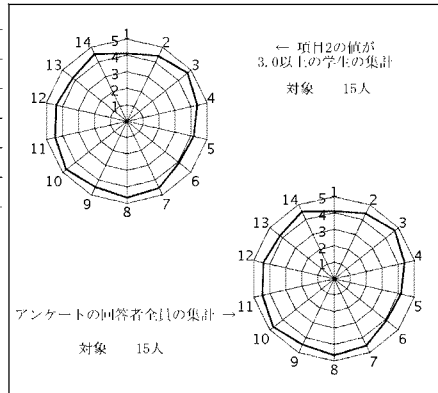


授業評価結果を踏まえた点検・評価

リーディングでは、テキストとGraded Readersで様々なトピックの英文を読み、英文を読むことが楽しく、語彙力を増やすことを目標としました。そしてオーラル・コミュニケーションでは、できるだけ生徒が英語を聞き、話す機会を増やすよう努めました。グループワーク、ペアワークなどを多く取り入れて楽しく、興味を持てる授業作りを心がけ、多くの生徒が抱えている英語に対する苦手意識を少しでもなくせるよう努力しました。生徒のコメントには、ペアワークを評価するものが多かったです。その他のコメントとしては、「説明が分かりやすく、細かく教えてもらえる点がよかった」「コミュニケーション能力が上がるような授業構成なのが良かった」などの内容が多かったです。今後の課題としては、毎回の授業での到達目標を明確にし、生徒にも着実に力がついていることを実感してもらえるように工夫したいと思います。これからも、一人でも多くの生徒に英語の楽しさ・おもしろさを伝えられるような授業作りに努めたいと思います。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[S]  
5  
授業コード 11A13-013  
教員名 BROADBY, Deborah  
教員コード 103594  
登録人数 24  
回答数 15  
回答率 62.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

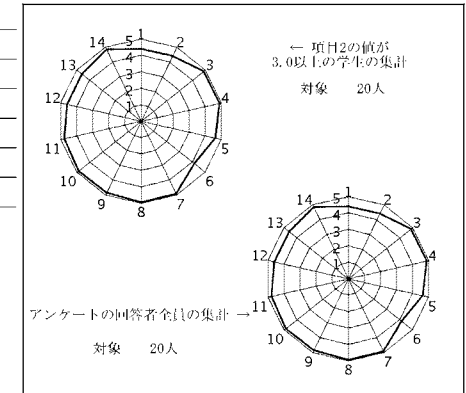


授業評価結果を踏まえた点検・評価

According to the goals set at the beginning of the quarter, I believe that they were met to a somewhat high degree. I asked the students in class to fill in the questionnaire and thus I was surprised that only 16 students completed it. That being said, I was happy with the results. However I am always open to and consistently looking for new ideas and methods in which I can improve my teaching and the learning environment for my students. I am looking forward to teaching this class in the following 3 quarters. I am also looking forward to getting to know them better in order to better meet their personal needs as well as fulfilling the required course goals set by my coordinators.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全>5  
授業コード 11A25-027  
教員名 MORRISH, Jaime  
教員コード 103479  
登録人数 23  
回答数 20  
回答率 87.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

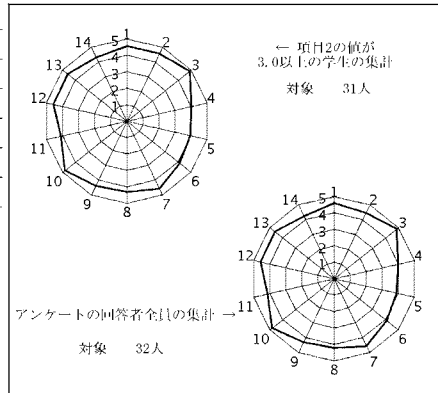


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were completed by all of the students. The students' attendance was mostly exemplary with only a few students missing more than 2 classes, and only 3 students missing 3 or more. The overall motivation and attitude was very good. I aim to give the students as many opportunities as possible to listen to comprehensible input via various websites, podcasts and smartphone applications. This was also reflected in the student feedback where the majority of the students commented that they found these resources very beneficial and were able to easily study and access them at home or on the train. The students seemed to appreciate it this as it was reflected well in the student feedback I received. As I am teaching the same class in quarter 2, albeit with mostly new students, I will take the quarter 1 comments and feedback on board and strive to improve the class as a whole. Overall, this class is very enjoyable and rewarding to teach. I hope that by taking note of the comments from the students, I can improve on what is already a great class. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly, contributes to a lively classroom atmosphere. Also by keeping the students' on a continuous assessment process with regards to their listening portfolio keeps their motivation and attention throughout the whole quarter.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語I<F>  
 授業コード 11B01-003  
 教員名 Garance DUCROS  
 教員コード 103732  
 登録人数 33  
 回答数 32  
 回答率 97.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

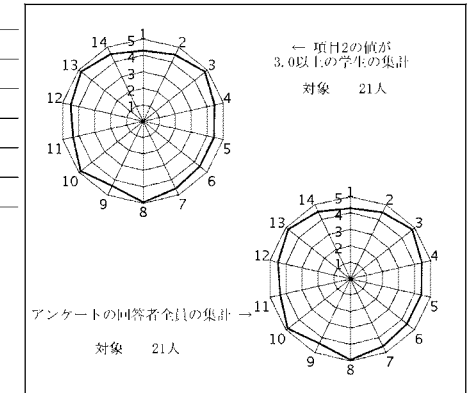


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Thank you very much for your answers and comments.  
 This class gives priority to practice and interaction. The aim is to make students effectively able to use french rather than to know its rules in theory. It doesn't mean that there are no grammatical explanations but 1. grammatical points are often deducted from concrete exemples, 2. Vocal actually follows the curve of a spiral which means that grammatical points are not exhaustively explained from the beginning : they are repeated and deepened as we progress through the book. People who are not used to this way of learning might feel a little discomfort. Please do not hesitate to ask questions in order to overcome this problem. Moreover, do not hesitate to use complementary sources such as books with more explicit grammatical explanations or a dictionary if you feel you need it. Concerning my voice, I sometimes have a cold or allergies and cannot then strain it too much because it hurts. If you have difficulties hearing me, please sit closer.  
 The aim of this first quarter was to present the base of the French language and to have students be able to introduce themselves. The aim of the second quarter will be to work on time (hours and so on) and on space. Bonne chance à tous pour ce deuxième trimestre !

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語I<J・P>2  
 授業コード 11C01-010  
 教員名 梶浦 直子  
 教員コード 102557  
 登録人数 23  
 回答数 21  
 回答率 91.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

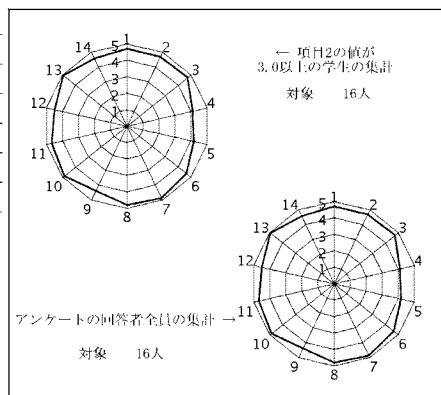


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、ドイツ語の基礎的な語彙・文法知識の習得だけでなくドイツ語の運用力をつけることにある。授業ではグループワークを取り入れ、学習者を中心に進めている。自由記述欄でグループワークに対する評価が高くなっていることから、学習者が授業スタイルに馴染んできていることがうかがえる。設問2「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」(4.29)を見ると、学習者の履修前のドイツ語学習に対する興味は比較的低かったようである。しかしながら、教室の中で学習者が積極的に授業に取り組む姿と一致して、設問13「この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか。」(4.81)の評価が高くなっている。自由記述からも「授業を受けていくうちに、だんだんとドイツ語を話せるようになってきている」、「すぐに話せるようになった」と学習者が短い期間で「ドイツ語ができるようになった」と感じていることがうかがえる。一方で、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」(4.38)、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」(4.38)の評価が比較的低い。今後はもう少し細かく学習者の要望を聞き取る機会を設けたいと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語I[FS]2  
 授業コード 11D01-006  
 教員名 LANDEROS NERI, Sergio Gustavo  
 教員コード 103688  
 登録人数 16  
 回答数 16  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



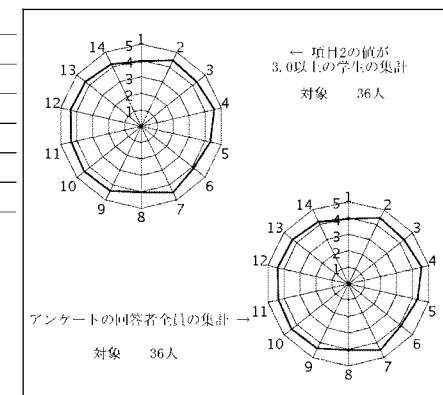
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The original objectives for this class were as follows:

- 1)-Developing a foundation for the pronunciation of Spanish phonemes and its correspondence with graphic signs. This was presented in a natural way, yet rationalized step by step with special emphasis on prosody, the patterns of stress, intonation and rhythm.
- 2)-Developing functions and notions of Spanish language according to a constructivist approach, taking advantage of the knowledge already acquired by the students in Japanese language and adjusting them to the Spanish particularities.
- 3)-Developing a communicative competence that allows students to:
  - Express and respond to greetings and farewells.
  - Introduce themselves with name, origin, nationality, age, profession, phone number, e-mail address. Also, to ask other people this information.
  - Useful questions in about the class.
  - Describe other people`s aspect and character.
  - Talk about the relationships between people.
  - To ask for and give explanations using the connector “porque”
  - .
  - Talk about likes and dislikes, and compare them to the ones of other people.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語I<B>1  
 授業コード 11F01-016  
 教員名 虞 萍  
 教員コード 101432  
 登録人数 40  
 回答数 36  
 回答率 90.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は「基礎単語250語習得する、韻母・声母と声調を正しく発音できる、中国語の音を正確に聞き取ることができる」という三つの到達目標を抱えています。この三つの目標をほぼ達成したと言えます。ほとんどの学生は一度も休まないで、私語や「内職」などもせず、授業に真面目に取り組みました。

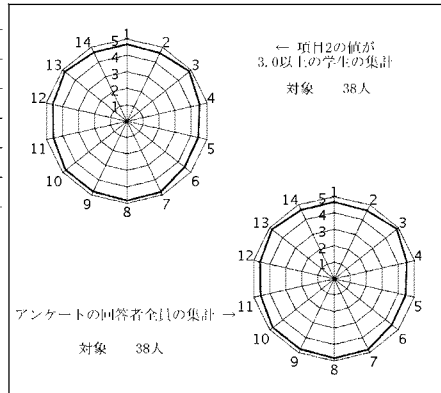
全体的に言うと、授業の難易度や進度はとても適切だと思います。今学期のテキストは拙著を使っているため、著者である私にとって、授業はとても教えやすかったです。学生から「授業は分かりやすかった。」「先生の熱心が伝わった。」「先生がとても予習復習を勧めてくれたため、勉強についていけた。」などのコメントをいただきました。

「設問1」の統計結果はやや低いと感じました。一部の学生はこの授業を履修する前、授業の内容について興味を持っていませんでした。日中関係はよりよく改善されるように、今後も学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を摸索したいと考えています。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語I<J・P>  
授業コード 11G01-004  
教員名 陸 心芬  
教員コード 101225  
登録人数 40  
回答数 38  
回答率 95.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1で授業の目標にしていた、文字と発音を習得し、読み書きができることと、自己紹介及び簡単な挨拶表現ができることについては、おおむね達成したと言える。学生による授業評価の項目3~14の平均値が4.68を示しており、評価にそれが表れていると思われる。

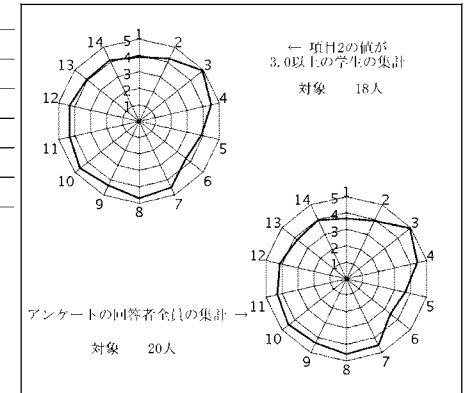
自由記述欄の良かった点としては、たくさんコメントを書いてもらった。具体的な内容は、「説明の分かりやすさ」「十分な発音練習」「参加型の授業」「すぐに聞ける」「講義だけでなく、発音して覚えらる点」などの授業方法の評価や、「先生が優しくて親切」「先生が確認して授業を行ってくれる」などの先生の態度の評価、「最初からゆっくり理解できた」「読めるようになった」「基礎をしっかりと理解することができた」などの授業の成果の評価まで幅広く評価されている。特に多かった点は「楽しい、分かりやすかった」ことだった。

改善すべき点としては、「もっとペースを早くしてほしい」「少し量が多いかなと思うときがある」「人数が多い」「少し進行が速い」の意見があった。今後工夫していきたい。

今回、学生から高い評価をもらった理由は、去年より進度をゆっくりしたことにあると思われる。しかし、改善点にも出ているようにまだ進度が速いところもあり、来年度には今年度を参考にしながら進度を見直すつもりである。反対にペースを早くしてほしい学生もいるが、これらの意見を踏まえて学生のニーズに合わせながら工夫していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English I2  
授業コード 48A05-002  
教員名 石崎 保明  
教員コード 102444  
登録人数 20  
回答数 20  
回答率 100.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

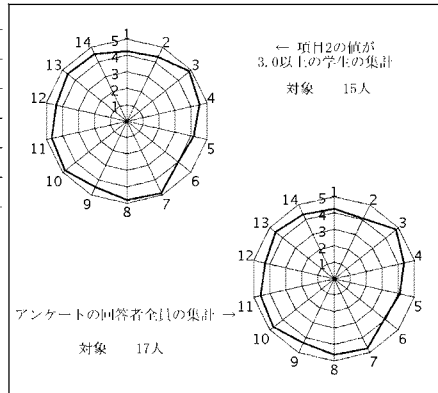
①私は、今回、国際教養学科科目の授業評価を受けました。同科目は昨年度も担当し、その時の反省に加えて、開講前にはミーティングにも参加して意見交換をしたことで、目標や授業内容への理解を深めた上で授業を始めることができました。到達目標に関連する設問5と6は、半数以上から5または4の評価を得ることができた一方、それぞれ1名ずつですが、力の伸びを全く実感できなかったと考える受講生もあり、受講者全員への浸透という意味では課題が残る結果となりました。

②科目は異なりますが、今回と同学科・同学年を対象とした科目の昨年度の授業評価と比較すると、項目3から14の平均値が0.48改善されました。これは、慣れという側面と、1回の授業内で読む・書く・話す、の各要素を織り交ぜた授業運営を心がけたことが改善につながっていると思います。このことは、自由記述の中で、討論や要約課題に対して好意的なコメントからも看取できます。他方、課題をやや詰め込み過ぎたのか、授業内外の課題に対して、余裕のある計画を期待するコメントなどもありました。

③クラス内課題について、学生にとってはやや難しいと思われる課題や、内容に対して授業内で費やした時間が少し長すぎた課題もあったので、次の機会には、出来るだけ早い段階で学生の状況を把握し、内容的にも時間的にもメリハリのある授業運営を行いたいと考えています。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication7  
授業コード 48A10-007  
教員名 KUMAI William N.  
教員コード 000204  
登録人数 19  
回答数 17  
回答率 89.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

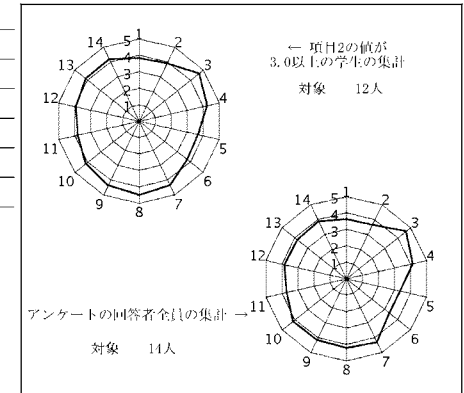


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class was designed by the GLS Department, leaving little room for customization of the contents. The class was heavily biased towards listening as this skill is the weakest for the students and the skill most needed in Arizona. Students were assigned weekly listening homework based on YouTube videos designated by GLS. It was announced that grades would be no higher than "B" if only the required homework was completed; the "A" level could be achieved only by doing the extra listening which was based on actual university lectures about sustainability. Unfortunately only a few students tried the extra assignment, with the others complaining that the listening was too long. Yet, this is exactly what they will encounter during their overseas study in Arizona. The lowest value was for item 6. But in order to achieve item 6, students need to greatly increase the time for listening practice. Furthermore, it is clear that students overly relied on the subtitles generated by YouTube; the students did not try to understand the listening unaided. The next lowest value was for item 5. It is difficult to imagine why students would not realize the class goal was to improve their listening skills. Perhaps more listening homework is necessary for the next time.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較3  
授業コード 13A01-003  
教員名 榎本 鍾司  
教員コード 014407  
登録人数 23  
回答数 14  
回答率 60.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、前半では西ヨーロッパにおけるスポーツ概念の発生から近代スポーツの形成までを述べ、後半では日本・アジアの身体運動文化を近代スポーツ概念と対比的に考察することを試みている。

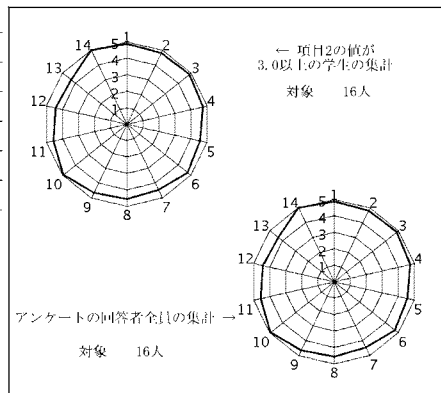
月3・4時限の2コマ続きの授業であり、登録人数23名、毎回の出席者は17・8名ほどであった。教室は100名教室であり、そこに20名弱の学生がいるという授業風景である。授業空間としては、授業にやり辛さを感じていたことは確かであるから、学生側からしても、何らかのいまひとつ集中できないという感じがあったように思われる。

回答数が14ではあるが、集計結果についてみると、これまでの授業評価と比較すると、かなり低い結果となっている。設問5（到達目標）、設問6（力がついたか）が3.36と低いが、これについては思い当たる点がある。すなわち、2コマ続きでは登録変更の影響が大である。1回目・2回目の授業は他の科目に出ていて、3回目・4回目の授業から出席する学生が30%ぐらいいたようだ。最初の2回分の授業を3回目の授業でフォローするのは困難である。やむを得ない状況がある。

予習、復習に関しての設問2の評価が3.64となっており、この点については工夫の効果が出たとおもわれる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(集団スポーツ)バレーボール
授業コード	14E02-001
教員名	中路 恭平
教員コード	015255
登録人数	19
回答数	16
回答率	84.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

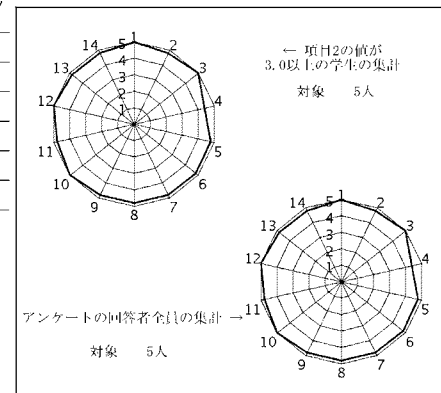
スポーツ実技は選択科目であり、2年次～4年次の全学部生が対象となる。今回の受講生は19名であり、男女はほぼ半々であった。

バレーボールの経験者が約3分の1ほどであり、残りの学生は未経験者であった。個人技能には大きなばらつきがあったが、ほとんどの学生が高い運動意欲を持ち、積極的に取り組んだ。また経験者が他の学生たちをリードしてあげる役回りをしてくれたため、バレーボールの基礎的技術はもちろんのこと、ゲームにおける戦術面においても工夫が見られ、開講当初に設定していた目標はほぼ到達できたと考える。

学生の評価も概ね良好と言える。満足度は全員が5であり、バレーボールの楽しさを味わったと考える。ただ、毎回の授業において、定型的なパターン練習を多く用いたこともあり、新しい知識、経験という面ではやや評価が低かったかもしれない。練習面でのバリエーションを増やすこと、技術的な課題を多く設定することなどがさらに求められると言えよう。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(集団スポーツ)バスケットボール
授業コード	14E02-002
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	12
回答数	5
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

「バスケットボールのルールを理解している」という目標については概ね全員が到達でき、バスケットボールらしいゲームを運営できるようになった。2つめの「チームでの自分の役割を理解している」という目標に関しては、特に後半回のチームを固定してから授業にて明確な役割分担が見られるようになったと感じている。「バスケットボールの基礎的技術とゲームにおける戦術を実践できる」という目標も終盤の授業にて目立った改善が見られるようになり、おおむね達成できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

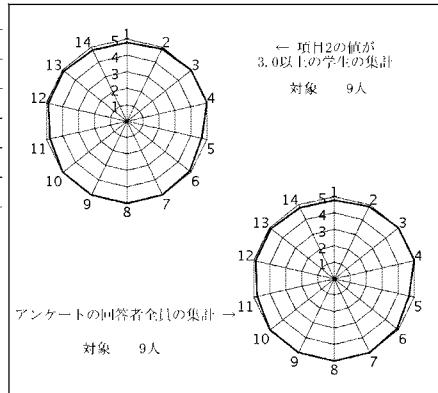
全ての項目で4.8以上という高評価を得ており、総合的にみて学修度・満足度の高い授業を展開できたと評価できる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回は受講者にバスケットボール経験者が比較的多く、初心者にアドバイスを促す雰囲気を作れたことが授業満足度が高くなった一因であると感じている。今後、初心者が多いクラスを担当した際の授業運営法を準備しておくことが課題である。また、アンケートへの回答を数回呼びかけたものの12名中5名の回答に留まった点も今後の課題である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(生涯スポーツ)テニス  
授業コード 14E05-001  
教員名 平川 武仁  
教員コード 101419  
登録人数 13  
回答数 9  
回答率 69.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

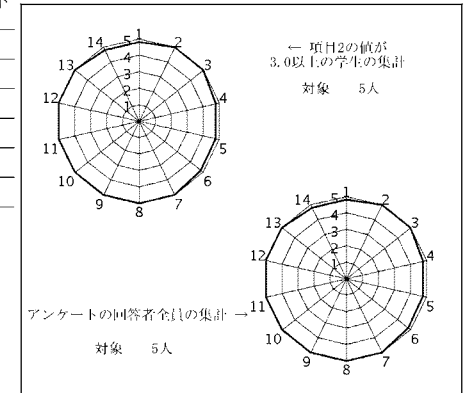
この授業の到達目標は、テニスの「ルールを理解」し、実践できる「技能」を修得していること、マナーを遵守し、実践できること、ゲームの審判、試合の企画・運営ができること、発生しやすい障害・事故の知識があり、対処方法を理解し、実践できることであった。

授業内容に関する設問3から14の平均値が4.91、これらの設問の平均値で4.67から5.00という評価が得られたことを総合すると、学修目標は概ね達成された、と考えられる。

しかしながら、設問5、設問11から14の平均値が若干低かった点（それぞれ4.67、4.78、4.89、4.89、4.78）に関しては、今後、さらに学生との対話の機会を設け、善処していく所存である。また、設問3、設問7から10の平均値が高かった点（平均5.00）は、授業を展開する姿勢が評価されたと理解し、今後も継続していきたい。また設問4で高い得点（5.00）を得ることができていたことは、学習者に対して授業計画を明示化し、学修内容を構造化して、授業を展開していることが学修者に伝わっていることとの成果として捉える一方で、設問14の平均点（4.78）が今後も高まるように、学修者の満足度を高める授業を構成し、授業改善を続けていく所存である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(フィットネス)フィットネス  
授業コード 14E06-001  
教員名 金 興烈  
教員コード 102721  
登録人数 8  
回答数 5  
回答率 62.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

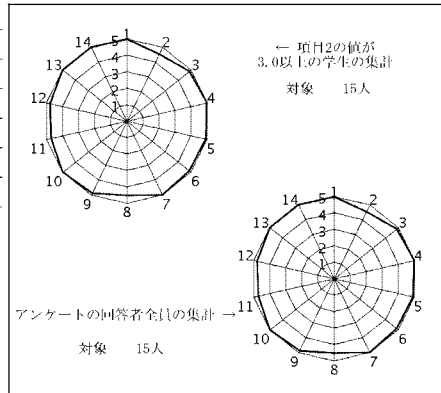


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.9点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないかなと思う。今回は、開講当初に「①体の仕組みに関する理論的背景(食事と運動のバランスなど)を理解すること、②エクササイズを通じた体の変化を確認すること」という目標を一人一人に設定させた。その一つの取組として、一週間の総カロリー摂取と消費エネルギー(活動量)を記録させ、個人における一日あたりのエネルギー摂取と消費のバランスについて考察させた。このような授業方法は、アスリートを目指す者においてとても重要な知識ではあるが、南山大学の受講者はスポーツを専門とする学生ではなく一般学生であるため、健康の維持及び向上に焦点を合わせた授業展開を試みた。今回のような高い授業評価の結果には、とりわけ受講者らのモチベーションも一因であったと思われる。今回の受講者らは学習意欲が非常に高く、毎回の授業にも積極的に取り組んでいた。それによって、様々な知識がストレートに受け止められ、機能等では高い目標に向かって自ら取り組んでいく姿勢が見受けられた。これは授業内容だけではなく、授業運営に関する取組も評価された結果であると判断される。一方、授業運営において道具(フリーウエイト)や音響設備が不十分だったことは、今後の改善すべき点である。次年度の授業においては、今回のように教員の熱意が完全に受け止められているかといえ、必ずしもそうではないこともあるので、その辺の指導法をもっと工夫する必要があると思われる。今後も学習意欲が高まるような授業展開と指導法を工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(フィットネス)ヨガ  
授業コード 14E06-002  
教員名 畑山 知子  
教員コード 101969  
登録人数 25  
回答数 15  
回答率 60.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

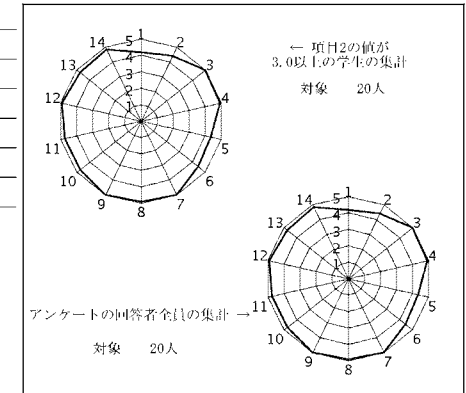
本クラスの到達目標は、1. 安全にヨガを実践できる知識を身につける、2. 太陽礼拝を習得し、実践できる、3. 自身にとって適切なアプローチを選択できる、の3点であった。学生の取組みや振り返り記録から、概ね目標は達成できたのではないかと考えている。

全体の満足度は5.00と高い評価を得た。自由記述においては「ヨガに初めて触れることができ、好きだと思えるようにまでなった」「体にいいことをするのって気持ちがいいなと改めて思うことができました」等のコメントがあり、新しい運動との出会いやその実践における心地よさを感じていただけたものと考えている。

今期は、前Qの振り返りから、学生の振り返りへのコメント、学習者のペースを重視して取組んだことに加えて、集中できる環境づくりのためスマホ等の持込みを禁ずる理由の理解を促した。評価項目のうち、授業の構成や進行速度、担当教員の授業に取り組む姿勢、授業の妨げになる学生の行為に対する適切な対処、授業を通して新しい知識（あるいは、技術や能力）の獲得、理解の深まりといった項目が5.00であったことや、「(よかった点として)自分たちのペースでヨガができるように配慮してくれていた点」などのコメントは、これらの試みに対するものとして嬉しく思っている。また、習慣化もねらいのひとつであったが、それを示す復習に関する項目も4.53と高評価であった。今後も今期の取組みを継続したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語学入門  
授業コード 22C01-001  
教員名 菅原 彩加  
教員コード 103579  
登録人数 24  
回答数 20  
回答率 83.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

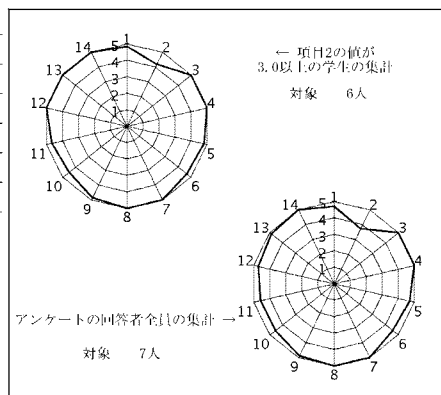
①開講当初に予定していた目標と到達の程度について：開講当初に予定していた授業内容はすべて扱うことができ、また出席していた学生は全員内容を理解し単位修得に至ったことから、学生らは授業の目標を理解し到達できたと考えられる。

②自己点検・評価：設問1「この授業を履修する前、授業の内容に興味を持っていたか」についての回答が4.32であったのに対し、設問13「この授業を通して、新しい知識を得たり理解が深まったと感じたか」についての回答が4.82であった。これにより、授業を通して学生の興味を引き出すことができたのではないかと考察する。また、自由記述欄からは、授業に取り入れた取組の中でも学生らにとって効果的なものが何かを探ることができた。具体的には、毎回のリアクションペーパーが理解を深めたりモチベーション向上につながっていたという点や、スライドがWebclassに公開されており復習がしやすかったという点があった。以上は授業の運営方法に関する取組であるが、一方で、授業内容に直接関連するコメントも見られた。具体的には、いろいろな言語を例として取り上げているという点や、例題や関連話題の提示により前向きに授業に取り組めたなどの点が挙げられた。

③改善点・今後の抱負：Q2で担当する授業では難易度が上がりスライドよりも板書を中心に行うので、Q1での成功した取組を工夫して取り入れた授業運営を心掛けたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(アジアの社会人類学)1  
授業コード 22C70-001  
教員名 東 賢太郎  
教員コード 102883  
登録人数 15  
回答数 7  
回答率 46.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

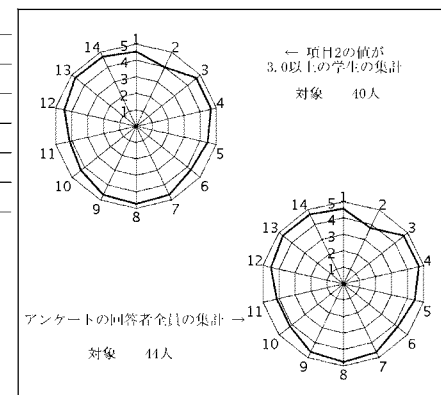


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標はおおむね達成できた。シラバスを作成した段階で、本授業については講義のみでなく毎回のリアクションペーパー提出や授業内でのプレゼンテーションがあることを明記していた。そのため、予想していた人数内に、意欲の高い学生を集めることができた。アンケート回答は項目2を除き、受講生の大部分が教員の目的や意図を理解し、進行方法にも満足し、授業の内容から多くを学ぶことができたと評価している。次回以降、講義を担当する機会があれば、今回と同等以上の評価が得られるように引き続き授業内容を改善していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理検査法1  
授業コード 23C26-001  
教員名 井村 安之  
教員コード 048439  
登録人数 50  
回答数 44  
回答率 88.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

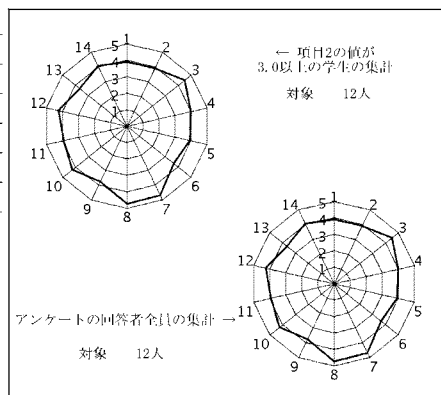


授業評価結果を踏まえた点検・評価

心理人間学科の平均点と比較して結果を見てみると、全体としては、及第点はいただけたようではあるが、さらに改善していかなくてはならない点もいくつかみられた。本授業では、心理検査を予備知識なしで、まずは自らが受けてみて、その体験に基づいて解説を行っていくという形式をとっているため、予習することはしないように伝えている。設問2が低くなっているのは、授業の性質上、やむを得ないことであるといえる。また、設問3について、私の勤務の都合上、やや変則的な時間で授業を行っており、それは事前に、学生に十分説明した上でのことであるので、それが徹底していないのであれば、次回はさらに丁寧に説明し、学生の理解を得ていきたい。設問10に関しては、正直なところ携帯の使用については諦めている。ただ、私語に関しては、他の学生の迷惑になるようであれば注意していくつもりである。設問11に関しては、設問7とも関連していると思うが、これまでは受講生に質問をしたり、話し合いの時間を持たせたりしていたが、今回は、そういったことを一切行わなかった。教室の構造上、それが難しいと感じたことが大きいですが、もっと他に工夫をすべきであった。今回、これまでとは内容や方法を少し変えた授業を行った。今回の結果も参考に、変更した授業に修正を加えていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 からだとことばI  
授業コード 24C06-001  
教員名 土谷 薫  
教員コード 064352  
登録人数 37  
回答数 12  
回答率 32.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達についてはほぼ達成できたと思われま。

授業の内容が事前にはわかりにくいいため、第1クオーターの前半では体験しながら授業への興味や参加する意味を自ら探っていくことが、課題となる。学生アンケートより、「主体的に授業に参加し、内容を理解しようと努力した。」「到達目標を理解することができた」という項目に対してほぼできていた。という答えであったため学生への授業への動機づけ、課題の理解については概ね達成できたと思われる。

②自己点検・評価

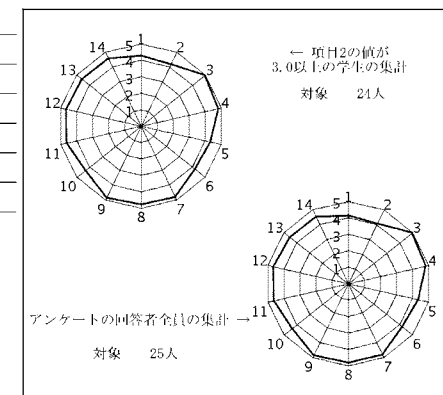
特に前半では、授業に対しての戸惑いや抵抗が感じられ、集中して授業に参加することが難しい学生の姿も見られた。そのため毎時間の初めに前回の授業についてのふりかえりと体験を深めるための話し合いをていねいに行った。プリントを作成し、視覚的にも理解を促すよう取り組んだ。体験の時間は多少短くなったが、学生の思いや考えを深め体験への動機づけにつなげることができたと思われる。

③改善点、今後の抱負、方針など

「新しい知識を得る、理解が深まる」というところでは、まだ課題が残っている。第2クオーターに向け、より丁寧に一人一人の理解や思いに沿って、理解が深まるよう工夫を重ねていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文学史B  
授業コード 24C30-001  
教員名 三宅 宏幸  
教員コード 103077  
登録人数 84  
回答数 25  
回答率 29.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

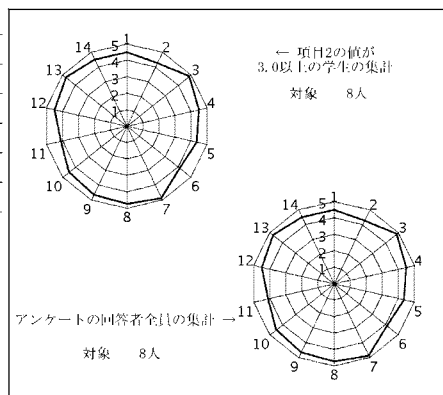
①当初設定していた到達目標は「近世文芸の流れを理解できていること」、「近世文芸における〈引用〉の諸相を理解できていること」であった。これらの事柄について、リアクションペーパーで毎回補足したことで、理解が深まったという感想があった。学生のコメントを見ても、〈引用〉が種々の手法で用いられていることを、回を追って感じるようになってきていた。その点で、到達目標に届いたと考える。

②アンケートの数値データを見ると、平均して4を超えていた。これは受講生のやる気や理解力に助けられたと思うが、リアクションペーパーによって理解が深まったとすれば、今後も続けていきたいと思う。他に自由記述で多かったのが、PCを用いての画像や動画による説明に対する評価であった。近世文芸を学ぶときに、受講生は文を読むということを念頭に置くと思われるが、近世文芸は絵やからくりなども用いている。学生が興味を持ってくれそうな対象で講義したことも良かったのかもしれない。

③レポートに関して、字数が多いというコメントを頂いた。文字数が少ないと内容が薄くなり、もう少し書けるともっとよいレポートになるかもしれないと思ったことが度々ある。したがって三千二百字に設定したのだが、今回のレポートをふまえ、再考したい。あとは、教授者の理解不足により、動画の音声が出ない教室を選んでしまったことで受講生に迷惑をかけたので、次年度以降は気をつけたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 王朝文学研究  
授業コード 24C34-001  
教員名 大井田 晴彦  
教員コード 101186  
登録人数 24  
回答数 8  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

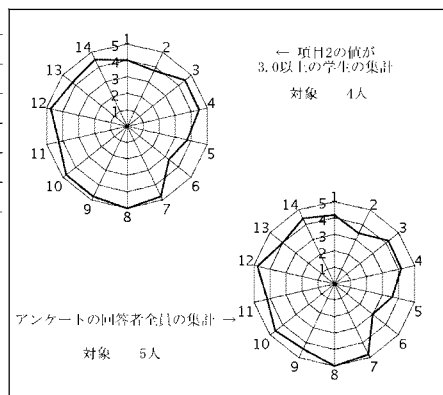


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。 概ね到達した。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。 概して学生の取り組みの姿勢は良好であり、授業の成果は認められた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。 厳しく真剣に授業を行うつもりであるので、意欲のある学生の受講を期待する。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語研究史  
授業コード 24C57-001  
教員名 永澤 濟  
教員コード 103687  
登録人数 32  
回答数 5  
回答率 15.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

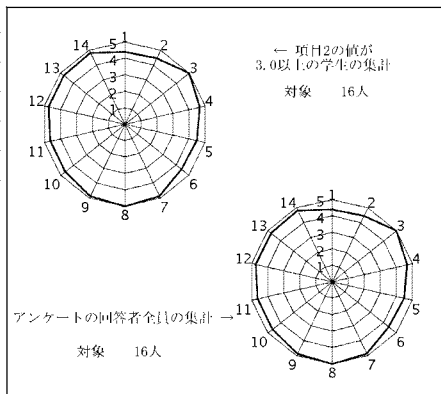
学生アンケートにおいて「授業の到達目標を理解することができたか」「授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか」の2項目の平均値が、他の項目と比べて著しく低いことは反省点です。学生に対して、授業の初めと最終レポートの際に到達目標を明示しましたが、アンケート結果を見ると、学生が意識化できていないことがわかりました。本講義の目標は、狭い意味での知識の習得ではなく、資料読解等を通して、既成の見方を排し、より多角的に日本語を見る力を養うことでした。その目には見えにくい力を、どのようにして養い、また学生が自ら力の伸びを自覚するにはどのような授業を行えばよいのか、今後考えていきたいと思えます。

ただし、教員側の視点でいえば、特に資料読解において多くの学生は期待以上の能力を発揮し、十分に到達目標に達していたと思われます。自由記述欄に寄せられたコメント2点のうち1点は「資料が豊富であったため、理解に役立った。学生のペースに合わせて授業を進めてくれるところが、とても良かった」とあり、このように受け止めてくれた受講者がいたことは励みとなりました。なお、もう1点は「スライドのレジュメの文字が小さくて見にくかった」でした。おそらく、授業中に映したスクリーンの文字のことではなく、補助的に配布したスクリーンと同一の内容を印刷した資料の文字サイズのことだと思われます。補助的なものなので、文字サイズには配慮していませんでしたが、今後の資料作りの参考にしたいと思います。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育史
授業コード	24C64-001
教員名	上田 崇仁
教員コード	103619
登録人数	26
回答数	16
回答率	61.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

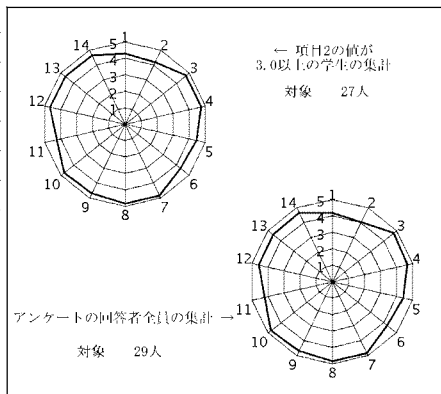
①歴史を学ぶということについて、単に年代を覚える、という意識を持つ学生が多い中、歴史を学ぶ意味を抑えつつ、日本語教育の現状を過去の事例から考え、未来を考えるという姿勢を身につけさせたいと考えている。毎時、その件について触れながら授業を進めたため、教員がどのような意図をもって教材を選択しているか、理解してもらえたと考える。個々のレポート差最終レポートを見ても、多くの学生が単なる歴史的事実を知る以上の考察ができていた。

②授業内容の予想がつきにくかったことが推察され、シラバスの書き方に工夫を加えたいと考えている。

③戦前の実際の教材を手にとってみるという活動を行ったが、印象に残ったようだった。前後に、その教科書を使った時代の映画やその教科書で学んだ人たちの話す日本語を聞くという機会を映像を見せつつ持ったため、より施行の幅が広がったのではないかと考える。2時間連続の授業形態であることから、基本的には映像を見てそれについての解説を主とした講義を行う形であった。また、通常の授業では見せにくい、長編の映画を取り上げることもできたことは非常に効果的だったと思う。一方で、教育実習などで2週間参加できなければ4回分の授業が聞けないという状況が発生しており、その対応を考えていかなければならないと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	作家作品研究(イギリス文学)A
授業コード	31285-001
教員名	橋本 恵
教員コード	014068
登録人数	106
回答数	29
回答率	27.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

〔講義内容〕 イギリス現代作家、Kazuo Ishiguro,とその作品を取り上げる。作家と作品を歴史的背景に位置づけ考察すると同時に、歴史を超えて現れる文学形式と主題に着目した。Ishiguro (1954~)の二作品Never Let Me Go (2011)とThe Remains of the Day (1999)を「多文化主義と多民族主義」の可能性と限界を主要概念として分析・読解した。

〔授業方法〕 1. 講義で取り上げる作家、作品の文化的背景、歴史的背景について、資料を用いて解説する。これは文学や芸術の重層的理解のためである。2. 当該の作家の代表的な作品は必ず実際に読解する。作品内容に触れることを重視する。3. 上記2点の補助として、文字テキストに加え、DVDメディア、オーディオテープ、図版、写真などを用いて解説を補った。

〔評価〕 講義を受けている学生一人一人に文学作品に、また、作家に、いかに興味を持ってもらうことができるか、イギリス文学、イギリス文化により興味を持ってもらえるようににできるか。これらの事柄を念頭に置き、講義を行ったことが評価されまた、学期中のレポート、感想エッセイ、そして質問時間を設けたことは、学生の授業受容度を知る方法として有効であったと評価されたと考える。

自由記述欄には以下のような記載があった。  
先生が親身になって生徒の意見も授業内に取り入れようと情報のキャッチボールがしっかりできていたと思います。  
一つ一つ丁寧に解説してくださり、理解を深めることができました！作品の内容もとても興味深いものでした！

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 クリエイティブ・ライティング1  
 授業コード 31337-001  
 教員名 KINDT Duane  
 教員コード 019067  
 登録人数 6  
 回答数 3  
 回答率 50.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
 (回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

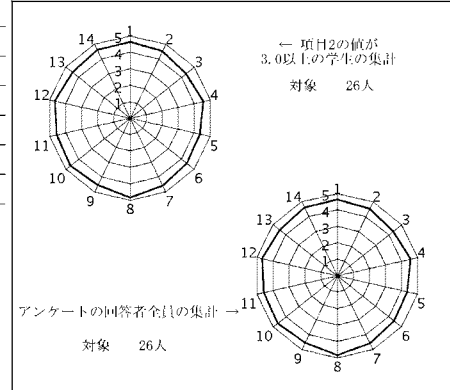
(1) The main objectives of this course: 1) Discover the joy of creative writing (CW), 2) Improve their ability to express themselves, 3) Become more familiar with basic CW concepts, 4) Become comfortably genuine, and 5) Help create a positive learning environment. After examining basic elements of sample works of Poetry, Short Story, and Drama from both popular writers and former students, participants should write, present, and discuss their own creative works. These objectives were largely achieved in this course.

(2) In this section of CW, participants were highly engaged in whole-class activities, wonderfully enthusiastic, and made great progress. This is largely due to the small size (six) and meeting for 2 consecutive 90-minute periods. This was more of a benefit than a problem, but since the majority were 4th-year students, job-hunting had a great impact on attendance. Issues under the quarter system continue to relate more to the lack of time for participants to do assignments than lack of engagement.

(3) I will consider the realities of the new system moving forward. Though one student from this group commented that she was impressed with the “motivation of the teacher and students” and that she “sincerely enjoyed this class,” I think there is still room for improvement in better balancing student work during and outside of class time.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A I6  
 授業コード 31A01-006  
 教員名 RICART, Michael  
 教員コード 103617  
 登録人数 27  
 回答数 26  
 回答率 96.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The goals set at the start of the course and the extent to which they were achieved.

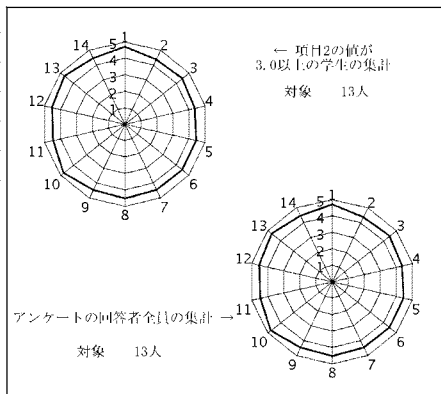
- ① Students are able to listen to and comprehend the main points of a formal talk,
- ② Students are able to read English texts and identify key information,
- ③ Students are beginning to think critically about issues related to language and communication, but have only reached the beginning stage of this academic discipline
- ④ Students have discussed ideas in large and small groups however, debates were not addressed.
- ⑤ Students delivered poster presentations and Pecha Kucha presentations,
- ⑥ Students have a basic knowledge of writing format using the APA
- ⑦ Students wrote summaries and short expository reports in English using academic register and format.

(2) Cannot comment on numerical data due to availability. This quarter seemed to go by very quickly. It seems as if there was little time

(3) Regarding course management, this teacher will stress the importance of the goals and projects set for the course and will direct students efforts to the successful attainment of these goals.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Contemporary Japan A  
授業コード 31C21-001  
教員名 桑原 泰枝  
教員コード 101605  
登録人数 23  
回答数 13  
回答率 56.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

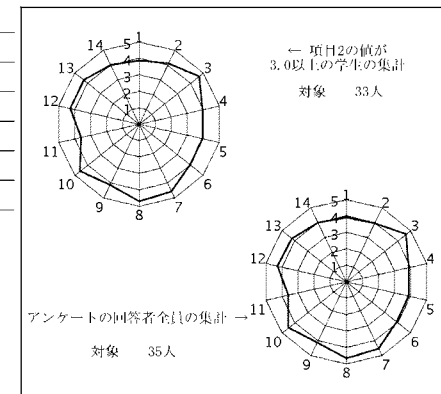


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
日本人の学生に英語で日本文化を教えるという初の試みであったが、目標にほぼ達成できたと思う。
- ②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
  - ・\*24人という少人数クラスであったので、受講生は熱心に講義を聴いていたし、グループディスカッションなどの活動にも積極的に参加していた。また、私も楽しんで授業をすることができた。
  - ・\*毎回、授業終了時に” My Take Away” という授業に対する感想・疑問等を書いてもらった。学生の理解度や関心事が分かりとても役に立ったが、英語で書かせたので時間がかかり、授業時間が終わっても書き終わらない学生が多かった。2校時の授業だったので次の授業に影響しなかったのは幸いだった。
  - ・\*評価回答者の中に一人講座に対し批判的な学生がいたが、数字による評価以外の回答がなかったのが残念である。どのようなところに不満があったのかを知りたかった。
  - ・\*英米学科で教える貴重な機会をいただき、とても感謝している。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の豊富、方針など
  - ・\*上記の” My Take Away” は提出方法を考える必要がある。
  - ・\*比較のため話したアメリカ文化について学生の関心が高かったため、今後も続けて行きたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語の構造  
授業コード 31E15-001  
教員名 吉田 江依子  
教員コード 103084  
登録人数 79  
回答数 35  
回答率 44.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

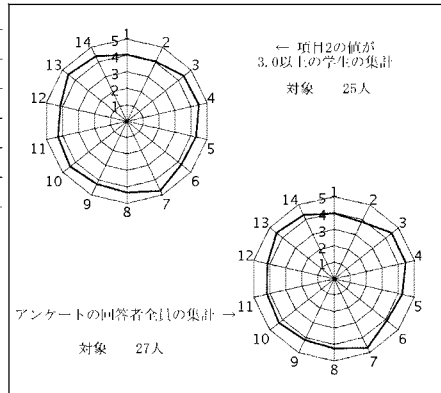


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定した目標と到達の程度については、予定どおりできたと思われる。
- ②ここ数年の結果の中で今年度の数値データが最も良かったように思われる。これは、これまでの授業評価アンケートからの学生の意見・苦言を真摯に受け止め、それに対する改善を積極的に試みてきた結果であると考えられる。③の改善点を加え、さらに良い授業を提供していきたい。アンケートの数値や自由記述の結果から、こちらの熱意が学生にも伝わり難い内容ながらも理解ができたとの意見があったことは評価したい。
- ③今年度の学生アンケートから、次年度は以下の2点を改善するようにしたい。
  - [1]学生アンケートの中で、項目11の評価が一番低かった(3.61)。これは、テキスト以外の参考文献などを授業内で積極的に紹介しなかったことが原因であると思われる。次年度は、関連図書を具体的に紹介したい。
  - [2]自由記述の中で、資料の不備に関する指摘があったことは大いに反省したい。不備については15回の授業の中で3点ほどであったと記憶しているが、学生にとってはそれが大きな問題であるということ、教員側としては既知のことです。些末なもの、という意識でいたが、初めて学習する学生にとっては数回の些細な違いもこれほどの不安をもたらすということが分かった。次年度は完全な資料を提供をしたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際関係特殊研究A
授業コード	31E32-001
教員名	藤本 博
教員コード	100125
登録人数	45
回答数	27
回答率	60.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



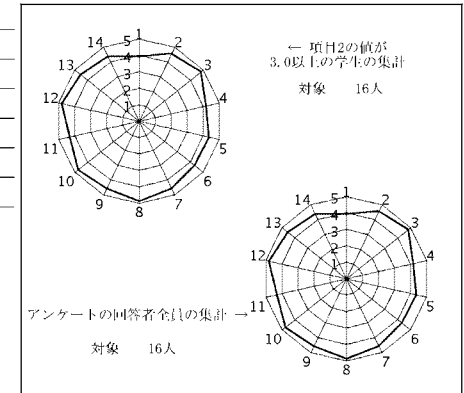
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、ベトナム戦争を対象に第二次世界大戦後における「アメリカの戦争」の実相とその遺産について理解を深めることを目標として講義を進めた。講義の展開にあたっては、講義対象についての興味を喚起し、理解を深めてもらうため、映像を利用するとともに、参考文献や資料をその都度紹介するよう心がけた。本講義に関して、理解の深まりに関する項目13、そして満足度に関する項目14において、それぞれ平均値が「4.48」、「4.30」であり、また自由記述欄で、映像の利用により「わかりやすかった」、「理解しやすかった」、また「資料が豊富でわかりやすかった」との記述があり、本講義で設定した目標は概ね達成されたと考える。

ただ、8～12までの項目では平均値が「4.10」台から「4.20」台で、また理解の深まりと満足度に関しても、所属の英米学科の平均値を下回っており、今後、一層の努力が必要だと考えている。本講義においては、毎回、リフレクションペーパーを提出してもらい、出された質問等に対しては次の講義で答えるなど、授業が一方向的にならないよう工夫をしたが、自由記述欄で指摘されているようにリフレクションペーパーを書く時間が十分とれなかったことが何度があったため、今後は十分な時間がとれるよう留意したい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Advanced English Literacy4
授業コード	48A11-004
教員名	クマイ 恭子
教員コード	101131
登録人数	20
回答数	16
回答率	80.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

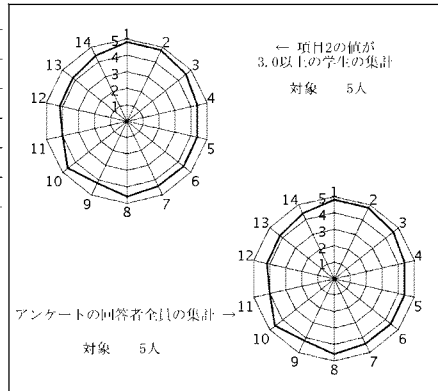
Sustainabilityに関して英語で理解し（読解）、自分の考えを英語のリサーチ・ペーパーにまとめるというのが目標であったが、おおむねその目標は達成できたと思われる。1クォーターでリーディングとライティングの両方をこなすのはなかなか大変で、学生にとっては課題に重圧感を感じた者もいたようである。教員にとっても英語読解ではなくコンテンツに重きをおいたリーディングと初めてのリサーチ・ペーパーライティングの指導をするのはやや重労働であった。

学生の評価を見ると、おおむねこちらが提示した目標はカバーできなかったのではないかと感じている。特にライティングに関してはセクションごとに練習をしたのが功を奏したように思われる。リーディングに関しても引用の練習を含めるなど、ライティングと関連づけるよう工夫をした。リサーチ・ペーパーは個人の学習（リサーチの量）によるところが大きいので、学生の成果にはばらつきがあるが、形式（スタイル）という点では必要最低限のルールは守れるようになったのではないかとと思う。また、自分でマニュアル等を参照する力もついたようである。

今後の課題としては、よりわかりやすいサンプルの提供、リーディング教材とエクササイズとライティングとの連動をさらに効率的にしていくことが挙げられるように思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IB3  
 授業コード 32A11-003  
 教員名 HOPKINS Mariella  
 教員コード 103653  
 登録人数 23  
 回答数 5  
 回答率 21.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

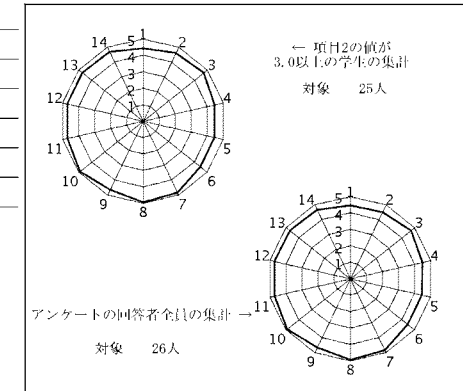
(1) Los objetivos del primer trimestre fueron cumplidos de acuerdo a lo planificado segun el syllabus indicado para este periodo. Podemos destacar la buena participacion de los alumnos en clase en las diferentes actividades de conversacion realizadas ya sean en parejas o grupales.

(2) En relacion ha este punto vemos que es necesario mejorar la retroalimentacion con los alumnos para poder tener certezas de su debida comprension de las actividades que se estan realizando en el aula, de igual manera profundizar en los objetivos del curso en relacion con la adquisicion de nuevas habilidades y conocimientos.

(3) Y, con respecto a este ultimo punto tomaremos muy en cuenta las observaciones de estas evaluaciones, destacando y poniendo enfasis en una debida retroalimentacion asi como tambien daremos una orientacion adecuada en el proceso de aprendizaje de una nueva lengua con la finalidad de cumplir con las metas y objetivos trazadas.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IA2  
 授業コード 32A18-002  
 教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue  
 教員コード 103464  
 登録人数 35  
 回答数 26  
 回答率 74.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

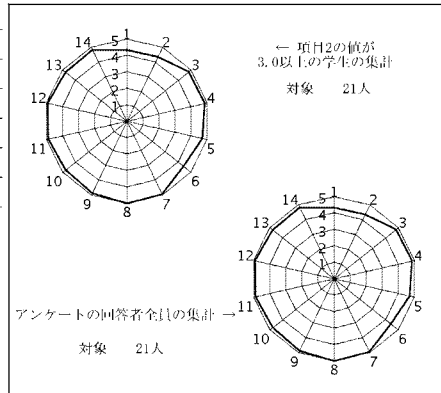
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 目標：購読力と幅広い分野の知識を鍛えること  
 到達：達成はしました。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
 学生にとって今まで以上に内容が難しい科目ではありましたが、わかりやすく説明をしながら授業を行うことができたと思います。  
 学生の「学習にあたる不安」を意識しながら、授業の準備をしたり、解決策を模索したりしました。  
 クラス毎の導入の仕方や説明に使うスペイン語の単語やフレーズを考えながら、できるだけ理解しやすく説明しました。しかし、これらを工夫していると時間に追われ、問題の解説を詳しく行うことができなかった点もありました。  
 今後、見直していきたいです。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 1. 時間に気を付けながら、問題の詳しい解説を行っていきたいです。  
 2. 学生のコミュニケーション力を高め、間違えを恐れない学生を育てていきたいです。  
 3. そして、改善策を工夫しながら今後の授業に生かせるようにしていきたいです。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB2  
 授業コード 32A20-002  
 教員名 GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria  
 教員コード 103652  
 登録人数 21  
 回答数 21  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

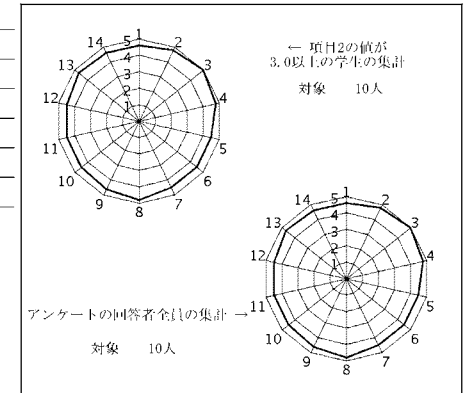


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal at the start of this course was to encourage students to speak only in Spanish on topics specially related to detailed description of things, people, places, human feelings, emotions, human problems, and solving problems. Another main goal was to encourage students to think as if they were entrepreneurs. This topic was very fruitful because the students created their own imaginary enterprises that offered products or services that Nanzan students need. They made presentations to offer their services to potential clients. The other students had to ask critical questions as if they were potential investors. The presenters had to answer. The interaction between them, with me serving only as a moderator, made students develop their own critical thinking and oral expressions. The students seemed to enjoy a lot the activity and they seemed to also learn and gain confidence while speaking their own ideas and business creations. As a self-assessment, I would like to continue promoting the interaction between students and serve mainly as a moderator. In the next quarter I would like to make more vocabulary exercises and quizzes to enrich their Spanish oral expressions.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB3  
 授業コード 32A20-003  
 教員名 JAIME LAZO, Alan Christian  
 教員コード 103654  
 登録人数 20  
 回答数 10  
 回答率 50.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Given that these course goals try to enhance communicative skills in Spanish for the B1 level of the GEFRL, namely the normal performance in contexts where social values, economic development and scientific-technological advances are necessary, the students have handled several specialized texts in different formats. In doing so I consider that most of the pedagogical activities have achieved the basic requirements in order to describe some kind of objects as well as its usefulness with respect to problems and solutions of everyday life.

Looking at the overall evaluation of 4.6 points, in my opinion there are still some specific aspect to improve. In spite that this course aims to deal with communicative skills, sometimes it is indispensable to review some grammar functions that structure the implementation of new discourses. Formal resources require a lot of practice and time to be interiorized. However, nowadays many students struggle to manage an effective and appropriate use of time beyond the classroom. In long term if there is not a deep commitment, it then could diminish the motivation for the tasks.

Moreover the Student-Instructor interaction unconsciously tends to prevail with outstanding students and in some occasions it leads to a satisfactory negotiation of meanings. By contrast, not everybody unfortunately seems to understand new senses or nuances. Henceforward, I will be more careful whereas complex ideas will be explained. As

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語III2  
授業コード 32A26-002  
教員名 SALA, Lidia  
教員コード 101563  
登録人数 27  
回答数 0  
回答率 0.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

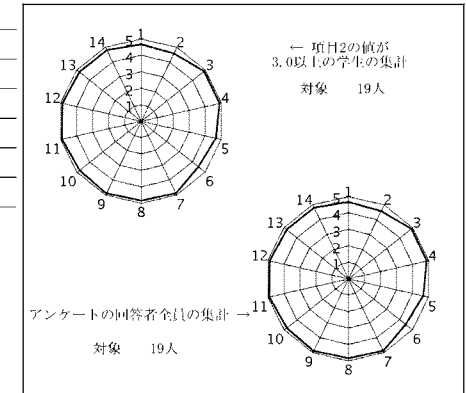
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Advanced Spanish course new goals include both improving reading and speaking skills from this year. To fulfil these objectives, lessons were revised and activities focussing vocabulary growth and conversation skills were added. This semester test results showed improvement both in vocabulary and reading skills so it seems that changes were appropriate. As a wider range of activities were introduced, with more student involvement, class atmosphere improved, as well as student attitude and motivation. Therefore, I believe that course goals have been accomplished to a great extent.

As for planning the next semester, as classes sometimes are too dense, it is necessary to keep revising lessons and activities in order to choose those more fit to the course goals.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語通訳法I  
授業コード 32D08-001  
教員名 エルビーニア ユリア  
教員コード 102926  
登録人数 22  
回答数 19  
回答率 86.4%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

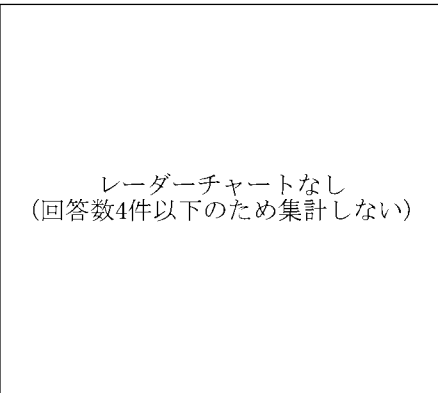
講義開始時と比較して、受講学生のスペイン語聴解力、理解力、およびスペイン語と日本語での表現力や通訳実技に関する知識およびスキルの上達が見受けられ、授業目標は達成したと思われる。また、多様なテーマ（時事、社会、産業技術、医療、スポーツなど）についての知識も深まったことがうかがわれる。

前半は、通訳理論を中心に説明しながら、毎回異なるテーマの音源を通訳題材として扱った。学生が興味を示すテーマが多岐にわたるため、時事・社会・環境問題等のハードな教材からスポーツ・文化のソフトなテーマまで、幅広い分野を取り上げることで、異なるニーズに対応できたと思われる。また、複数のスペイン語圏地域の音源を利用することで通訳の難しさを感じてもらうことができた。

後半は、通訳者としての体験談を授業の随所で紹介することで学生の授業に対する意欲を高めることができた。日本を代表する通訳者の仕事に密着したドキュメンタリーの紹介はかなり好評のようであった。また、課題メールの際に出た質問や意見については翌週の授業で必ずフィードバックを返していた点が評価を得た。一方、レベルが高めだったというコメントや実践練習の頻度が少なかったという意見については、次年度以降考慮および改善したい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語翻訳法I
授業コード	32D10-001
教員名	佐竹 謙一
教員コード	017418
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、スペイン語の基礎文法はもちろんのこと、日本語の文章表現のあり方についても基本的な知識は説明した。特に学生の脳裏に焼き付いている教室での訳し方と、実際に出版する際の日本語の文章表現、すなわち元来の日本語文との違いに注目しながら、現代スペイン文学の作品をベースに翻訳の実践を試みた。また、日本文学（川端康成の『雪国』）のスペイン語訳がどのようなイメージを表出すかについても確認した。さらに、学生一人ひとりに出版翻訳（特に文芸）、映像翻訳などについて発表してもらったあと、意見を交換するという方法も試みた。つまり学生が自分の意志で翻訳について考えるという時間が持てたことは彼らのプラスになったのではないだろうか。

①開講当初に設定していた目標はほぼ達成できたものとする。

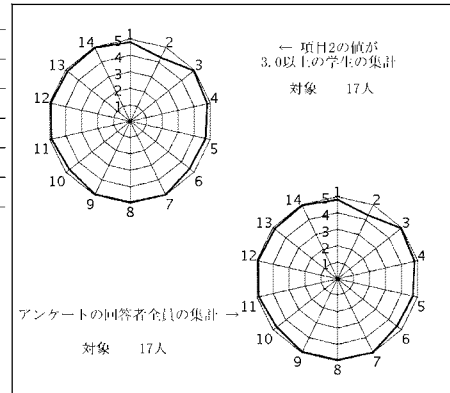
②学生は授業が進むにつれて翻訳に興味を覚え始めたようで、一番重要視しているこの点については、自分でもおおむね満足している。

③来年度に向けての改善点、今後の抱負などについては、今回時間が足りずに言及できなかった他の翻訳論についても説明を加えたいと考えている。

総じて、授業の進め方、学生とのやりとりについては満足しているし、学生にもある程度評価してもらえたのではないだろうか。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語実践演習A
授業コード	33C05-001
教員名	清水 ペアトリックス
教員コード	047845
登録人数	30
回答数	17
回答率	56.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives of the course were to prepare students for various examinations, specifically the 仏検 and the DELF B1.

The contents of the course included:

- reviewing important grammatical points: we reviewed various grammatical tools to create sophisticated sentence patterns.
- improving written skills; we focused on the expression of one's opinion regarding documents read in class and dealing with important topics that help understand French culture and France as a country.
- improving oral comprehension skills and spelling; every week we had a dictation based on the written document studied the previous week.

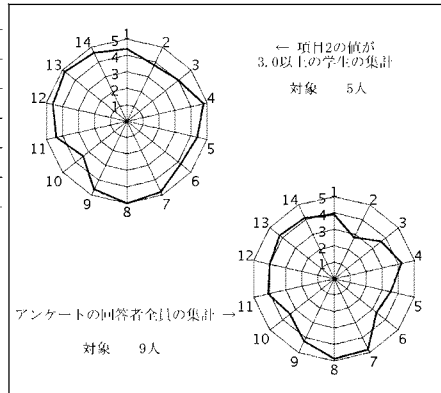
The evaluation by students seems to show that they were overall satisfied with the contents and the structure of the course. Answers to Question 5 seem to show that students did not fully grasp the ultimate objectives of the course; students need to be shown how they can apply concretely what they have learnt when they actually use the French language.

Regarding other aspects, the course will continue to be organized along its present lines, always adjusting its contents and degree of difficulty to the actual level of proficiency of students.



2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス文化特殊講義B
授業コード	33C13-001
教員名	七條 めぐみ
教員コード	103896
登録人数	23
回答数	9
回答率	39.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

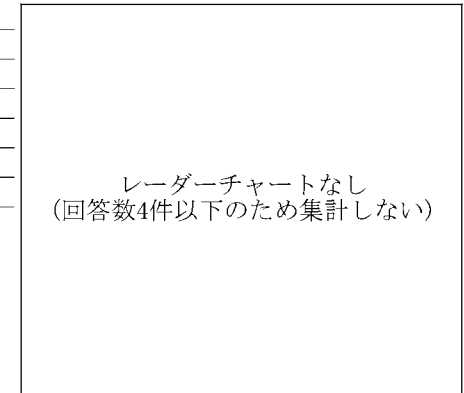
本授業は「フランス音楽史」と題し、①音楽を聴いて楽しむだけでなく、学問的な関心を抱く。②フランス音楽史を西洋史と関連付けて理解する。③フランス音楽史の特色を、他の地域と比較して説明することができる。を到達目標として設定した。これらのうち、①に関しては各回のリアクションペーパーの内容から、十分に到達されたと言える。一方で②と③に関しては、期末筆記試験の結果から、受講生の間で理解の程度に差が見られた。

アンケート結果を見ると、まず回答数が全体の4割程度にとどまったことから、授業内でより一層アンケートを周知し、実施を促す必要があった。その上で、設問4、7～9、11～14の結果が4ポイント以上であったことは喜ばしく、授業準備の姿勢や進行の工夫が、受講生から評価されたと判断できる。一方で、設問5、6のように理解度を問うものは3ポイント代であった。本授業では音楽史という、受講生の専門外の内容を扱うことから、情報量を調整したり、説明を工夫するなどして、授業の目標が十分達成されるように配慮すべきだったと考える。また、設問10に関しては、アンケートの自由記述においても遅刻する学生への対処が指摘された。本授業ではリアクションペーパーの提出をもって出席としていたが、それを不公平と感じる受講生が生じたため、遅刻が続く受講生には注意、減点をするなど何らかの対処が必要だと感じる。

以上の結果を踏まえ、今後は受講生の興味・関心を掻き立てるだけでなく、内容の理解に結びつくような授業を展開することが目標である。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境と倫理問題1
授業コード	13D01-001
教員名	高畑 祐人
教員コード	048736
登録人数	5
回答数	2
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

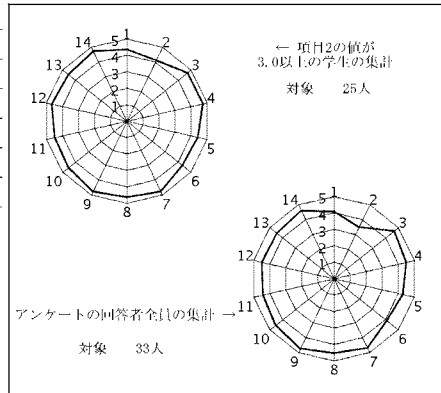


授業評価結果を踏まえた点検・評価

そもそも履修者が少なく、それはただ単位の数合わせのためではなく、授業の内容それ自身に関心を持って履修しようとしたのであろうと推定できるので、この結果は想定範囲内である。少人数だと、こちらから授業中に質問を投げかけて学生の理解度を確かめながら授業を進めることができる余裕がある。また学生にとっても教師との距離が近くなり、質問しやすくなるだろうと思われる。納得がゆくまで質問できる志、こちらから学生の反応を見ながら応答できるので理解の程度も上がったのであろうと推察される。この授業ではいつも、授業のベースとなる参考資料を配布しているが、今回はそれに加えて、内容のまとめりごとに内容を要約したプリントを配り、基本資料の理解がより一層進むように試みてみた。それも一定の効果を上げたかもしれない。今後もこの調子で進めてゆこうと思うが、この授業は哲学・倫理学形の授業とは言え、現在進行中の問題に関わっているのも、今後のさらなる試みとして、学生の関心を高めるために時事的な情報をタイミングを見て盛り込むなどの工夫もしてみたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ文学研究  
授業コード 34A22-001  
教員名 加藤 博子  
教員コード 100480  
登録人数 100  
回答数 33  
回答率 33.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について

出席して下さった学生の方々は、内容に関しては、おおむね満足していただいたようです。ドイツ学科の学生の比率が低かったこともあり、西洋文学、芸術全般へと、考察の範囲を広げることになり、それを楽しんでいただけたなら、良かったと思います。

②総合的な自己点検・評価

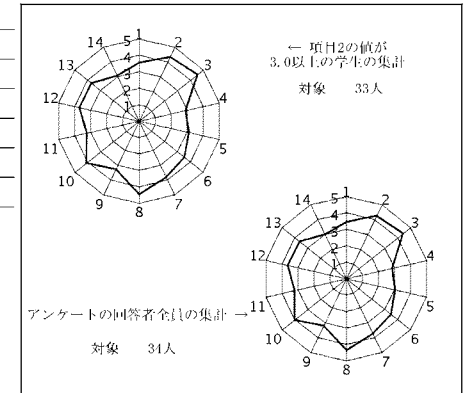
ドイツ文化の面白さ、文学の魅力は存分に伝えられたように思いますが、とにかく出席率が低すぎました。授業に出ないで単位だけを得る方が利益になるという固定観念を打破したあげたいと思っていましたが、二ヶ月だけの関わりでは無理でした。

③改善点、今後の抱負、方針

これからも出席をとらない方針は変えませんが、できるだけシラバスを魅力的にするとか、初回で授業を受けることの意義を納得してもらえるように努力したいと思っています。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門1  
授業コード 40B03-001  
教員名 近藤 仁  
教員コード 014431  
登録人数 40  
回答数 34  
回答率 85.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

[1] 授業目標および達成度

本講義は、Officeを用いて、プレゼンテーションとしての観点を含めて、日本語ワープロの習得、統計的データ分析手法やデータ加工手法、およびグラフ作成手法の習得を目的としている。

授業の目的の達成度としては、高校までで文章を作成する訓練やデータを読む訓練ができていないため、完全とまではいかないが、目標はほぼ達成できたと考えられる。

[2] 授業評価

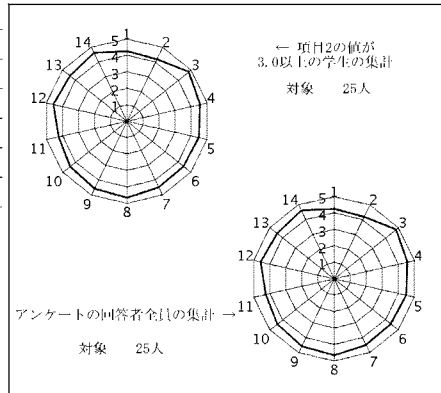
今年度から、PCが個人持ちになり、学生の機種やOFFICEのVersionが異なっているため、非常に授業がやりにくく、学生も自分のPCソフトを理解していないため、時間がかかっている。そのため、講義のスピードが速いとか学生の理解度に合わせてほしいとか言うコメントが寄せられており、設問4や設問9の評価が低くなっていると思われる。その都度、時間を設けて、質問やわからないところを聞いているが、反応する学生は少ない。

[3] 改善点

毎回レポートをチェックして返し、再提出させているが、クォーターの連続授業で、チェックに時間が十分取れないため、字が乱雑になるところがあることは改善しなければならない。プレゼンテーションを意識した、文書や表の作成、データの取り扱いの重要性は、ことあるごとに行っているが、認識までに至らず、どのように理解させるのか、模索中である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門2
授業コード	40B03-002
教員名	西 一夫
教員コード	103655
登録人数	39
回答数	25
回答率	64.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

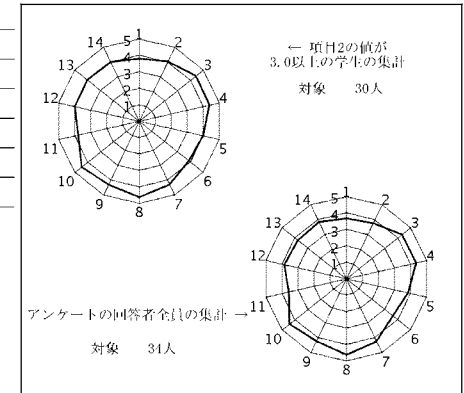


授業評価結果を踏まえた点検・評価

データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。  
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』  
この目標に対しては、授業評価項目番号5と6において4.4以上の評価となっているため、概ね達成できたと思われる。  
自由記述の項目16（授業の改善点）においては、「できない人のためにももう少し手伝ってあげてもよいと思う」という意見があったので、机間巡視時にもう少し学生の進行具合を確認したい。  
また、「パソコンのトラブル時に対処できていない時があったので、何とかしてほしい」という指摘においては、今年度からQ号館の新設備教室と言うこともあって、印刷環境なども変わったため理解不足な点もあるが、印刷などに長けた学生を見つけて解説をしてもらったり、Wifiへの接続がうまくいかない学生については情報センターへ行くように促しているが、自分自身も引き続き疑問点をなくすよう新しい設備を利用してゆきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	農業経済論A
授業コード	40D52-001
教員名	園田 正
教員コード	102233
登録人数	125
回答数	34
回答率	27.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

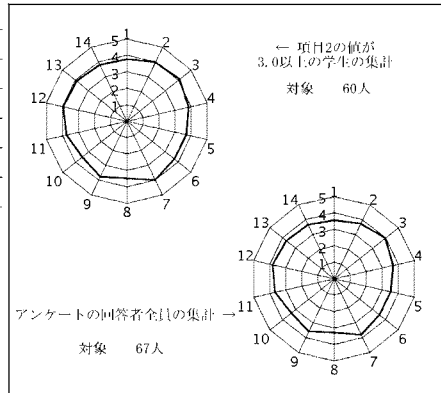


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、①日本の農業を取り巻く問題の変遷を、経済発展と関連づけて理解できるようにする、②これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようにする、③日本の農業について、自分なりの考えをもつことができるようにする、というものであった。①と②については、二つの農業問題（発展途上国の食料問題、先進国の農業調整問題）について一般的に学んだ後、日本の農業問題の具体的な変遷と関連する農業政策を学び、試験の成績から、相応の理解が得られたものとする。③については、講義での質問などから、各学生が日本の農業問題に関心をもつようになり、自分なりの考えを述べる素地ができたことがうかがえた。授業評価集計とレーダーチャートから、質問ごとに多少変動はあるが、全問の平均で4.00であり、おおむね良好な評価が得られたと考えられ、細かい修正点は必要かもしれないが、基本的には現在の講義方法を継続していけばよいと考える。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済思想史A  
 授業コード 40D64-001  
 教員名 安藤 隆穂  
 教員コード 100507  
 登録人数 313  
 回答数 67  
 回答率 21.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

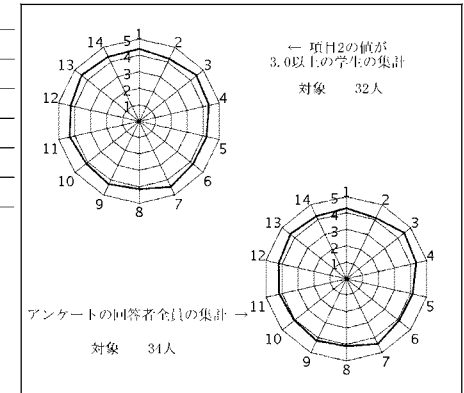


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 昨年度講義を担当しなかったため、クォーター制としての初めての経験で、戸惑うことばかりでした。そのためもあってか、時間配分等が稚拙で、当初計画していた内容の8割くらいしか消化できませんでした。また大教室での板書の文字の大きさなど不手際で、板書と配布資料との関連付けにも多くの不手際がありました。全体として聞きづらい講義であったと反省しています。
- ② 受講者の皆さんの反響は、これまでの傾向でもありますが、よい評価と悪い評価に大きく分かれ、中間が少ないということだと思います。これは、この講義の特徴から出てくるものでもあり、全員に満足いただく方向がなかなか見いだせず苦労しています。不満の声も多いと思いますが、相当数の受講者から授業後に毎回熱心で内容の濃い質問を受け、手ごたえも感じました。何とか長所を消さないように改善したいと思います。
- ③ この講義は、知識を幅広く獲得することよりも、経済思想史という方法意識を軸とする基礎的学力を身につけることを狙いとしています。そのため、文学などの分野に積極的に踏み込みました。現代経済をみる上で直接役に立たないと思え不満もあるかと思いますが、方法意識の次元での学力は、長い時間での育ちとして評価すべきだと思います。このような思いを維持しながら、特に講義技術を中心に改善に努めます。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 企業と業界の研究1  
 授業コード 40E03-001  
 教員名 服部 光訓  
 教員コード 101893  
 登録人数 94  
 回答数 34  
 回答率 36.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

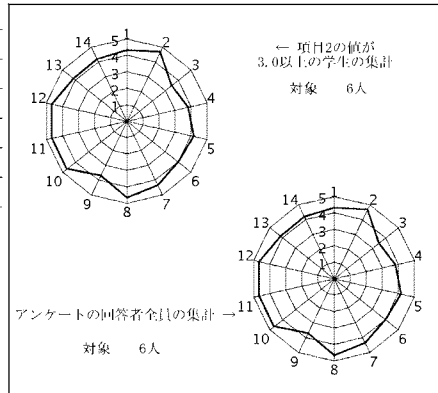
「企業とは何か、働くことの意味は何かを理解し、主要産業の歴史と現状を知ることで自分のキャリアを考える」という学習目標は概ね達成できた。設問13の「新しい知識を得たり、理解が深まったと感じますか」の平均値が4.35、設問14の「授業に満足しましたか」の平均値が4.21と高いことが、それを裏付けている。

到達目標の一番目は、新聞（電子版含む）を読む習慣の身につけることだ。1週間の経済ニュースの中から、一番関心を持った記事について、関心を持った理由とそのニュースの影響をレポートで提出することを義務付けている。この授業評価とは別に求めた感想では、「初めて新聞を真剣に読むようになった」「暗記ではなく、自分で考えるようになった」などの感想が目立った。

パワーポイント資料の印刷後に発生した最新情報を画面で追加表示する方法も評価されたようで、設問7の「誠実さ・真剣さ」の平均値も4.41と高かった。ただ、追加画面もプリントで配布してほしいとの要望もあった。印刷工程の関係で要望を実現するのは難しい面もあるが、工夫してみたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B3  
授業コード 40E05-003  
教員名 秋田 貴美子  
教員コード 047613  
登録人数 24  
回答数 6  
回答率 25.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

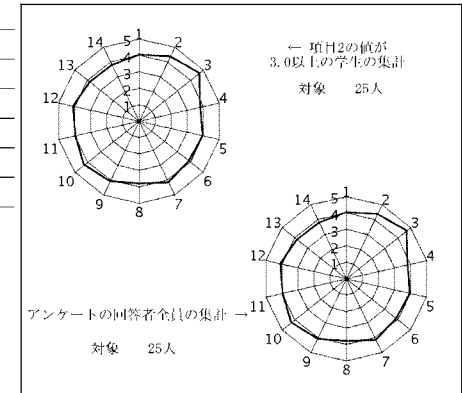
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
ビジネスの基礎英語語彙習得と基礎英会話力を高めることを目標とした。学生の英語レベルに合った、学生の関心が高い英会話の反復練習を集中的に行い、英会話をするチャンスを増やした。興味深い参加型の楽しい授業になるよう努めた。小テスト、英会話発表、英語プレゼンテーションを行った。教科書は8章まで終えた。学生は積極的に参加し、実践英語を習得し、今までより自信を持って英語を話せるようになった。目標は達成できたと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
履修生23名のうち6名がアンケートの回答をした。結果は、ほとんどの項目が4.0以上で、「授業中の学生への適切な対応、教員の声、学習意欲を引き出す指導、質問への対応」に関しては4.67であった。「学生が授業を通して新しい知識を学び理解を深め、授業に満足したか」は4.17であった。自由記述は「使える英語を学ぶことができた」であった。英語が苦手な学生が混ざっていたが、皆積極的に参加し、楽しい授業を行うことができた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
ペア演習や英語ゲームを行う場合、皆熱中するため、休憩時間を少しづらさなければならなかった。こうしたことがないようにしたい。また、英語が苦手な学生への配慮をもう少ししたい。英語プレゼンテーションや英会話を人前ですることに慣れていない学生が何人かいたので、学生が安心して英語を話せるよう授業内容を工夫していきたいと思う。今年初めて使った教科書は学生に好評だったので、また今後も使いたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語A1  
授業コード 40E06-001  
教員名 森川 信子  
教員コード 100136  
登録人数 39  
回答数 25  
回答率 64.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



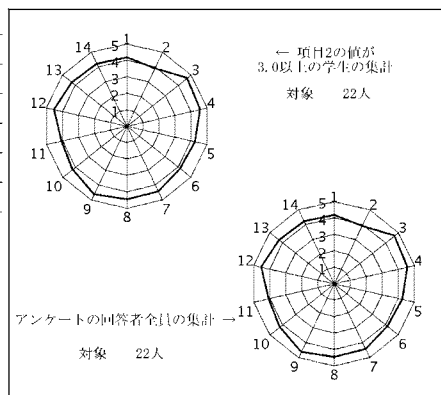
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、The Japan Timesなど日本の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事を収録したテキストを使用し、社会問題や環境、科学技術、スポーツなど身近なトピックを中心とした記事のリーディングを通して、英文記事に慣れながら読解力と語彙力を養うことを目的として、授業を行いました。38名の受講者のうち、A以上の評価を得た人が半数以上という結果から、開講当初に設定していた目標はおおむね達成できたと言えるのではないかと思います。全般的に真面目な受講態度だったことに加え、今年度から他学科生の受講が可能となり英米科から5名の出席があったことも、全体にとって良い刺激となったのかもしれませんが。緊張感のある良い雰囲気では学ぶことができたと思います。自由記述式回答の「この授業の良かった点」として「丁寧な説明でわかりやすかった」という点が4名から挙げられたのはたいへん良かったと思います。

週一回連続コマの科目の最終週の授業日は今学期も授業予定表上、通常とは違う曜日が充てられており、やむを得ず「推奨の日・時限」に変更しましたが、「予定を変えなければならぬ困った」という人がでてしまいました。次回からは手続きの開始が遅れないよう気をつけなければと思います。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)1  
授業コード 42F03-001  
教員名 塩川 順久  
教員コード 103587  
登録人数 100  
回答数 22  
回答率 22.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

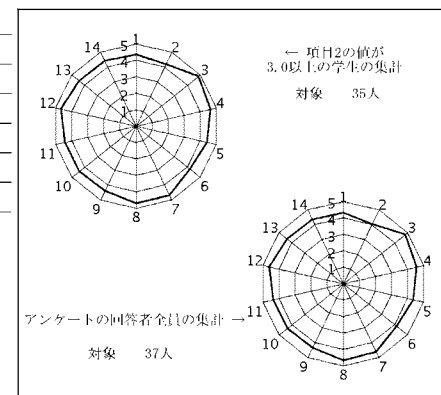


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 昨今の若者の傾向として、内向き・海外に出たがらないといわれているので、私の海外勤務を通じて得た体験談・海外事情・海外のグルメ・観光地等々を紹介しながら海外への興味を高め、世界に羽搏く人材を増やしたいと講義を展開しましたが、その目標はほぼ達せられたと思う。  
1-2. 講義の中で、経営理念・経営基本方針、電子電機産業の将来性、自動車技術発展と電子・電機技術の関連性が、多くの学生さんの興味を引き、目的を達せられたと思う。」
2. アンケート調査結果から推測すると、事前にWEB-Classにアップしてるレジメがあまり読まれてない、それ故理解度が高まらない課題がある。
3. 事前の予習を如何に促すか検討してみたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(自動車産業論)1  
授業コード 42F04-001  
教員名 村井 清  
教員コード 103111  
登録人数 99  
回答数 37  
回答率 37.4%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



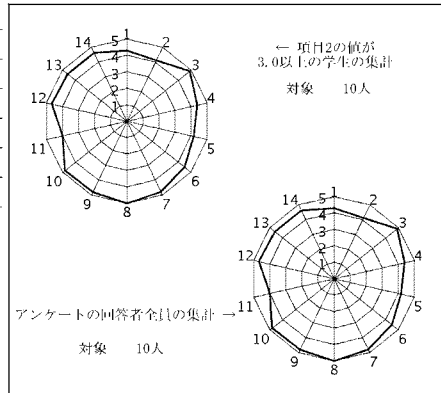
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 目標と到達の程度については、レポート課題の採点結果からはまずまずの結果といえる。今回の学生にも授業中で理解できなかった点を「質問票」で提出させ次回の授業で回答する形をとったが、今までと異なり質問票の提出が少なかったため理解度については今ひとつ把握できなかった。設問9「教員は学生の理解度に配慮し…」のアンケート回答結果は4.32で全体平均4.35より下回った点は次回授業に反映させるべきと感ずる。
- 設問10「私語、携帯電話、遅刻などに適切な対処がなされたか」についても平均を下回っており、また自由意見で「出席簿の学生チェック」に対して改善意見があったことなど、授業内容以外についても気配りが必要と思い、引き続き工夫をしてゆく。特に出欠については毎回理解度レポートを提出させそれを出欠としたい。
- 授業の開始と終了時に、「起立、気をつけ、礼」を実施したが学生には戸惑いもあったが「はじめの大切さが理解できた」という意見もあり、今後とも実施していきたい。
- 自動車産業を取り巻く環境変化、特にEV化、全自動化に対し、各社はダイナミック且つ急速な変化が見られる昨今、学生自らが自動車産業を理解する力を付けるように授業内容や進め方に工夫をさらにしてゆく。

以上

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 商業簿記中級I  
授業コード 42H01-001  
教員名 水野 孝彦  
教員コード 103878  
登録人数 13  
回答数 10  
回答率 76.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



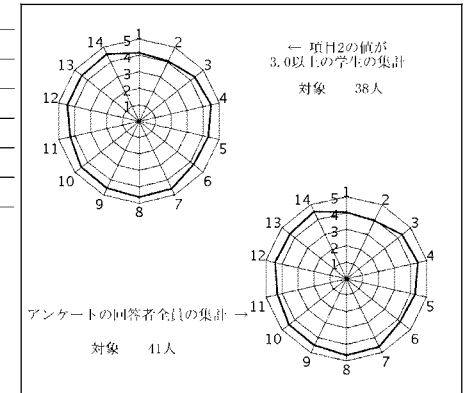
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は簿記の中級レベルの内容を行うことが予定されていましたが、履修生の大半が初学者であったこともあり、簿記のルールや基礎的な知識を学ぶところから始めました。したがって、授業は簿記3級レベルのプリントを用意し、演習を行うことで少しずつ知識や計算技術を学んでいきました。開講当初の目標のうち、テキストの解説と問題演習を通じて、損益計算書の表示区分（とくに段階的な利益の表示）についての理解と、簿記2級で求められる仕訳・計算の一部を身につけることができましたと思います。

質問項目1、2、3、6、7、8、9、10、11、12、13、14については高い評価（評価5と4の合計が全体の90%以上を占める項目）が得られたと思います。とくに、複数のコメントで、履修生の理解度に合わせた進め方が良かったという回答が目につきました。他方、質問項目4と5については、今後の課題になると思われます。初学者のなかには速すぎるとの意見もありましたので、Q3のこの科目の続きで、到達目標の意義を一層明確にし、理解度にも注意を払いながら進めていきたいと思えます。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学原論A  
授業コード 44B40-001  
教員名 荒木 隆人  
教員コード 103862  
登録人数 280  
回答数 41  
回答率 14.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

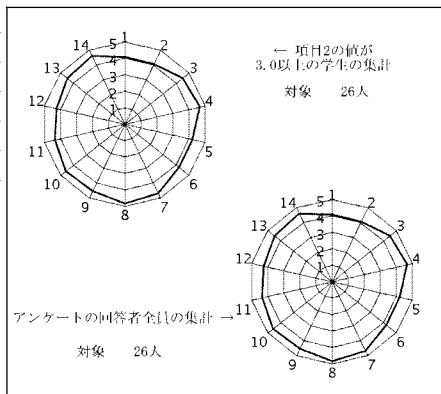


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
本講義の目標としては、政治学の分析視角を身に着け、政治学の基本概念である国家、権力、民主主義、自由、正義といった概念を理解できるようになることであったが、受講者の定期試験の採点結果から判断すれば、おおむね上記の目標を達成できていると言える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
授業全体についての平均値は4.51であり、受講生はおおむね本講義に満足を感じているように思われる。自由記述の中では教員の授業への姿勢を評価している回答もあったが、中には教員の声が聴きづらいとの回答もあったので、次のクォーターでは改善していきたいと考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針  
次のクォーターでは、本講義よりも一層、受講生に政治学に対する興味をもってもらえるような授業を行いたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法各論A  
授業コード 44C09-001  
教員名 山形 英郎  
教員コード 101238  
登録人数 60  
回答数 26  
回答率 43.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

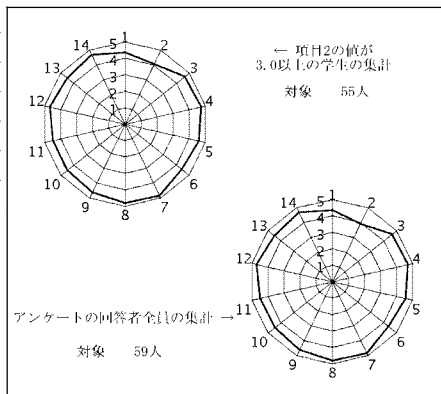
満足度が4.62と平均以上の成績であったことに満足しています。その一方で当日出席していた学生が40名ほどいたにもかかわらず、回答者数が26であり、今回の授業評価アンケートがどこまで精確に学生の評価を示しているか疑わしい。本当は欠席者の意見を聞きたいところです。

担当者として、ほぼ予定していた内容を講述できたので満足していますが、2コマ連続の講義にはまだ慣れておらず、講義の方式に自信は持てていません。また、試験の結果が非常に悪かったことからして、わたしのティーチングメソッドに何らかの問題があったと思われます。Q2の講義を担当しながら、問題点の把握に努めているところです。教科書や条約集の購入割合が低いようだったので、その影響かもしれません。クォーター制の問題かもしれません。

来年度に向けて、クォーター制度対策を検討したいと思います。1週間に2コマは、学生にとっては、進度が2倍と感じられているかもしれません。要点の提示を明確に行いたいと思います。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ジェンダーと法  
授業コード 44C26-001  
教員名 村林 聖子  
教員コード 102382  
登録人数 157  
回答数 59  
回答率 37.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



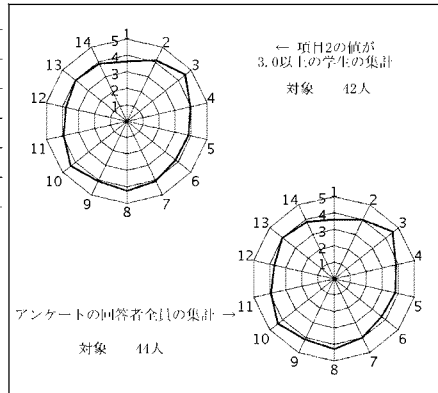
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①毎回の講義で配布・回収している質問票には、講義内容だけではなく、関連する講義外のものごとについての関心が示されているものが多くあった。ジェンダーという視点から法について一定程度学んでもらえたものとする。
- ②受講者数158名のうち59名から回答を得た。授業運営についての設問項目3と4また7～12については、平均値が4.46～4.83と比較的高い評価を得た。4.6を超えた。学生の授業理解についての設問項目5と6また13と14については、平均値が4.39～4.69であった。自由記述の設問項目15には良かった点として、「ジェンダーについて体系的に取り組めた」、「ニュースや新聞からは知ることのできない、日本の現状を知ることができた」、「目からウロコの内容が多かった」との記述があった。
- ③の反省点はあるが、総合的には良く評価されたと思う。
- ③設問項目2（予習・復習）が3.93と低かった点、そして自由記述の設問項目16の悪かった点として板書の量が講義回によって異なること、読みづらさが挙げられていた点が反省点である。今後はこの2点の改善を心がけたい。特に1点目については受講の意識付けに関連するものであることから、成績評価の方法も含めて検討したい。



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境会計論  
 授業コード 46N13-001  
 教員名 東田 明  
 教員コード 101591  
 登録人数 154  
 回答数 44  
 回答率 28.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

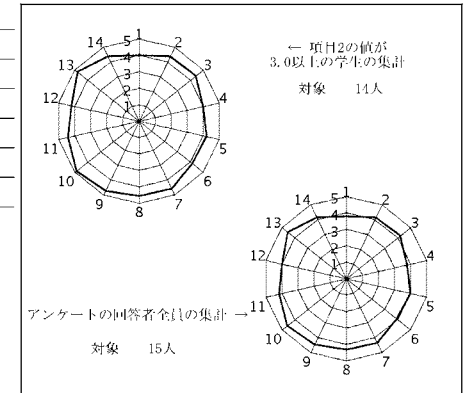


授業評価結果を踏まえた点検・評価

4, 5, 6, 12, 14の回答平均が低かった。私の反省として、授業の進行スピードが速かったのかもしれないと考えている。今年は、これまでの授業内容に近年のトピックを加えて授業をしたことで、授業内容のボリュームが増えてしまった。内容について、これまでの授業内容を一部削除したが、それが十分でなかったのだろう。削る部分を大胆に削ってフォーカスを明確にした方がよかったのかもしれない。おそらくこのことが、授業満足度や理解度に影響していると思われる。今後は、授業内容を大胆に見直し、削る部分は大胆に削り、学生から見ても授業内容のポイントが明確になるように工夫したい。また、学生が授業を受けて成長を実感できていないとのことなので、一つ一つのテーマについて、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思う。これまでモリアクションペーパーを使用したり、レポートを課すなど取り組みをしてきたつもりではあるが、十分配慮ができていなかったのかもしれない。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の口頭能力研究  
 授業コード 24C68-001  
 教員名 鎌田 修  
 教員コード 100183  
 登録人数 30  
 回答数 15  
 回答率 50.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 外国語としての日本語の口頭能力を考えるにあたって、基本的な概念の理解、つまり、その話者自身の学習背景、また、その言葉の使用環境によって、バリエーションがあること、さらに、そのように変動する能力をどのように測定、評価しさらに向上させるべきかについて理解は達成できたのではないと思われる。昼食後に続く3、4時限連続授業のため、メリハリをつけないと学生も疲れてしまうので、極力グループワークを試みた。その分、学生の集中力を維持することには成功したが、講義の部分に十分な時間がかけられなかったかも知れないと思われる。また、口頭能力の測定について、実際に留学生と関わり、インタビュー技術を実践する活動も行なったが、留学生を十分に確保できず、数名の学生にしかその体験ができなかった点、改善が必要であろう。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 全体的には4を超える評価であったので、比較的満足度の高い授業ではなかったかと思う。しかし、グループワークを多くしたこと、また、課外の学習課題もかなり出したため、十分に消化できない学生も多々見受けられた。他学科、他学部からの学生もおり、フィードバックにもっと時間をかけるべきであったことが反省される。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 可能ならば、2コマ続きではなく、週2日の開講形態をとるべきだと思う。しかし、非常勤勤務のためその可能性は低いだろう。あるいは、集中講義にすべきかとも思われる。また、極力、留学生のボランティア参加（日本語を外国語として学習する学生との接触を進める活動）を進めたのだが、5月初旬で別科

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会いⅣ  
授業コード 13B01-004  
教員名 樋口 浩造  
教員コード 100165  
登録人数 28  
回答数 4  
回答率 14.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

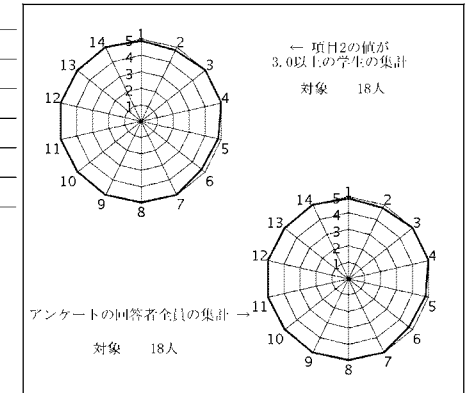
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、オリエンタリズム論の理解を通じて、  
文化理解の可能性や不可能性の問題について考える、  
思考力を養う授業である。  
授業について特に不満・不足を感じるアンケートではなかったため、  
今後も本年と同じように授業を進めていく。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IA2  
授業コード 33A11-002  
教員名 NISHINO, Aurelie  
教員コード 103640  
登録人数 21  
回答数 18  
回答率 85.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

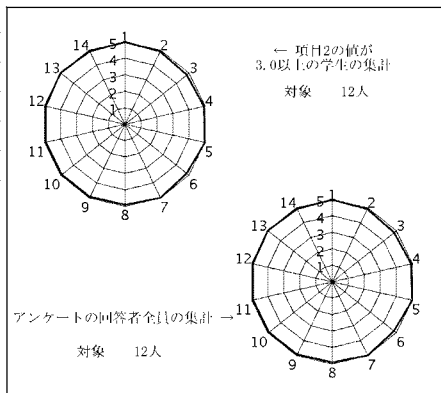
The goal of the class were to allow the students to speak and understand French as much as possible while respecting the syllabus. It was like a review of the first year notions and adding new topics and vocabulary. I think, I manage to make them speak as much as possible within the class time. They were going to France so I prepared them also in that way while respecting the syllabus.

It was quite challenging even if the class was very motivated. After the spring break, a lot of them forgot French. However by the third week it was back to the normal level. the class was very nice to teach.

As I share my course with an other teacher it can be very hard sometimes because we have to be very well coordinated. after a few weeks, I manage to work perfectly with the other teacher and we manage to reach our goals. But actually, it took a little time to adapt.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IB2  
授業コード 33A14-002  
教員名 HERGOTT, Florian  
教員コード 101725  
登録人数 21  
回答数 12  
回答率 57.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

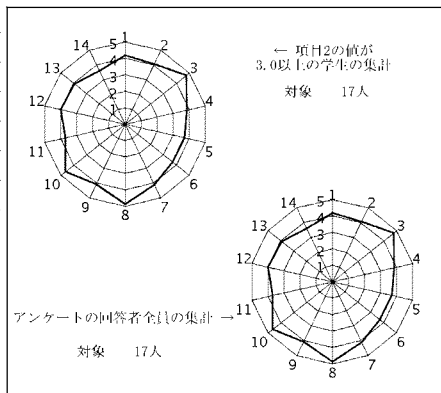


授業評価結果を踏まえた点検・評価

特に問題がなかったです。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IB3  
授業コード 33A14-003  
教員名 ZIMMER, Karine  
教員コード 103454  
登録人数 21  
回答数 17  
回答率 81.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

During this quarter 1, we studied the textbook saison 2. We studied the first three units and we got an overview of the vocabulary related to the francophonie, information and social networks. We progressed according to the syllabus, without delay.

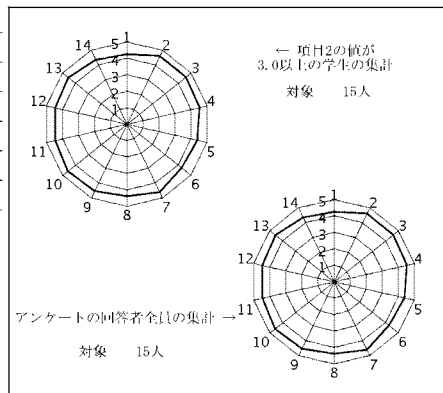
Students had to take a short test during each class. These short tests allowed the teacher to follow the progress of the students. Students made a lot of progress as they studied very hard for the short test and displayed a strong will to memorize as much vocabulary as possible.

I must say that from the start, students were very motivated and interested in this class. So much that no one was ever sleeping or yawning or looking at the clock. Students asked a lot of questions during question time and participated actively. Everyone made the exercices of the cahier d'activité seriously.

The students are now well prepared for their ryugaku in France and will make the most of it. Keep up with the good work !

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IB1  
授業コード 32A20-001  
教員名 VILLALOBOS Antelma  
教員コード 101011  
登録人数 20  
回答数 15  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

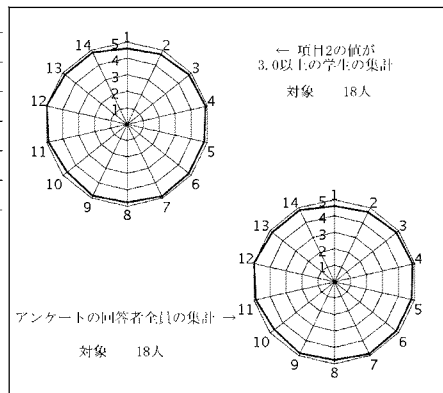
This course has gotten a high evaluation from the students in all the items. The students' comments were all very positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the trimester.

As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読I(スペイン語)2  
授業コード 70105-002  
教員名 BUSTOS Nazario  
教員コード 100490  
登録人数 19  
回答数 18  
回答率 94.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I should stress that this was the first time I had the opportunity to teach this course. However, it has gotten a very high evaluation from the students in all of the items. The students' marks were all very positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. Based on the high grades gotten for the course, we can assure that the biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester.

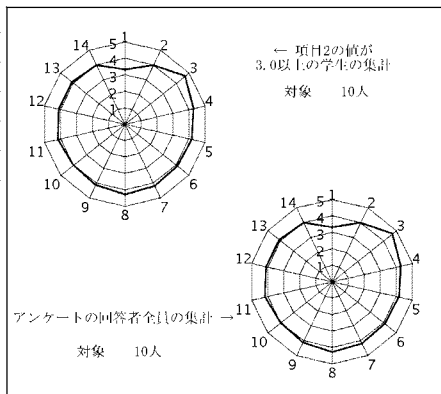
As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods.

In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語I<全>1
授業コード	11F01-028
教員名	李 香善
教員コード	103871
登録人数	37
回答数	10
回答率	27.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修登録37名の5時限授業を担当しましたが、4、5人を除き、殆どの学生の受講態度は良く、ピンインや単語、文法の習得に頑張る姿勢が伝わってきました。習得のためより、ただ出席のために出席する学生や、私語をしたり、集中力に欠けたりする学生とは個人的面談を行う事で、少し改善が見られました。使用教科書は使い易く、15回の授業におき、毎回の授業内容、範囲がはっきりと案内されているわけで、学生も迷い無く、より確信して勉強に取り込めたと思います。

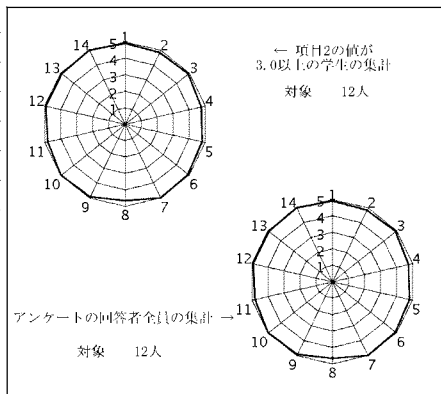
出来るだけ沢山学生に発音させ、よく出来たと褒めることで、特に一部の学生が自信を持ち、中国語学習に興味を持てるようになった事は良かったと思います。

五時限なので、学生がいかに疲れを克服しながら退屈を感じず受講出来るように、担当教員として、受講生一人一人に目を配りながら、より効果的な授業が出来るよう、方法面において今後工夫していきたいと思います。

学生が欠席せず、毎回の授業にしっかり出席するようにすることも、担当教員としての今後の一番の課題かと思えます。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語I発音・聴力2
授業コード	35A01-002
教員名	周 先民
教員コード	100112
登録人数	36
回答数	12
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2010年度春学期『学生による授業評価』自己点検・評価報告書

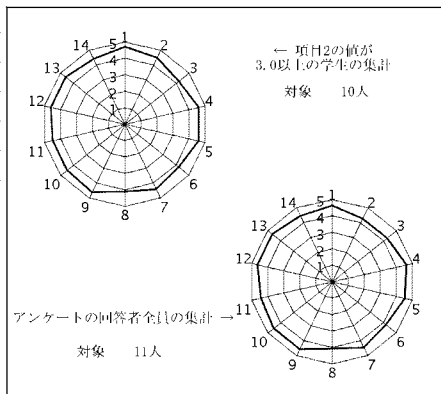
科目名：中国語I 会話・作文<H>5  
科目コード：11301-017  
教員名：周 先民  
教員コード：100112  
休講回数：0  
補講回数：0

授業評価結果を踏まえた点検・評価

『学生による授業評価』のアンケートの結果を見て、授業に関する問題点、学生のご要望、授業の状況など、いろいろと分かってきました。平均値がかなり高いので、授業目標は達成していると思います。具体的に分析して見れば、14問の中で1、5点満点の評価をいただいたのは3問、4.9台は6問、4.8台は3問、4.7台は1問、4.6台は1問です。つまり、全体として、学生さんはこの授業に満足度がかなり高いと考えられます。特にいつも課題になっている学生の予習や、復習や、自習の指導などに関するものは、前よりちょっと改善したのです。でもこれは先生の指導力だけではなく、学生によるものです。同じ工夫をしても、必ずしもいい結果が出ない場合もよくあります。ですから、もっと工夫して、頑張らなければいけません。コメントから見ると、授業でよく復習することや、よく小テストことや、いい評価を受けています。これからもいいことを続けてやっていくつもりです。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語I会話2
授業コード	35A11-002
教員名	張 静菴
教員コード	048047
登録人数	25
回答数	11
回答率	44.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



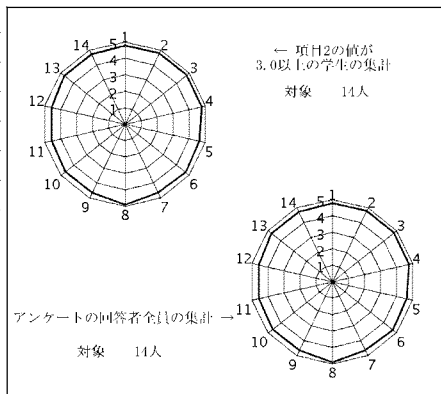
授業評価結果を踏まえた点検・評価

これは中級中国語会話という授業で、とりわけ、学生たちの口語表現の上達を念頭に授業を進めてきた。学生の「授業評価集計」の結果を見れば、授業はおおむね開講当初の目標に達成できたと思われる。「授業に必死についていこうとすることで、より意欲が湧いた。」「自分で文を作ったことで、より理解が深まったので、よかった。」とのコメントをいただいているが、授業では、教科書のほか、口頭練習や復習、また文型や言葉などで、自由作文をやらせたり、こちらで出した日本語の文を訳させたりするのをかさねてしたことで、皆さんの意欲とレベルアップにつながったと思われる。

今後、これら評価されたところを引き続き、努力し、学生諸君の学習意欲をさらに引き出すように工夫し続け、努力していくと同時に、授業内容をさらに充実にし、学生の興味をもっと湧いてくるよう、また受講者全員が満足度の高い授業運営を続けて努力していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国の現代事情
授業コード	35B04-001
教員名	吉田 仁
教員コード	100947
登録人数	15
回答数	14
回答率	93.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

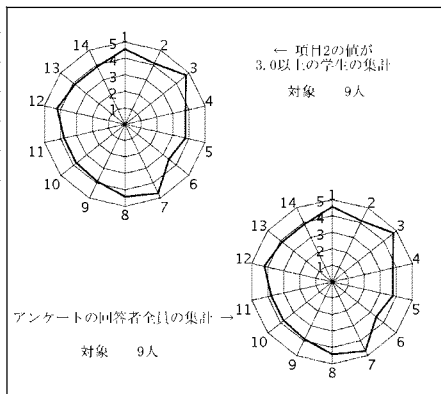


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、「中国の最新状況について一定の知識が身についている」、「比較的長い中国語の文章が読解できるようになる」、「中国語の自然な発音で音読できるようになる」の3点である。しかし、前年度の授業は学生と教員ともに慌ただしい授業となってしまった。教材の音読と訳文の説明に終始したために学生の訳文の修正には手が回らず、学生、教員ともに満足度のいく結果が得られず忸怩たる思いがあった。今回は、「課文の該当箇所の学生の音読」→「学生の訳文の発表」→「教員による学生の訳文の修正と解説」→「教員の音読に続いての学生の一斉音読」という従来のスタイルに戻した。さらに、課文で取り上げられた中国の事象やそれに関わる中国に関する一般知識も解説し、学生のイメージを喚起することも行った。その結果、全設問の回答がアジア学科の平均値を上回り、まずは所定の目標はクリアできたものと安堵している。昨年度からクォーター制が導入され、アジア学科の1年次の学生の授業がなくなったため、今回の学生とは一部を除き初対面で不安であった。しかし、授業を進めていくうちにそれも杞憂に終わった。さらに、教室も昨年度のような縦長の教室ではなくQ棟の教室に変更となり学生、教員ともに非常に使いやすくなった。関係者の皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語III読解
授業コード	35C03-001
教員名	趙 晴
教員コード	100960
登録人数	23
回答数	9
回答率	39.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

数値データを見る限りでは、開講当初に設定していた目標と到達程度に達していないと思います。中級中国語読解の授業なので、中国文化、名言、民間伝説、中国の若者の作文など、各種類の文章を選んで、教材にしました。じっくりやるつもりですが、まだ完全な理解が出来ていない学生もいるようです。もっと理解できたと、自分は思いましたが、少し違うようでした。やはり選択した読解文章は難しかったかもしれません。

ただ難しいと思ってもよく続けて頑張ってくれた学生たちに「好样儿的！」と褒めてあげたいです。受講態度は真面目で、明るく、学習意欲もとても高いです。

ありがとうね！また頑張りましょう！

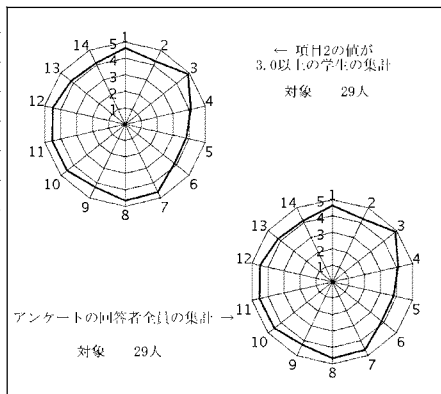
今後も学生たちの為に中国文化に関する文章を選んでいきますが、学生たちの様子を見ながら難易度を調整したいと思います。

学習することは楽しいことですが、楽なことではありません。これからも学生たちと一緒に努力していきたいと思います。

同学们，一起加油，再接再厉！谢谢！

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語作文A
授業コード	35C10-001
教員名	陳 志平
教員コード	049346
登録人数	34
回答数	29
回答率	85.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



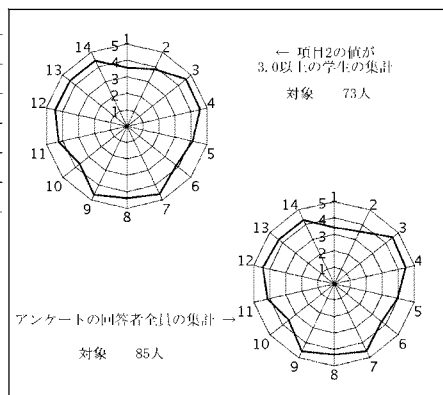
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業評価集計」とアジア学科関連データを比べてみると、設問1~14の平均値(4.35)は同等の水準にあり、また設問3「授業時間」(4.90)、7「誠実さ、真剣さ」(4.62)、11「適切な指導や情報提供」(4.55)、12「質問や相談の機会」(4.52)などについてはアジア学科の平均値を上回ることができた。今学期も履修者が多くて、初回授業の実力テストも予想通りの結果となり、やはりばらつきが大きいことが判明した。このような状況の中で、上手くバランスをとるには、何をどうすればよいかに苦心した。作文の力をつける為の文法演習について言えば、課題の選び方としては、講師が事前に決めるのではなく、まずアンケート調査して、最も多く(51.6%)の学生が一番難しいと思い、補習を受けたい「補語全般」を選び出し、それを中心に練習問題、ポイント解説及び「質問に答える」などの形式で徹底指導を試みた。今思えば、学生の要望に応じて、「補語」を絞り込んでやってきた文法演習は一定の効果を得たように考える。受講生からは、「先生が苦手な分野をみんなにアンケートして1番多かった分野を徹底的に教えてくれた」、「補語の説明を何度も詳しく行ってくれたことで以前よりも理解が深まった。」、「一人一人の疑問や質問をみんなで共有し、理解を深められた。」、「学生の疑問点を徹底的に教えてくださったこと。とことん特訓できたこと」、「難しいところまでとことんやりこむところ」、「先生が課題や資料を配布してくれるため、中国語に触れる機会が多い。また今まで習ったことのないような中国語の文法事項も学べて楽しい。また生徒の要望を活かしてくれる。」といったコメントを頂いた。

次学期からも、更なる授業改善を図ると共に、もっと学生に寄り添って質の高い授業が提供できるよう努力を重ねて参りたい所存である。また、今回「到達目標」に関連する設問5・6の平均値が比較的に低い(3.83/3.86)ことから、今後履修者にシラバス閲覧と到達目標の理解を呼びかけたいと思う。この授業

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[FS・FA]  
授業コード 10A01-006  
教員名 浅井 太郎  
教員コード 102951  
登録人数 138  
回答数 85  
回答率 61.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標について言えば、おおむね到達していたと思います。アンケートによれば、「宗教についての大切さを学ぶことが出来た。」「高校で学んだ世界史では宗教について興味がわかなかったけど、この講義では興味がわいた。」「他の学校ではなかなか受けられないような講義で新鮮だった。知らないことをたくさん知れました。」

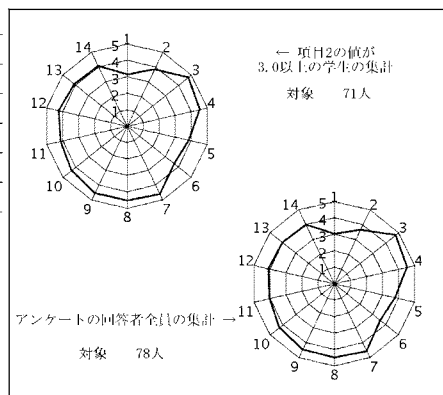
今回はリアクションペーパーに書かれていた様々な質問、とりわけ講師である私自身に関する質問にも可能な限り回答しました。また授業開始時に学生たちの関心・注意を引きつけられるよう、その質問を紹介する順番も工夫しました。この点は学生たちにも伝わったようです。

またスライドをWebクラスにアップロードしてほしいと今回初めて要望され、これにも応じました。ただアンケートには「もう少しPowerPointの内容をコンパクトにして欲しい」という学生からの意見もあったので、内容的にもっと整えてゆきたいと思います。

一番問題と感じていることは、私語の多さです。どうしたら静謐な授業空間を確保できるかが課題です。学生からは強く注意することの必要性も指摘されていますが、私自身それは苦手です。他方、強く沈黙を要求できるためには、講義をとおして伝える知識の質が問われていると考えます。どうしても伝えたい、理解してほしい知識を厳選することで学生たちに訴える力を強め、それによって私語を減らしたいと願っています。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[E・J]4  
授業コード 10A51-011  
教員名 SANTIAGO, Edgardo  
教員コード 101284  
登録人数 150  
回答数 78  
回答率 52.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



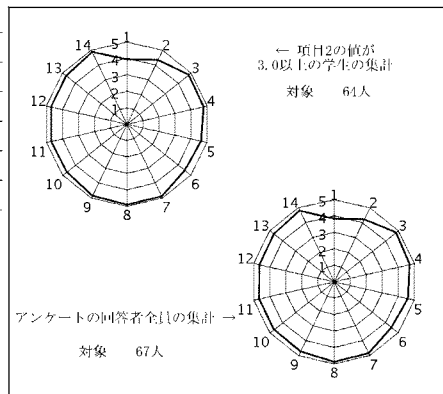
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives, as well as the system for grading and course requirements were clear from the beginning of the quarter and I believe these were met accordingly and satisfactorily. The sub-theme for this quarter ---「聖書から学ぶ生き方」is relevant and appropriate for students in a Catholic university. Considering the fact that most of the students had not read the Bible nor had any background on Christianity at the start of the quarter, they gradually got accustomed to reading the Bible in every class, learning about its background and interpretation, about Christian values, and other special themes using helpful tools (printed materials and video) to convey the message. The numerical data in the evaluation sheet may not be very impressive, but they are satisfactory which reveals the general contentment of the class. Points for improvement include major concerns in arousing the interest of the students and presenting the matter more understandable to them. Efficient and effective use of available equipment (PC, Projector, Video, etc.) is necessary (as pointed out in the comments, especially on the use of microphone), since there were times the instructor was not able to use them properly in the presentation. Overall, this course for the First Quarter of 2018 was a successful one and I resolve to continue to be passionate in teaching the course for the Third Quarter, fostering a mutually enriching and nourishing experience for the instructor and the students.



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳2  
授業コード 10D03-002  
教員名 山口 宏  
教員コード 101552  
登録人数 81  
回答数 67  
回答率 82.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

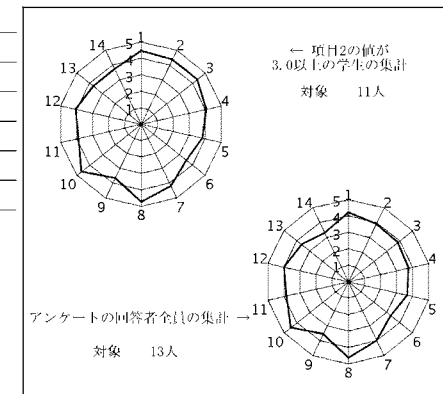


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まずは全体的な満足度（問14）が比較的高く、よかったと思う。授業時間を守ることや声の聞き取りやすさなどは当然のこととして、知識・理解の深まり（問13）もまずまずの値でよかった。自由記述をみても、「面白かった」「興味が深まった」といった声が多く、関心をもつ入り口にはなることができたと思う。毎回話の流れに合わせて、かなり多様な映像を短く挟み込んでいくというやり方をとっており、そうした映像教材も興味を惹く大きな一助になったであろう。また、毎回の授業でリアクションペーパーを書いてもらい、次回冒頭でやや時間をとってコメントしたり質問に答えたりしており、それで質問・相談の機会の確保という問12も高めの値になっているのかもしれないが、しかし十分にはできなかった気もしている。さらに、授業ではとくに課題など課しておらず、問2の予習・復習が低い数値になっており、興味・関心が深まったならばよいかなとも思うが、何かしら具体的な授業外勉強を促す仕掛けなども考えていければとも感じている。全体としての高い数値は、受講生たちの質の良さに依るところも大きく、ある程度の良い授業を共に作っていったかと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学A2  
授業コード 12A01-002  
教員名 星 揚一郎  
教員コード 100986  
登録人数 52  
回答数 13  
回答率 25.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

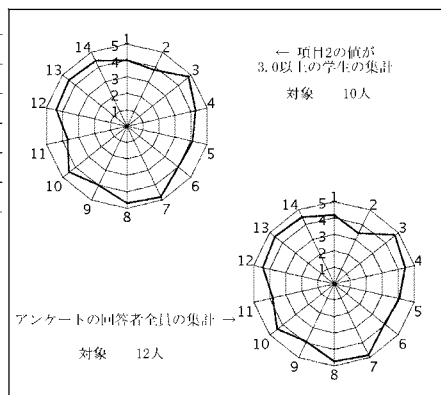
古代から近代までの哲学史を概観したうえで、現代の問題に照らして自ら「哲学してみるPhilosophieren」というシラバスの内容は、レポートの作成によって滞りなく実践されました。そのさい、質問にはすべて対応し、レポートの作成でヒントを求めてきた学生には添削をしています。その結果、授業の主旨を理解し、真摯に受講した学生は、内容のあるレポートが作成できています。

クォーター制になり、就職活動などで一度休むと、2コマ欠席することになります。そうすると内容がわからなくなりますし、繰り返すと出席が足りなくなります。さすがに一度や二度しか出席せず、上記の課題をこなすのは無理ですので、「Q2以降の出席できる授業で単位をとったらどうか」と数人の学生と相談しました。

腰を据えてじっくり考えたり、本を読んだりすることがクォーター制では難しく、レポートの質が下がっているのは事実です。次回以降、今回よりも早めにレポート作成を促します。受講態度のよくない学生も増えており、それには全学的な対処が必要かと思えます。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術A  
授業コード 12A05-001  
教員名 池田 洋子  
教員コード 044362  
登録人数 29  
回答数 12  
回答率 41.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

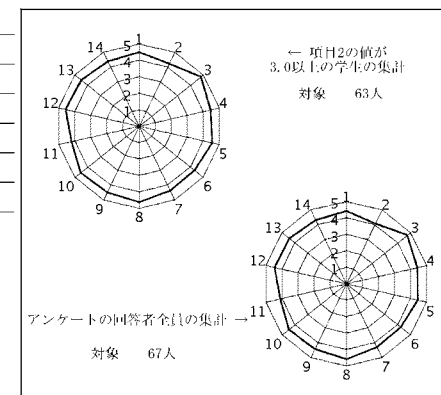


授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本の美術作品に関して、日本美術作品を鑑賞しながら理解の方法を学習し、理解方法を実践する力を養うことと日本美術の変化に対して合理的な展開として理解することを目標とした。作品を詳しく見ていくことで、解釈し理解することを体得した学生と、そうでは無い学生が混在していた。日本美術作品を詳しく分析し鑑賞することで得られたことがあると、アンケートでの授業内容についての満足度が示していた。予習復習に関してはなかなか実行されていないゆえに、毎回の講義でのチェックの方法を考える必要がある。美術作品に関する理解の方法の習得が目標の一つであることと理解が今一つできていないので次回は目標認識を明快化し繰り返し理解へと高めたい。さらに、学生さんたちから学習意欲を引き出す方法をもっと探すように心がけていきたい。パワーポイントで授業を進めてほしいとの前回のアンケートに従ったが、パワーポイントのみでなく板書と併用の方法を考える必要である。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽B1  
授業コード 12A08-001  
教員名 小沢 優子  
教員コード 101168  
登録人数 130  
回答数 67  
回答率 51.5%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回

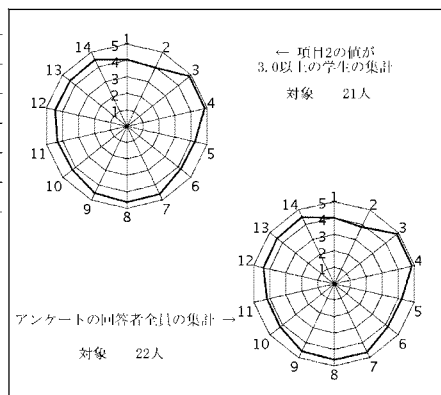


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問5と設問6の数値が今までよりも高く(4.46と4.24)、授業の到達目標についての理解と達成度はある程度得られたのではないかと思います。また、設問12の数値も高いので(4.46)、出席カードに質問やコメントを書いてもらい次週の授業でそれに答えるというやり方がうまく機能していることがうかがえる。学生からの質問やコメントは、気が付かなかったことや別な視点からの考えなどを指摘してもらい良い機会となっており、私自身にとっても有益なものとなっている。今後もより効果的になるように続けていきたい。全体的に見ると数値データに問題はなく、自由記述でも授業の良かった点として「講義がわかりやすかった」「基礎から教えてもらいとてもためになった」「視聴覚教材のほか実際にピアノを弾きながら説明してくれた」「さまざまな曲が紹介されたのでより興味を持つことができた」などがあげられているので、今までの講義内容、進め方、教材の使い方を大きく変えることなく維持し、一方で学生からの反応を見て必要ならば微修正し、より充実した講義にしたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東洋史A  
授業コード 12B05-001  
教員名 渡部 展也  
教員コード 103083  
登録人数 45  
回答数 22  
回答率 48.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標到達の程度

設問中の到達目標に向けて力がついていると思うかとする項目(6)の平均値が他項目と比べやや低いが、同クォーター中の他科目でも同様の傾向がみられる。技術的に向上が分かりやすい体育・情報などでは高いので、この点は学生も実感の難しい部分となっているように思われる。考古学的な成果を中心としつつも、史料との対比も交えて紹介することで、「中国」的世界の原型の形成や歴史観の多元性を理解する基礎的知識を概ね狙い通り伝えられたのではないかと考える。

②総合的な自己点検・評価

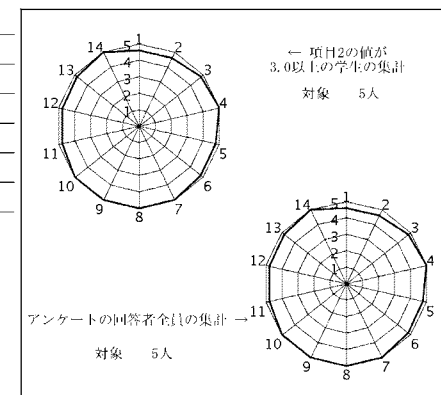
レーダーチャートを見ると、総じて安定した値となっている。課題となるのは設問の2、6(①で言及)、10、11であり、平均値がやや低い。特に2の主体的な参加が低い点は今後の改善を要する点であると思われる。講義形式の科目ではあるが、もう少し質問をする等の機会を増やす事を考えたい。また、10、11の学生への働きかけの点で関与が足りなかった面があるかもしれないので改善をしたい。

③今後の改善・抱負

自由記述でも指摘を受けた講義資料として配布したスライド資料の印刷が小さすぎるという点は問題であるので、拡大した図版をもっと配布する事としたい(重要なものは既にそのようにしているが)。また、やや②と被るが、講義中の積極的な問いかけなどの工夫を取り入れることを検討したい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 自然地理学1  
授業コード 12B10-001  
教員名 鈴木 康弘  
教員コード 102905  
登録人数 11  
回答数 5  
回答率 45.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

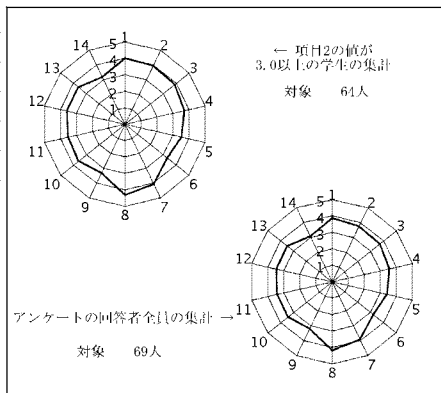


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、日本の風土の特異性および社会の現状に鑑みて、今後、自然災害と如何に共存するかについて、俯瞰型の地理学的視点から考えることを目的とした。また具体的な到達目標として、①自然地理学とはどのような学問分野かを理解する、②自然地理学と社会との接点のひとつとして防災・減災を捉えられる、③自然地理学の俯瞰的な視点の重要性を理解することを掲げた。学生による授業評価を見る限り、授業内容に関わる設問3~14の平均(および全項目平均)は4.90(4.86)であり、いずれも基盤科目の平均4.28(4.24)より大幅に高い。とくに項目13(新しい知識を得たり理解が深まったと思うか)は4.80、項目14(満足度)は5.0であり、授業目標は達成されたと考えられる。また、4回のレポートと最終レポートを通じて自らの考えを高められたと判断される。学生の授業への出席状況は概ね良好で私語等もない。今後はさらに自ら考える機会を増やすため、授業時間内における発言の機会等を増やしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概論1  
授業コード 12B11-001  
教員名 佐藤 久美  
教員コード 102924  
登録人数 138  
回答数 69  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

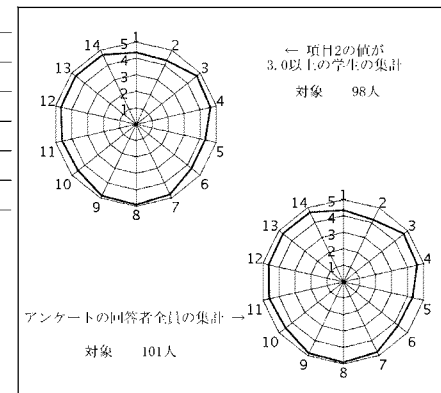


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生たちには「世界の今」を学んだ上で、世界の国々と日本との関係性の大切さについて理解して欲しいと考えている。世界の国々を選択する際には、教員である佐藤がプロデューサーを務めた「愛知万博一市町村一国フレンドシップ記録映画製作事業」で制作した映画の中から数カ国をピックアップし、地理的な説明を加え、その国の状況についての解説および映画上映を行った。授業内では、私語もなく質問も出るなど、出席した学生からは良い反応を得た。しかしながら、出席を取らないということを明言した次の週からは、出席者の数は目に見えて減少していた。アンケートの自由記述は良いコメントも多くあったことに、授業内容については、しっかりと受け止めてもらえたと思う。一方で、「課題量が多すぎる」「レポート提出課題が多すぎる」などのコメントがたくさんあった。「課題をもっと早く提示して欲しかった」というコメントもあったが、クォーター制になったことで、7回目の授業での提示では、期間が短すぎると学生が感じたのだと思う。また、課題が多すぎるというコメントについても同様の理由が考えられる。学生たちには授業をただ受け身に捉えるのではなく、学生時代に多くの本や文献を読んで視野を広げて欲しいと願っているが、期待が大きすぎたことが負担ともなっていた可能性があることは反省点である。アンケート回答者が履修者数の半数にしか過ぎないことが残念である。レポートには、授業についての様々なコメントを記入してくれた学生も多く、今後の励みにしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学A1  
授業コード 12C04-001  
教員名 大園 誠  
教員コード 102910  
登録人数 182  
回答数 101  
回答率 55.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

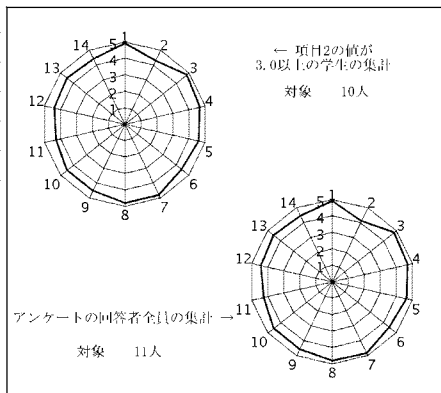


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(大学の大幅改組やクォーター制の導入等の影響で)昨年度は受講生が400名を越えかなり苦慮したが、今年度は「受講者調整」等の工夫をして頂き受講生数も落ち着き、収容能力が受講者数ギリギリだった講義室の変更にも対応して頂いた。①到達目標(政治学的な分析視角の獲得)は一定程度の成果が得られ、受講生に「政治学」の魅力の一端は伝えられた。②良い講義が成立するには講師・受講生双方の努力が必要不可欠と考えている。受講生は参加度(出席のみならず自由コメントも約70~80%という高返答率)や受講態度も真摯かつ熱心であり何ら不満はない。自由記述では、「説明の分かりやすさ」「映像の視聴」「質問に対する解説」「講師の意欲・熱意」は評価が高く、一方で教室(M2に変更)の環境(暗い、雨漏り)や空調(冷房が寒い)、板書等について意見が寄せられた。前者については引き続き努力し、後者については可能な範囲で改善したい。③毎回「コメント用紙」を提出させ、次回それに応えるという方式をとっているが、受講生からの質問等に迅速かつ丁寧に答えている点やニュース時事解説が良かったという意見が多く寄せられたため、今後も続けていきたい。(大学側からの要請もあり)「政治理論」と「戦後国際政治史」という二つの内容を含むため、両者をどう有機的に結びつけられるかについて、今後更に改善を試みたい。今後の抱負・方針としては、講義内容の充実に向けて一層の努力を重ねながら、大学における「政治学教育」のあり方を熟慮しつつ、受講生に対して知的刺激と好奇心をかきたてるような講義を目指していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物理学A  
授業コード 12D01-001  
教員名 本村 扇仁  
教員コード 102685  
登録人数 14  
回答数 11  
回答率 78.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

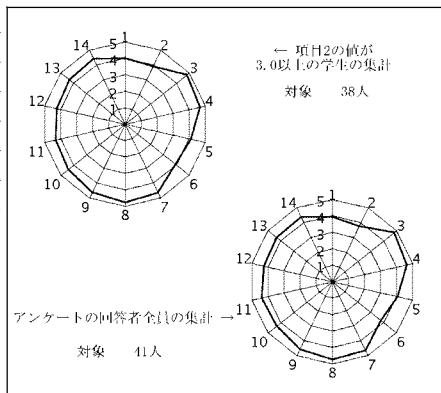


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、取り上げた知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、設問4の数値から、おおむね成功であったと考えられる。映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から要所で取り入れる展開を今後も継続したい。教室内で簡単な実験を行い、その結果および不確かさを計算してみる取り組みは、物理学で実験が果たす重要性を実感できるという点から今後も継続していきたい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介など常に工夫を加えていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学A1  
授業コード 12D06-001  
教員名 三野 義尚  
教員コード 102236  
登録人数 96  
回答数 41  
回答率 42.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

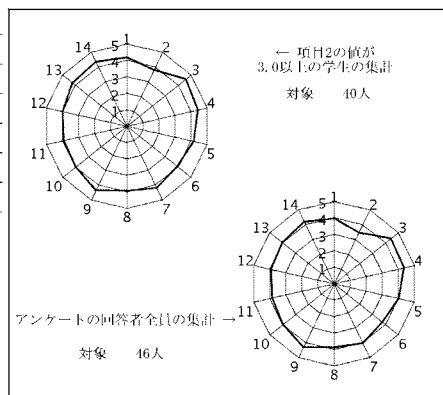


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。到達目標に関する設問5が4.07、設問6が3.78（評価1が2名いた）という評価であり、他の設問結果より低い点を考えると、達成度があまり高くなかったと反省している。次回からは、内容理解を実感できるような機会を増やすつもりである。授業で得た知識をアウトプットする機会である小テスト（ミニレポート）は2回行ったが、この実施法に工夫が必要なのかもしれない。設問16の改善点として「授業ペースが早い」ことも指摘されたので、これも考慮して次回の授業計画を立てるつもりである。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用し、講義スライドとリンクさせた。この点は高く評価されているので（設問15）、引き続きうまく活用していきたいと思う。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触2  
授業コード 13A02-002  
教員名 三木 誠  
教員コード 101621  
登録人数 90  
回答数 46  
回答率 51.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

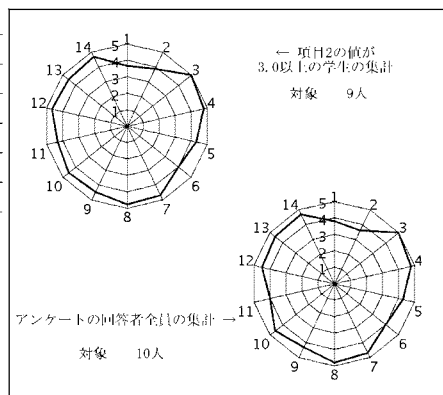
①当アンケートの自由記述と提出されたレポートの内容を見る限り、開講当初設定していた目標の2、3、4に関しては概ね達成できたと考えている。一方で目標1に関しては、レポートに選択された題材の面では学生にとって「書きやすい」ものに偏り、考察および自説の展開という面では「ありきたり」で「あたりさわりのない」ものがほとんどで、こうした問題に関して深い考察を感じさせたり、独特な自説を展開していると思わせるものはほとんどなかった。したがって、目標1に関しては、到達には遠く及ばなかったと考えている。

②映像資料を多数用いた問題提起と事例の提示という点では、一定の成果を上げられたと考えている。一方で、より深い考察や学生独自の視点の開発を促すといった点に関しては、十分な成果を上げることはできなかったと思われる。

③②で書いたように、深い考察や学生独自の視点の開発といった点では十分な成果を上げられなかったと感じているので、学生にとって「身近な」題材と「遠い」題材をバランスよく映像資料として提示し、事例やその背景となる状況に関しての解説の仕方を工夫することで、こういった点について成果をあげることができたと感じられる講義にしていきたい。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解4  
授業コード 13C01-004  
教員名 杉尾 浩規  
教員コード 102055  
登録人数 31  
回答数 10  
回答率 32.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

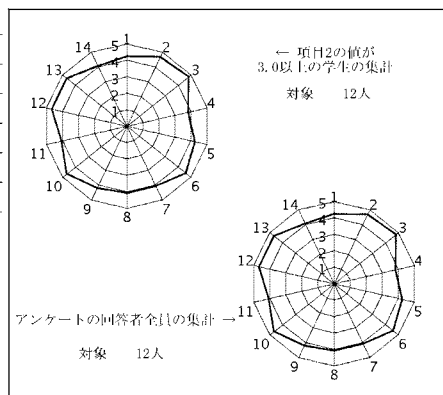
本授業では、文化と心の関係性に注目しながら異文化理解について考えました。また、定期レポートを「他者に自分を理解して貰うという異文化理解の実践」として位置づけました。レポートには授業内容を踏まえつつ独自の視点から文化を論じた素晴らしい作品が多くあったことを踏まえると、異文化理解の立場を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると考えられます。希望者に実施したレポート下書き添削では、三回も添削に挑戦し納めできるレポートを作成した人がいました。このような自主的な学びの姿勢は素晴らしいと思います。

受講者から①「講義が暗かった」②「リアクション・ペーパーのプレッシャーから授業に集中できなかった。任意提出にすべき」という改善案がありました。①例えば「日本のいじめ」を内容とする講義が暗くなるのは当然だと私は考えます。また、内容の暗さは大学の授業でその内容を取り扱うべきではないことの論拠にはなりません。大学の授業は「楽しくなるため」ではなく「学ぶため」のものです。②リアクション・ペーパーにより出欠確認をしました。任意の出欠確認は意味がありません。また、求めたのは「授業内容に関連したテーマについての自由記述」であり、これがプレッシャーとなり授業に集中できないという状況は理解に苦しみます。以上から、上記二点に改善の必要性はないと判断します。

来年度はよりわかり易い講義内容を目指し、今年度と同様に下書きレポート添削などの個別対応を可能な限り実施する予定です。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と法律問題1  
授業コード 13C02-001  
教員名 三枝 有  
教員コード 100468  
登録人数 55  
回答数 12  
回答率 21.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

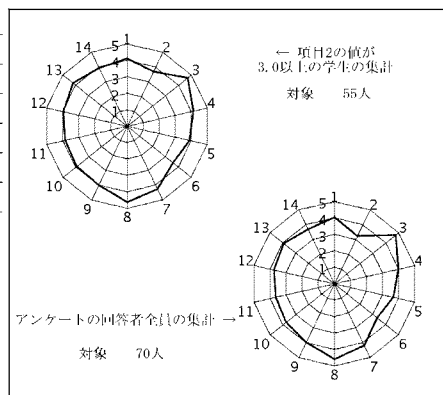


授業評価結果を踏まえた点検・評価

自由記述にあるようにシラバスで予定していた児童虐待ができなかったことは残念であり申し訳ありません。この部分まで至らなかった原因は、授業評価に現れているように講義進行が遅れたことによります。講義進行が遅れた最大に原因は、2コマ連続の場合、1コマ分を極力アクティブラーニングの形式で討議的に実践するため、予習の重みが大きくなり、学生諸君にかなりの負担がかかったように思われます。そのため、重複的な説明を行うことで時間を取られた感があります。講義は積み上げ式なので、従前のことが理解できていないと次の予習項目にかなりの影響が生じます。この点、2コマ連続では、そのひずみはかなり大きいと今期の講義では痛感しました。予習指示については、課題のような形で書いて提出するなどの方式でないと、かなり薄い感じで捉えられてしまうようです。この点は、高校のように課題提出の方式を多く採用する必要もありかと思いました。なお、字につきましては読めない場合は、当初より説明してあるように、その場で発言していただきたかったです。声については今回初めてですが、体調を崩して喉を傷めていたせいかもしれません。当初いましたように遠慮なく指示していただきたかったです。マイクはワイヤー式なので動きがとれずアクティブラーニングが難しくなりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。自由記述につきましてさらに今後の講義の方式の参考にさせていただきます。ありがとうございます。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相1  
授業コード 13C04-001  
教員名 吉田 あけみ  
教員コード 062661  
登録人数 89  
回答数 70  
回答率 78.7%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

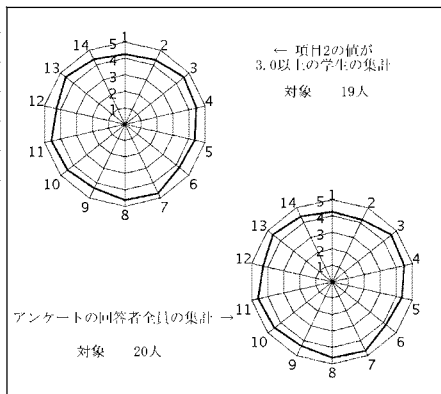


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標には、概ね届いていたかと思われる。  
学生さんたちからの反応で、DVD視聴についての賛否が分かれていたもので、今後の検討課題であるとは思ったが、DVD視聴自体については否定的な意見はなかったので、内容の選別に配慮したうえで映像資料の導入は続けていきたいと思った。  
「リアクションペーパーの内容が良かった」という意見がある一方で、「講義中心でなく、もう少し生徒の活動の時間があつた方がいいと思う」という意見もあったので、次期は、もう少しリアクションペーパーの回数をふやすことを検討したい。  
配布資料が多すぎるという意見を以前もらったことがあるので、今回の反応を気にしていたが、「配布資料が多く、理解が深まった」との意見があったので、次期も配布資料はよりタイムリーなものを配布したいと思う。  
初めてのクォーター制で、どうなることかと心配であったが、教員側としては、短期間に集中して走り抜けることができ、よかつたように思う。学生さん側にとっては、あわただしかつたのか、集中できてよかつたのか、テストの解答を見てみて、今後の参考にしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相6  
授業コード 13C04-006  
教員名 中原 聖乃  
教員コード 101843  
登録人数 35  
回答数 20  
回答率 57.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



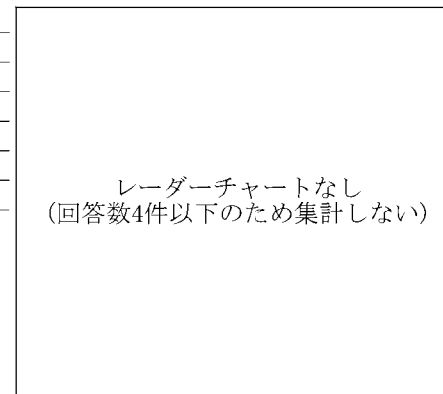
授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず「授業評価集計」の数値からみていく。平均よりも高かった項目は、3「授業開始時間の厳守」、7「担当教員の誠実さと真剣さ」、8「教員の声や音声機器の使用状況」、11「円対を引き出すための積極的な自主楽手を促すための取り組み」、13「新たな知識の獲得や理解の深化」などの点である。授業開始時間の厳守は、学生の勉強時間を確保する権利を守るためにも最低限必要であると考えている。また、授業開始直前に調査に基づいた論文を発表でき、私自身が新たな情報や視点を獲得できたことが大きかったと思う。また、最近調査において使用頻度の高まったFBにより、自分の考えを直接マーシャル諸島の人とリアルタイムに交換できるようになったことで、弱い立場にいる人たちの状況を改善したいという真摯な思いが一層募り、授業への私自身の取り組みも変わってきたのかもしれないと考えている。平均よりも低かった点は、1「履修前の興味」、2、「予習、復習」などである。来年度は、授業を担当する予定はないが、この経験をいつか生かしたいと考えている。

また、自由記述欄では、「写真を用いてくれていたので理解しやすかった」「話の内容が面白く、見せてくれた映画のおかげで更に興味をもって授業を受けました」「情報が充実していた」「先生が実際に経験したことを話してくださいだったので分かりやすく興味が湧いた。」「写真や動画をたくさん見せてくれたのが理解が深まって良かったです」「先生による話だけでなく、新聞記事や映画、写真などの視覚的資料が充実していたことで、理解が深まった。」という意見があった。学生が興味を持ち楽しく授業を受けたことがうかがえた。今後は大学での講義を持つ予定はなく、研究のみになるが、いつかこの経験を生かしたいと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求2  
授業コード 13E03-002  
教員名 牛島 謙  
教員コード 042549  
登録人数 23  
回答数 3  
回答率 13.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について。  
従来と授業の目標は変わらないが、前年から教材を一新した。自前で構築したブックページ・データベースから各回のテーマに最適のデータを抽出して1回分をA3用紙1枚にまとめて配布するという形式を取った。

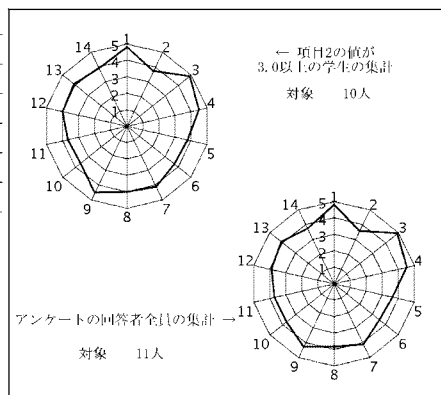
②総合的な自己点検・評価。  
「授業の構成や進行速度」や「授業に取り組む姿勢」の評価は高かったが、毎回の教材作成が評価されたのではないかと思う。「到達目標の理解」や「学習意欲」「授業参加」の項目の評価が低かったが、授業のテーマが思想系のものであるので、ある程度は致し方ないと思う。学生の履修前の興味が低かった割には健闘したのではないかと思う。

③改善点、今後の抱負、方針など  
やや難しめの教材を使いながらその意味を授業中に読解するという形式で、授業を行っていきたい。学生の理解度をフィードバックしながら、解説のレベルを調整する必要がある。授業評価の人数が少ないので、学生に授業評価に参加するよう強く指導したい。



2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械2  
授業コード 13E04-002  
教員名 大野 波矢登  
教員コード 100625  
登録人数 40  
回答数 11  
回答率 27.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

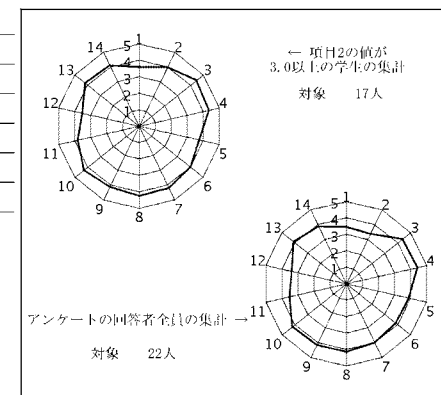
(1)人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようになることが、この講義の目標である。目標達成度は、授業時に実施した小テスト（各20点満点）の結果が、第1回が13.6点、第2回が14.9点であったことから、70%程度であると思われる。

(2)アンケートの結果については、設問5が3.64、設問6が3.55、設問10が3.73、設問11が3.73、設問14が3.73であり、学際科目の平均と比較して目立って値が低かった。到達目標およびその達成のために具体的に何をすべきかの説明、私語等の不適切な受講態度に対する対応、自主的な学習のための指導と情報提供といった面で特に不十分な点があったことが分かる。

(3)今後の改善点として、到達目標やこの授業を受講する意義について丁寧に説明すること、学生の受講態度に配慮し他人の学習の妨げとなる行為をする者には注意をすること、質問や相談に対する対応、事前・事後学習の指導を適切に行うことを心がけたいと思う。学生のコメントとして、「ビデオで理解がさらに深まりました」といったものがあった。今後もビデオ等の視聴覚教材を有効に使っていききたいと思う。

2018年度 Q 1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論  
授業コード 15M08-001  
教員名 市橋 芳則  
教員コード 100763  
登録人数 79  
回答数 22  
回答率 27.8%  
休講回数 3 回  
補講回数 0 回

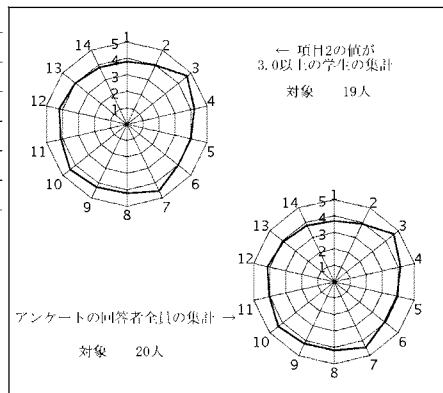


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
目標とした「生涯学習の歴史と関連法令」「社会教育行政の意義・役割及び現状」「多様な生涯学習施設及びプログラム」「生涯学習社会実現に向けての方策を理解し提供者の役割」の基本的な事項について具体的な取り組みを介しながら講義を構成していくという方法により理解を得られた。
- 2 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
映像による具体的な事例を提供できたことは、学生からも評価を得ており、今後も、活用を図っていきたい。
- 3 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
より具体的、実践的な取り組みを紹介し、生涯学習の理解につなげたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 図書館情報資源概論  
授業コード 15P06-001  
教員名 伊藤 貞理  
教員コード 101182  
登録人数 72  
回答数 20  
回答率 27.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

シラバスに掲げた目標3点については、その範囲に関して網羅できたと考える。履修者の理解度について、レポート評価から概ね達成できていると判断した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

数値データを見る限り、授業内容や運営について特に問題となる事項はなかったように思われる。しかしながら、科目担当者がウオーター制での授業運営になれていなかったことから、当初予定した演習を十分に取込むことができなかったため、学修内容に関して理解を深めるための工夫が不足したと感じている。

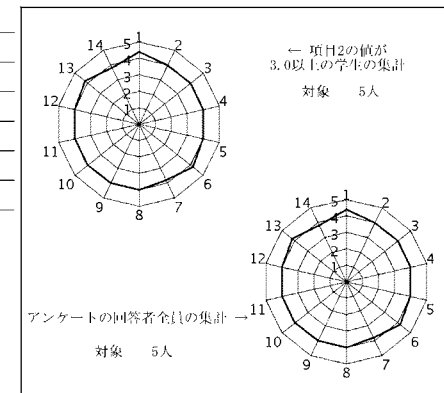
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今期はじめて担当して、貴校では、第1回の授業で学生は履修完了しているわけではないため、すぐに授業内容に入ることが困難であることがわかり、スケジュール作成で配慮する必要がある。(2)のとおり、学生の理解を深めるための工夫について、どのように取り組むかを次年度までに検討していきたい。

司書課程に関して、履修者の多くが基礎科目を履修しないまま当該科目を履修しているようである。当該科目も基礎科目の一つであるが、履修者の中で理解の範囲がバラバラで、専門用語を含め授業内容の理解において、学生の負担が大きいくように感じるので、課程運営で検討いただけると円滑な授業に役立つと思われる。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 児童サービス論  
授業コード 15P09-001  
教員名 増田 喜昭  
教員コード 102434  
登録人数 17  
回答数 5  
回答率 29.4%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

2講義まとめてだと、学生の集中力が続かず、やや予定通りにいかなかった。童話を書いたり、絵本作りをしたり、ワークショップをはさんで、集中力が途切れないよう工夫した。

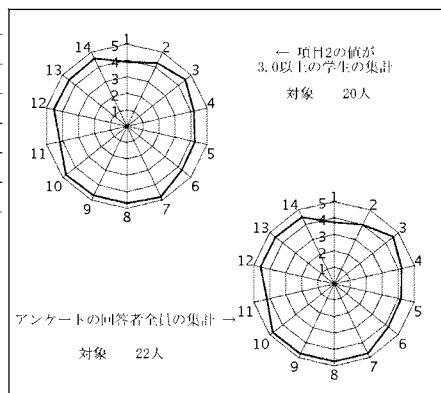
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

今年は学生の3評価の結果を教えて頂いてないので良く分からないが、少人数だったので、自分的には満足している。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
特に次の年への改善点として、講義の中にワークショップ、実際に創作や朗読の練習も入れていきたいと思う。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報資源組織演習I11  
授業コード 15P11-001  
教員名 木幡 智子  
教員コード 103854  
登録人数 22  
回答数 22  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

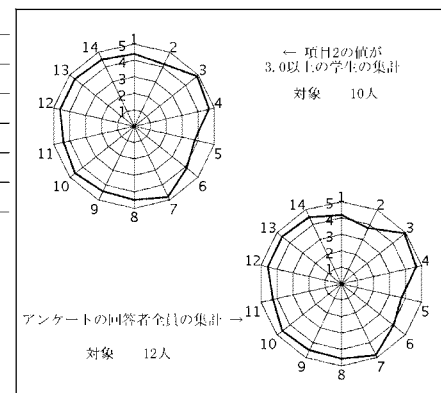


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初予定していた目標は概ね達成することができた。ただし、授業内でしか利用できないツールがあり、学生が自宅で学べる内容が予習よりも復習であったため、演習の進度が予定よりも遅くなり、後半の講義内容が駆け足になったことは反省すべき点である。しかし、演習に時間を割いたことから、学生からもそれを評価する声アンケートに見られた。一部には演習時間が短いとの声もあり、一人ひとりの理解を促すためにはさらに工夫が必要であると感じた。担当者自身が、本校での講義が初回であったため、環境について不慣れであったことからくる手際の悪さが当初は目立ったように思う。学生からも教室環境の改善についての意見や、担当者の授業資料提示による遅延等についての意見が見られた。講義を重ねるにつれ、改善できる点については改善できた。同科目を同教室で引き続き担当する際には、学生の理解度をしっかりと把握し、不明な点はすぐに聞くことのできる状況を作りつつ、スムーズに講義が進められるようにしていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教芸術B(典礼音楽)I  
授業コード 21C09-001  
教員名 吉田 文  
教員コード 102447  
登録人数 30  
回答数 12  
回答率 40.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

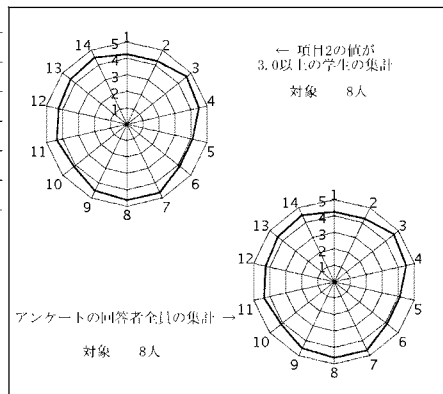


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①  
到達目標は、以下の様に設定した。  
1. キリスト教典礼音楽への理解が深まっている。  
2. 歌唱を通して発声の基礎と斉唱、合唱の経験が深まっている。  
設問5と6ではやや低めの平均値の結果が出たが、設問13、14に於いては比較的良好な結果となっていることから考察すると、学生による評価の結果は、おおむね授業に対して肯定的なものであると思われる。  
授業ごとに行っている振り返り用紙の記入事項からも、学生の授業への理解度と経験値は深まっていると考える。
- ②  
評価の中で比較的低い2の項目に関しては、シラバスに記載されているように、常に講義の内容は各自で予習復習し、また演習する作品とその他の作品も積極的に親しむようにすることとしている。特に決まった予習・復習の課題は与えていないが、常に発声練習の基となるストレッチや自己表現の方法について考察する等示唆はしている。今後は授業内でもさらに意識的に積極性を促していきたい。
- ③  
初めてクォーター制の授業の担当をしたが、今後はクォーター制の特徴と意図をより深く理解した上で、授業の構築にあたりたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教社会学  
授業コード 21C56-001  
教員名 長澤 壮平  
教員コード 102718  
登録人数 22  
回答数 8  
回答率 36.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

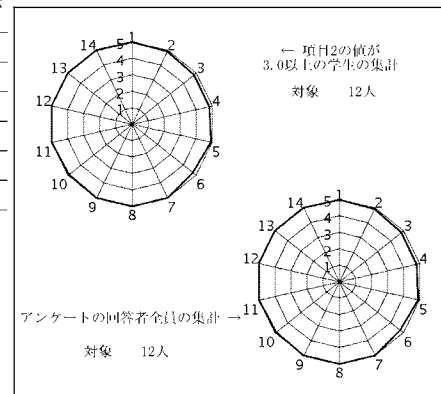


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、おおむね達成されたと考えられる。それは毎回課してきたコメントペーパーの内容から伺うことができる。しかしながら、これまで本授業は、授業中の口頭でのディスカッションなど、学生とのライブ的な相互のやりとりを行っておらず、その点が、学生からの不満としても挙がっていた。この点を今年度より、思い切って改善するため、授業中のディスカッションを試みた。これは、他校にて演習授業を行った経験のフィードバックでもある。結果、コメントペーパーに好意的な意見が多く見られ、アンケートの項目15にも、一定の評価を確認することができた。本年度の大きな収穫は以上のものである。しかしながら、やりとりをする際の論点の整理や、時間配分など、まだ改善の余地があると考えられる。肯定的な評価に甘んじることなく、学生との生き生きとしたやりとりをさらに有意義なものとするよう、今後も普段の努力を継続したいと考えている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(集団スポーツ)ソフトボ  
ール  
授業コード 14E02-003  
教員名 福田 和夫  
教員コード 043950  
登録人数 15  
回答数 12  
回答率 80.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

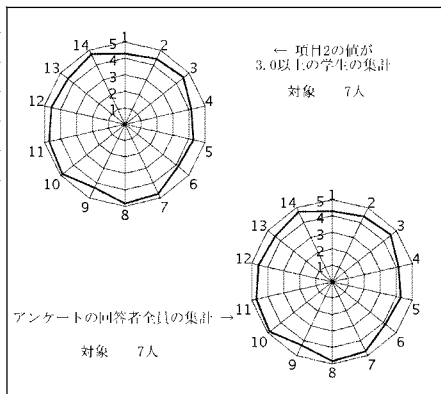


授業評価結果を踏まえた点検・評価

女子学生2名を含む15名のクラスであった。2年生～4年生までの学生が受講していたが、2年生が約6割であった。ソフトボール、野球の経験者は約3割であった。明るく、前向きな姿勢の学生が多く、とても雰囲気の良いクラスであった。評価点が5.0と高かったのは、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることはできましたか。」、「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」、「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」など8項目であった。授業目標のの柱に、楽しさを体得し、生涯スポーツに結び付けることを位置づけていた。自由記述の回答の中に、「楽しかった」、「ソフトボールの試合がよかった」などがあり、概ね授業目標は達成できたと思われる。授業の中で、キャッチボールやバッティングフォームを互いにスマートフォンで動画撮影を行い、動作解析の参考にした。記念や思い出作りにもなると、学生間で案外好評であった。できれば今後の授業でも実施していきたいと思っている。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化III  
 授業コード 35C28-001  
 教員名 金 由那  
 教員コード 101171  
 登録人数 26  
 回答数 7  
 回答率 26.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



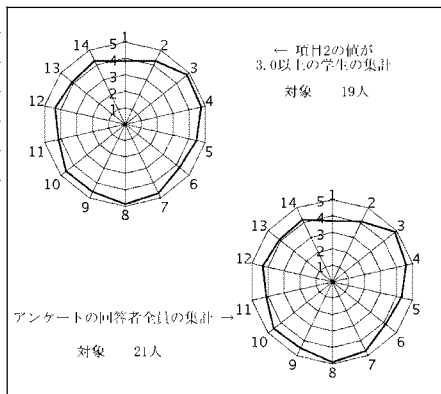
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行った。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「朝鮮・韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「クラス全員と関わって文化について学べた」、「調理実習で韓国料理を作ったこと。そのおかげで普段話さない子とも話すことができた。全体的に生徒のレベルが高めで、勉強になった。」、「生徒の興味関心に合う授業（文化と言語など）をしていたこと。」、「雰囲気が良い」などのコメントがあった。しかし、「学生の実力の差が大きい」などの改善点も出た。2Q以降の授業でも、1Qの授業方法を踏襲してもっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校カリキュラム論I  
 授業コード 15A06-001  
 教員名 杉浦 慶一郎  
 教員コード 103815  
 登録人数 75  
 回答数 21  
 回答率 28.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

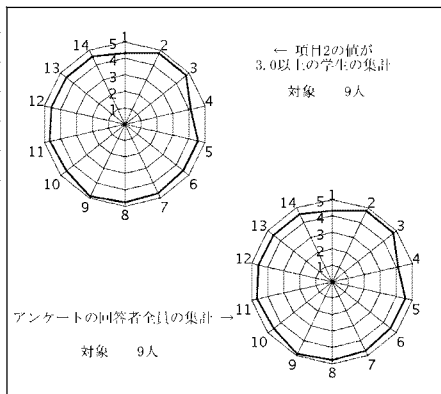


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この講義では、日本の学校におけるカリキュラムについて、歴史、思想、政策、実践などの多角的な観点から学習することを目標とし、カリキュラムの意義や変遷について重要な概念を中心に講義した。毎時間、授業中に質問を提示して受講者の半数程度に口頭で回答させることと、回答用紙に記入させることを行い、講義の理解度を測るとともに、自己の考えを適切に表現できるよう工夫した。何人かの生徒に対しては、教職試験の対応について面接指導や文章の添削なども行った。試験では戦後の学習指導要領の変遷について重要な用語を記述させ、また、与えた課題について論述させたが、結果を見ると、50点満点で40点以上を得た学生が受講者75人中37人であり、多くの学生が講義の内容を理解した様子が見られた。
- 講義への出席状況はよく、欠席回数が規定を超えた学生はいない。毎回実施した回答レポートにおいて、真剣に考え回答する学生が多く、講義時間終了後まで書き続ける学生もおり、また、A6回答用紙の裏面にまで及ぶ回答を毎回多数得たことは、講義者としてありがたく感じた。
- 学生が教職に魅力を感じ、教職の道に進む学生が一人でも多く生まれるよう精一杯務めさせていただいた。南山大学での講義は、この第10で終わるが、この経験をまたいつかどこかで生かしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・公民科教育法A2  
 授業コード 15B05-002  
 教員名 成田 健之介  
 教員コード 101555  
 登録人数 26  
 回答数 9  
 回答率 34.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

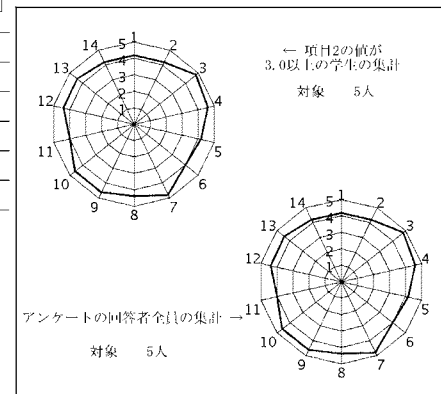
本講義は、中学校社会科公民的分野と高等学校公民科の授業に必要な授業実践力の基礎を養うことを目標にして、対話的な授業を重視しアクティブ・ラーニングでの学修を意識した授業構成で進めてきた。新学習指導要領の理解と、公民科において生徒を「主体的・対話的で深い学び」に導くことができる実践的指導力の育成をめざした。項目1から14の平均4.60、各項目の評価値のバランスも均等であり、概ね目標はしている。

数値データからは、設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切か」の平均値が4.11で低い値になっている。これは、4月は中学校への配本が優先される検定済教科書販売の特殊性と書店の販売ルートの問題から、教科書が届くのが第12回目の授業になり、授業を再構成したり進度調節をしたことによるものと考えられる。その点について、自由記述では「教科書が届くのがとても遅かったのにも関わらず、とても毎時間充実した内容でとても面白かった」と記述した学生もいた。第1クォーターでの検定済教科書の使用について改善したい。また、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、適切に授業を進めたか」について、平均値4.89であり、設問2「受講に際して、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしたか」は4.78とこれまでと比較して高い値になっている。

これらから、模擬授業作りとその検討を中心とした授業構成が、学生の主体的な参加を促したと考える。今後も、学生の主体的な学修を促すような授業構成を維持していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[B]  
 授業コード 11A01-018  
 教員名 MEJCHAR Benny  
 教員コード 100666  
 登録人数 24  
 回答数 5  
 回答率 20.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

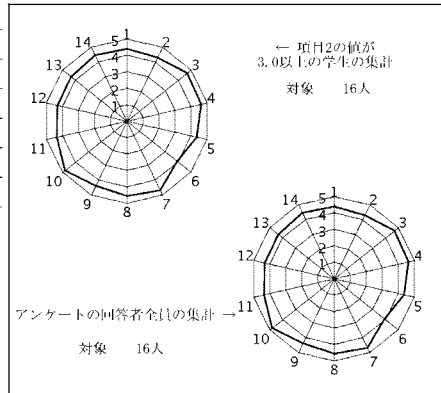


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This semester's assessment was average on the whole. As for the class, attendance, participation, and general class atmosphere was positive. While it is always difficult to pinpoint the reasons for good or bad assessments I noticed in general average responses across all the questions. None of the questions in terms of assessment score stood out. My conclusion is to rethink my usual weaknesses, adhering to class plan and review, in addition to reviewing content and approach in general. While I believe it is still early, I will need to assess to what degree the quarter system has influenced my teaching and consequently the assessment. The class requires a comprehensive approach, covering various areas and approaches. As for the class itself I successfully implemented a variety of exercises which I believe facilitated active participation. As for the questions that scored relatively higher, Q-4, showed that the class is structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace. Using a variety of activities and a flexible approach to class management is appreciated by the students, as I believe that class succeeds in both being enjoyable and effective. A lower scored question, Q-7, shows that contrarily, the above "style" may suffer in giving the impression that looser structure is equivalent with a lack of efficiency. Finally as this class contains a variety approaches I will review them individually to see what improvements can be made, as well as to consider what changes in general approach can be made.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
2  
授業コード 11A01-021  
教員名 岩城 奈巳  
教員コード 049601  
登録人数 18  
回答数 16  
回答率 88.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

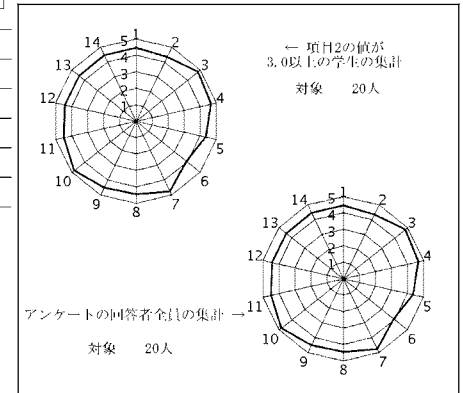


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートは各項目とも平均以上の点数があり、自由記述欄のコメントでは、発音の細かい言い回しまで学ぶことが出来た点、発音や文法が学べること、ペアワークが良い、音声や動画など、高校ではできないものを使って知識を深められた、久しぶりに受験に向けた超猛スピード授業ではないものを受け、着実に身につけていく感じを味わえた、などあり、学生にとっても満足のいく授業内容であったと思う。さらに毎回教科書に沿ったテーマを基に、授業内での目標、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。授業中は、複数名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。役立つ英語表現をまなび、それらを必ず講義内で実際に練習して身につけさせることを心がけ、本講義の年間を通しての目標である「実践的な英語でのコミュニケーション能力向上」も概ね達成できたので秋学期も同じ形式で継続しておこなっていききたい。また、検定試験に向けての教材を多く配布し、特に多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICは、数回に渡って試験問題を解く練習もおこなったので検定試験関連の教材について、とても役立った、とのコメントも多く見られた。こちらは秋学期も引き続き教材として取り入れていききたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
3  
授業コード 11A01-022  
教員名 HERSCHLER, Brian  
教員コード 100552  
登録人数 20  
回答数 20  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

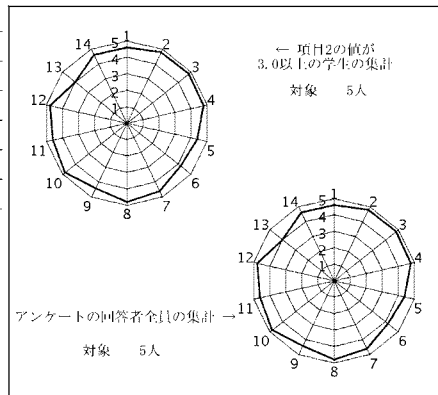


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students were quite happy with the course. However, many did not work hard, and they could have achieved more. Many did the bare minimum to pass because it appears they don't take the university system seriously—they have other interests. The students who do want to learn—and are willing to do the necessary work—do well in my class. I will continue to inspire students to excel in their studies. While most students do improve in my class, it is always my hope that they outdo themselves with an eye to the future.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 4  
英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
授業コード 11A01-023  
教員名 VEGEL, Anton  
教員コード 103503  
登録人数 20  
回答数 5  
回答率 25.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

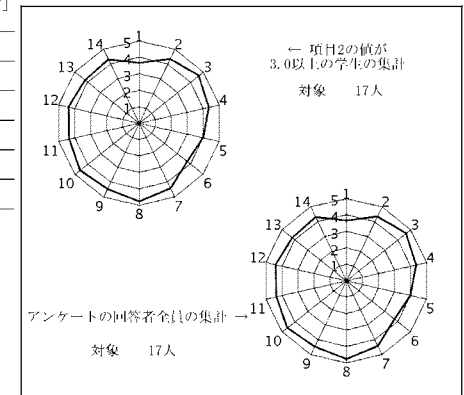
(1) For this course, I always aim to balance accuracy and fluency. I believe so far in teaching this course I have succeeded in this balance. However, I also always try to aim for an improvement every quarter. For these last few quarters I have wanted to improve students' self-assessment by adding an element of student reflection on their own performance. I also wanted to increase informal interaction follow-up measures after formal practice sessions to increase student engagement with other groups practice.

(2) I believe that these changes have so far been successful, and the expected results have been seen. Based on the data, I think that students are continuing to be engaged in the lessons and practice sessions. However, oddly the lowest score is also based on self-evaluation. Although this is an inherently difficult point to measure in skill development as skills develop slowly over a long period of time and only after extensive practice, I believe that quarter 3 and 4 will yield higher results in this area especially aided by students' self-assessment.

(3) Thinking forward, I will continue to implement self-assessment measures and aim to increase informal interaction after assessments. In this way, especially on self-assessment points, I want to help guide more students to make more clear, concise, and targeted comments as some students have seemed to struggle with this point so far.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 11  
英語Iオーラルコミュニケーション[P]  
授業コード 11A01-030  
教員名 QUINN Kelly  
教員コード 049379  
登録人数 18  
回答数 17  
回答率 94.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

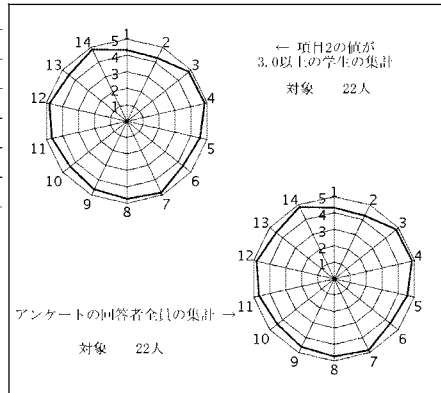
The goals of the class were largely achieved and a painless 90 minutes was spent in each others' company. Various topics were attempted with various degrees of success. Students comments largely focused on the amount of homework, which I have no intention of reducing. And my habit of initially providing a single copy of a handout to two students. This is done to encourage cooperation and group / pair work and in this point it is highly successful and worthwhile. Each student is provided with an individual copy before the end of class so I have no intention of changing this either.

In short, I consider it highly successful class and do not intend any changes. I am convinced by the high evaluation of the students and their salutary comments mainly confirmed this opinion. Looking at the average scores of the student evaluation, usually in the high 80th to 90th percentile, I would be less concerned about teacher improvement and more focused on the deleterious effect on moral of having teachers continually completing essentially meaningless comments to meaningless evaluations.



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[B]8  
 授業コード 11A05-015  
 教員名 ADRIANOWICZ, Zbigniew  
 教員コード 103868  
 登録人数 24  
 回答数 22  
 回答率 91.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



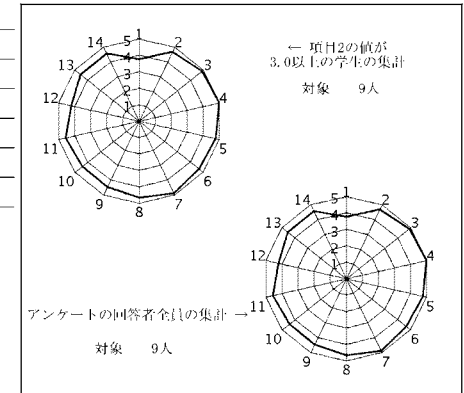
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Since this is my first year teaching at a university, I was not able to set specific goals before starting the course. I did not have a clear vision of what high school graduates in a non-English major could do, and what material I could do with them. However, I have been able to achieve positive relationship with the students. The relationship has enabled me to create and maintain positive class atmosphere, which in turn is creating a positive learning environment. At present, the students are mostly interested in English and the class content, doing the work on time. While the results are on the intermediate level, I can see quite a good level of motivation, allowing me to have some expectations for their good learning. I have been spending quite some time on class preparations, and the students seem to have noticed it, answering in making their own efforts.

For the next quarter I hope to encourage the students to be able to take more risks. The students come from various high schools with various levels of English. Their written work has many different grammatical problems, however, it seems like they have many things that they want to express. I would like to encourage them to express their thoughts regardless of the grammatical level. Once they start expressing themselves freely, I hope to be able to learn more on their grammar.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリテラシー[P]5  
 授業コード 11A05-024  
 教員名 BONDOC, Jeffrey  
 教員コード 103469  
 登録人数 20  
 回答数 9  
 回答率 45.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

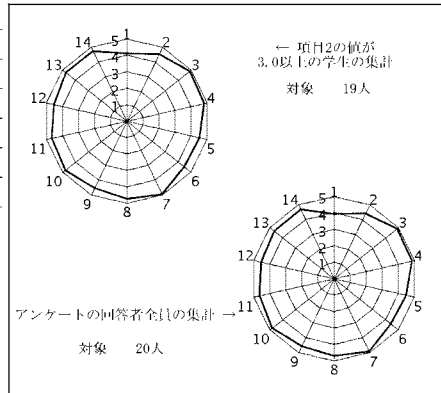
The first quarter went really well. The students worked hard and were receptive towards the activities and ideas towards literacy. Students came to class prepared and completed the homework and class activities in a timely fashion. The students studied the vocabulary well and did well on the quarter exam. Most of the students completed the weekly reading requirements for extensive reading.

I developed a good rapport with the students. The students are not afraid to ask questions and raise concerns. The students enjoy the class and find group work enjoyable.

I would like to improve the class by develop a better understanding of the context of their writing and reading. This would help the students further understand the importance of developing good reading and writing skills.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[P]7  
 授業コード 11A05-026  
 教員名 JONES William M.  
 教員コード 100263  
 登録人数 20  
 回答数 20  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

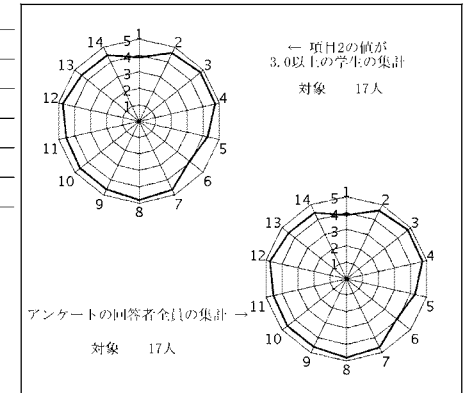


授業評価結果を踏まえた点検・評価

These results I believe were the Instructor's best ever at Nanzan. Instructor was once again blessed to have a mixed group of the same major (Policy Studies 7) which consisted of significant variations in abilities and aptitudes, and also motivational levels and attitudes. Q1 Instructor focuses on developing the interpersonal relationships between students and Instructor in order to facilitate a rigorous Q2, Q3 and Q4. Instructor was very pleased with 2 responses in particular. Question 7: Do you sense that the instructor in charge of the course displays sincerity and determination in his or her approach to teaching the course? 4.90 Question 14: Overall, were you satisfied with this course? 4.70 Instructor is reluctant to make any changes in the future for this Q1 as the results here are most satisfactory and hopefully the class success will continue like this.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リテラシー[P]11  
 授業コード 11A05-030  
 教員名 鈴木 愛  
 教員コード 103596  
 登録人数 18  
 回答数 17  
 回答率 94.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Regarding the goals set at the start of the course, I have set a couple of goals. Some of the goals for reading skills are previewing and predicting, understanding the topic, scanning, and skimming. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. As for writing, the goals were to be able to write different types of letters; informal and formal. They seemed to get the idea and was able to produce it as well.

Reflecting on the student evaluation, it seemed that students enjoyed and learned things that were set as goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed to discuss the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are a couple of points that I would like to change for future. It is that students were not aware of the learning goals. This made me aware that I should explicitly explain the learning goals for each class. I would like to explain the learning goals at the beginning of the each class so that the students are aware of what they will be learning.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[FA  
FF, FS, FG]8

授業コード 11A09-022

教員名 DRYDEN, Laurence

教員コード 101482

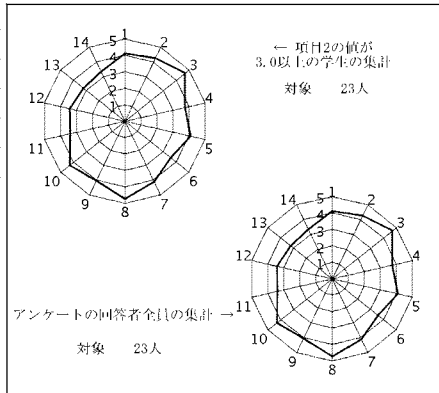
登録人数 25

回答数 23

回答率 92.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the instructor's second iteration of a course in basic English speaking and reading for students majoring in other languages and cultures—Spanish and Latin American Studies, French Studies, German Studies, and Asian Studies.

Students' responses to the anketo were respectably positive, nearly 4.0 in both statistical categories. The written responses indicated students' general satisfaction with fairly understandable English and with the time given for reading and conversation.

One of the textbooks was completely new to the instructor. Consequently, despite considerable achievement, the course goal of covering a fourth of both textbooks was not fully met, which may account for students' uncertainty about their progress.

The instructor has already streamlined the use of teaching materials in order to cover more of the curriculum in the second quarter, when students can expect to meet with even greater success.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 1

授業コード 11A09-037

教員名 LENIHAN John

教員コード 045070

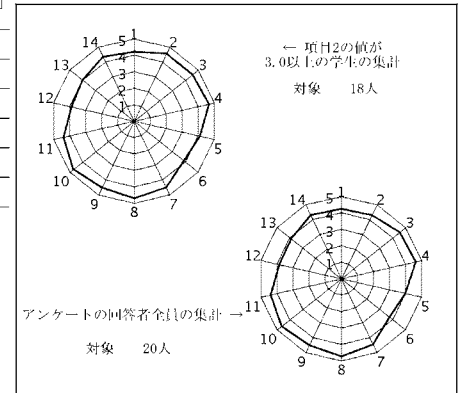
登録人数 20

回答数 20

回答率 100.0%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

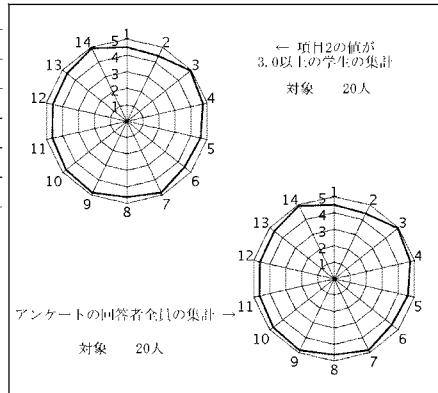
The goals set at the start of the course were the following: to give the students the opportunity for extensive reading and discussion experiences in English; to give the students various activities to improve their English listening comprehension; to improve their daily general English vocabulary and to learn various helpful everyday idioms and similes to aid them in the discussions and other activities in our freshman class. Also, as they are new students to the university, it is imperative that a good working atmosphere be achieved for the students to feel comfortable using English in class.

The overall assessment and self-evaluation of the subject of which I am in charge appears to be positive. Of course, some students attempt to improve their English skills more than others and the motivation level is never the same for all twenty students but, overall, I am satisfied that the goals we have set at the beginning of the course are being achieved.

Thinking ahead to the next quarter, we will continue down the path we began in the first quarter, while at the same time adding new elements and various other activities to the mix. This class is a joy to teach and I look forward to aiding in their improvement in the future.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]  
5  
授業コード 11A09-041  
教員名 LANGER Daniel  
教員コード 101438  
登録人数 22  
回答数 20  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

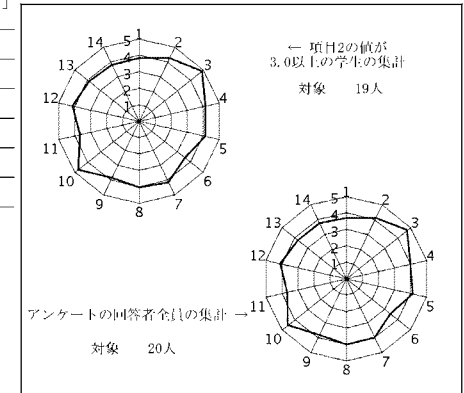
The class tried to cover the four basic language skills, and I think we did a fairly good job. One student mentioned that the grammar in our textbook seemed easy, and I agree. Unfortunately, a textbook covering all four skills is bound to have some aspects that do not precisely meet a specific class. Overall, I am pleased with the variety of activities offered in the textbook, and I think the students feel the same way.

The students seemed to consider the classroom a welcome place, with the comments being very positive. The few (and minor) criticisms were measured and thoughtful.

The beginning of a first-year course is often a honeymoon period, and I will have to make sure I don't take compliance for granted. I will try to cut out unnecessary or boring parts of the textbook, and only use material that is challenging and interesting. Since the textbook is more comprehensive than my previous selection, I am hoping this will not be a difficult task.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]  
10  
授業コード 11A09-046  
教員名 島 禎子  
教員コード 045559  
登録人数 22  
回答数 20  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

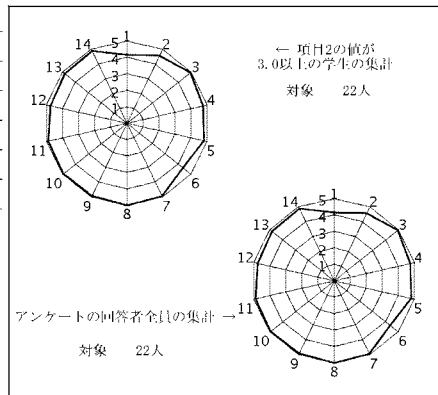
まず第一に、もう一度授業の枠組みを見直す必要がある。新制度になってから、Communication Skillsを担当するのは初めてでreadingとspeakingを関連づけようと意識するあまり、特にspeaking / listeningの方で段階を踏んだ構成にかけ、それが設問6が全項目中一番低く、3.45という数値に表れている。抜本的改善はQ3以降としても、Q2にも各課で覚えておきたい表現をペア/グループワークなどで徹底的に練習し、それをconversation testなどで積極的に使うよう促す等、工夫していきたい。readingの方は、intensive reading/extensive readingとも、一部の学生を除き比較的うまく機能していたように思う。

学生一人ひとりが自分の中に表現したい何かが生まれてこそ、飛躍的に力が伸びると考える。掘って、今後もそのどうしても表現したいことに一人ひとりが出会えるような機会を授業の中に積極的に提供していきたい。

最後に、自由記述でよかった点として「楽しく和気藹々とできたこと」「いい雰囲気」と書いてくれた学生がいたが、これは教員側が一方的に努力しても実現されるものではなく、学生と教員との化学反応の中でしか生まれてこない。このような学生に出会えたことに心から感謝している。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]  
11  
授業コード 11A09-047  
教員名 大竹 万里  
教員コード 047084  
登録人数 22  
回答数 22  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



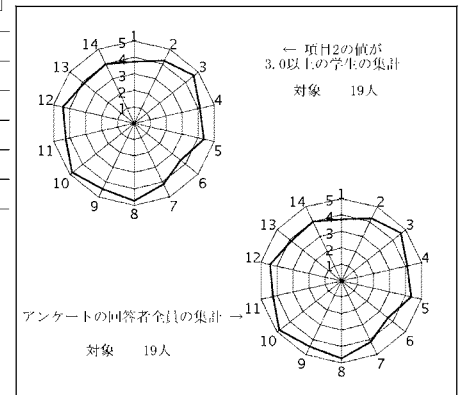
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。第1、第2クォーターを通して学習を記録する小冊子(Class Book)を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。グループ発表の機会も設けた。到達目標はほぼ達成できたと考える。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.84、学生の授業に対する全体的な満足度については4.86であった。週2回の授業をシラバス通りにおこなうことができ、学生の満足度も得られたように思う。授業について評価できる点として、「実用的なスキル」や「実践的な英語の表現」が学べたとあり、また「同類語を沢山の学べた」ことを挙げている学生が複数いることから、語彙に興味を抱かせるような説明に心がけたことが評価された。一方、改善点として「英語のみで喋る時間を増やす」ことが指摘されており、反省点となった。第2クォーターでは、リーディング・スピーキング両授業において、学生の積極的な課題取り組みや発話練習を促す授業を心がけたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]  
12  
授業コード 11A09-048  
教員名 内川 元  
教員コード 101922  
登録人数 20  
回答数 19  
回答率 95.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



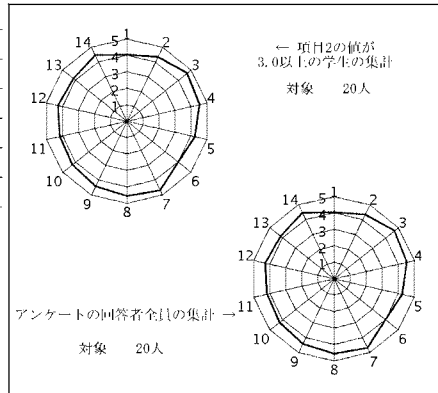
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はオールラウンドコミュニケーションとリーディングの授業なので、授業時間と家庭学習時間の両方を活用してインプット量を確保すること、また日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの壁」を壊すことに重点を置いて行っています。毎年1学期は試行錯誤が続きますが、生徒は真摯に学習に取り組んでおり、授業態度や課題の提出状況、小テストの結果も非常に良好でした。それも踏まえ授業目標は概ね達成出来ているものと考えます。授業評価の数値データでは「力がついてきているか」との間に対する数値が他の設問より低いのが気になりますが、開講約1ヶ月半の時点での結果ですので、2学期以降に数値が上がることを期待したいと思います。

自由記述欄の記入では前向きなコメントが多い一方で、ペースが遅いという指摘が複数ありましたので、2学期以降の改善点とし、授業効率を上げる、内容をより厚くするなどして、授業の質の向上を図っていききたいと思います。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[S]  
5  
授業コード 11A09-053  
教員名 SIMMONDS Brent  
教員コード 103050  
登録人数 22  
回答数 20  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

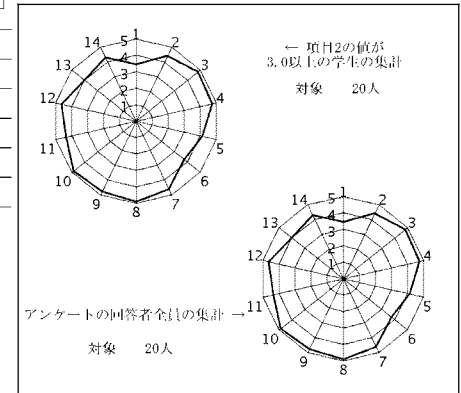
I will endeavour to give the students time at the start of each lesson to speak about topics that interest them at the start of each lesson.

There were several problem areas. Firstly, students had difficulty accessing on line readers and secondly several students copied book reports.

The class reading activity went well but several books were lost, advice from senior teachers was invaluable in this area. During this academic year I would like to build on the previous years work and explore ways to connect context to the students majors. As learners of other languages, it may be possible to transfer skills they have acquired from their learning experiences.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[S]  
10  
授業コード 11A09-058  
教員名 平出 優子  
教員コード 102521  
登録人数 23  
回答数 20  
回答率 87.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



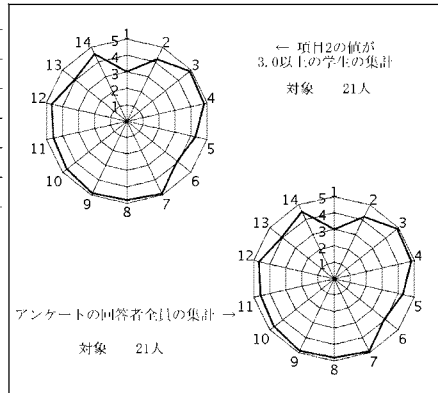
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1におけるSpeakingの目標は、自己紹介というtopicにおいて関連する様々な語彙や表現を学び、自信を持って流暢に自己紹介ができるようになることであった。また、自然に会話を始め、続け、そして終わらせる為に conversation strategy を使えるようになることも目標の一つであった。学生は主にペアワークで会話の練習をしたが、身近なトピックであった為無理の無い自然な会話を作り上げることが出来たように思う。アンケートの結果からも学生が英語で会話をしたことに満足していることが伺える。Q2には話題を広げ、多様な会話に対応できるようにしていきたい。

Q1のReadingの目標は、Previewing、Predicting、Skimming等のReading strategies を使えるようになることと語彙力を伸ばすことであった。また、多読活動において毎週4000語を読むことも目標とした。Reading strategies の習得と語彙力の強化においては、試験の結果から学生は目標に到達したと思われる。しかしBook reportの結果から、多読においては毎週4000語を読めていない学生が若干いた。英語の本を読んだ経験が少なくまだ英語を読むことが習慣になっていないように感じた。学生が楽しく英語の本を積極的に読んでいけるよう授業内でもさらに工夫をしていくつもりである。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 11  
英語Iコミュニケーションスキルズ[S]  
授業コード 11A09-059  
教員名 平野 みな  
教員コード 152414  
登録人数 22  
回答数 21  
回答率 95.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

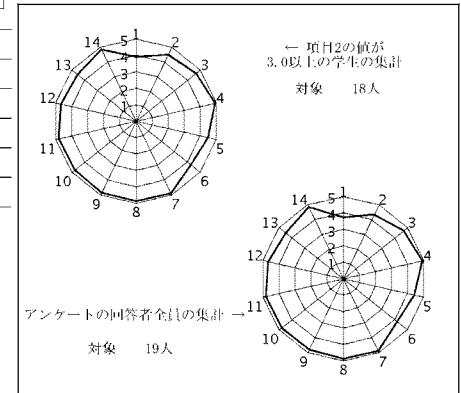


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標の達成度は概ね達成できた。Speakingでは3分間のインタビューテストを全員がクリアすることができ、Writingも全員が100語以上で自己紹介作文を重文を使用しながら書くことができ、初回授業で書いた作文と見比べても成長を感じることができた。一番の難点だったExtensive Readingは、途中モチベーションを保つのが難しい、または自分のレベルに合う本がなかなか見つからない等様々な課題に直面する学生がでてきたが、その度個別にアドバイスをを行い、結果としてほぼ全員が目標に達成することができた。授業評価の結果は全体的には高い評価だった。特に、自由記述にもあるように、学生に合わせて授業の進度やアクティビティ等を柔軟に変更したことやERの相談にこまめにのった点を学生は評価していた。今後の課題としては、この講義を通して新しい知識を得た、自分に力がついた等の項目があがるように努力していきたい。Q2ではテスト方式も変わり、Speaking, Writing共にレベルが上がる。Extensive Readingではクラス全体の目標に加えて、個々の目標を達成できるようにindependent learnerとして成長することが求められるので、学生のモチベーション及びスキルアップに一層努力していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 13  
英語Iコミュニケーションスキルズ[E]  
授業コード 11A09-063  
教員名 SWEETLOVE, Douglas  
教員コード 102522  
登録人数 19  
回答数 19  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

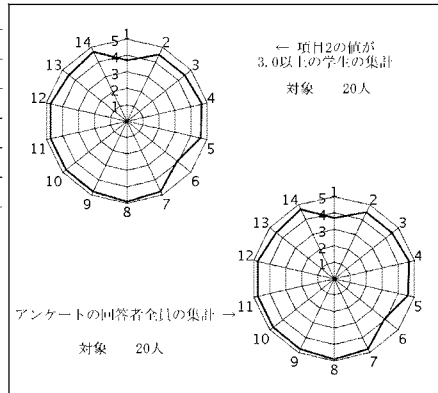
The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.

At first glance, the results are great. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out, and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

As well, Nanzan could do some specific things to make teaching easier. For example, open the AV cabinets in all classrooms. Many other schools have open systems and I have never heard of any trouble with the equipment being stolen or damaged. The system at Nanzan discourages teachers from using the technical resources that are available. Also, eliminate the time wasting "internet security" quiz when teachers need computer help. It is frustrating for teachers and an extra burden for the computer system staff.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iコミュニケーションスキルズ[J]  
14  
授業コード 11A09-064  
教員名 山見 由紀子  
教員コード 103627  
登録人数 20  
回答数 20  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

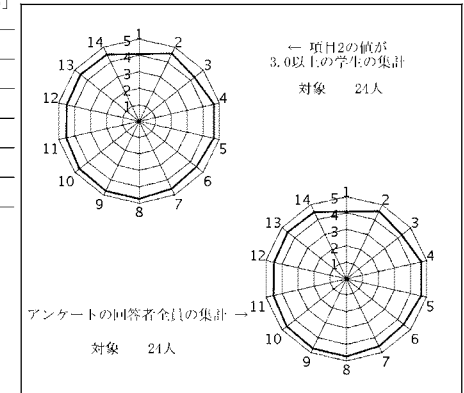


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について、本クラスについては、Graded Readers の各本のワード数を毎週加えて、クラス全体の到達目標ワード数を決めていたが、実際に授業がはじまりGraded Readers を実施すると、学生それぞれ、読める量が大きく異なることがわかり、それぞれの学生にあった、それぞれが読んでいける量、読んで楽しい量、本の選択も自由とした。その結果、ワード数到達もそれぞれ異なる結果となったが、各自が最も興味のある内容の本を自ら選択して、ブックレポートを記入したり口頭発表を行うことができ、良かった。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価について、法学部の学生の授業担当は二年目であり、昨年度の反省改善点を踏まえ、今年度は比較的良好な第一クォーターのスタートができた。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについて、第一クォーターはs棟の六階という図書館からも遠方の場所であって、移動に時間がかかり、授業準備資料を運ぶことも重く非常に困難であったが、第二クォーターよりH棟になったため、上記の困難点もなくなり、また学生にとっても、新しい教室で、第二クォーターを迎えることが新鮮でもあり良かった。第二クォーターは、Cover to Cover のリーディングの量を、第一クォーターの倍にして英語を読む力を伸ばしたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[S]  
3  
授業コード 11A13-009  
教員名 GAFFNEY, Sean D  
教員コード 101224  
登録人数 24  
回答数 24  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



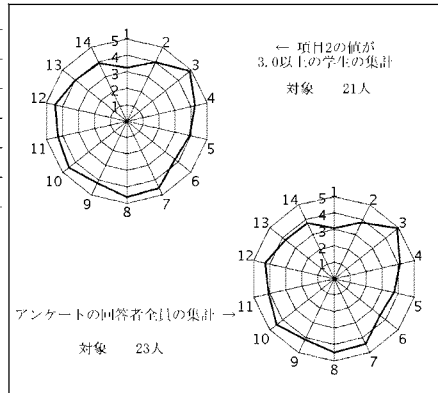
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a pleasant and enjoyable class to teach. Although some of the students' English comprehension level was low this class was friendly, motivated and easy to teach. Although there were few comments on the questionnaire, the survey I did indicated that the students seemed satisfied with the course. Most of the comments reflected satisfaction with the class and that my goals of using stimulating and interesting materials to read and write about in order to improve reading skills were largely achieved. The marks and results of the official survey supported that survey. Overall I was pleased with the way the class responded to the activities. Even though it was a 4th-period class students were generally attentive and stayed on task. I used my own materials for the reading section and 'Nice Talking to You' for the speaking which seemed to match well with the student levels. I was pleased that most of the comments were positive and hopefully reflected my achieving my goal of providing opportunities to communicate: 'Communication is powerful and pleasant' 'It was good to have a lot of communication'



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[S]  
8  
授業コード 11A13-016  
教員名 ウエストビィ 三奈  
教員コード 102952  
登録人数 24  
回答数 23  
回答率 95.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

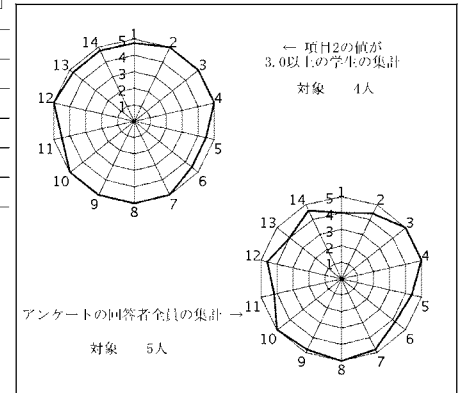


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目的は、①一年時からの多読を継続し、自己のレベルにあった本についてクラスメートに説明し、質疑応答ができること、②readingの教科書にある様々なトピックに関する記事を理解し自分の意見を述べる事ができること、そして③社会の中での様々な問題について意見を述べるとともに、それらに関連した自分の生活についてプレゼンをすることができるということである。多読に関しては、授業毎のBook Talkを通し、読んだ本の簡単な内容を紹介するとともに、自ら考えたdiscussion questionsについて意見を交わすことができるようになってきた。readingの教科書は一年時よりもレベルが上がったため戸惑う学生もいたが、ペアワークやグループワークを通して助け合いながら読解することができた。presentationに関しては、brainstorming, 1st draft writing, 2nd draft writing, pair practice, group practiceなどの過程を通し、まずは少人数の前でプレゼンをできるようになった。学生のアンケートの結果を見ても、当初の目標はほぼ達成できたと思う。今後の抱負としては、プレゼンの草稿段階での文法のミス、peer editingなどを用いてできるだけ少なくするよう繰り返し練習すること、プレゼンの事前準備としてgraphic organizerを使用したメモを用いることなどである。そして、徐々に大人数の前でプレゼンができるよう指導していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[S]  
10  
授業コード 11A13-022  
教員名 MOORE, Douglas  
教員コード 100954  
登録人数 27  
回答数 5  
回答率 18.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year's evaluation was a bit unusual as more students gave differing answers instead of just answering one same number for the vast majority of questions. It seems they put more thought into the answers. Overall the results are good with no really clear advice to me on how to improve the class except perhaps a bit more attention to using Japanese in the class. In class the students are doing well and seem to be progressing well with their work.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<E>  
>4  
授業コード 11A13-031  
教員名 FOX, Aaron  
教員コード 103869  
登録人数 23  
回答数 0  
回答率 0.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. I would say that most were. Reading goals set for the in the handbook were achieved universally in the class. In regards to the speaking goals, better achievement of the higher order goals would have been desired.

2. In terms of my own reflection on the course, I would say that reaching the reading goals was quite satisfactory and that based on the outcomes of the students test scores and apparent application of the skills covered in regards to reading.

I was not as satisfied with the overall progress student speaking skills. For the most part, the balance of the course was focused on reading skills and practice, with a secondary focus on discussions related to the topics read

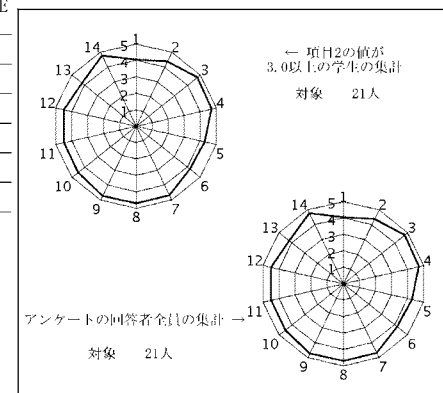
As for the attitude of the class, it was positive, overall. For the most part, students were courteous, attentive, and punctual. They completed their assignments on time and worked well together on in class activities such as group discussions

3. Regarding the next quarter, my primary goal is it increases the progress toward the speaking goals as stated in the FLEC-EED handbook.

It is clear to me that the balance of the course needs to be recalibrated to better encompass both reading and speaking in equal measure. I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<E>  
>5  
授業コード 11A13-032  
教員名 LANDSBERRY, Lauren  
教員コード 103626  
登録人数 24  
回答数 21  
回答率 87.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



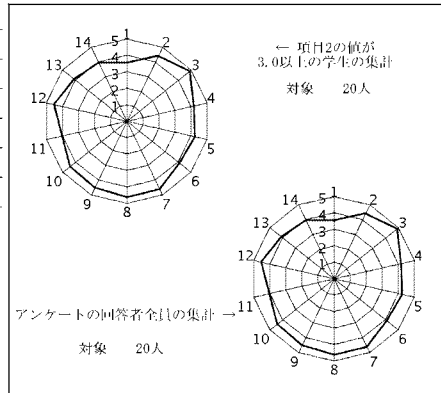
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Compared to last year I was really impressed with my students in quarter one. I was in a much smaller room, perhaps one quarter of the size. I really think this makes a difference to the dynamics of the lesson and classroom environment as students are more conscious about their proximity to each other and particularly me, the instructor. With more conscientious students we were able to move quicker through the semester and activities ran a lot more smoothly.

All the goals of this course were covered during the quarter. I also utilised some activities using things like Quizlet or Poll everywhere to keep the students motivated and interested, and they always enjoy getting to use their smartphones in the lesson! We also used a number of games and activities to keep it as communicative as possible. I was glad to hear that they enjoyed the course as much as I enjoyed teaching them!

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<全>3  
授業コード 11A17-021  
教員名 佐藤 ゆかり  
教員コード 047605  
登録人数 24  
回答数 20  
回答率 83.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

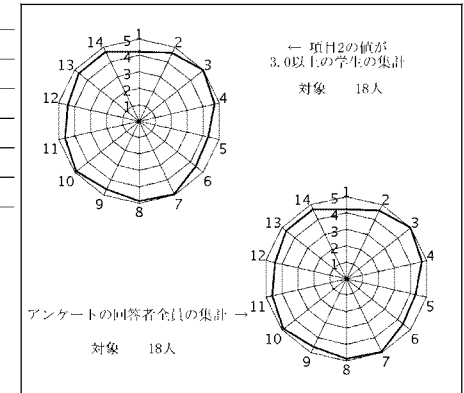


授業評価結果を踏まえた点検・評価

プロセスライティングの中でも、とりわけ、ファーストドラフトに取り掛かるまでの段階をより丁寧に段階を踏みながら、進めるようにつとめた結果、出来のバラつきが比較的少なくてよかった。また、添削についても、机間巡視を徹底し、ここの質問に対応した。質問しやすい環境を作ったつもりだが、それでも、まだ「聞きにくい雰囲気」じゃないと考えた学生もおったようで、難しい。宿題が多いといったフィードバックがあったが、ライティングなので、仕方がない。今後は、典型的な間違いの文章などを学生全体でシェアし、作文力をクラス全体で上げていくようにしたい。作文のクラスといえども、学生間での学びが生じるように、積極的にクラスの席替えを頻繁にして、グループワークやペアワークをした。これは概ね好評だったようだ。ドラフトの締切もほぼすべての生徒がまもり、未提出で成績を下げる事がなかったのを評価したい。ただ、就職活動中の学生の対応には、個別で臨んだ。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリーディング<全>1  
授業コード 11A23-003  
教員名 DAVANZO, Christopher  
教員コード 101653  
登録人数 22  
回答数 18  
回答率 81.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

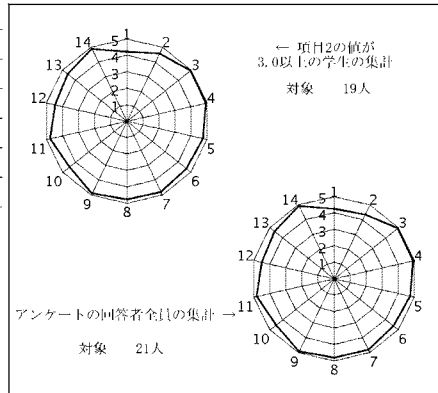


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe the course goals were achieved to a satisfactory level. The numerical data point to the students being satisfied or mostly satisfied with their work and learning in the course. The main goals of the class were to improve students' reading fluency, build up useful skills they can utilize when encountering various types of texts, and to improve their critical thinking ability. A good deal of emphasis was placed on students reading texts and trying to understand without using dictionaries. Towards that end, we learned and practiced many skills centered around understanding a word, phrase, sentence, or whole text utilizing the techniques we were learning in class. The students most definitely made progress during the semester, and most of them improved their reading speed at least minimally. We also used class sets of graded readers quite extensively, and the class activities based on them were very productive in improving students' critical thinking skills. One improvement to the course I have made for the upcoming quarter is I changed the textbook to a more appropriate one that can be completed in its entirety in one quarter.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<IA, IP, IJ>2  
 授業コード 11A25-002  
 教員名 酒井 美納江  
 教員コード 046060  
 登録人数 24  
 回答数 21  
 回答率 87.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



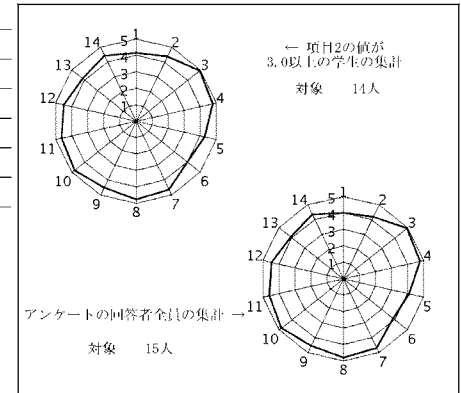
授業評価結果を踏まえた点検・評価

2年生以上の学生を対象とした中級レベルのリスニング講座で、(1)全体のトピックの把握、(2)必要な詳細の聞き取り、(3)日本語話者が苦手とする英語の音の認識と聞き分け、(4)シャドーイングによる発話の練習、を中心に授業を行った。(1)に関しては、ほとんどの学生がすでにそつなくこなせたので、(2)(3)に多めの時間を割くように心がけた。それぞれが自分のペースで聞ける環境が整った教室のおかげもあり、より自律した学習をさせることができたと思っている。(4)に関しても、自分の声を録音できるアプリケーションを使用できたので、目新しさもあり、学生は積極的に取り組んでいるようであった。

その反面、好環境に頼り過ぎてしまったのか、私の方から個々の学生に働きかけるといことがあまり出来ていなかった様で、項目12の値が比較的低いものになった。自律的な学習を目標にはいるが、教師が観察・助言すべき場合も多々あると思うので、「黙って見守る」と「適当な助言をする」を両方行いながら、個別の指導も意識して行っていきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<J>1  
 授業コード 11A25-019  
 教員名 HAYES, Mary  
 教員コード 103625  
 登録人数 18  
 回答数 15  
 回答率 83.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

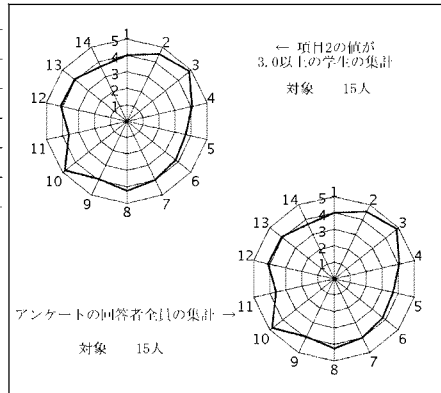
1. In this freshman listening class, the goals being to comprehend spoken English, use strategies for recognizing sounds and improve comprehension, satisfactory progress was made. Students advanced well in note taking skills, retelling main points of listening materials, as well as catching detailed facts. Summarising and dictation exercises helped them to greatly improve, and they can organise information according to point of view. There is still much progress to be made in distinguishing minimal pairs and making inferences.

2. As for the data and comments, most members seemed satisfied with the class. They value time spent on pair and group work, which helps them to make new friends and cooperate as a class.

3. However, a minority of members have weaker skills and may need extra remedial work. I would suggest that they improve their listening skills further by taking advantage of ALC Academy to build up their levels.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リスニング<J>2  
 授業コード 11A25-020  
 教員名 木田 パルビン  
 教員コード 102322  
 登録人数 17  
 回答数 15  
 回答率 88.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



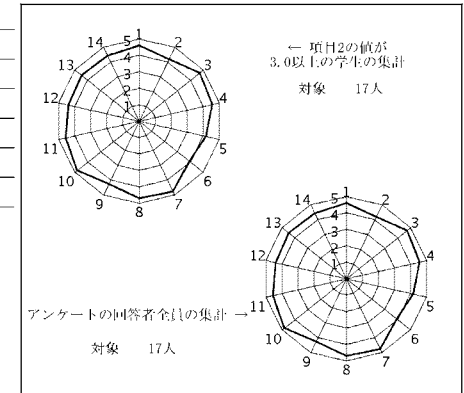
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The listening course was a task-based approach to develop listening skills, and strategies necessary for effective communication in English. The topics in the textbook included a variety of real-life situations such as following directions, listening to telephone messages, and understanding announcements. The situations included shopping, food, and overseas travel. The lessons were taught and practiced through the following steps, starting with the presentation of new vocabulary, then listening first for an overview and again for details, followed by practice with pronunciation, listening/responding, and finally, a short dictation with fill-in the gap exercises. In addition to two vocabulary tests, writing homework on the topics studied in class were assigned to enable the students to use the vocabulary and expressions as well as the information learned.

I have carefully studied the students' evaluation and comments. In my judgment, most students demonstrated improvement of their listening abilities since the beginning of the course. I continue to work on the students' progress in communicative skills through listening.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語リスニング<J>3  
 授業コード 11A25-021  
 教員名 KHONDAKER, Taslima  
 教員コード 103598  
 登録人数 17  
 回答数 17  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

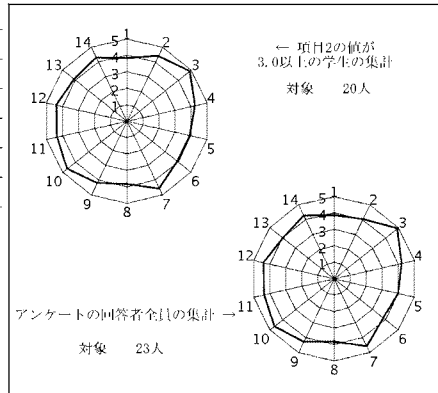


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.09 and 4.37 for the courses in the band of 11A01-001~111.16-999, the scores of this course were 4.59 and 4.18. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.79, 4.57, 4.31, 4.11, and 4.69 for all courses, the scores for this course were 4.71, 4.59, 4.18, 3.94, and 4.76. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.66, 4.55, 4.70, 4.47, and 4.51 for all courses, the scores of this course were 4.71, 4.24, 4.82, 4.59, and 4.41. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.38 and 4.45 for all courses, the scores of this course were 4.47 and 4.41.. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students gave a lot of good comments, which I find profoundly encouraging. In Q2, I plan to improve my method of instruction to get better feedback.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全>1  
授業コード 11A25-023  
教員名 加藤 尚子  
教員コード 103630  
登録人数 24  
回答数 23  
回答率 95.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

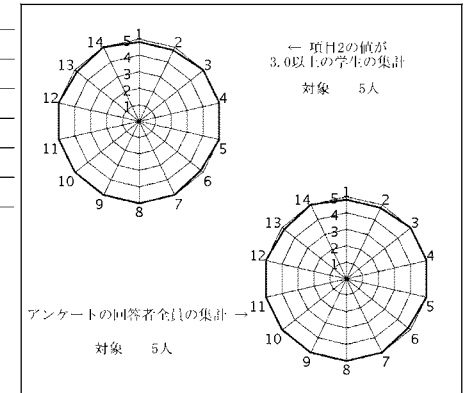


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
この講義のクォーター1ではストレス、linked sounds, weak formsなどリスニングをするのに必要な知識の習得を始め、そのほか基本的に必要なテクニックの習得に重点を置きました。更に、1分間の長さの話聞いてdictationの練習、そしてまた身近のトピックに関する話のメインポイントを聞き取るなどリスニングの強化の実践をしました。まだdictationの習得が話の内容によって困難な場合もあるようですが、次第に聞いて理解する力を持ち始めてきた様子が見られます。しかし、ノートをとるにあたり、メインピックが分かっても詳細が分からない場合もあるようです。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
数値データ及び自由記述等を拝見しましたところ、オーディオの音声に問題が生じたのと、生徒が目標を到達できたのか実感できないという声が上がっていましたので、ここは直ちに改善が必要と見受けられました。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。  
オーディオでしばしば問題が生じ音声に問題がありましたので、音声を事前に注意深く点検する事に力を入れます。また、生徒の中で力がついたら実感できないという事もありましたので、生徒が自分でも実感できるような結果が見える講義内でのアクティビティーの充実に力を入れていきます。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語I翻訳<全>1  
授業コード 14A05-001  
教員名 加藤 善由子  
教員コード 101654  
登録人数 10  
回答数 5  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

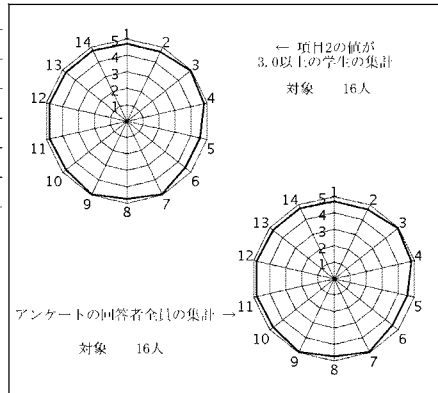


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 翻訳の基本スキルを理解し、実際に運用することが目標であると同時に、様々なジャンルの翻訳を通して文法項目と意味の関係を再確認する。どの学生も基準値をクリアできたと考える。この授業は全学科の2年生以上が対象であり、Q1でもバックグラウンドの異なる学生が集まった。互いの翻訳を比較検討する中で、新しい表現への気づき、既に持っている知識の確認、自身の翻訳技術レベルの確認ができることを期待したが、学生コメントの中にも「他の生徒と訳を比較検討できるところが良かった。自分では気づかないような点に相手が気付いてくれて、とてもためになった」とある。アンケートの回答率が約50%であるため一般化できないが、回答者において全設問が4及び5評価（問1、2、6、13のみ4）であり、学生側も満足感を得られたと理解する。他方で、学生の質問姿勢について積極性が思った以上に高くなかったような印象を持っている。机間巡回の折には個別質問があったが、可能ならば質問と解答はクラス内の全員でシェアしたいと考えており、そのあたり教員としての工夫が必要と反省している。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語I通訳<全>1  
授業コード 14A07-001  
教員名 山田 秀子  
教員コード 103595  
登録人数 18  
回答数 16  
回答率 88.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



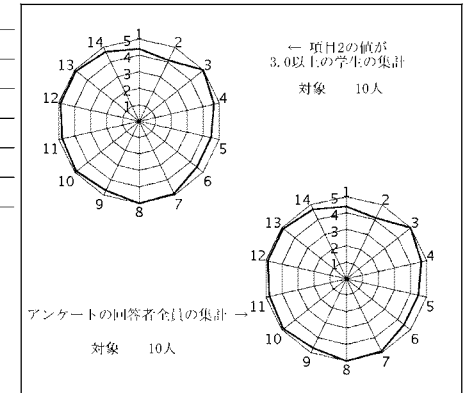
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた通訳基本技能の90%程度を扱い、体験的な技法の習得を実践できた。この授業ではペアやグループ単位での演習が中心となるが、学生は学期を通じて主体的に取り組むことができたと思う。実地練習（ゲストスピーカーを招いての通訳実習）においては、全員が通訳を体験することができた。また、毎週実施した単語テストは難易度が高めであったが、ほとんどの学生が正答率80%以上で、授業時間外に個々に学習を進められていたことがうかがえる。

アンケートではほとんどの項目で平均値が高かった。開講当初は、前年度と違って受講生の学部・専攻が多様で英語運用能力の差が少し大きい点が懸念されたが、さまざまな人とペアを組む形式を取った。その結果、学生同士での教え合い・学び合いの機会が増え、理解がより深まり、技法の習得度が高まったのではないと思う。この点が授業の満足度につながったと考える。また、自由記述の質問項目に対して、他学部の人と話す機会があったことを良かった点として挙げる回答があり、今後もこの形式で授業を進めていきたい。一方で、もっと英語を話して通訳するという実践的内容が欲しかったという回答もあり、これは次クォーターの課題としたい。また、授業の到達目標を理解することができたか、という項目の値が他と比べると少し低かったため、目標設定を明確にするよう心掛けたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IB<全>試験対策TOEFL1  
授業コード 14A10-001  
教員名 伊藤 実里  
教員コード 045542  
登録人数 11  
回答数 10  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



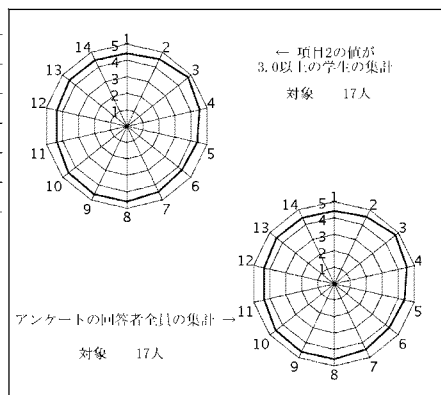
授業評価結果を踏まえた点検・評価

TOEFL-iBTの受験対策として、対象となる4技能のうち、リスニングおよびスピーキング・セクションの出題内容の理解と、よりよい解答ができるようになることを目標としている。TOEFL試験対策の問題集は数多く市販されており、リスニングは問題集に付属の音声を使って自分で解答し、解説を読むことで理解を深めることができる。しかし、スピーキングは問題集のモデル解答だけではなかなか上達に繋がらない。したがって、授業ではスピーキング問題への対応に焦点を置いた。シラバスを見てそのつもりで履修した人も多いと想定でき、これに関しては履修者の満足度は総合的に高く、求められていることを実践的に行うことができたと思われる。

反省点は、少人数のクラスであっても、履修者ひとりひとりのスピーキング内容に担当教員として毎回コメントすることは難しいということである。スピーキングの解答を録音したものを履修者各自が聞き直して書き起こし、それに対して行ったフィードバックは好評のようだが、できれば1対1で、実際にしゃべっているのを聞いてコメントしたいところである。それを部分的に補うためにもスピーキング練習をペアで行い、コメントし合うアクティビティを取り入れたが、これはこれでペアの二人の技量の差が大きいと「コメント」に至らないケースも見られた。上手く解答できる人の内容を聞くことは初心者には勉強になると思うが、一定のレベルの人が上達を目指す場合には物足りないトレーニングだったことは否めない。それぞれのレベルの履修者が満足できる内容になるよう、現実的なやり方を工夫していきたい。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語A1  
 授業コード 40E04-001  
 教員名 MOORE, Jonathan  
 教員コード 101410  
 登録人数 30  
 回答数 17  
 回答率 56.7%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

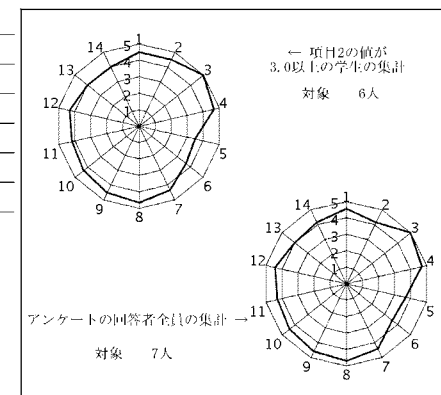
The overall scoring of the set of questions was very positive for this Business English Class. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. I felt they were interested in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the format of the course and the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained.

I adjusted the class to the student's needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier class was especially useful for independent and developmental learning. Although the class size was large, effort was made to consult with each student.

Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語Iオーラル・コミュニケーション3  
 授業コード 42G01-003  
 教員名 IVANCHENKO, Andriy  
 教員コード 102754  
 登録人数 7  
 回答数 7  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The learning objectives as presented in the course description seem to be fully achieved. All the students have fulfilled the course requirements with regard to class participation and homework assignments. The students' coursework was of satisfactory quality, showing attention to the class contents.

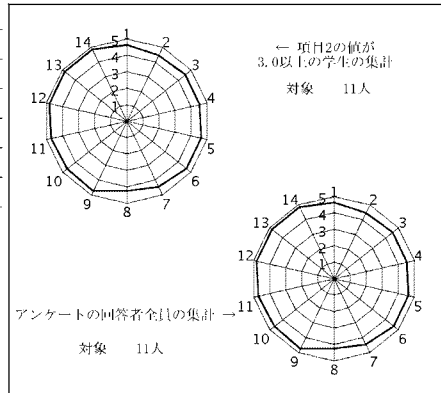
The students seemed quite happy with the course in general. This is also hopefully true with regard to the class management, including effective use of equipment and materials. The students seem to have learned new things or improved their existing skills through the course while enjoying the classroom environment.

I shall continue working on my performance, aiming to stimulate everyone's interest in the subject and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. I shall keep up my efforts in these areas, aiming to increase overall satisfaction with my course.



2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語1リーディング1  
 授業コード 42G02-001  
 教員名 BINFORD, Paul  
 教員コード 046037  
 登録人数 11  
 回答数 11  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

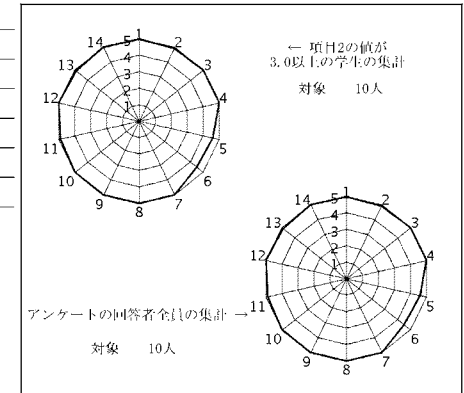
From looking at the comments of the students in Business English Reading, I see that the student understood the routine of the class. We rotated lessons between reading and vocabulary. The reading included Graded Readers from the library and current events related to business. The students were allowed to choose their own reading material within those parameters. They seemed to appreciate the element of choice, rather than the teacher assigning a particular work. One student wrote that she felt a degree of freedom in being able to “choose their own books and articles.”

The vocabulary component of the class included a textbook using business vocabulary in context, followed by exercises. The students generally felt this textbook to be over their heads, meanwhile recognizing the usefulness of the words in later life. We also had weekly vocabulary quizzes with words the students found in their selected readers, the business report summaries or the textbook. My feeling was that the quizzes were too easy but the students reported that they were learning useful vocabulary.

In the following quarter I will emphasize the practical usefulness of the index at the end of the vocabulary textbook. I believe that cross referencing the difficult vocabulary will reinforce their retention. I will also encourage them to move up the scale of the graded readers. One student wrote that his goal is to read level 10 books. I will continue to encourage them to raise their level.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語1リーディング2  
 授業コード 42G02-002  
 教員名 VIADO Cora  
 教員コード 100553  
 登録人数 10  
 回答数 10  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

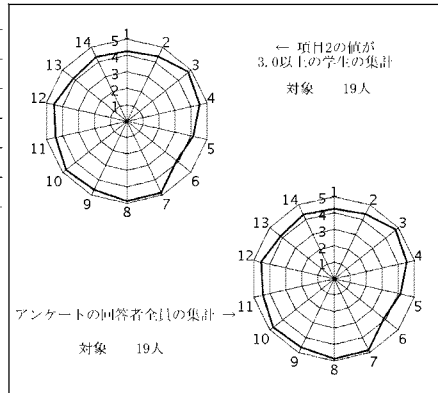


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Business Administration students studied useful business vocabulary and were expected to read 5,500 to 8,500 words of level-appropriate English books each week. The extensive reading exercises, book reports and discussions in class provided the students opportunities to practice speaking in English, develop their skills for improving speed and understanding in reading English, as well as challenge them to give a concise summary of the story in timed-activities. The inclusion of a weekly online vocabulary quiz and the MReader enabled the students expand their vocabulary and verify that they have read and understood their reading. The overall positive results of the students' evaluation indicate their satisfaction with the content and methodology of the class. In other feedback forms, most of the students mentioned their appreciation of the teacher's guidance and instruction that enabled them to enjoy learning. They also reiterated the importance of the relaxed and friendly atmosphere in the classroom that created a comfortable space for them to actively use English.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English I5  
授業コード 48A05-005  
教員名 水野 真紀  
教員コード 101981  
登録人数 20  
回答数 19  
回答率 95.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

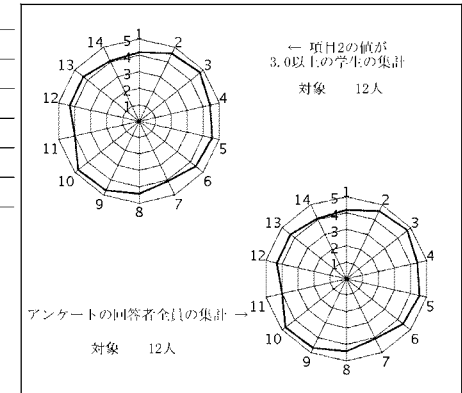


授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は概ね達成できたと考える。今期の主要テーマである家族、結婚、グループについて、インプットとアウトプットをバランスよく使い学習できた。インターネット、新聞、雑誌等からさらに興味関心のあるトピックに関する情報収集を行い、分析し、意見を述べる発表を2度行った。数値が低かった設問5、6、13の原因は、一年生の春学期であったため、授業で行うほぼすべてのことが学生にとって初体験であり、十分にできなかったと認識したのではないかと考える。教員に指示されたことを実施する高校の時のような課題とは異なり、自発的な取り組みも多く、それに応じた学習スキルが求められる。また、改善を希望する点に挙げられた課題の量については、昨年度の反省を踏まえ減らしたものの、依然として多いと感じている学生が多い。しかし、学習の定着には量の確保は必須と考えているのでQ2で様子を見て加減をする。反面、設問14の数値は比較的高く、自由記述でも「力がついた」、「楽しく学習できた」と肯定的な意見もある。今期の課題は、先期に引き続き課題の量と質に加え、日本語使用場面の適正さについて考えたい。「もっと英語を話したい」という学生がいる一方で、指示や説明がよく理解できていない学生もおり、調整していく必要がある。

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English V7  
授業コード 48A09-007  
教員名 PALISADA Eloisa  
教員コード 055830  
登録人数 19  
回答数 12  
回答率 63.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

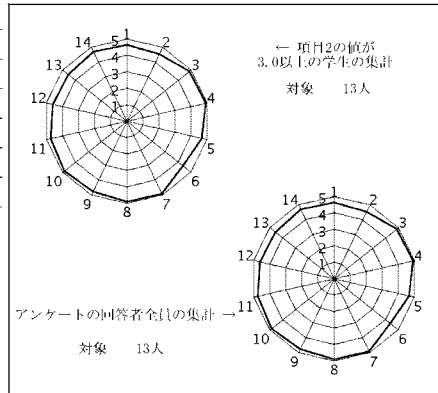


授業評価結果を踏まえた点検・評価

In this new course, GLS English V, the students are expected to express their views in English debates and argumentation as well as improve their skills in gathering information and thinking critically. Overall, their evaluation shows satisfaction in the course with an average of 88%. About 95% said they have been proactive in their participation, preparation, review, and making efforts to improve their understanding of the course content. They gave the instructor credit, 93%, for taking account the degree of their understanding. When asked what skills they have learned from the exercises of debate, the majority of them remarked they were able to be more objective, to assert their opinions, to listen with respect, to take notes and think quickly. The most challenging for them was to give a counter-argument with confidence based on strong facts and organized information. In the end, even if students do not come up with perfect solutions to the issues they have debated on, they have raised their awareness of their responsibility to make choices, to be confident in expressing their thoughts even if it is not popular. As their instructor, I am called to take action with regard to giving them appropriate guidance and provide information (rated the lowest, 80%), feedback, and encouragement at the point in need. It could be said that the students' motivation for learning was commendable and they are ready to face the academic challenge they'll meet overseas.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication3  
授業コード 48A10-003  
教員名 SCRUGGS, Edward  
教員コード 101864  
登録人数 19  
回答数 13  
回答率 68.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am thrilled that the students seem to have been so pleased with our class. I certainly was honored to have taught this highly motivated group of learners. There are a few things I hope to address if I am involved with this class again.

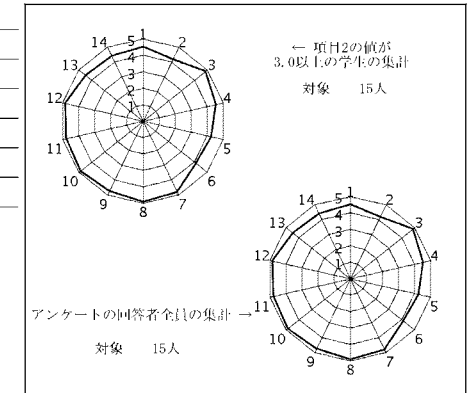
I believe the students would benefit from an earlier announcement of the specific presentation goals and attendant time line. While they report satisfaction here on the survey, in individual conferencing I did get a feeling of being (to a degree) rushed concerning the timeline.

I am also planning on developing better tools for student note taking related to their acquisition of listening material.

Again, I am deeply pleased to have been involved with this class and look forward to hearing from students in the future.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Communication8  
授業コード 48A10-008  
教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail  
教員コード 102955  
登録人数 19  
回答数 15  
回答率 78.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

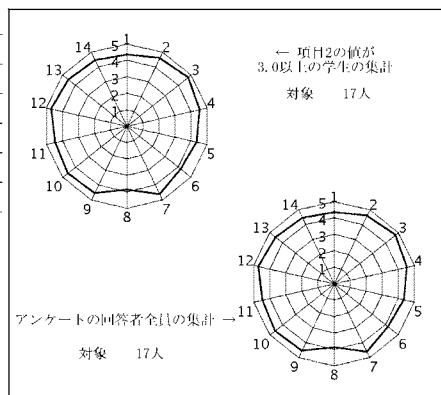


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe the goals were, for the most part, met. Students were able to converse in English, dealing with various topics that were decided on at the beginning of the Quarter. The subject in general was very interesting to teach because it dealt with real-life situations that are both timely and relevant. I believe the classes were well-organized to meet the topic requirements. Students were also encouraged to participate in discussions. In the future, students will be given more activities that encourage academic discourse, stating opinions and giving supporting information for each opinion.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy2  
 授業コード 48A11-002  
 教員名 NICKSICK, Thomas  
 教員コード 102113  
 登録人数 19  
 回答数 17  
 回答率 89.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

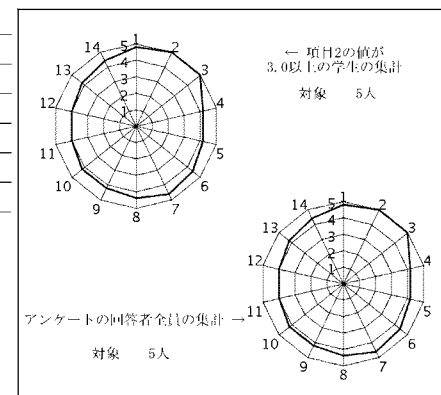


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course goals included writing a 4-5 page research paper, reading 5 articles about sustainability and answering questions about each story, increasing academic vocabulary, developing critical thinking and analytical skills, and increasing general knowledge of sustainability. Nearly each student achieved these goals. The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.53. Regarding appropriate guidance and provision of information in order to encourage the students to want to learn, the rating was 4.47. When asked if there were enough opportunities for questions or to consult the instructor, the rating was 4.71. Regarding overall satisfaction of the course, the rating was 4.47. However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if the students were able to understand the course attainment target, the rating was 4.35. When asked if students were making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.18.

2018年度Q1 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Advanced English Literacy6  
 授業コード 48A11-006  
 教員名 HASTINGS, Christopher Robert  
 教員コード 103137  
 登録人数 19  
 回答数 5  
 回答率 26.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. This course is especially challenging for students, but I believe the majority could achieve the course goals. This was proven by the fact that the majority of students could successfully complete draft essays and follow basic academic essay conventions.
2. From the data, it seems that most students were satisfied with this class. Students made comments expressing their satisfaction about being able to learn how to and then write an academic essay. However, one student said they didn't receive a grade for the writing assignments they did in class. This was not the case. Students received a grade and comments on some of their in-class writing assignments.
3. If I were to teach this class again, I would reduce the workload and give more structured support to help students understand the conventions of academic writing.